

ジョージ・アダムスキー「テレパシー」第1部 1章 段落001 [2009-04-06]

TELEPATHY

THE COSMIC OR UNIVERSAL LANGUAGE

COSMIC

RELATING TO THE UNIVERSE AND

TO THE LAWS BY WHICH

ITS ORDER IS

MAINTAINED

PART I

Forward

Chapter I Telepathy - The Cosmic Language

Chapter II The Four Senses of Man

Chapter III Feeling - The Cardinal Sense

Chapter IV Thought AS Energy

Summary - Part I

テレパシー — 宇宙すなわち万物共通の言語

宇宙とその秩序が保たれている諸法則に関する宇宙的関連について

(目次)

第1部

第1章 テレパシー — 宇宙的言語

第2章 人間の4つの感覚

第3章 フィーリング — 枢軸の感覚

第4章 エネルギーとしての想念

第1部の要約

【解説】

「テレパシー」は1958年の出版であり、アダムスキー氏の3大哲学書の中で最も早期の著作です（注：「宇宙哲学」は1961年、「生命の科学」学習講座の始まりは1964年）。日本では1959年当時、「テレパシー精神感応－宇宙語の理論と応用－」と題して当時の宇宙友好協会から出版された後、1967年に「テレパシー（無言の会話術）」と題して文久書林から発行されています。その後、今日では中央アート出版より「超能力開発法」とタイトルを変えて出版される等、時々タイトルを変えて来たものです。その背景には、宇宙人のテレパシー能力をどのようにしたら身に付けられるのかが多くの人々の関心事であったことがあると思われる。

しかしながら、既にお読み戴いたことのある方は十分お分かりのように、本書はいわゆるハウトゥ物のテクニックを教えるものではありません。多少、実験例も含まれてはおりますが、その多くは私達の心の有り様を示しながら、心自体を訓練するという実践哲学的な教本となっております。従いまして、本書は読者がいわゆる超能力をてっとり早く身に付けたいと思って読むような類のテキストではなく、あくまでアダムスキー氏の3大哲学書としての生命に対する見方を実践的に学ぶ為のテキストとお考えいただきたいと思えます。

既にこの逐次解説ではアダムスキー氏最晩年の「生命の科学」に取組んで来た訳で、今回3部作の最も初期の著作である「テレパシー」を読み込むについては、「生命の科学」と共通する部分が多数見られるものと思えます。いずれにせよ、真理は不変共通である訳で、その理解の幅を広げる為にも、この逐次解説が果たす役割もあるものと思われます。

従来と同様なペースで進めて行くつもりですので、宜しく願いいたします。

FOREWORD

002 Telepathy is the natural ability inherent within all forms of life to communicate their feelings to all other forms. Nature responds unquestioningly to this law, and each element gives freely of itself to bring forth as a united whole, the fruition of manifestation

まえがき

002 テレパシーは他の全ての形有るものとフィーリングを伝達する為に全ての形有る生命の内側に本来備わっている自然の能力です。自然は疑い無くこの法則に呼応しており、各元素は統一された全体として、発現の達成をもたらす為、自身を無償で与えています。

【解説】

誰でも、即ち、ありとあらゆる万物は互いに意思を通じ合えることが冒頭で述べられています。その能力は自然に備わっていることから、私達は何ら新しい知識や技能を身につける必要は無く、全ては各自の内側に既に備わっていることを意味します。

また、人間以外の生き物達は皆、この能力を発揮しているということです。更に、自然全体が各自のテレパシーによる意思疎通に呼応しているということは、各自の思いは絶えず宇宙に広がり、その意思を反映するべく作用を起こしているということになります。

それは私達自身を含めて万物を構成する元素自体にまで遡って、各元素が喜んでその思いを実現するよう自らをその新しい創造の為の材料に身を投げ出していることでもあるのです。

003 Man is a thought in action. However, through his limited understanding he has caused the distortions which have resulted in the chaos he finds around him today. Man has the tools with which to work; but he has lost his awareness of their ability to serve him in the greater field of selfless, self-expression.

003 人は活動している一つの想念です。しかし、その限られた理解のために、人は今日、自分の周りを見る混沌の原因となる歪みを引き起こしています。人には役立つ諸道具が備わっています。しかし、人は無我の自己表現という、より大いなる分野で自分に仕えるはずのそれらの能力についての知覚を失ってしまっているのです。

【解説】

その時々で人間の持つ思考が人間自身だと断言しています。つまり、人の生涯で結局は各時点でどのような想念を抱くかによって、その人物の価値が決まるということです。このことは絶えず流浪しがちな人生において、刻々、自分がどのような想念を発しているか、絶えず注視している必要があることも意味します。まさに、肉体は精神の活動の結果として後から付いて来る存在だということです。

また、次に大事なポイントとして人間の理解力の不足から「歪み」を引き起こしていることが大きな問題だと訴えています。ここでは具体的な例の説明は述べられてはおりませんが、本書を読み進める中で、何処にその「歪み」があるのか、その原因は何かについて考えながら読み進める必要があります。もちろん、人間にはその必要な道具が備わっていることを自覚しなければなりませんし、その為には各自一人一人が、自分の内側にどのような諸道具が埋め込まれているのか、宝探しのよう楽しみながらも探究する必要があるということでもあります。また、自らをその本来の活躍の場である「無我の自己表現」の場に積極的に置くことが、その諸道具に近づく良い機会となるものと思われま

004 His capacity to progress and expand his thoughts from the coarser to the finer expressions, could be likened to a kaleidoscope containing a sphere, a triangle, and a square. Each turn of the kaleidoscope produces a new pattern...no two alike. When man expands his awareness to a oneness with the Cosmos, the same law of diversity, in an ever-changing, growing pattern, will give him the fullness of life.

004 その進化と自らの想念を粗雑なものからより精緻な表現に拡げて行く人の能力は、球や三角、また四角形を入れた万華鏡になぞらえることが出来るでしょう。万華鏡を一回転させる毎に新しいパターンが作り出され、二つとして同じものはありません。人が自分の知覚を宇宙と一つになるまで広げる時、その同じ多様性の法則が未来永劫に変化し続け、成長し続けるパターンとして、人に生命の充実感を与えることでしょう。

【解説】

人間の進歩の歩みは万華鏡のようだと表現されています。つまり、各自が行動を起こす（万華鏡を回す）ことによって、その内側にある諸要素が微妙に変化し、全体として毎回新しい模様を作り出すということです。

こうして少しずつ進歩の道を歩む中で、人は変化し多様性を深めることが出来る訳です。単一、単純な人生でなく、様々な側面を享受できる人物に成長するという事です。

大事なことは自らの内側を観察しながら、この自らの万華鏡を回すという行動をとることでもあるのです。

ちなみに万華鏡が作り出す模様（パターン）はいわゆるフラクタルに似た対称系の模様であり、万華鏡を人間に例えたこの部分は「曼陀羅」にも似た、宇宙の構成を象徴する意図まで含んでいるのかも知れません。

005 To attain this goal, he must understand that touch is a nerve reaction; while feeling is a state of alertness. The state of true alertness is conscious consciousness ... which is all-inclusive Cosmic Knowledge. -George Adamski

005 このゴールを達成するためには、人は触感の一つの神経反応である一方、フィーリングは警戒の状態であることを理解しなければなりません。真の警戒の状態とは意識的な意識であり、全てを包含する宇宙の知識なのです。 ジョージ・アダムスキー

【解説】

「まえがき」の最後のまとめとして、アダムスキー氏は宇宙英知につながる為のヒントとして、フィーリングという感知力が宇宙を目に見えない側面から下支えする宇宙意識と通じるものであることを述べています。

人の発達を導くものは、宇宙の意識 (Cosmic Consciousness) と呼ばれる知性体であり、そこでの意思疎通を確保することで、莫大な情報と指導的印象が各自に与えられるということです。

以前はfeelingを「触覚」、touchを「触感」と訳していましたが、ここでは、feelingを「感じ」「感覚」の意味で「フィーリング」と表記しています。後の本文の中で目や耳、鼻や舌などの感覚器官の反応についての説明がありますが、ここではこれらの四つのいわゆる感覚器官とは異なる感覚能力が、元々万物には備わっていてその感性を拡大することによって真の進化を遂げることができると言っているのです。それは丁度レーダーの性能が増すにつれ、より広い範囲を探知できるようになると類似しています。

CHAPTER I

Telepathy - The Cosmic Language

006 Upon the bookshelves of the Scientific Mind, neatly labeled and dated with methodical accuracy, are arranged innumerable recognized, but unsolved riddles of life. From time to time, an inquiring mind will unshelf a volume from the dusty archives and bring it to the attention of his colleagues.

第1章

テレパシー — 宇宙的言語

006 整然とした正確さできれいにレベルされ、日付け分けされている科学的心と題された書棚には、数限り無く認識されてはいても解決していない生命の謎が並んでいます。時として探究心のある心はその埃にまみれた書棚から一冊を取り出し、それに仲間の注目を引き寄せようと示すことでしょう。

【解説】

古代、アレキサンドリアには一大図書館があったとされています。おそらくは、ムー、アトランティスの時代に遡る歴史や宗教、哲学書もあったものと思われます。本文で述べられているように、テレパシーについても、決して新しい課題ではありません。古来から他の生物には備わっている予知能力、遠隔知覚能力等について多くの解説書が出されていた可能性もあります。しかし、これら人間にとっての基本的能力と探究する代わりに、人は結果に目を向け、その原因について自らを探究することを止めてしまいました。その結果、数多くの宗教、哲学者が探究してはそれらの成果は埋もれ、「超能力」として謎のまま、今日まで放置されて来ました。

ここで、再び、本書ではテレパシー能力について基礎から説き起こそうとしています。その手本となるのが、アダムスキー氏が出会った宇宙兄妹達であり、彼らの日常的な能力発揮にあります。即ち、従来の神憑かりで尋常でない状況の中で表現される神示を求めるのではなく、より自然で明るい日常生活を送る中で、当たり前前に生物に備わった能力としてテレパシー能力を高めて行くことを目指していることに注意したいものです。

007 Ofttimes, the Power which rules mortal action-the God of Reason-is kind to the eager searcher; and will vouchsafe an additional hint to spur him on toward the unraveling of the mystery. Occasionally, this Power, which is so far above man's reason, impresses a truth upon an individual consciousness; driving him to seek further. So man grows in knowledge, each step leading to something a little higher; but no mystery can ever be completely solved. For back of all apparent or deduced phenomena, lies the Cosmic Intelligence...full understanding of which is not given to mortal mind to comprehend.

007 しばしば現世の活動を支配する大いなる力、理知の神は熱心な探究者には優しく、神秘を解きほぐすことにその者を仕向ける為、追加のヒントを与えるものです。時としてこの力は、人間の理性を遥かに超えるものですが、各自の意識に更なる遠くを求めさせようと一つの真理を印象付けます。その為、人は知識において成長し、毎日が少しずつ高い何物かに導くステップになるのです。しかし、神秘は完全には解き明かされることは出来ません。何故なら、全ての明白な、或いは推論された現象の背後には、宇宙の知性が横たわっており、その完全なる理解は現世の心には与えられることはないからです。

【解説】

宇宙を統治する諸法則は、一見、無慈悲のように見えますが、その実際は探究者に絶えずヒントを授ける等、道を求める者には寛大です。私達はその求める姿勢を真摯なものに保つことが出来れば、創造主はいつでも私達の支えになって、私達の前進する姿をさり気なく、支えて下さるということです。

しかし、その支えは、声なき声、目には見えない妙なる印象でやって来ることを考えれば、私達は例え行動しながらも、いわゆる警戒の状態を維持し、心を通過する印象にも同時に鋭敏である必要があります。

法則自体が真理を求める者に寛大だということは、大変ありがたいことです。その要素が無ければ、これまでの文明の発展も無かったものと思われまます。また、それと同じ姿勢で宇宙兄妹達は私達に接し、陰ながら惑星全体の問題解決に支援の手を差し伸べているのです。

008 One of these volumes, which has been mouldering for centuries in the Mental Library of mystery, is labeled...Telepathy.

008 これら蔵書の一つ、神秘に関する心の図書館に何世紀にわたって朽ちている一冊にラベルが貼られています。テレパシーと。

【解説】

これから私達が学ぼうとしているのは、本文で言うように何世紀にわたって神秘の棚に放置されて来たテーマであり、それらを改めて一から読み解く作業でもあります。また、この取組みは科学的態度で自分自身を実証例として一步一步自ら確認しながら進めることが大切です。

テレパシー能力の開発と言うと、技巧的側面に走りがちですが、神秘を残さないためには、一つ一つを十分理解した上で、具体的なる応用に進むことが望ましいと考えます。

テレパシーは本来、自然界における相互の意思疎通方法である為、その能力を育成することは、単に未来の災害を予知したりする以上に、山川草木と楽しい会話をする喜びの方が重要です。未来を不安視するのではなく、明るい将来を導くことに力を注ぎたいものです。

009 Our present civilization has always been awed by the ability of certain of its members to receive visions of forthcoming events, or mental impressions of incidents occurring at a distance. Not until 1885 was this enigma labeled and placed in the scientific files for investigation. In that year, the Physical Research Society through Mr. Myers, an outstanding figure in that field of investigation, issued the following statement: "We venture to introduce the word 'Telepathy' to cover all cases of impressions received at a distance without the normal operation of the recognized sense organs."

009 私達の現在の文明はこれまでも、その構成員の中に将来起る情景、或いは遠くで起っている事故の心的印象を受けるある能力を持つ構成員によっていつも畏れられて来ました。1885年以前はこの謎めいた出来事は調査の必要な科学的ファイルの中に分類され置かれることはありませんでした。その年、この分野の調査では著名な人物であるマイヤー氏を通じて物理研究協会（訳注：実際には"the Society of Psychical Research心霊研究協会"と称される学術団体であった）は以下の声明を出しました。「私達は『テレパシー』という言葉が認識されている感覚器官の平常な作用によらず、感受する全ての印象事例を指し示すものとして思いきって導入することとする。」

【解説】

本項の内容について調べたところ、"Artificial Telepathy"と称されるブログサイト

(<http://artificialtelepathy.blogspot.com/2006/06/history-of-telepathy-chronology-to.html>) が見つかりました。そこに1950年代までにいわゆる学術的なテレパシー研究の年表が紹介されていました。内容自体の真偽については未確認ですが、本項でアダムスキー氏が述べているものと同様なことが、掲載されているので紹介しておきます。

(引用はじめ)

1882

"Telepathy" is derived from the Greek terms tele ("distant") and pathe ("occurrence" or "feeling"). The term was coined in 1882 by the French psychical researcher Fredric W. H. Myers, a founder of the Society for Psychical Research (SPR). It first appears in his article in the Proceedings of the Society of Psychical Research I, 2:147. Myers thought his term described the phenomenon better than previously used terms such as the French "communication de pensees," "thought-transference," and "thought-reading." 中略

(訳) 1882年

「テレパシー」はギリシャ語の tere(「遠く離れた」)と pathe(「出来事」或いは「フィーリング」)から派生しました。その用語は1882年、心霊研究協会SPRの設立者の一人であるフランスの心霊研究者フレデリックW.H.マイヤーによって造り出されました。その用語はthe Proceedings of the Society of Psychical Research第1巻2:147における氏の記事に最初に現れています。マイヤーはその用語を以前用いられていた、フランス語の"communication de pensees,"とか「想念伝達」や「読心術」と比べて良いものとなったと述べました。

1886

The three of the founders of the Society for Psychical Research, E. Gurney, F. W. H. Myers, and F. Podmore, published the apex of their early investigations in 1886 as the two-volume work Phantasms of the Living. It was with this work that the term "telepathy" was introduced, replacing the earlier term "thought transference".

Among the 1300 pages of case histories, the book contains 149 cases of dream telepathy. Myers defined the term telepathy as "the extrasensory communication of impressions of any kind from one mind to another."

(訳) 1886年

心霊研究協会の3人の設立者、E.ガーネイ、F.W.H.マイヤー及びF.ポッドモアは1886年に初期の調査の最先端結果を出版しました。それは初期の「想念伝達」という用語をテレパシーに置き換えての仕事でした。1300頁に及ぶ事例調査の中で、149の夢のテレパシー事例が含まれています。マイヤーはテレパシーという用語を「心から心への既存の感覚を超えた何らかの印象の交流」と定義しています。

(引用終わり)

以上、紹介しましたように、1885年当初はテレパシーについて、初めて熱心な学術的研究が始められた様子が分かります。しかし、その後はどうだったのでしょうか。実は上記のサイトにはいわゆる「マインドコントロール」とか「軍事利用」についての記事が多く掲載されています。以前、深海を航行する原子力潜水艦との通信にテレパシーが使われたとか言う記事を見たこともありましたが、実際には、テレパシーを攻撃の道具として使おう等という取組みが行われる時代になって来ているようです。そういう意味では、ますます本来のテレパシー研究から離れた実状がわかった次第です。

010 Interest ran high for a short time, but the subject was eventually relegated to the shell of unsolved problems. It was not until ten years after the termination of World War I, that science considered telepathy important enough to incorporate it into the work of the research departments of several of our leading universities.

010 少しの間、興味は高まりましたが、結局、そのテーマは未解決の問題という殻として追いやられてしまいました。科学がテレパシーを我が国の先導的な大学の幾つかの研究部局の仕事として組み入れるに足る重要な課題と考えたのは、第一次世界大戦の終了から10年が経ってからのことです。

【解説】

当時の状況は分かりませんが、日本では昭和40年代にも「テレパシー」というテーマに多くの人々の関心が高まったことがあります。確かに新しい概念は、人々の関心を引き寄せます。しかし、多くの場合、人の勝手な空論に終始し、結果として多くの研究は今日では廃れているのではないのでしょうか。

その原因はテレパシー現象が特定の能力者に現れ、その事実に驚異するだけでは、結局は能力者に驚くだけで、真の研究は出来ないこと、何よりも研究者自身の体験、実証を通じて、解明されるべき部分が無かったことであると考えています。

もちろん、著名なフロイド等も当時はテレパシーに関する研究を行っていたと、前項(009)の解説で紹介したサイトには書かれている等、初期の研究は画期的な要素もあったようです。

これに対し、私達はこの講座を通じて、自らを実験台や研究対象としてテレパシーについて学ぼうとしています。その道は決して派手な興味本位というものではなく、地味で進歩の遅いものとならざるを得ませんが、この講座を通じてアダムスキー氏は宇宙兄妹達のレベルにやがては到達できることを保証していると思っております。

011 In olden times, telepathy was attributed to black magic or witchcraft; but through actual experiments carried out by the universities, it has conclusively proved itself to be a definite fact with which to be dealt. However, that first statement made by the Psychical Research Society has been a dangerous snag upon which science is now floundering; for working from the hypothesis that telepathy is outside the "normal" operation of the recognized sense organs has caused science to place the subject in a field of mystical assumption; rather than of practical analysis. This has resulted in a well-meant but worthless foundation upon which to build. It is now time to lift telepathy out of the confusion surrounding it, and place it once more upon its true foundation as the cosmic universal language.

011 昔はテレパシーは黒魔術や魔法に帰するものとされて来ましたが、大学によって実施された実際の実験を通じて、それが明白なる事実として取扱われるべきものであることが最終的にはっきりしました。しかし、心霊研究協会によって出された最初の声明はその上で科学が今やもがいている水中の沈み木となっています。何故ならテレパシーはこれまで認識されてきた感覚器官の「正常な」作用の範囲外であるとの仮説による研究は、科学に対し実際の分析よりは何か神秘的な仮説の分野にその課題を設定させてしまったからです。このことは結果としてよかれと思ってのことでも、打ち立てるには価値のない基礎になってしまいました。今やテレパシーをそれを取り巻く混乱から引き上げて、宇宙普遍の言語としての真の基盤の上に乗せるべき時になりました。

【解説】

当時の大学での研究から、テレパシー現象は厳然たる事実であることが明らかになったと記されています。しかし、それらの事実は、そもそもの概念の掘り所に問題があった為、今日では神秘の中に埋もれているとしています。

誰でもその原理を理解し、訓練さえすれば、テレパシー能力は上達するということでしょう。それはあくまで宇宙普遍の言語という意味で、万物に共通のコミュニケーション能力でもある訳です。つまりは、原子分子から動植物に至るまで、距離にかかわらず互いの気持を通じ合える手段であり、活動する想念のやり取りでもある訳です。

おそらくは言葉による会話以前に想念を感受する能力が先にあるように思われますが、それら万物の基本能力は心が発達するにつれて失われて行くのかも知れません。毎朝、通る並木道の電線には決まってスズメの群れがとまっており、ピーチク賑やかな会話を交わしていますが、彼ら鳥達が一日の始まりを喜んでいることは傍から見ても良く分かります。自然界の生き物は毎日を創造主を意識して楽に生きています。

012 In recent years there has been a greater trend, than ever before known during this present civilization, toward the advancement of ideas that would produce a better understanding, and a more enduring relationship, between men and nations. The advent of radio, television, wireless telegraphy, etc., has done much to unite the world. Naturally, this has led to discussions among learned men as to the feasibility of evolving a universal language; for they know it would further facilitate intercourse between the peoples of different nations. Although several so-called universal languages have been compiled, such as Esperanto and Ro, to date no word-system has been developed which will meet with the approval of all nationalities.

012 近年ではこの現在の文明の中で、これまでに無い程、人々と国々の間でより良い理解と永続できる関係を作り出す概念の発達に向けたより大きな傾向が存在するようになりました。ラジオやテレビ、無線電信その他の出現は世界を結束させる為に大なる役割を果たしました。自然の成りゆきとして、このことは知識人の間に普遍的な言語を発展させる実用性について議論を導くこととなりました。何故なら、彼らはそれが異なる国の人々の間における交流を促進することを知っているからです。エスペラントやロー語等、いわゆる普遍的言語と呼ばれる幾つかの言語が編纂されましたが、今日までどの言語体系も全ての国家の承認を得る程には発展していません。

【解説】

本稿が書かれた1958年年代に比べて、今日ではますます状況は進展しています。世界的な仕組みの中で個人も組織ももはや単独では立ち行くことは難しくなりました。輸出入への依存、為替問題も含めて、人や物の国際的な交流も加速しています。

今日ではテレビやインターネットで世界中で起っている事柄を知ることが出来るようになりました。そこで課題となるのは言語の壁です。美術や音楽の理解には言語は不要ですが、唯一、人間の思考については今日も言語に頼っていると**言うべきかも知れません**。

私の記憶ではかつてアダムスキー氏は何処かの質疑応答の中で、これからの世界共通言語は米語 (American English)になると述べたことがあります。そういう面で見ると、やはり今日では米語が国際社会でのコミュニケーション言語の主流になっていることがわかります。

仕事で海外の方々にお会いする機会も多いのですが、やはり通訳を介してのやりとりよりは、直接、共通の言語で会話できる方が、格段に相手を理解出来ます。そういう意味ではもはや実質的な共通言語である米語はこれからの若い世代には必須のコミュニケーション能力となっています。

013 We generally think of a language as being a system of word-pictures, either in the form of the written symbol or vocal sound; so in seeking an acceptable means for the exchange of knowledge, we have naturally turned to these familiar methods of expression. However, with either the spoken word or written character, we are dealing with decidedly limited fields.

013 私達は概して言語というものを書き留められた記号か音声の形式による言語イメージとして考えており、その為、知識の交流の為の好ましい手段を探すに当って、私達は自然とこれら親しんだ表現方法に関心を向けて来ました。しかしながら、話された言葉や書かれた文字では私達は断然、限られた分野しか取扱っていないのです。

【解説】

私達がこれまで、新しい言語を学ぶ際に、辿って来た過程を見れば、私達が文字や音声を手掛かりとして新しい言語体系を理解して来たことが分かります。しかし、形に現れたもの、結果の世界で表現されたものはあくまで原因の一つに過ぎません。まして、未発達地球人の用いる言語には粗雑な表現に留まるものも多いと思われます。

これに対し、言葉を発する際に本人が抱くイメージは場合によっては、より精緻で内容の高いものも多いものです。つまりは「言葉で表わされない」という感覚がそれです。そういう意味では、このテレパシー講座はいわゆる言語を学ぼうというのではなく、音声を発する前に抱くイメージを直接、感受する能力を高めようとするものと言えるでしょう。

014 The men who first conceived the idea of a universal language might be astonished to learn they had received their inspiration from the pages of Nature's own handbook. For although few people are aware of the fact, there exists a universal language as ageless as the Cosmos itself. This is the language which includes not only the expressions of man, but the expressions of every living thing; yet it is a language so simple that even a new-born child can understand it.

014 普遍的言語のアイデアを最初に抱いた人達は、自分達はそのインスピレーションを大自然自身のハンドブックのページから得たことを知れば、驚くかも知れません。何故なら、大部分の人々は気付いていないのですが、大宇宙自身と同じく永遠に続く一つの普遍的言語が存在するからです。これは人間の表現のみならず、ありとあらゆる生き物の表現をも包括し、しかも生まれたばかりの子供でも理解することが出来るほど簡単な言語なのです。

【解説】

万物に共通の言語の存在に最初に気付いた者は自然自身の手引書（便覧）にその源泉があるとしています。

便覧とはそれに関するあらゆる物事の原理や応用例が整理づけられて記述された書物を指しています。この場合、自然自身の持つ便覧があるということは、自然の仕組みについて秩序だった知識を編纂した記憶の書とでも言うべきものが存在することを意味しています。

私達は日常生活において、このような貴重な知識の集大成の存在を意識することはありませんが、真のテレパシーとはこうした宇宙の知識に対して、自らの門戸を開くことを意味すると言うことが出来ます。

015 What is this medium of communication which is so easily received, and, with understanding, so readily interpreted?

015 それほどに容易に受信され、理解されて直ぐにも解釈されるというこのコミュニケーション媒体は何でしょう？

【解説】

万物、ありとあらゆるものと意思を通じ合えるということは、何を意味するのでしょうか。それは「万物に神宿る」、即ちすべてのもの（自然）には人格（尊厳や魂）があるとする古代宗教にもつながる概念でもあります。日本で現存する一例がアイヌであり、自然と調和した文化を育んで来た人々がかつては多くいたものと思われます。

これに対し、人間とその他のもの、物質と精神との区別を進めて来たのが現代文明と言えるでしょう。その結果、現代の私達は自然は人間の目的の為に利用すべきもの、開拓すべき対象として見なしており、人間以外のものは人間が利用すべきものとして来ました。

しかし、これらの理解は一つの側面に過ぎず、全体としての調和ある概念とはかけ離れています。人間も含めて宇宙万物が互いに意思疎通が出来る、つまりは万物一体となれる媒体があるとすれば、それこそ、この文明の大転換期のきっかけになる筈です。私達はその探究を目指していると言えるのです。

016 There is only one true universal language...the invisible, creative, feeling impulse, which is Cosmic Intelligence, flowing as Cosmic Force, through all manifestation. This Cosmic Cause, or Universal Force, is ever in motion. It must, of necessity, act upon, or transfer itself, from one object to another.

016 唯一一つだけ、真の普遍的言語が存在します。それは目には見えず、創造作用がある、感じの瞬発衝動であり、大宇宙の英知、全ての創造物を通じて宇宙の力として流れているものです。この宇宙の因、即ち宇宙普遍の力は常に活動しています。それは必然的に一つの目的物から別の目的物へ作用し、或いは自らを転送させなければならないのです。

【解説】

ここでのポイントは、私達が通常、「フィーリング」と呼んでいるものの実態は、パルス状の極めて高速な信号であり、これらが通過する際に私達はその持つ印象断面を知ることです。これまで私達は「想念」や「印象」と言う時、それまで私達自身の心の中で保持して来たように、ある程度の長い時間をかけて伝達されるものと考えておりましたが、ここでは実際に万物に行き来している印象・想念は「impulse（インパルス、パルス状の瞬発衝動）」と称せられることから極めて短時間に通過するものを指すことが分かります。

また、このようにパルス状に通過する印象・想念は合わせて「同時性」をも持つことが想定できます。つまりは、同じ時刻にあらゆる場所で存在することが出来るようなものが考えられます。それがテレパシーを用いることで、遠く離れた地での出来事も同時に把握できることの由来でもあるのでしょうか。

このように、私達を高速度で通過するパルス状の想念波動に先ずは気付くことから始まると言えます。

017 So the feeling impulse, which we have called mental telepathy is the great, universal language. One day, when it is understood by all people, it will break down the artificial barriers of race and creed. Before it, self-pride, deception, and vanity will fall; and by its very universality, humanity will be united-- Man with Man--and Man with all Nature. For this is the one language that every atom in the universe is able to speak and understand.

017 ですから私達が心のテレパシーと呼ぶ、感じの瞬発衝動は偉大なる普遍言語なのです。いつか全ての人々にそれが理解される時、それは人種や宗教という人工的な障壁を打ち砕くことでしょう。それを前にしては、自負やごまかし、そして虚飾は崩壊し、そのままに普遍性の故に人類は団結することでしょう。人と人、更には人と全ての自然とがです。何故ならこれが宇宙における全ての原子が話し理解することが出来る唯一の言語であるからです。

【解説】

私達がまだ十分には捉え切れていない「感じの瞬発衝動（フィーリングインパルス）」こそが、万物を貫く想念伝達の仕組みであり、人間を除く全ての生き物がそれを頼りに生活しているということです。

ひとたび、私達がこの想念伝達を理解し実行できる段階になれば互いに相手の思いが分かる為、言葉による装いや嘘等は露見し、各自の内面が明らかにされることから、逆に人々は正直になれるものと思われれます。

また、このフィーリングのインパルスは人ばかりでなく、物、究極には原子とも会話することとなりますので、その拡がりは無限と言って良いでしょう。

そういう印象を受ける為には、絶えず心の中を見張っていなければならず、いわゆる「警戒の状態」を保つことが必要です。それは「生命の科学」で強調されていた意識状態ともつながる内容だと思っています。

018 Conscious thought is known on all planes of consciousness. Its character cannot be hidden either by soft whispers, or dramatic inflections; nor can its meaning be concealed by the clever manipulation of chirographic symbols. Cosmic thought is stark truth; it cannot be distorted. It is the law of activity which must, and does, indiscriminately produce action and reaction in whatsoever form becomes its point of contact.

018 意識的な想念は意識の全ての局面において知られます。その性質は穏やかなささやき、或いは劇的な抑揚によって隠されることは出来ませんし、その持つ意図は書道の文字の賢い操作によって隠すことも出来ません。宇宙的な想念とは厳格なる真実であり、ねじ曲げることは出来ないのです。それは何物であれそれが接触する形有るものにおいて区別なく活動を造り出さねばなりませんし、造り出している活動の法則なのです。

【解説】

ここでは、想念 (thought) を意識的な性質を持つものと宇宙的性質を持つものという2つの側面から説明しています。

つまり「意識的」であるということは、その本質は音声や文字でなく、誰にでも感じ取られ掌握されるもので、見掛けのごまかしは通用しないということの意味しています。

一方、「宇宙的」ということは、想念が出会った対象物には平等に作用し、宇宙空間に拡がって行く作用力、即ち創造力のある存在ということになります。

この両者の性質を備えた想念が、如何に重要かが分かれば、私達は心を通過する想念により鋭敏になると同時に、自ら発する想念には絶えず気を配る必要があることが分かります。

ジョージ・アダムスキー「テレパシー」第1部 1章 段落019 [2009-05-07]

019 Telepathy was the means of communication I used during my first meeting with a visitor from another planet, when I conversed with the occupant of the scout ship from Venus. It was partially explained in my second book, INSIDE THE SPACE SHIPS, as a Law of Nature, or one of the Universal Laws.

019 テレパシーは私が金星から来たスカウトシップの乗組員と会話した際、他の惑星からの訪問者との私の最初の会見の間、私が用いたコミュニケーション方法でした。その一部は私の第二の本、INSIDE THE SPACE SHIP（訳注：「空飛ぶ円盤同乗記」）の中で、自然の一つの法則や宇宙普遍法則の一つとして説明されています。

【解説】

アダムスキー氏がそもそも、デザートセンターにその後の目撃者や証言者になる者を連れてパロマーガーデンズから出掛けたこと自体、その日に金星のスカウトシップがデザートセンターに着陸し、アダムスキー氏に会見させることになっていることを事前に察知していたと考えるのが自然でしょう。また、同様に「同乗記」に記されているようにブラザーズ（宇宙兄妹達）との会見を目的に単独、バスに乗り込み移動を行っています。これらはいずれもアダムスキー氏がテレパシーによってブラザーズの意図を察知し、自ら行動を起こしたことに外なりません。

デザートセンターでの金星人オーソンとの会話は「実見記」の中では互いに身ぶりで会話したとされていますが、実際にはテレパシーによる互いの理解があったものと思われます。

後日、「同乗記」の中でブラザーズ達が新たに言語を学ぶ際の手法が紹介され、言語を発する際に放出されると思われる感覚イメージを同時に感知することが有用とされていますが、私達も語学を学ぶ際には、同様のテレパシー能力をわずかながら、用いているのかも知れません。

020 There is nothing mysterious or unknowable about this means of thought-transference, for man lives by it daily. A thought cannot be given audible expression without first being formulated in the mind. This is automatic with the average person, and he is usually quite unconscious of the fact that his mind is (1) directing every outward movement of his body; (2) composing and arranging his thoughts before giving them audible expression; (3) receiving a continuous flow of thought-impressions from the outside. From this continuous flow of impressions the undeveloped mind rejects all that is not familiar, and retains only those thoughts which confirm the opinions his mind has already formed. That is why, until man understands himself, he is guided only by the world of effect.

020 この想念移動の手段について何も神秘的なものも未知なることもありません。何故なら人は毎日それによって生きているからです。想念は心の中で最初に組み立てられることなく、聞き取れる表現を与えられることはありません。これは普通の人間では自動的に行われており、人は普通は自分の心が、・肉体の外向きのあらゆる運動を指揮し、・自らの想念を聞き取れる表現にする前に組み立て整理し、・外界から絶えず流れ込んで来る想念－印象類を受信しているという事実について全く意識しておりません。この連続した印象の流れの中から、未発達な心は馴染みのないものは全て拒絶し、代わって自分の心や既に作り上げた意見類を確証する想念類のみを保持します。それが人が自分自身を理解するまでは結果の世界によってのみ導かれる理由です。

【解説】

人間を支配する心の機能と問題点についてここで明確に解説しています。本文に記されているように、特に心が人間の行動を指揮していることと、想念を言葉に変換する作用、更には源となる想念の流れを例え不十分ながらも常に受信していることは重要なポイントになります。私達が目指すのはこれら自らの心の作用を更に純化し、本来の姿に戻し、発達させることです。

その為には、私達自身、日頃からその作用の実態について良く観察する必要があります。一方で、心は長年の支配経験からその処世の方法は巧みであり、容易に真実の姿をさらけ出すことはしません。自らの心に本来の素直さを取り戻し、その想念の源である宇宙意識を自らの指導者として認めさせることが必要です。

また、普段、何気ない行動の背後に自らの肉体を通じて心が各行動を差配している実態を知る等、心自体の有用な働きについて認め、評価することも大切です。自らの心を良く知ることが大事だということです。

021 It has been said, "A natural man knows the way of the Spirit, while the unnatural man knows not the way of the Spirit." This means, that once man recognizes his oneness with Cosmic Cause and begins to use its laws, he will have no further need of a teacher; for the Law gave him life....and the Law will be his teacher. The great universal language, which we use daily and know not, speaks to us in the deep reverberations of the thunder; and communes with us in the silence of Creation's deepest repose.

021 「自然人は聖霊の道が分かる一方、不自然な人には聖霊の道が分からない」と言われて来ました。この意味は、ひとたび人が宇宙の因との自らの一体性を自覚し、その法則を活用し始めるなら、その者には今後、教師は必要で無くなるだろうということです。何故なら、その法則が彼に生命を与え、そしてその法則はその者の教師になるであろうからです。私達が毎日用いており、知らずにいるその偉大なる宇宙普遍の言語は、雷鳴の深い響きの中でも私達に話し掛け、創造主の最も深い休息の沈黙の中でも私達と心通わせて来るのです。

【解説】

物事の対処の姿勢として「自然体で」という表現があります。通常はこだわりや先入観を捨ててありのままを受け止め、その時々自ら湧き出て来るアイデアを元に、その問題を解決して行こうとする意味合いで用いられています。しかし、その奥には、本人には宇宙普遍の知性からの働きを感知できる能力があり、適時適切にその知性からの指示を受けられるという信頼感があることが含まれています。

かつて「野のユリ」を例にイエスは弟子達に宇宙にくまなく行き渡っている創造物達を育む英知を語りました。それが本文でいう自然 (Natural)の意味を指すものと思われます。

ひとたび、その知性の存在に気付くことができれば、もはや教師は不要であり、野の草花達と同様に自然に沿った歓びに満ちた生活が送れることになるでしょう。これら自然に従った生き方は、老子も同様な要点を述べていたように思います。

なお、本文で述べられている「自然人」の話は通常のキリスト教教義では"The natural man receiveth not the things of the Spirit"とし、肉体の欲望に従属する者を「自然人」として取扱っており、逆の見方をしておりますので注意が必要です。

022 We cannot lay down a definite pattern for everyone to follow, as there are no two humans alike; we can only present the Law to you. It will work according to each individual understanding and application, and these will differ from person to person. The principle we give here applies equally to all.

022 私達は誰もが後を従うような確定したパターンを敷設することは出来ません。二人同じ人間はいないからです。私達は唯一、その法則を貴方に示すことが出来るだけです。その法則は各個人の理解と応用に応じて作用する筈ですし、これらの事柄は人によって異なることでしょう。しかし、私達がここで授ける原理は全てに等しく適用されます。

【解説】

一人ひとりに合った精進の方法を各自が探し求め、試行錯誤を経て確立することは重要です。この日々の過ごし方を探り、試すことも私達の発達にとって大きな意義を持つものです。

ある程度の年齢になれば、人生を振り返る場面も増えて来ます。これまでの人生であまり進歩が無かったかと思うことも多いように思われます。その遅い進歩の歩みですが、それを明確に確かめる方法があると思っています。先日、ある会合でもお話したのですが、各自の昔の写真を見る機会があれば、是非見て欲しいということです。写真は撮られた当時の各自の顔つきを残しております。私の場合、振り返って昔の写真を見ると、そこには現在では、恥ずかしい程に余裕の無い、また人格的にも問題がありそうな人物が写っていることに先日、気付いた次第です。ゆっくりですが人間は変化を遂げているということです。それを自分が証明しているのです。

各自の魂は長い年月を経て、ある時はさまよい、またある時は進歩の道を勢い良く進んでいます。時には歩みが遅くなる日々はあるでしょうが、創造主の元に戻るとする意志さえあれば、遂には目標に到達できる筈です。それに至る時間は永遠の中では大差はありません。本項で言う、毎日をどのように過ごすかについては、まさに各自のオリジナリティーが発揮される分野と言えるのです。

023 If this lesson is to be of any value to you, you must begin with yourself. You must learn your component parts, why each part works as it does; what controls your thinking, and why there is such an apparent conflict between your inner self and the world about you. You must understand your emotional reactions before you can be the expressor of the fullness of life.

023 このレッスンが貴方にとって何らかの役に立つようにするには、貴方はご自身で始めなければなりません。貴方は貴方を構成する各部を学び、何故個々の部分がそのように働くのか、貴方の考えを支配しているのは何か、また、貴方の内側の自分と貴方の周囲の世界との間にかくも明らかな諍いがあるのかについて学ばなければなりません。貴方が生命の完全さの表現者になるには、貴方の感情による諸反応を理解しなければならぬのです。

【解説】

何度となく言われているように、読むだけでは価値が出ないということです。何よりも自分自身に応用し、実感、体得してはじめて身に付くと言えるでしょう。中でも自分自身を造り上げているもの、例えば肉体の各部や臓器等を学ぶことは、ある意味届けられた贈り物をよく味わい、贈り主の配慮に感謝することが最低限のマナーであることにも似ています。

また、現実の日々の生活の中では思い通りに行かないことに腹を立てたり、不必要なくらいに悲しんだり私達の心は揺れ動き、不安定となりますが、その原因は何処にあるかを見極めよとも言っています。つまりは時々感情に流されることには問題があるのです。一時的な感情の激高から破壊的な行為に及んで、罪を犯す例をはじめとして、感情のコントロール手法を身につけることは大事です。

これら主として私達自身の内側部分の心身共の機能や問題点を理解することが出来れば、私達は本項で言う生命の完全なる体現者となる事が出来るということです。

024 There is one vitally important truth we must always bear in mind. The Cosmos has no beginning-and it has no ending. It is all that ever was-is-or ever will be... eternal activity.

024 私達が常に心に留めておかなければならない、命にかかわる程重要な一つの真実が存在します。宇宙には始まりもなく、終わりもないということです。それはかつて存在した、現在存在する、未来に存在するだろう全て、永遠に続く活動であるからです。

【解説】

大事なことはそう多くあるものではありません。宇宙兄妹達（ブラザーズ）が、あれほどゆったりした生活を楽しみ、創造物として最高の人生を送っている背景には、宇宙が不変であり、永劫の活動を続けて行く中で各自の存在を自覚していることが挙げられます。即ち、各自の命が永続するとなれば、きのう今日の短い時間に焦ったとしても何の意味もなし得ないことが分かります。

代わって、より長い視点で落ち着いた展望の中でその日その日のやるべき事を着実に実行する一方、適切な間隔でゆとりを持って休息を取る等、余裕のある取組姿勢が生まれることとなります。傍から見ても、劣悪な環境の中でも多くの生き物は与えられた環境に精一杯順応し、自らの表現に向けて努力しています。

私達を含む大宇宙がこのように永続しているということは、私達一人ひとりの保護の手は途切れることなく続いて行くということです。まさに未来は明るいということになります。

025 Man was created to be the perfect expression of all expressions; and he was endowed with the ability to reason that he might understand each effect in the scheme of life. He is innately capable of comprehending all states of Cosmic expression; from the very lowest, to the highest. But through ignorance he has prostituted this Divine gift; and now judges and condemns that which he sees about him. Whether he realizes it or not, by his judgments he exalts himself above the Creator; thereby causing a feeling of separation between himself and the Giver of all Life. But when he casts off the fetters forged by his carnal mind, he becomes the Knower; and is then one with the Cosmic Cause of all creation. All nature works in harmony with the Supreme Intelligence which gave it birth. Man stands alone; the sole distorter of the Law.

025 人は全ての現れの完全なる表現者として創造されました。そして人は生命の体系における一つ一つの結果を理解するかも知れないという推論の元にその能力を授かりました。人は生まれながらにして全ての宇宙的表現の状態を把握することが出来ます。最も低次元のものから最高位のものまでです。しかし、無知の故に人はこの神聖な贈り物を売り渡して来ました。そして今や自分の回りを見るものを裁き、非難しているのです。人がそのことを理解しているに關わらず、その裁きによって人は自分を創造主の上に高ぶらせているのです。その結果、自分自身と全生命の贈与者との間に分離感をもたらす原因を造っています。しかし、人が自分の肉欲の心によって造られた足かせを投げ出すなら、人は知る者となります。そして全創造物の宇宙的因と一体になるのです。全ての自然はそれを誕生させた至上なる英知と調和して働いています。人のみが独り立っているのです。唯一の法則の曲解者として。

【解説】

自らの能力が相手より勝っていると考えから相手を見下す訳であり、自分の生き方だけが正しいとする故に物事を批判するようになる訳です。これらは共に人間の進歩を妨げている重要な要因です。

しかし、裁きを行っているのは人間のみであり、圧倒的な他の創造物はそのような状況には陥らず、各自の創造された目的に沿って生命を全うしています。

私達は日常生活において、とにかくもそのような要素を持つ想念が出現したら、それらを瞬時に投げ出し、自分の心から排除するよう、常に自らを見張っておかねばなりません。そうする過程で、それらに代わって宇宙に調和する想念の宿となることが出来るものと思われれます。具体的には模範となる例は自然の中の草木や動物達の営みの中に容易に見い出すことが出来ます。

026 We will endeavor to explain the necessity of blending Cosmic Man with Earthly man. Telepathic reception will come from both; but when receiving impressions, we must always keep in mind the difference between the man of little understanding, and the Cosmic Man. The thoughts coming from the man of little understanding will contain discriminations, divisions, judgments, and personal feelings; while the Cosmic Man's impressions, coming from Cosmic Cause to all effect, will convey understanding and compassion, without judgment. This is Truth expressing; and in the presence of Truth there is an absence of doubt.

026 私達は何とかして宇宙的人間と地球的人の融合の必要性を説明することとしましょう。テレパシー的な感受はどちらからも来ますが、印象を受ける場合、私達は常に少ししか理解していない人と宇宙的人間の間の違いについて心に留めて置かねばなりません。少ししか理解していない人から来る想念類は差別や分裂、裁きや個人的なフィーリング類を含みますが、宇宙的人間の印象類は宇宙的因から全ての結果にもたらされるものであり、裁きを持たず、理解と思いやりを運んでいます。これは真理を表わしていますし、真理の前では疑いというものはありません。

【解説】

書物を通じて学ぶよりも直接、師となる人物に付いて学ぶ方がはるかに優れていることはご存知の通りです。イエスとその弟子達、仏陀とその従者達は直接、師から多くを学ぶことが出来た故に、師が亡くなった後、師が発した言葉や師が示した態度を後世に伝える業績を残せたということです。同様にアダムスキー氏のコーワーカー達も氏との交流の経験がその後の人生に大きな影響を与えました。私自身、1982年にお会いしたエマ・マーチネリ女史、シャーウッド夫妻、アリス・ポマロイ夫人、マデリン・ロドファー夫人等々、アダムスキー氏と身近に過ごした日々は各自にとってその後の人生に大きな影響を与える貴重な体験であったことを直接伺っています。

宇宙的人物については、もちろん、宇宙兄妹達と直接交流することは最も望んでいる訳ですが、おそらく交流後のその者への影響を考慮し、一定レベルに達するまで、接触しない方が賢明である事例も多くあるものと思われます。そういう意味では宇宙兄妹達との交流が望ましいと言っても、その実現はあくまで宇宙兄妹達の側の判断に委ねる他は無く、同様なことはアダムスキー氏も述べているところです。

一方、人との交流によって相手に甚大な影響を与え得るということは、私達の日常生活においても大変重要なことです。自分が発する想念が相手に大きな影響を与えていることに留意しなければなりません。どのような事態においても明るく相手を思いやる心の余裕が必要ですし、その為には自らの内側に宇宙本源の創造主の愛情が沸き起っている必要があるということです。

027 The study of telepathy will in no way interfere with, or contradict, any religious belief you may have. For telepathy is not a religion, but a Universal Law. Knowledge of this law will give you a greater understanding of yourself and of your relationship to the Cosmos in which you live.

027 テレパシーの学習は貴方が持っている如何なる宗教上の信念を干渉したり、否定したりすることは一切ありません。何故ならテレパシーは宗教ではなく、宇宙普遍の法則の一つであるからです。この法則の知識は貴方に貴方自身と貴方が生きている大宇宙と貴方の関連性についてより大きな理解を授けることでしょう。

【解説】

後年の著作「生命の科学」においても本項と同様なことが述べられています。日本では宗教問題はあまり大きな影響を持ちませんが、欧米の社会では大きな意味を持っているようです。カトリックとプロテスタント、その他との争いもありましたし、イスラムとキリスト教の戦いは中東やアジアにおいて現在も深刻な問題を投げかけています。これにはもちろん、信仰上の相違の他に、政治経済まで浸透した宗教上の差別が根底にあることは言うまでもありません。

さて、もう一方の側面として、テレパシー学習を単なる技術の修得と捉えることも誤りです。それはあくまで本項でアダムスキー氏が強調しているように、宇宙を貫く法則や原理を理解することにある点に注目したいと思います。まずは、法則の理解が重要であり、正しく理解して初めて応用を始められます。まずは自らの心を通過する想念類に気付くこと、それらを正しい場所に納め、その持つ創造の力を信じて熟成を待つこと、万一過った要素を含む想念が入り込んだら、直ちにそれらを排除すること、そして自然の事物が何を感じているのかを知りたいと思って心を拡げること等々、各自本書を通じて、紹介される事例について自分自身に当てはめて研究することが必要なのです。

028 The more highly-developed space people have learned that, in its natural state, all life expresses as a joyous, free execution of each action. They do not consider the performance of their daily chores burdensome, but rather, view them as a privilege whereby they can render further service to Cosmic Cause by enabling it to express unhampered through them. They are trained from infancy in the proper care of their bodies and use of their minds. They will not harbor a discordant thought, for they know what it does to the chemicals of the body. Their sense-mind is coordinated with the Feeling, or Cause Mind; so each individual cell of their body responds to the commands given by the sense-mind. By use of this law, their bodies remain firm and youthful regardless of age. They know that all life is constantly active, and that each particle of creation performs its duty in a free, unimpeded expression of Cause.

028 より進化を遂げた宇宙人達は自然状態では全ての生命は、その一つ一つの行為の楽しく自由な遂行として表わされていることを学んで来ました。彼らは自分達の日々の雑用を負担とは思わず、むしろ自らを通じて邪魔されることなく表現することを可能とすることによって宇宙の因にたいして更なる奉仕に尽くことが出来る特権だと、それら雑用を見なすのです。彼らは幼少時から身体の適切な保護と心の使い方について訓練を受けます。彼らは不調和な想念に留まる場所を与えません。何故なら彼らはそれが肉体の化学物質に作用することを知っているからです。彼らの感覚心はフィーリング、即ち因なる心と調和しています。ですから彼らの個々の細胞はその感覚心によって与えられる指令に反応するので、この法則を用いることによって、彼らの肉体は年齢に関わり無く引き締まっており、若々しさを保ちます。かれらは全ての生命は常に活動的であり、各々の創造の薄片は自由で妨げられることのない因の表現の中でその義務を演じていることを知っているのです。

【解説】

自然の法則がどのようなものであって、それに日々従って生きることがどのようなことを指すのか、本項はその内容を良く説明しています。また、地球でも自然界の人間以外の動植物は皆、本項で述べられているような活発かつ、明朗な生活を送っています。その内面の状況についてはよく分かりませんが、自然界の生き物の日常を見ると、皆、実に活発、精力的に活動しています。その代表例がミツバチの類いでしょう。彼らは花を求めて遠くまで飛行し、花びらから花びらへ労を惜しむことなく動き回り、花粉や蜜を収集します。それらは巣に持ち帰り、彼らの食料となる一方、花の元となる果実の受粉を助けたり、人間に蜜を提供したり、様々な他の生き物の役に立っています。

このように自然の法則はそれに従う時、様々な複合的な作用をもたらし、自然界の相互関係を強化して全体としてより高度高次な内容に押し上げるという性質があります。その為には、もちろん、無我になつて心を謙虚にし、因から来る指令（印象）に素直に従うことが必要となります。

どれ程、自然の中に秘められた法則に気づけるかは難しいところですが、少なくとも私達は自然を観察することは出来る筈です。日本のプチファールと称せられている細密画家、熊田千佳慕（1911～）が描いた絵本を見たことがあります。精緻な昆虫や植物の絵で、絵本の画面いっぱいに昆虫達の毎日が生き生きと描かれています。この他、熊谷守一（1880～1977）の絵も私の好きな絵の一つです。自然を深く観察する中で、両画家の得た体験も本項で述べられている内容に近いものではなかったかと思っています。

029 When we are able to employ this same joyful, relaxed state of mind in our daily living, our consciousness will be raised to the place where impressions of a universal value will come to us naturally. This does not mean that man will then ignore the world around him, for he was born on this earth to live as a participating unit with the whole of humanity, and he has not the right to withdraw. True understanding, or evolverment, will enliven his interest in his fellowman, for he will then recognize a kinship with all he beholds.

029 私達がこれと同じ楽しく、リラックスした心の状態を日常生活に適用するなら、私達の意識は宇宙普遍的の価値がある印象類が自然と私達にやって来る位置に押し上げられることでしょう。このことは人が自分の周囲の世界を無視するようになることを意味するものではありません。何故なら人はこの地上に人類の全てと共に一つの構成単位として生きる為に生まれて来たからです。そして人には脱退する権利は無いのです。真実の理解、或いは進化というものは同胞への関心を活気づけます。何故なら人はその後自分の見る全てのものに親近感を認めるようになるからです。

【解説】

私達の当面の課題は不安定になりがちな自らの心を、自然界の他の生物を手本として、より安定的に、明るくゆったりした状況に保つことです。それは私達が回帰する創造主の下では全てが活発、活動的で、歡びに満ちていることに他なりません。初夏の野原にほんのわずかでもしゃがんで野の花の咲く茂みを覗けば、明るく輝く野草のジャングルの中をテントウ虫他の昆虫達が忙しく働いている調和した別世界を垣間見ることが出来ます。

日常、これと同じ気分は何故なれないかは私達自身の問題なのです。以前、ある方から「明るくなければ本物ではない」という主旨のお話を伺ったことがあります。つまり、従来インテリは世をはかなみ厭世的になることが当然だとする風潮がありましたが、それは誤りだということです。それは心が勝手に造り出した産物に過ぎず、真実は明るくゆったりとした流れの中にあるということです。

日本にも昔から「陽気暮し」や「他力本願」という言葉があるように、心を穏やかに保ち、宇宙に流れる創造の力の中に自らの活路を見出せとする主旨の教えがありました。それと同様、まずは自然を観察し良く知ることから心を平安に保つ第一歩が始まるということでしょう。

CHAPTER II

The Four Senses of Man

030 I have been deluged with letters from all parts of the world requesting information about thought-transference. The vast majority of these have contained questions such as, "What is telepathy? How does it work? Could I learn to use this means of communication?"

第2章

人間の4つの感覚

030 私はこれまで世界各地からの想念の交流についての情報を求める手紙で溢れかえっていました。これらの大半は、「テレパシーとは何か？それはどのようにして働くのか？私もこのコミュニケーション手法を用いることが出来るのでしょうか？」というような質問を含んでいました。

【解説】

アダムスキー氏がどのような経緯で「テレパシー」を執筆するようになったかについては、よく知られていません。出版は1958年となっており、第1章の金星人オーソンとの会見時の記述(019)もあることから、1952年のコンタクト以後であることは間違いありません。しかし、「ロイヤル・オーダー・オブ・チベット」と称された啓蒙活動をアダムスキー氏が戦前から行っていたことは既に知られている所です。当時(1936年)出版された質疑応答集(日本では「ロイヤル・オーダー(宇宙宝典)」として1984年に出版)を見ると、テレパシーを含め、様々な事柄について明解な回答が為されていることが分かります。

そういう意味ではアダムスキー氏はUFO問題に関わる以前から生涯を通じて新しい哲学理念の教えを行っていた訳で、ブラザーズ(宇宙兄妹達)との接触(コンタクト)は氏の確信を高めることになったに過ぎません。

テレパシーの学習に入る前の基本的な認識については、前回までの第1章で述べられた後、本章からはより具体的な心の構成要素やその実態について解説が為されることとなります。

031 I do not know by what method others attained their understanding. I can only tell you how I achieved mine.

031 私は他の者達がどのような方法によって、理解を得たのかは知りません。私は私が如何にして自分の理解を達成したかを述べる事が出来るに過ぎません。

【解説】

アダムスキー氏自身は様々な「超能力」を有していたと伝えられています。具体的な事柄は伝わってはおりませんが、1975年にかつてのアダムスキー氏の秘書であったルーシー・マクギニス女史がエマ・マーチネリ女史に宛てた手紙の中にもアダムスキー氏自身が相当の能力者であったと述べられています。

本項ではそのアダムスキー氏が自らの体験を通じてテレパシーとはどのようなものかを解説しています。そういう意味では、私達は注意深く本講座の内容を吟味しながら進めて行くことが大切で、一度に能力を高めようとする事は慎んだ方が良いでしょう。時間は十分に与えられている訳ですから。

032 Many years ago when, as a youth, I first became interested in the subject, I knew some people could communicate telepathically. I wanted earnestly to know how this was done, so I began to study. At that time, I accepted the idea that man is a five-sensed being; with the potential of developing a sixth sense, etc. This was the commonly accepted theory then, the premise of which had been laid in antiquity.

032 私が青年であった昔、このテーマに初めて興味を持った時、私はある人々がテレパシクに意思疎通を行えることを知っていました。私はこれがどのようにして行われるのか、真面目に知りたいと思った為、研究を始めました。当時、私は人間は5感を持つ存在であり、6番目の感覚も発達させる可能性を持っている等の考えを受け入れておりました。これは当時は広く受け入れられていた理論であり、その前提は古代においても置かれていたのです。

【解説】

(注)：まず最初に原文中「premist」は解釈上、「premise」の綴り誤りと判断し訂正してありますのでお断りしておきます。

本文ではアダムスキー氏の青年期（通常は10代を指す）に、氏の周りにはテレパシー能力を有する人々が数多く居たということに注目したいと思います。一説には幼年期をチベットで過ごしたとされ、そのことが先(030)に紹介した「ロイヤル・オーダー・オブ・チベット」の名称にも関係していることは皆様、御存知の通りです。その後の青年期には氏の周囲、例えば家族の中に能力者が居たと考えるのが自然かも知れません。

アダムスキー氏がどのような青年期を送ったかは知られておりませんが、ある人々の間で行われているテレパシーが実際、どのようにして行われるかを真摯に探究しようとする気持は、現在、この講座を学ぶ私達も全く同じであらねばなりません。私達はこの講座を通じて、アダムスキー氏が自ら会得したテレパシー能力を追体験し、自ら確認する必要があります。

033 In the early ages of human development, man had been content to accept the world in which he lived as a mere five-sense manifestation. But as he grew wiser, he noticed actions taking place about him that were difficult to explain-actions that seemed to transcend these powers of outer perception. Puzzled by what he beheld, yet having no physical sense to account for this phenomenon, he relegated it to a realm of his own invention.... the sixth sense! He was then content (and still is), to consign everything not explained by his senses to this indefinable, mysterious plane.

033 人間の発達における初期の年代においては、人は自分が5感の創造物として生きているに過ぎない世界を受け入れて満足していました。しかし、成長して賢くなるにつれて、人は自分の周りに説明できない諸作用、即ちこれら外側の知覚力を超えるように見える作用が起っていることに気付きました。人は自分が見たものに当惑したものの、この現象を説明する物理的な感覚を持ち合わせていないことから、人はそれを自分の発明品の領分に追いやってしまいました。それが第6感です。人は自分の諸感覚では説明できないあらゆるものをこのはっきりしない、神秘的次元に委ねることに、これまでそして現在でも甘んじているのです。

【解説】

そもそも私達の周囲の世界を5感が把握する創造事物 (five-sense manifestation)と私達が永年見なして来たこと自体、気付くことは難しいと言えるでしょう。私達は日常、意識することなく感覚の判断結果に基づいて生活しており、対象物を積極的に理解しようとは思いません。自分のエゴの興味あることは、とことん調べ上げますが、大抵の場合、感覚の即断結果より、考察を深めることはありません。

しかし、目を閉じれば「美しい」「醜い」の区別は無くなりますし、耳を塞げば快い音色もやかましい騒音も消え去ります。このように私達の感覚を一つ一つ減じて行く試みによって、それらが私達の日常に極めて大きな役割を果たしているか、言い替えれば、私達が如何にそれらに依存しているかが分かります。

一方、本文中にさり気なく "transcend these powers of outer perception" (このような外側の知覚力を超える)と明記されている "outer perception" (外側の知覚力) に留意したいと思います。つまり、従来の感覚は外側の知覚であり、これに対し、内側の知覚 "inner perception" がテレパシー能力の本質だということを示唆しているからです。つまり、アダムスキー氏が様々な所で述べて来たように、外見や外側、物質等のいわゆる結果物に対応するのが私達の従来の感覚であり、その奥、内側にある意識レベルの活動がテレパシーだということを示しているものと思われます。

034 My early studies, based on the antiquated theory of telepathy being a sixth sense, led nowhere. After careful observation, I found that others using this same trend of reasoning were not attaining the desired result, either. Innately I felt something was being injected which did not align itself with natural, or universal law. So I turned to nature and studied her actions. Here, where the reasoning mind of man did not interfere, I found all things working in harmony. As I thoughtfully observed life expressing in its many forms of manifestation, I realized there must be an intelligence, or a law, that operated according to an exact pattern.

034 テレパシーが第6感であるとする古代の理論に基づいた初期の私の諸研究は何処にも導くものではありませんでした。注意深い観察の後、私はこれと同じ推論傾向を採る他の者達も、目的の結果を得ていないことを発見しました。生まれつき、私は何か自然或いは宇宙普遍の法則と揃わないものが注入されているように感じておりました。そこで、私は自然に目を向けて、その諸活動を観察したのです。人の推論する心が邪魔をしないそこで、私は全てのものが調和をもって働いていることを見い出しました。生命が様々な創造の形態に現れていることを注意深く観察するにつれ、私はある正確なパターンに沿って作用する一つの知性、或いは法則が存在するに違いないことに気付いたのです。

【解説】

本文中に述べられている、「何か自然或いは宇宙普遍の法則と揃わないものが注入されているように感じておりました」という部分の真意は何処にあるのでしょうか。直接的に解釈すれば、アダムスキー氏自身が何らかの違和感を自身に感じていたということになります。この違和感は、後続の本文を読み進まると解消されて行くことが分かりますが、少なくともアダムスキー氏自身の中で、これまでの自身の生き方が自然に沿ったものではないのではないかという気持があったということでしょう。

また、本文ではさり気なく「ある正確なパターンに沿って作用する一つの知性、或いは法則が存在する」と述べられておりますが、21世紀の地球の科学レベルでの表現をすれば、DNAその他の遺伝物質に従っての生命の増殖活動を指す記述であることが分かります。

035 The orange tree, wafting its perfume on the southern breeze, need not delve into a laboratory analysis of atmospheric conditions to know that only in the milder climes will it survive. This tender species depends upon natural law to insure its continuation; so nature does not capriciously broadcast its seed in frigid zones, she sows them. where the sun is warm.

035 南からのそよ風に芳香を漂わせるオレンジの木は、温暖な気候においてのみそれが生き延びられることを知る為、大気の諸状態を研究室での徹底した分析に出す必要はありません。この繊細な種はその継続を保証するのに自然の法則に依存していますので、自然は気紛れにその種を寒冷地に播くことはなく、太陽が暖かな場所にそれらの種を播くのです。

【解説】

人間の手でなく自然自体がオレンジの木を育てることに關しては、最近、ある方から借りた「奇跡のリンゴー絶対不可能を覆した農家 木村秋則の記録」（幻冬舎刊、2008年）という、日本のリンゴ農家の話を紹介しましょう。

青森県のリンゴ農家である主人公は、ふとしたことから福岡正信の著書（「自然農法ーわら1本の革命」春秋社刊 1975年）に巡り会います。福岡正信（1913-2008）は不耕作、無肥料、無除草を特徴とする自然農法の提唱者として有名な方です。その著書の影響を受けて主人公は自分のリンゴ畑で完全無農薬のリンゴ作りを始めることとなります。

しかし、リンゴ作りは多くの農薬が必要とされる難しい農業であり、農薬を使わない主人公のリンゴ畑はたちどころに虫に食われ、葉を落とし、花も咲かない状況に陥ります。もちろん津軽のリンゴ農家ですから、リンゴが成らなければその家の収入は途絶えます。一家は数年で極貧の生活に陥って行きます。その間も研究熱心な主人公は朝となく夜となくリンゴの木と対話し、また悩み貫きます。

その悩みの末、行き詰まった主人公は自らの死に場所を求めて岩木山に登り、まさに木に自殺用のロープを掛けようとした時、あおあおと繁るドングリの木と出会います。肥料も農薬も与えられないドングリの木は健康そのものであり、その木に近付いた時、その周囲の土が柔らかく、豊かなことに気付かされました。それまで目に見える幹や葉の部分だけを見ていましたが、実際には目に見えない根や土の中の状態が重要であることを知ったのです。

しかし、その後も試行錯誤が続き、リンゴ畑を人工の肥料を使わず、大豆を播くことで根粒菌を活用した肥効化を進めたり、様々な試みを行い、遂にはリンゴ畑は一面に花が咲き、完全無農薬のリンゴ作りが実現したというお話です。

この本の中でとりわけ興味深いのは、リンゴの木々や様々な害虫達に主人公が度々話し掛けたということです。例え害虫でも敵視することなく、暖かく接しているのです。これについては、かつてルーサー・バーバンクが棘無しサボテンを開発した時、一つ一つの棘をピンセットで抜きながら、バーバンクはサボテンに「これからは棘は必要ないよ。私が守って上げるから。」と語りかけたことと類似しています。

また、土壌が豊かになるにつれて、リンゴ畑に棲む生物種が多様になってからは、かつてのような害虫の大量発生は無くなったとされていることも興味深いことでした。即ち、多様な生物が棲息することが安定した生物相、調和した世界を構成するとも言えるものです。なお、本書中には何と主人公のコンタクト体験も紹介されていることにも驚きましたが、リンゴの木を含め、自然に対する本書に記述されている主人公の取組姿勢は、アダムスキー哲学の実践例としても優れた内容だと思っています。

以上は日本のリンゴ畑の例ですが、アダムスキー氏が長年暮らしていたパロマー山麓周辺はオレンジ畑が数多く点在しています。そのオレンジの木を眺めながら、この一節が書かれたものと思われまます。

036 Lifting my eyes to the hillside, I discovered feats of engineering that would have been impossible for man to duplicate not too many centuries ago. Growing straight and strong, a sturdy oak clung to the precipitous slope. Nature had not used a slide rule to calculate at which angle the roots should imbed themselves to stabilize the tree's weight; they had instinctively grown in the right direction and to the proper depth. And I knew that if I were to take a saw and cut a large limb from that tree, nature would immediately compensate for the shift in weight by sending out new roots to bring the tree once more into perfect balance. The wild poppy growing at its feet, and the clumps of sagebrush dotting the slope, all bore witness to this same engineering principle.

036 丘の斜面に目を上げると、何世紀か前までは人間が真似出来なかった工学の偉業を発見しました。真直ぐに逞しく成長する1本の樫の木が急峻な斜面にしがみついていた。自然は木の重量を安定化させるには、それらの根がどの角度で潜り込んだら良いかを計算する為、計算尺を用いたのではありませんでした。木の根は本能的に正しい方向、適切な深さまで成長したのです。また、もし私がノコギリを手にとって大きな枝をその木から切り落としたり、自然は直ちに新たな根を伸ばして再び完全なバランスがとれるようにして、重量変化を補償するだろうことは私には分かります。野生のケシがその樫の根元に生え、ヤマヨモギの茂みが斜面に点在していますが、それら全てがこれと同じ工学の原理を目撃者に抱かせました。

【解説】

崖に絶妙な枝振りで伸びる木は、その重心バランスを難しい計算を行って各部位の成長を調整している訳ではありません。植物がいとも簡単にそのような能力を発揮する背景には、もちろん、植物自体の感受能力の存在が前提になりますが、宇宙の本源から適時適切に来る指導に対し、100%信頼して受け入れ、行動を起こす素直な自己があることが大事なところではあります。

また、一見、人の手に対して何ら抵抗を示さない植物ですが、かつて植物にうそ発見器をセットして人間の想念に反応する実験（実験者の名前から「バクスター効果」と当時は呼ばれていた）が盛んに行われたように、実際には植物は感受性が高く、人の想念にも反応することが知られています。ましてや宇宙本源から来るより高次元な想念については更に鋭敏な感受能力を持っているものと思われます。

037 My gaze slowly traveled from wonder to wonder until it rested on the grass at my feet. Here, too, was the miracle of creation. As I stooped to study the slender, green blade, I realized humbly that no man on earth could create it. Nature alone had germinated the seed, guided the spear through the hard crust of the soil to the light of the sun, and brought it to full maturity.

037 私の注目は驚きから驚きへと移り、遂には足下の草に止まりました。ここにもまた、創造の奇跡がありました。私は屈んで細めの緑の葉を調べた結果、地球の誰一人としてこれを造り出すことは出来ないことを率直に自覚した次第です。自然が只独り、その種を発芽させ、幼芽を硬い土の塊の中で、太陽の光に導き、完全な成熟まで育てたのです。

【解説】

優れた芸術品は確かに見る者を引き付けます。古来から伝わる仏像や絵画は変わることのない感動を各時代の人々に与え続けています。確かにこれらの芸術作品は人が造り上げたもので、創造主の子供としての人間の素養を示すものと言えます。また、バードカービング等の例を見ても分かるように、努力すれば創造物の外観を写し取ることは可能です。

しかし、これらは対象物の外観を似せたものに他なりません。創造物そのものは人は造り上げることは出来ないのです。生命そのものを人は造り上げることは出来ません。一方、昨今、地球人は遺伝子操作の技術を利用し始めました。それは創造の摂理を利用する手法であり、意のままに神をもあやつろうとする人間の傲慢さの現れでもあります。

そのようなこと手を染める前に、私達がまずしなければならないことは、自分達の命、日々の生活を支えている自然の産物に気付くことです。毎朝食べるサラダや御飯、味噌汁等、食品の全てはこうした各生命体からもたらされたものであり、それらの存在無くしては、私達は生きて行くことは出来ません。一つ一つの生命が単独で生きているのではなく、相互に助け合い、互いに奉仕しながら、はじめて全体としての生命が成立するという事です。その最も基本的な部分を支えているのが、本項で言う植物の世界です。

038 Surely, all I beheld around me was orderly, directed, and controlled intelligence in operation. There was no haphazard growth. Each minute detail had been carefully worked out. The orange tree in its native clime, the oak tree clinging to the precipitous slope, and the blade of grass at my feet were all guided and given being by the one Cosmic Intelligence.

038 確かに私が自分の周囲で見守ったもの全ては、秩序があり、指導を受け、制御された知性が働いていました。偶然の成長というようなものではありませんでした。一つ一つの微小な細部が注意深く働き遂げられていました。原産地の気候におけるオレンジの木や急峻な斜面にしがみついている榎の木、そして足下の草の葉、全てが一つの宇宙の知性によって導かれ、与えられていたのです。

【解説】

植物の世界については、日本で翻訳出版された本を1冊ご紹介しましょう。タイトルは「植物の神秘生活」(原題は"The Secret Life Of Plants")、著者はピータ・トムプキンズ (Peter Tompkins) とクリストファー・バード (Christopher Bird)、訳者は新井昭廣、工作舎から1987年に出版されました。

全600頁を超える本書は、植物の持つ驚異的な能力を示す21の事例を紹介しています。ここではその内容については言及出来ませんが、その冒頭にはルーサー・バーバンクの以下の言葉が掲載されています。

「普遍的で永遠なる自然法則のどれを研究するにせよ、巨大な星あるいはもっとも小さい植物の、生命、生長、構造、運動に関してであろうとも、われわれが自然の解釈者の一人になったり、世の中のために価値ある仕事を創造するもの一人になることができるには、諸々の偏見、定説、それに一切の個人的な偏見と先入観を取り除いておかなくてはなりません。そして忍耐強く、静かに、敬虔に、自然が教えてくれるはずの授業に、一つ一つ耳を傾けて従っていくことです。そうすれば、自然は以前謎であったものに光を注いでくれます。自然の真理を、それがわれわれをどこへ導いて行こうと、示唆された通りに受け入れるとき、われわれは全宇宙が協調してくれているのを経験するのです。」ルーサー・バーバンク。

アダムスキー氏もかつて述べていたように、ルーサー・バーバンクは植物と対話していた人物ですが、そのバーバンクのこの言葉は、これからテレパシーを学ぼうとする私達に対するメッセージでもあるようです。

039 I then turned to a closer observation of the birds, insects and animals. In all three I found the same marvels of engineering. It is interesting to note that much of our present architectural knowledge has been acquired from studying the principles employed by nature. In fact, man thinks so highly of the engineering ability of the industrious beaver, that he now parachutes them in pairs into inaccessible territory so they will build dams to help control the disastrous floods which rush down to the lower valleys each spring. In this way, the little animals render man and nature an invaluable service; for where their dams dot the mountain streams, floods and soil erosion are cut to a minimum.

039 私は次に鳥や昆虫、そして動物達を綿密に観察することにしました。その全てで私は植物の場合と同じ工学の驚異を見出したのです。私達の現代の建築の知識が自然によって採用された諸原理を研究することから得られたことに気付くのは興味深いことです。事実、人は勤勉なビーバーの持つ工学上の力量を高く評価していますので、つがいのビーバーを未踏の地域に落下傘降下させ、彼らが毎年春に低地の谷間に破壊的な洪水を引き起こすのを阻止する為に役立つダムを作らせています。このように、小さな動物達は人間と自然に計り知れない奉仕を尽くしてくれているのです。何故なら、ビーバーのダムは山麓の水の流れを点在させ、洪水や土壌の侵食を最小限に削減するからです。

【解説】

参考までに調べた結果、日本でもビーバーの話は広く理科教材として普及しているようです。「生物と神秘の科学技術 ビーバーから学ぶ/水害の防止」と題するDVD（26分間）が学習教材として販売されています。「ビーバーの驚くべき技術と自然環境の中でのビーバーダムや運河の影響を学びます」と解説コメントが付いていました。各地の図書館にも収蔵されている例もありますので、機会があれば問い合わせて見て下さい。

一方、本文後半にアダムスキー氏が述べている建築技術に関する記述ですが、その趣旨に沿う論文として、以下に建築家三上祐三氏（シドニーのオペラハウスの設計に携わった建築家としても有名）の論文を紹介しましょう。題名は「自然から学ぶ構造形態」、建築雑誌のvol.106, No.1315,1991年7月号に掲載されています。

その記事の中から以下に、ポイントとなる部分を紹介します。

「美しいスペース、エンクロージャー、そして安全なシェルターの見本を自然界に求めるとすれば、まず思いつくのはシェル、貝殻だ。」「完成した建物が示している高度な秩序の美しさには、たしかに自然界に特有の有機的な合理性にもとづく美しさで共通した要素が認められる。バックミンスター・フラーのドームもまたその一例であろう。」「シドニーオペラハウスは多くの人に白く輝く貝殻の群れを連想させる。」「ネルヴィの設計したローマの小スポーツパレスの天上伏のパターンと、ヒマワリの花の中心の筒状花の半分のパターンも、おどろくほど似ている。」

「だが、もっと自由な態度で、オープン・マインドで自然界の造形を観察するとき、そこには無限の、無尽蔵のデザインのためのヒントを見い出すことができるのではないだろうか。換言すれば、設計者が自然から学ぶということは、決して狭い技術のレベルではなく、もっと広くそして自由なデザイン、コンセプトのレベルで行われるべきで、そこにはたとえ論理の飛躍や、技術的な不整合があってもよい、自然に触発されることこそ大切だと思う。」

「『自然から学ぶ』の手始めとして、まず自分自身の骨格をよく観察してみたら、というのが筆者の提案である。そうすればあるいは、設計者としての神様の苦勞がわかって思わずニヤリとしたり、意外な親近感を覚えたりするかも知れない」

三上氏は、おそらくアダムスキーをご存知ではないと思いますが、創造的な仕事をされる多くの方々には、共通して、本書で述べられているような自然から学ぶ姿勢を貫いているように思います。

040 Yet they do not use mathematical calculations to estimate the stress the rushing water will exert upon the finished dam, nor do they need mechanical tools to anchor it securely or build it to the prescribed height. Here, as in the inanimate kingdom, we find nature's unerring, guiding hand.

040 しかし、彼らはその完成したダムに激流が加えることになる力を予測する為、算術的な計算を行ってはいませんし、彼らにはダムを固定し、或いは所定の高さまで建設する為の機械的な道具類を必要とはしていません。ここでも、無生物の王国と同様、私達は自然の的確な導きの手を見い出します。

【解説】

他惑星文明の「技術」は地球文明のものとは本質的に異なるものかも知れません。あらゆる分野に宇宙に流れるインスピレーションが応用され、ユニークであるが、自然と調和した物が数多く生まれているものと想像されます。地球でも昆虫の世界には様々な形を持つ者がいます。落ち葉や葉、枝に似せた体型を持ち、敵の目をくらます工夫や、住処を土中として何年も暮らした後、日々を地上に出てからは生涯最終段階の日々を過ごすセミ達まで、様々です。

その者達は、生涯何一つ道具は無いまま、身一つで全てのものを済ませなければなりません。そこには創造主が必要な機能を身に付けさせ、驚く程の力を発揮できる優れた体格を与えているのです。一方の私達人間は、本来、生誕の時は、生まれながらにしてこれら創造主に導きに対して十分な感受力があつたものと思われそうですが、単に音声言語が未発達であることを理由に、何も知識が無い段階から一步一步、この文明が築き上げた知識を教えなければならぬとされて来たのです。

しかし、本来子供達ほど、感受力が高い者はいないということは、ルーサー・バーバンクも述べているところでは。

Luther Burbank, "The Training of the Human Plant" (1907)

"A child absorbs environment. It is the most susceptible thing in the world to influence, and if that force be applied rightly and constantly when the child is in its most receptive conditions, the effect will be pronounced, immediate, and permanent." (子供は環境を吸収します。それは世の中のもので最も周囲の影響に対して敏感な存在ですし、その子供が受容的な状況にある時、正しくまた一定して力を注げば、その結果は顕著で迅速、そして永続的なものとなるでしょう。)

自然の導きの声に耳を傾ければ、私達一人一人に合った指導が与えられることは大変不思議なことです。もっとも、一人一人の生命を日々支えてくれる存在からすれば、その程度のアドバイスは当然戴ける範囲なのかも知れません。

041 (In my references to the animate and inanimate phases of manifestation, I am using the words as we understand them. In reality, these divisions do not exist; for all expressions of life are active.)

041 (私の前述の創造における生物と無生物の各状態に関連して申し上げれば、私はそれらの言葉を私達が理解している通りの意味合いで用いております。しかし、実際にはこれらの区別は存在しません。何故なら全ての生命の表現は活動的であるからです。)

【解説】

もちろん、生物・無生物の区別は私達は日常行っているところです。しかし、自然界には無生物であっても本項で記述されているように活発に活動しているものが多いのです。その代表例が雲の動きです。青空を背景にくっきりした形を作る積乱雲は見る間に形を変えますし、まるで生きているようです。また、私達の日常生活は天道を動く太陽に依存していることも事実です。

このように無生物であっても動くものも多いのですが、分子・原子等のミクロの目で見ると、外見上、静止しているように見える鉱物でも、その内部は原子核を中心として広大な空間の中を電子の雲が取り囲み、その雲の中を猛烈なスピードで電子がスピンしていることが分っています。

万物は流転すると直感した人物には、長い時間のスパンを見つめる視点とともに、そのミクロの部分、本質的な所にこうした活発に活動する世界があることを感じ取っていたのかも知れません。そう考えると、もはや生物・無生物の区別は無く、皆同じ場に生きていることが実感できるようになります。

042 On every level (such as insect, bird, and animal), the Life Force animates all forms, which also have a certain reasoning power; yet there is an eternal blending between this animate and inanimate phase. And Man, the highest form of creation on earth, is dependent upon all.

042 一つ一つの段階において、（例えば昆虫や鳥、そして動物等）、生命力は全ての形あるもの達を動かしますし、その生命力はある論理的に説得力ある力を有していますが、また同時にこの生物と無生物の間を永続的に融合させています。そして地上における最高位の創造の形を持つ存在としての人間は、全てに依存しているのです。

【解説】

人間の構成要素は究極にはいわゆる無生物からなる要素の集まりですが、それを活発化させている力を生命力だとすれば、その潜在力とはとてつもないものであることが分かります。人間を毎秒生かして行くために、呼吸や食物代謝、循環、排せつ、更には筋肉運動を指揮するのみならず、絶えず新しく組織を増強し、老廃物を除去する必要があります。これらを統合的に指揮監督し、地球では通常80年程度も維持するのは驚異的だと言うことができます。

このように素晴らしい機能を持つ生物ですが、実は無生物との間にも密接な相互関係があります。例えば人間もその拠って立つ所は外界からの食物を得ることにありますが、その食物は直接、水のように無生物を取り込む例もありますが、多くは他の生物（動植物）からもたらされます。しかし、更にそれらは植物に生存を依存しており、その植物は大気や地中から無生物である種々の物質を摂取して成長する訳です。

また、生物体も生を終われば、直ちに分解し、元の無生物の世界に戻る訳で、結局は生物と無生物は相互に入り組んでおり、一体化しています。ウェイン・ダイヤー (Wayne Dyer) は講演の中で、「貴方の持つ鉄は貴方が亡くなった後、何処に行くのか考えたことがありますか？」と述べて、赤血球中のヘモグロビンを例に私達の肉体の構成要素が地球自身からやって来ることを指摘しています。多くの洞察力がある人々が生物と無生物の間の相互関係について理解されています。

043 Tracing the intricate blendings of nature makes a fascinating study. Every level is interlaced with all others. For example, the little insects and burrowing creatures contribute their important share to the common welfare; for their subterranean activity aerates the soil to promote lush growth. Now, let us take this thought a step further, and look at the indispensable part insects actually play in the perpetuation of life-forms on earth.

043 複雑に融合している自然を探究することは魅力ある研究になります。あらゆる段階が他の全てと織り込まれています。例えば小さな昆虫や穿孔動物は共通の福利に対する自分達の重要な役割で貢献しています。何故なら、彼らの地下の活動は土壌に空気を与え、青々と繁茂する植物の生長を促進しているからです。今度は更にこの考えを一步先に進めて虫達が実際に果している地上における生命体の永続にとってかけがえのない役割を見ることにしましょう。

【解説】

複雑に融合する自然を探究することが大切だと述べられています。本文では地中に暮らす昆虫やミミズ等の動物の果している役割が述べられていますが、このことは陸地の他、海や川でも起っています。

水辺に集まる渡り鳥や空を映した水面は芸術家ならずとも、それを見る者に安らぎを与えます。浅瀬は一方で、水質の浄化や稚魚の生育、更には多様な生き物の棲息場所として貴重な環境であることは広く認識されるようになりました。遠く長い距離を毎年飛行しやって来る鳥達が、このような水辺を目指すのも、それほど価値のある場所だということでしょう。

このように鳥達が飛来するのは、餌が豊富であったり、幼鳥を育てるのに適した環境である訳ですが、その環境をもたらしているのは、小魚やゴカイ等の餌となる生物が豊富であること、更には砂や泥の中に多様な微生物が暮らし、それらが水中の有機物を処理し増殖するとともに、自らはそれらを餌とするもの達の食料となるべく増殖を繰り返す絶妙なバランスへと生態系が構成されているからです。結果として、その環境には多様な生物種が生存でき、安定した社会を構成している訳です。

私達、個人個人は果して、本来、自分に与えられた役割を果しているかどうか、この折に考えることも必要です。

044 Have you ever stopped to consider what would happen to our planet if insects were to be suddenly withdrawn? Life, both animate and inanimate, would cease. Mother Nature depends largely upon these tiny life-forms for pollination. Remember, it is the bees and others of the insect world, laboriously traveling from blossom to blossom that propagates for her. So without the vital part they play, all vegetation would eventually die out.

044 貴方はもし、昆虫達が突如として引き上げたらこの惑星にどのようなことが起るか考えたことがありますか？生物も無生物もともに生命は途絶えてしまうことでしょう。母なる自然はこれら小さな生命体に受粉の多くを依存しています。花から花に精一杯移動し自然の為に繁殖しているのは、昆虫の世界のミツバチやその他のもの達であることを忘れないで下さい。ですから、彼らが果たすその極めて重要な役割無くしては、全ての植物はついには死に絶えてしまうことでしょう。

【解説】

最近、ミツバチの減少がニュースで度々報じられるようになってきました。現象は世界的傾向のようですが、原因は明確になっていないとのこと。実はその影響は私達の日常生活にも影響を及ぼすだろうとされています。例えば、ビニールハウスでの果物の栽培にミツバチは欠かせません。イチゴの一つ一つの花の受粉はミツバチに依存しているからで、彼らの働き無しには、十分な収穫量は望めないと報道されています。

一方、私達は古来より、蜂蜜を好む等、この小さな生き物を利用して来ました。春先、ようやく野原に花が咲き始めた頃からハチ達は労を惜まず働き続け、各々が約一カ月の短い生涯を終え、また次代のもの達へとこの重要な役目を引き継いで行きます。こうした働きバチの一つ一つの労働は、マクロレンズを通して見る限り、彼らは息盛んに活動しており、疲れや不平の表情は一切ありません。各々の短い一生を十二分に生き、結果として植物の受粉を助けるという大事な役割を果たしています。

重要なことは、これらの仕組み、動植物界を通じて幅広く相互関連・相互依存の輪が築き上げられていることであり、創造主の英知の奥深さがそこにあるということです。

045 The bird would no longer have the high, sheltering branches of the tree in which to build a nest to protect her young from prowling animals. Her food supply of insects, grubs and worms would be gone; and the wild berry bush on the hillside, no longer pollinated, would not bear.

045 鳥はもはや幼鳥をうろつく動物達から守る為の巣を作る高く、身を隠す木の枝を手に入れることは出来ません。鳥の餌となる昆虫や地虫、ミミズ達は姿を消すでしょうし、丘の斜面の木イチゴの茂みはもはや受粉することはなく、実を付けることもないでしょう。

【解説】

自宅から車で20分程の所に自然公園があります。丘陵地の中の谷間を地主が市に提供し、市が自然公園として整備したものです。中央には小川が流れ、湿地が広がっています。その湿地を巡るように木道が整備されていて、季節の野草や湿地に生きる水生植物が観察できます。小川の行き着く先は池になっていて、隣接するバラ園も合わせて見られる等、自然観察には適した場所となっています。

自然公園の池には、よくカワセミがやって来ます。その写真を撮るべく、毎日のように朝早くから多くの人々が巨大な望遠レンズを構えてカワセミの来るのを待っています。鳥はどの鳥も美しいのですが、とりわけカワセミはその瑠璃色の美しさから、飛ぶ宝石とも言われる程です。

しかし、これらの鳥達も、池に住む小魚や辺りに住む昆虫達が居なければ、生きながらえることはありません。事実、かつては日本に数多く生息していたトキも、農薬の使用によって田圃からドジョウが消えてからは絶滅したことはよく知られています。

私達生物は実は他の生物あるいは無生物に依存していることに気付かなければなりません。もし、それら他のものに何らかの変化があれば、やがて私達にも影響が及んで来ます。もちろん、関連する相手は地上ばかりではありません。太陽の活動の変化も地球全体に影響を及ぼしています。先日、友人からアラスカで撮影したオーロラの写真を見せてもらいましたが、刻々大空に揺らめくオーロラの神秘的な光は、大気もそれら影響を直接的に受けていることを我々に示しているのです。

046 With the dying of the vegetation the herbivorous animals would starve; the carnivorous ones, their natural prey extinct, would follow suit. And Man, relying upon both the animate and inanimate phases of manifestation for food, could not survive.

046 植物が死に絶えると共に、草食動物達は飢え、自然界の餌となるものが消滅する肉食動物達も同じ後に従うこととなります。そして食物を創造の生物、無生物の両面に依存している人間も生き延びることは出来ません。

【解説】

地上において支配生物である人間は植物から動物に続く食物連鎖の輪の中にいます。その存在はこれら下位の生き物達に全てを依存しています。このことを自覚していないと、その文明は滅びることになります。かつて地球には数多くの古代文明があったとされています。しかし、ムーやアトランティス等、辛うじて名前が伝わっているだけで、記録のほとんどは失われています。

人間が生きて行く上での基本は環境であり、その環境がもたらす良質な食料供給です。より多くの富を得る目的から過度に食料を増産する為に農薬を使用し、植物から搾取するのではなく、自然の恵みを感じて受け取り、他の生き物達と調和した暮らしはかつての日本ではごく普通にありました。いわゆる里山の自然、カエルやドジョウと共生する水田での米栽培です。

私達日本人は、稲作を基本とする農耕の民でした。季節の変化を肌で感じ、田に鳴くカエルの声を聞きながら、青々として風にそよぐ稲の葉を愛でて、米を育む自然に感謝する。神社における夏祭りや秋の祭礼は、いずれも自然に感謝する古来からの人々の気持を表現する場でした。

宇宙時代に入った今日、私達は宇宙空間から改めて自分達の住む球体の全貌を見詰め、その球体表面で繰り広げられている植物から動物にいたる様々な活動の姿を頭に描いて、各自、新しい展望を開く必要があります。また、一方、現実の世界では各国による漁業資源や穀物の奪い合い等、食を巡る争いと金儲け主義がはびこる時代にもなっています。食料自給率40%（2003年農林水産省「食料需給表」）は主要12ヶ国の中で最低であり、とりわけ日本においては農業政策の在り方についても見直しが必要な状況になっていることは皆様、ご存知の通りです。

047 Volumes could be written on this, yet never cover the subject completely. But I believe from the simple illustrations given that the sincere student will find much to intrigue his thoughts. Understanding the interdependency of life-forms is essential before man can grasp the universal truth that, in reality, all life is an expression of the one Cosmic Intelligence.

047 これについては何冊も本が書けるでしょうが、そのテーマを完全に覆い尽くすことは出来ません。しかし、私はこれまでに示された単純な諸実例から、誠実な学習者は自らの思いをめぐらすのに十分なものを見つけられるものと信じています。生命体の相互依存関係を理解することが、人が宇宙普遍の真理を把握する為には必須であり、その真理とは、実際に、全ての生命は宇宙的知性の表現の一つであるということです。

【解説】

これまで、「テレパシー」講座にもかかわらず、著者アダムスキー氏は、もっぱら自然界の様々な営みを説明するのみで具体的な想念伝達については、一切触れて来ませんでした。それは何故でしょうか。

私には、それが各読者が最低限、身に付けなければならない基礎的概念であり、その理解無しに、今後踏み込む深層域の分野を取扱うことが出来ないように思われます。万物、各構成員が相互に一つの生命力と結ばれている共通点に気付くことが求められています。

テレパシー学習は決して、特定の技術・技能の修得で終わっては意味がないどころか、危険でさえあります。テレパシーは人が本来の生き方に戻る為の手助けとなる必要があります。その為には、その人が同調すべき対象は低次元な想念波動ではなく、万物の起源から続いている創造主の想いに応えるレベルまで高める必要があります。そういう意味から、具体的な創造の現れである自然界の諸活動の様子をよく観察し、自らとのつながりを実感せよと言っているのです。

048 The longer I contemplated the wonders of nature, the more I realized my oneness with all I beheld. All forms breathed the same air; all enjoyed the blessings of the same sun and wind; all obtained their sustenance from the one source. In fact, no division existed; all were created under the same law of Nature.

048 自然の不思議について考えれば考えるほど、私が見る全てのものと自分との一体性についてより深く認識するようになりました。全てのものが同じ空気を吸い、全てが同じ太陽や風の祝福を享受しており、全ては一つの源泉からそれぞれの支えを得ていました。事実、如何なる区分も存在していませんでした。全ては同じ大自然の法則の下で創造されていたのです。

【解説】

生とし生けるもの全てが同じ環境の下に共存していること、更には共通の源泉から生命を与えられていることが実感できれば、とりあえずの目標レベルは達成されたということでしょう。

また、この「共通の」という概念には、自と他の各々の生命が同期したり、共通の性質があり、互いに他を感じあえるまでの感受性（すなわち意識）を高めることにつながっています。

日常的な自然観察の大切さについては、これまで数多くの優れた哲学者や作家も同様な歩みがあることに気がきます。その一例として、ジェームズ・アレン James Allen(1864-1912)の場合について、その著書 "As a Man Thinketh", in "The Wisdom of James Allen Five Classic Works" (Laurel Creek Press, San Diego, California 2004) の序文に書かれている、思索の日々を以下に紹介します。

James Allen has been called the "literary mystery man" of the twentieth century. Although his bestselling classic *As A Man Thinketh* has inspired million around the world, little is known about the author himself. (中略)

At the age of 38 he reached what can be called a crossroads in his life. Influenced by the writings of Tolstoy, Allen came to the realization that a life devoted to making money and spending it on frivolous activities was a meaningless way to live. He retired from his employment and moved with his wife to a small cottage on the southwest shore of England to pursue a life of contemplation. (中略)

A typical Allen day would be to rise very early in the morning and walk to a bluff overlooking the ocean, where he would remain in meditation for an hour or so. And as the cobwebs which had obscured his spiritual vision lifted, the secrets of the universe would unfold before him. Quietly these impressions would be recorded within. Afterwards, he would return home and pen his insights on paper. Afternoons were committed to tending his garden; evenings to communion with townsfolk who wished to discuss loftier philosophical issues.

For ten years Allen led this quiet, pensive life, earning a small stipend from royalties paid on his writing. Then suddenly, at the age of 48, Allen passed away. He died the way he lived, a virtual unknown, untouched by fame, unrewarded by fortune. It would only be afterwards that the literary world would come to recognize the genius and inspiration of his work. But this is the way the anonymous English mystic would have wanted it-to posthumously share his spiritual insights with the world.

「ジェームズ・アレンは20世紀の「文学上の神秘的人物」と呼ばれて来ました。氏のベストセラー的古典である *As A Man Thinketh* は世界中で何百万人にも灵感を与えて来ました。著者自身についてはほとんど知られておりません。(中略)

38才の時、氏は人生における分岐点とも呼ばれる所に到達しました。トルストイの著作に影響を受け、アレンは金を稼ぎ、それを軽薄な活動に使うことに費やされる人生は生きるに無意味であることを悟るに至ります。彼は勤めをやめ、妻と共に思索の生活を求めて英国の南西海岸の小さな小屋に移り住みます。(中略)

アレンの典型的な1日は、朝とても早く起きて、海を見渡す断崖に向かって歩き、そこで1時間ほど瞑想しとどまります。そして氏の霊的展望を不明確にしていた蜘蛛の巣が取り除かれるとともに、宇宙の神秘が氏の前に明らかにされることになる。その後、氏は家に戻り、自分の洞察を紙に書き留めます。午後は自分の庭の手入れをし、夜は哲学的問題をこの小屋の住人と議論したいと願う町の人達と親交を深めることに委ねられました。

10年間、アレンはこの静かで思索的な生活を送り、自身の著作に払われた著作権料からの手当を得ていた。そして突然、48才の時、アレンは亡くなりました。彼は自分が生きたやり方で、事実上知られることなく、名声とは無縁、未来から報われることなく亡くなりました。文学界がこの天才とその業績の素晴らしさを認識したのは、その後のことに過ぎません。しかし、これは世に自身の霊的洞察を死後分かち合うという、その無名の英国の神秘的人物が望んだことでもあるのでしょうか。」（訳：竹島）

049 As I continued to watch the birds, insects and animals, I noticed they were alert to climatic changes before these took place. Heretofore, I had been content, as were others, to say, instinct; and relegate it to the realm of the mysterious extrasensory perceptions. But now this answer no longer satisfied me. I wanted an understanding of the awareness that had alerted the seedling oak to the topography of the terrain, then guided its roots in the proper direction; for I could now see that in the animal kingdom, this same instinct, or awareness, alerted the squirrel to the coming of a severe winter, warning him to store extra food to carry him through until spring. Why did not man, the highest expression of the Creator of forms, participate in this alertness?

049 私が鳥や虫、動物達をじっと見守るにつれ、彼らが気候変化が起る前にそれらに十分気付いていることに気が付きました。これまででしたら、私は他の者達と同様、本能と称して満足し、それを神秘的な超感覚的な知覚力の領域に追いやっていたことでしょう。しかし、今はこの答えでは私を満足させません。私は樫の木の苗木に土地の地形を知らせ、その根を適切なる方向に導いた覚醒状態に関する理解が欲しかったのです。何故なら、今では、動物界の中でもこれと同じ本能、ないしは覚醒状態がリスに厳しい冬の到来を知らせ、春までの余分な食料を保持するように警告しているのを見ることが出来るからです。形有るものの最高位の表現である人間がこの覚醒状態に参加していないのは何故なのでしょう。

【解説】

日本では木の枝に産みつけられたカマキリの卵の位置が、その年の積雪の最大値を示すとする新聞記事を以前、読んだ事があります。雪の季節より、はるか前の秋にカマキリは卵が雪に埋もれることのないよう、適切な高さをどうやって知るのか、まさに本項の問いでもあります。もちろん、動物達が持つとされる地震予知もその能力の一つです。

本文中にあるalert（警戒）に関連して、意識もそれと近い状況だとどこかで述べられていたと思います。生命の根源から提供されている印象に呼応できる能力が重要な訳です。こうした目に見えない、耳に聞こえない、印象と呼ばれる想念を理解することは、私達地球人の最も遅れた分野の一つです。他惑星人ははるかに、この分野でも進化しており、私達だけが極めて鈍感なレベルにとどまっているということでしょう。

本来、万物の最高位にある人間が、その本来備わっている能力を発揮できずに長年月を送っていることは、同じ創造主を父とする他の文明や他の生き物の日々の楽しげな生き方に比べて大きな違いがあり、創造主も心を痛めていらっしゃることは想像に難くありません。

050 The answer came silently, yet with unmistakable knowing. "Those who do not receive have closed their minds to the Cosmic Intelligence."

050 その答は静かに、しかも揺るぎない知識を伴ってやって来ました。「感受しない者は宇宙の英知に自らの心を閉ざして来たのです。」

【解説】

宇宙英知の海の中であって、心を閉ざして来た私達は、丁度、自ら目を閉じた状態で、「見えない」と叫んでいるような幼児のようなものです。その目を開こうと思うかどうかは本人次第なのですが、本人自ら目を開けようとしないう限り、光は射し込んで来ません。しかし、多くの場合、永らく生命の源泉である意識に目を背けていた私達には、それは意外に難しいことであるかも知れません。習慣の奴隷になって来たからです。

しかし、本来は、草むらの虫達や野の花達等、人間に比べて小さな創造物が、意識に対しては、しっかり目を向け、耳を傾けて、その恩恵を享受し、各自の本来の役割を果たしている事実を知れば、私達人間（地球人）は更に高いレベルまで向上する潜在力を有していることが分かります。それまでの間は、ひたすら自然観察を通じて、自然界の創造物がどのように生き、意識を感じているのかについて学ぶ他はありません。

051 My problem then was, how could I open my mind to become aware of this Supreme Intelligence?

051 私にとっての次なる問題は、どうしたら私は自分の心を開いてこの至上なる英知に気付くようになるかという事でした。

【解説】

私事ながら、最近相次いで父母が亡くなった関係で、このところ休日はもっぱら遺品整理に充てています。最近もある会合でお話しましたが、その中でも写真の整理や処分をする中で、改めて人間の一生について学んだような気がしています。

もとより写真はその時々の人間の表情を記録します。それら写真を年月を追って見るとその人の内面の変遷が良く分かります。子供としてはこうすれば良かった等、反省することも多いのですが、整理する作業の中では、その人の生涯を受け止め、理解することがメインになっています。

さて、地上における形あるものの宿命として、命は有限であることは言を待ちません。その生涯の中で何を学び身に付けたかが、次なる段階の人生に直結する訳で、そのバトンタッチで引き継がれるものは、いわゆる知識ではなく、その人が心底理解し体得した、いわば身に付けた理解力だと考えています。本項で言う、至上英知を知覚する感性等は、この最も大事なところですよ。その理解力を身に付けられるかどうかは、やがて各自に迫って来る生涯終焉の時、本人に大きな影響を及ぼすようになります。つまり、その時までには多少なりとも身に付けられれば、老いても生き生き暮らせるでしょうが、学習の機会を失ったままの場合には、その逆の状況となり得ます。

そもそも私達がUFO問題やアダムスキー哲学を何の目的で学んで来たのかを振り返る時、進化した他惑星人の文明を修得したいという強い思いがあった筈です。その他惑星人の具体的な指導の言葉が、この至上英知に気付くことの重要性を指摘しているのです。「朝に道を聞けば夕べに死すとも可なり」とは孔子の言葉とされています。「人として真の生き方を悟ることができたら、たとえその日の内に死ぬようなことになっても悔いはない」という意味とされ、解説 (<http://www.nihonjiten.com/data/43.html>) によれば、真理や道德の尊さ、それを学ぶことの困難さを説いた言葉とされています。本項の課題を言い得た言葉であり、孔子 (BC552~BC479) はこのことを十分理解されていたものと思われま

052 I continued to study things close at hand; at the same time letting my thoughts encompass the solar system of which we are only a small part. From there, it was but another step into the infinite vastness of Cosmic Whole. Throughout all creation I found a constant blending, with never a dividing break. Therefore, I could not stand apart, but was one with creation.

052 私は身近な物事の研究を続けましたが、それと同時に私の想念を私達がその一部でしかない太陽系を取り巻くようにしました。そこからは、宇宙全体の無限の広大さに入るもう一つの段階となったのです。全ての創造作用を通じて私は一時の切れ目も無く絶え間なく続く融合を見い出しました。ですから、私は創造作用から離れて存立することは出来ず、創造作用と一つになったのです。

【解説】

何事につけ、秘訣というようなものを求め、目的を達成したいと思うのは人情です。ここではアダムスキー氏がさり気なく、「宇宙全体の無限の広大さに入るもう一つの段階」(another step into the infinite vastness of Cosmic Whole)と述べた中の、another stepに着目したいと思います。つまりは、それまでの段階から一歩進んだ段階に立っていると言っているように私には思われるからです。

その具体的手法とは、その前に記述されている、「身近な物事の研究」を「太陽系を取り巻くような」概念の下で行うことと記されています。個別な物事を詳細に観察することと、その観察を宇宙的視点から理解するように心掛けることで、全宇宙で絶え間なく続けられている創造作用の中に、私達が存在していることを自覚することが、次の段階に進める鍵であると示唆しているものと私には思われます。これは、「生命の科学」において自動車の運転をエンジン内部の状況を十分理解しながら行うこと、目に見えない原因とされる要素を十分知覚しながら、現象に対処すると述べられているのと同様です。

053 This revelation made it apparent that all was contained within man, and the answer lay in his becoming better acquainted with himself. I recalled the well-known adage, "Man know thyself, and all things shall be revealed unto you." Until then I, too, had parroted this profound truth, unaware of the immensity of its depths. But now I realized that Nature held the key to the Cosmic universal language; silent, yet everywhere present; and it was here in the manifested world that I could find the understanding for which I searched.

053 この啓示は全てが人間の内側に含まれていること、そして答えは自分自身を熟知するようになることにあることを明らかにしました。私は良く知られている格言、「汝自身を知れば全ては明らかにされるだろう」を思い出しました。その時までは私もまた、この深みのある真理をオウム返しに繰り返すだけで、その深遠さに気付かなかったのです。しかし、今や私は自然が大宇宙普遍の言語の鍵を持っていることが分かりました。無言でかつ何処にでも存在します。そして、私が探し求めて来た理解を見出したのはこの創造された世界の中のこの場所であったのです。

【解説】

「自然の中に真理が、自分の中に宇宙がある」ということです。前項(052)で述べられているように対象物を観察する際、それを全体との関連で把握しようとする姿勢が重要です。いわゆる木を見て森を見ずではなく、宇宙にまで続く全体との関連において、その意義を理解するということです。こうした相関性、相対性の理解が私達には不足しているということです。

また、私達自身の中に全ての答えがあるということは、各自がもはや何処か外部に目標を追い求める必要は無いことを意味します。自らの中に自我が見出せていない多くの宝物(才能や知識)も埋もれているということでもあり、本項にあるようにbecoming better acquainted with himself(自分自身を熟知するようになること)で、より深い真理が体得できるということです。自分を良く知るには、湧き起る自らの想念を観察することから、生命の源である各細胞との会話を試みる等、様々な応用が考えられます。

自分の中に真理を見出す事例は数多くありますが、自分の中に全てがあると言っても、自我(エゴ)を増長させるのでは意義が正反対になってしまいます。「おのれが尊いのではない。おのれをおのれたらしめるものが、おのれのなかにあるから尊いのである。だからこのおのれたらしめるものを見い出さなくてはならぬ。自覚しなくてはならぬ。そのことなくして人は人としてのねうちがあるとは言えない。花を花たらしめるもの、光を光たらしめるもの、香りを香りたらしめるもの、その存在をはっきり知ることが大切である。」とは坂村真民の言葉です。(「坂村真民一日一言 - 人生の詩、一念の言葉 -」致知出版社 平成18年12月)

054 My analysis continued. Since my human form had been brought into being by this Cosmic Intelligence, I, along with other forms of nature, must have inherited its laws and benefits, as well as its intelligence. Then why did I not have ready access to these birthrights?

054 私の分析は続きました。私の人間としての身体は宇宙英知によってもたらされたものであるからには、私も他の自然界の形有るもの達と同様、その知性と共にその諸法則や恩恵を受け継いでいる筈です。それでは何故、私はこれらの生来の権利を直ぐに入手出来なかったのでしょうか？

【解説】

全て必要なものが与えられているにもかかわらず、私達は未だ十分な恩恵を享受してはいません。その結果、本来備わっている自らの幸せに気付こうとしないまま、何処か遠くに理想郷を求めてさまよい歩く方を選びがちです。家を飛び出した放蕩息子の例です。しかし、多くの場合、外部に理想を求めても結局はその本人の問題に帰着する例も多いものと思われます。つまり、同じ光景、同じ環境を経験してもその受け止め方は人によって異なるからです。かつて、どれ程多くの方がイエスに直接会ったことでしょうか。本来であれば、12使徒達以外にも多くの従者が出るべきですが、実際にイエスが生きていた当時、その人物の価値に気付いた人は少なかったものと思われます。（これはアダムスキー氏についても言えることで、晩年、身近に居て氏を支えていた人物は限られた人々であり、最後まで氏はひとりで自分の任務を果たしていました。）

問題は、与えられた恩恵に気付かないことにありますが、気付く為にはどのような手法があるか、つくづく考えていたところ、ウェイン・ダイヤー(Wayne Dyer) は、著書"The Power of Intention"の中で以下の説明をしていることに気付きました。"The way to establish a relation with Spirit and access the power of this creating principle is to continuously contemplate yourself as being surrounded by the conditions you wish to produce."（聖霊との関係を確保し、この創造的原理の力を入手する方法は、貴方自身を貴方が作り出したいと望む状況に既に囲まれているように絶えず思うことです。）

前項 (053) で述べられていたbecoming better acquainted with himself（自分自身を熟知するようになること）と類似した気持の持ち方だと考えています。

055 I knew that scientifically the human body was a marvel of construction beyond the duplication of man. Just one small function of the body, which scientists do not fully understand, is the working of the "chemical laboratories" within us which daily extract and distribute the essence of the foods we eat. This alone is proof that the natural actions of the body obey the laws of Cosmic Intelligence. It must then follow that the reasoning mind has become so immersed in the material world of effect, it has temporarily lost sight of its origin. Man did indeed "hide his light under a bushel."

055 私は科学的に人体は人間というものの複製以上の驚異の建造物だということを知っています。人体のわずか些細な機能であり、科学者達が完全には理解していないこととして、私達の中にあって私達が食べる食物のエッセンスを毎日抽出し、分配している「化学試験室」があります。この一つをとっても人体の自然な行動は宇宙英知の法則に従っている証拠になります。そのことはまた、論じがちな心が結果の物質的な世界に余りにも夢中になっている為、心は一時的にその元の由来についての視野を失っていることに繋がっているに違いありません。人はまさしく「ともした明かりを灯の下に置いてしまった」のです。

【解説】

身体の諸活動は明らかに宇宙の法則に従って、日々刻々の身体維持に必要な働きを行っています。一方では、私達の心はそのことを理解できず、見失っているという状況が続いています。

本文ではその心を reasoning mind と表現しています。この場合 reasoning とは辞書に「論議しがち」「推理しがち」等の訳語があるように、ここでは「目の前の様々な現象（結果）の一つ一つに目を奪われ、振り回されて、背後にある肝心な法則の理解には到達できない論議好きな状態」を指すものと考えます。

もちろん、自分の身体は誰のものでもなく、各自の責任において維持されなければなりません。そしてその身体は誰の為に維持されているかを考えれば、私達は大変恵まれた環境に生まれていることが分かります。その創造主からの恵みを心（自我）はまずは感謝し、できれば返礼することが望まれます。他者に対する奉仕がそれです。

結果の世界である外部や外面よりは内部、内面への関心こそ私達には必要だということでしょう。

056 The task confronting me now was the shedding of this false conception, and a recognition of the existence of the underlying Cosmic Cause. So I sought a better understanding of my mind and my body; how they operate and their purpose for being. This line of investigation led me to the realization that it was Cosmic Intelligence coupled with a force, that was the creator of my being.

056 今や私に立ち向かう任務は内在する宇宙的因の存在に対する誤った観念と認識を取り去ることでした。そこで私は自分の心と身体についてのより良い理解、即ち、どのようにしてそれらが働くかやそれらの存在目的について探し求めました。この探究の筋道は私を私の存在の創造主は力を伴った宇宙的英知であるとの実感に導いたのです。

【解説】

大変もったいない話ではありますが、誤解や勘違いによって一生を棒に振るようなこともあり得るのです。私達は心に支配されて生活していますので、その心がかたくなになってしまうと、その思い込んだ世界から容易に抜け出すことが出来ません。これに対し、本来の各自は各々何らかの目的を委ねられてこの世に生まれて来ました。その目的を十分に果たせれば良いのですが、未だ果たせないでいる場合は、再度、この生まれた原点に立ち返って課題を整理することをお勧めします。

私達が毎日生きていることについては、無数の体内の細胞や器官が昼夜を分たず働き続け、身体を維持する活発な活動が続けられています。その努力に対して、その身体を預かる人間が果たすべき仕事を為すことは当たり前ということでしょう。しかし、このような自らの本源に立ち返って人生を見詰め直すことは習慣の中に埋もれていては容易ではありません。外界への関心に振り回されている心を落ち着かせる必要があるからです。

毎日の心掛けがその人の人生を作り上げて行くことは間違いありません。私見ですが、人間の老化は急激に進行するように思います。つまり、人体のこのような維持活動の働きが、身体に加わるストレス等のマイナス影響に対していくら抵抗して体内を維持して行こうとしても、やがて細胞達も力つきて行き、最後はどうしようもなくなって生命活動が急速に終焉を迎えるように思います。そういう意味では心が身体の支配者となっている訳ですが、限られた一生の間に、その心のあり方を本来の姿に戻すことは、各自にとって大きな課題でもあります。

057 My earthly parents had merely served as a channel for the birth of my physical form. But this Force in Cosmic Intelligence had formulated the plan and directed the building of my body. So it is with all expectant parents. The mother's body furnishes the necessary materials for this Master Builder, yet at no time does she control the miracle of creation taking place within her.

057 私の地上の両親は単に私の肉体の誕生の為の経路を務めたに過ぎませんでした。この宇宙的英知の中の力がそのプランを組み立て、私の肉体を作り上げることを指揮したのです。それはこれから両親となる全ての者についても同様です。母親の肉体はこの棟梁の為に必要な材料を供給しますが、彼女が自身の中で起っている創造の奇跡を統制することは決してありません。

【解説】

もちろん、ここでは父母への孝養、家族への愛情を否定しているものではありません。アダムスキー氏自身も清貧なカトリック教徒の家に生まれたと伝えられています。そのアダムスキー氏が宇宙兄妹達と交流する中で得た、人間の本質的な視点として各個人の生きる目的を突き詰めた結果、得た結論が、各自と宇宙英知との関係が最重要であり、両親は各自の誕生の経路というその大きな任務を果たしたに過ぎないということなのです。

また、妊娠中の女性の体内で起る胎児の成長のドラマは母体の協力があったのですが、肝心の母親の心はそれについて知識は皆無だと指摘しています。体内で起っている大きな変化、次世代を産み出す重要な役割を果たそうとしているにもかかわらず、心は理解力の無い為に知覚するものが少ないということです。他方、肉体は必要なことを全て知っていることにはなりますが、それこそが各細胞や器官が宇宙英知から絶えず指導を受けていることに他なりません。

自然界の動植物を見れば、皆同様に次世代をこの世界に残すべく、ある意味、必死で各々の生涯を送っています。産卵の為に故郷の川に還って来る鮭、子育ての為に遠く南半球から渡って来る渡り鳥、果ては草むらで鳴くコオロギや狩りをするハチ等、皆各々が次世代の生長にとって必要な環境や食料の確保に生涯を捧げています。

こう考える時、冒頭の父母は生まれて来る為の経路に過ぎないという本来の意味は、父母にとっては創造主のお働きになる場所を提供し、子供の誕生に奉仕するという意味が含まれていることが分かります。

058 Pursuing this train of thought, I made a vital discovery. If one asks an expectant mother whether she can foretell when the little form within her is about to turn, she will answer, "No " She cannot direct the movement of the baby, and the knowledge it has turned comes to her as an alertness, or feeling, after the action has taken place. Therefore, it is the intelligent force which transmits the information to the mother through her sense we call feeling.

058 この一連の思考を追って行く中で私はきわめて重要な発見をしました。もし人が妊婦に彼女の体内の小さな胎児が何時向きを変えるか予告することが出来るかを聞いても、妊婦は「いいえ」と答えるだろうということです。彼女は赤ちゃんの動きを指図することは出来ませんし、胎児が向きを変えたとする知見は一つの警戒、或いは感じとして、その行動が起ってから彼女にやって来るのです。従って母親に私達がフィーリングと呼ぶ彼女の感覚を通じて情報を伝えるのはその英知ある力と言うことになりま

【解説】

自分の身体の中で起っている変化について、心は容易には知覚出来ません。実際には人体を維持するため、大規模かつ活発な諸活動が日夜続けられていることに対し、私達の心はあまりにも鈍感だということです。ましてガン細胞の増殖等、身体の存続にとって由々しい事態になった時、身体は一斉にそれへの対抗措置を図るものと思われま

実は各細胞は宇宙英知の指導を受けて行動するほかに体内の維持の為、必要な情報をやり取りしているものと思われま

059 In other words, feeling is the creative force within all forms. So the definition of telepathy as being a sixth sense, was entirely wrong. Man is not a five-sense being . . . but a four! The fifth sense, or feeling element, through which telepathy actually works, is not a sense; but an intelligent force giving all manifestation conscious alertness.

059 言い換えれば、フィーリングとは全ての形有るものの内側にある創造的な力なのです。ですから、第6感であるとするテレパシーの定義は完全に誤っていたのです。人は5感の存在ではありません。そうではなく、4感の存在です。第5の感覚、即ちテレパシーがそれを通じて実際に作用するフィーリングの要素は感覚の一つではなく、全ての創造物に意識的警戒状態をもたらす英知の力の一つなのです。

【解説】

ここで大事なことはフィーリング（感じ）自体が創造する力を有していることだと思います。人間の視覚、聴覚、味覚、嗅覚という4感が現象（結果）から物事を捉えるのに対して、フィーリング（感じ）は現象を創り出している意識の世界に由来するからです。そのフィーリングという印象の受信は、それがそのまま創造主にも直結する経路でもあるのです。

おそらく、フィーリングが伝達、発信される世界とは、空間の距離に関わり無く、一体化できるもので、このフィーリングを通じて人は万物と一体になれるものと思われ、物事を創造、実現するパワーを得ることになります。それ程に重要なのがこれらの印象への感受力であり、私達は本書を通じて自分が学ぶべきテレパシーなるものの本質を十分理解しておく必要があります

060 I realize this is throwing a bombshell in the face of age-old theory, yet the idea that physical man is a four-sense being can be logically demonstrated.

060 私にはこれが大昔からの理論目掛けて爆弾を投げ付けるものであることは分っていますが、肉体としての人間は4つの感覚による存在であるとする見解は論理的に証明され得るのです。

【解説】

人間の心を構成する感覚は4つであり、残りの一つであるフィーリングは印象を伝達するテレパシーの機能を有しているとする主張はこれまでにない内容でした。私達は既に「生命の科学」他のアダムスキー氏の著作から、人間は4つの窓を持つ部屋の中にいる者のようだと言われて来ました。その窓が各々勝手な判断をしたり、視野を狭めれば、部屋の中の人間は外界を正しく理解することは出来ません。

しかし、実際には私達にはフィーリングという本来備わった能力が秘められており、そのフィーリングの感受性を高めれば自ずと部屋の壁は取り払われ外界との一体感が広がるものと思われま

重要な点は、この潜在能力を秘めた感覚が、既に私達一人一人に備わっていることであり、従来の4感を成長させながらも、生活のかじ取りをこのフィーリングに従ったものに転換することが必要だということです。そうする中で、やって来る印象に的確に従うことは、私達の中に本書で言う「警戒の状態」を作り上げることにのみならず、宇宙意識に心に向けることにもなる訳です。次回から第3章に入ります。

CHAPTER III

Feeling - The Cardinal Sense

061 According to popular belief we possess five senses sight, hearing, taste, smell and feeling; each of which, we know, has the ability to act independently of the others. We can see objects without using the senses of hearing, taste or smell. We do not need hearing, sight or smell to discern sweet from sour. Our olfactory organs work admirably without the help of ears, eyes, or palate; and sounds can be received through the auditory canal exclusive of the other three senses. This all goes to prove that the four senses work independently of each other.

第3章

フィーリング - 基本的な感覚

061 一般に信じられていることに従えば、私達は5つの感覚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚そしてフィーリングを持っていますが、それら感覚の一つ一つは私達が知っているように他の感覚とは独立して働く能力を有しています。私達は聴覚や味覚、嗅覚を用いずに対象物を見ることができます。すっぱいものの中から甘いものを識別するのに聴覚や視覚あるいは嗅覚を必要とはしません。私達の嗅覚器官は耳や目、舌の手助け無しに見事に作用しますし、音響は他の3つの感覚を排除したまま聴覚の内耳導管を通じて感受されることが出来ます。これら全ては4つの感覚は互いに独立して働いていることを示しています。

【解説】

ここでは日本語訳の問題として、本文中にある「feeling」について確認して置きましょう。元来、通常の人間の五感という意味からは、feelingの日本語訳としては「触覚」と訳すべきものです。確かに何物かと触れた場合や痛みやかゆみを感じる等は触覚の機能ということになります。

しかし、本書においてはfeelingには「感じる」というような精神面に拡大した感覚の意味合いも多く含まれており、訳語として「触覚」とすべきかどうかは迷う所です。本書においては訳語によるイメージの誤解を最小限にする為、敢えて「フィーリング」とカタカナ表記にしてあります。なお、今後出て来る本文（065）にも触感とフィーリングの違いについても言及されているところです。

さて、各自の中でこれら各々の感覚は他とは独立して反応していることは、互いの立場等の関連性を見ようとする事とは正反対であり、家庭の中にあっても各自が勝手に意見を主張し合う場合と似ています。家の主人である私達がどのようにしてこれらを調整して行くかは、まさに修身齐家治国平天下の最初の段階と言えるのです。

062 But what of the so-called fifth sense? If we deprive man of feeling, as we have done with sight, hearing, taste and smell, what is the immediate result? He lapses into unconsciousness, and will remain in that state until feeling is restored. While he is in this state, the organs of sense are still in the body and in perfect condition. The eyes, nose, palate and ears are uninjured, yet they do not see, smell, taste, or hear. And if feeling is completely withdrawn from the body, that person dies. Therefore, it is quite apparent that each of the four senses is dependent upon feeling for its existence.

062 しかし、いわゆる第5番目の感覚とは何でしょう？もし、人間から私達が視覚や聴覚、味覚や嗅覚について行ったように、フィーリングを取り除いたら、どのようなことが直ちに結果となって現れるでしょうか？その人は無意識の状態に陥り、フィーリングが回復されない限りはその状態に留まるだろうということです。その人はこの状態にある間、それら感覚器官は肉体内にあり、完全な状態にあります。両目は鼻、舌や両耳は損傷を受けていませんが、それらは見たり、匂いを嗅いだり、味わったり、聞いたりしないのです。そしてフィーリングが肉体から完全に取り去られるなら、その人物は死にます。ですから、この4つの感覚各々はその存続をフィーリングに依存していることは、まったく明らかなのです。

【解説】

そもそもフィーリングとは私達にとってどのようなものと言えるのでしょうか。他の4感と同様な表現をすれば、振動や圧力、熱や痛み、かゆみ等を感じる機能がとりあえずの作用と言えます。ここで注目したいのは、これらの受容器は他の4感のように特定の部位に存在するということはなく、全身にわたって広く分布していることです。つまり、肉体全域についてこの感覚は警戒するネットワークが出来ていることとなります。また、「痛い」「熱い」等、身体の安全に関わる事態にはそれ相応の警告を出しますが、これらの反応自体にはほとんどの場合、好き嫌いの反応は起らないことも特徴として挙げられます。

このようにフィーリングを全身にくまなく行き渡る神経のネットワークとすれば、私達はそのネットワークを通じて自分自身の各部位の状況を常時監視し、その部位とのコミュニケーションも出来るというものです。そういう意味から更に発展させれば、フィーリングが本来の精神感応という意味で離れた相手とそのネットワークが繋がる機能を併せ持つことも類推できます。またこのネットワークを通じて自分の意識を自由に移動させ、離れた地点の状況を観ることも可能であるように思えます。

063 Let us now deprive man of one of his four senses, such as sight. Does this affect the life force in the body? Not at all! We can go further and deprive him of two, three, or even all four; yet he will still be a conscious, living being. Though the actual organs of sense are not functioning, he is conscious of knowing joy or sorrow, peace or pain, and he is able to receive mental impressions and visualize them perfectly.

063 では人からその4つの感覚の内の一つ、例えば視覚を取り去って見ましょう。これは肉体内にある生命力に影響を与えるでしょうか？ 全く有りません。次に進んでその者から二つ、三つそして四つ全部を取り去ることも出来ますが、それでもその者は意識ある生きた存在であり続けることでしょう。実際の諸感覚器官は機能していないにも拘わらず、その者は喜びや平安、或いは苦痛を知る意識を有していますし、心的印象を感受し、それらを完全に映像化することが出来ます。

【解説】

私達は日常的には、外界との対応にもっぱら視覚、聴覚、味覚、そして嗅覚の四感を使っていますが、それらが仮に無くなっても私達自身の生命体は引き続き生きて行くことが出来ます。確かに失明したら、或いは中途失聴者になったら、その後の生活が大変不便なものになることは間違いありません。しかし、呼吸をはじめ、食物の消化吸収及び排泄等、身体維持に関する重要な部分は、元々これら感覚や自我の意志とは離れた所で行われているのです。各細胞は真っ暗な場所で、音にはよらずに相互に意志疎通を行っているのです。

こう考えると、これら4つの感覚は人間の表層を取扱っているに過ぎないことが分かりますし、私達はこれら表層の感覚を観察して、誤った反応、勝手な意見をチェックする必要があります。表層の結果に一喜一憂するのではなく、物事の本質、深層にこそ関心を向けなければなりません。そこに第5の基本的感覚であるフィーリングの役割が現れて来るものと思われれます。

064 It is through this so-called fifth sense that telepathy works; so if we continue to cling to the idea of feeling as a bodily sense, the definition of telepathy is incorrect, and science has been sidetracked. The act of thought-transference, clairvoyance, premonition, or whatever term you choose to use for invisible perception, is a perfectly normal function of the feeling element expressing through the brain, with the cooperation of the mind.

064 テレパシーが働くのは、このいわゆる第5感を通じてです。ですから、私達がフィーリングの概念を一つの肉体内の感覚であるとする概念に固執し続けるなら、テレパシーの定義は間違っただけのものになり、科学は横道にそらされていることになります。想念の転移、透視、予感あるいは目に見えない知覚に対して貴方がどのような名前を選ぶにしても、それが心の協力の元、脳を通じて表現されるフィーリングの要素による全くの通常の機能なのです。

【解説】

ここではフィーリング（第5感）がテレパシー作用を司っていることを明確に述べています。中でもフィーリングが従来、私達が決めつけていた肉体上の触覚に留まるようなものでなく、更に広く印象類を感受し、距離にかかわらず移動する知覚チャンネルというような機能を果たすものであるという点が重要です。

また、詳しくは解説されておりませんが、このフィーリングの感受も私達自身の心の協力が必要であり、脳を通じて表現されることもポイントになるでしょう。つまりは、その感覚を発達させる為には、私達自身の心が第5感であるフィーリングの持つ潜在力を認め、それに協力する姿勢が重要となる訳です。

065 It has been brought to my attention by many individuals that the fifth sense, as it is generally understood, is not the sense of feeling, but that of touch. This does not change the theory, as each of the four senses possesses this faculty of feeling, or element of conscious-contact, without which there would be no awareness. Touch is a bodily nerve reaction, while feeling is the cardinal Life Force. It is through the conscious-contact of this Life Force that sensation is produced.

065 多くの個人が、その第5感覚は一般に理解されているようにフィーリングの感覚ではなく、触感の感覚ではないかということを知らせて来ています。これはその理論を変えるものではありません。何故ならその4つの感覚もフィーリング、即ち意識的接触に関する要素の機能を有しており、それ無しには如何なる感知能力もないことになるだろうからです。触感は肉体の神経反応である一方、フィーリングは基本的な生命力なのです。感動が作り出されるのはこの生命力の意識的接触を通してです。

【解説】

繰り返しになりますが、通常、私達は第5感を「触覚」と呼んで来ましたが、これは本文でも言われているように単なる肉体の神経反応である「触感」をそう呼んでいるに過ぎません。その奥にあるフィーリング機能が、この第5感の本来の姿であり、このフィーリングの作用により意識的接触が起こることによって"sensation"（「感動」）と称するような「反応」が起る訳です。このsensationなるものについて、どのような内容であるかの説明はありませんが、フィーリングがそもそも感知するという事は、このsensationと表現されているような心への働きかけだとイメージできます。

大事なことは、これらsensationが心によって認識されることであり、フィーリングを拡大させるということは、心が自分のフィーリング能力の潜在性を信じることから始まるように思います。

066 We can only know motion through the law of comparison, which is actually the law of contact, or the relationship between one phase of expression and another. When we touch an object with our fingers, we receive an impression of that object because of the pressure created through the contact of a lesser with a greater vibration. Likewise, we receive visual impressions or auditory impressions through the contact of light or sound vibrations with the retina of the eye or the ear drum. We are made aware of atmospheric conditions and temperature changes through the contact of atmospheric cells with the cells of our body. All of this proves that touch is merely the nerve reaction to contact.

066 私達は比較の法則を通じてのみ運動を知覚することが出来ますが、それは実際にはある表現の姿と他との接触の法則、あるいは関連性であるのです。私達が指である対象物と触れる時、より低次の振動がより高次の振動と触れることによってもたらされる圧力が原因となってその対象物の印象を受けます。同様に私達は光あるいは音の振動との目の網膜や耳の鼓膜との接触を通じて視覚的印象や聴覚的印象を受け取るのです。私達は大気の細胞と私達の肉体の細胞との接触を通じて大気の状態や温度の変化を知るようになります。これらの事柄全てが触感（touch）は接触に対する単なる神経反応であることを物語っているのです。

【解説】

私達が通常、生きて行く上で感知する周辺との係わりあいの中で、最初に身体に接する際の状況が、ここで説明されています。運動（動き）を感知するのは変化が認知されるからであることは「相対性理論」にも遡る内容を示唆するものですし、圧力をより高い振動を感知する為としているのは、分子運動論にも相通じる内容となっています。

映像や音声が目や耳の各々の器官に接する際、最初に作用するのが、このような触感（touch）と呼ぶ神経反応であり、それらは本書で言うfeelingの極く最初の段階に位置するものであることが分かります。

なお、原文中に大気のcellとあるのは、広大な大気層の中で人体に触れるのは極く小さな領域の空気であり、それらを人体における細胞に見立てた表現となっており、訳文としては、そのまま「細胞」と表現しています。

067 Feeling and touch being practically synonymous, I will continue to use the word feeling to denote the so-called fifth sense.

067 フィーリングと触感は實際上、同義語であることから、私はその言葉（訳注：フィーリング）を、いわゆる第5感を象徴する為に用い続けることとします。

【解説】

前述（066）のようにフィーリングと触感が各々対象物或いは対象となる情報と接触する際の各段階における反応過程を表現したものと云えることから、ここでは両者は同義語だと述べられています。

ここで大切なことは視覚、聴覚、味覚、嗅覚の4感はその外界との接触にあたっては必ず初期の段階でtouch（触感）的な要素があるということで、その接触的な過程が無ければ何事も始まらないということです。そういう意味では、このフィーリングは各感覚の基礎的部分を支えていることとなります。しかし、その一方で既存の4感を超える潜在力を持っており、テレパシー能力はこのフィーリングが機能することであると述べられて来ました。日常的に各自のフィーリングを活用しているか、活用したいと努力しているかが、何よりも重要な所です。

068 Inasmuch as each of the four senses possesses this element of feeling, which is an intelligent force having the ability to react in a conscious state to expressions of itself, or in other words, the element that registers each contact of existing vibration, we must admit that telepathy is certainly not outside the normal operation of the recognized sense organs. For it is through the feeling channel, regardless of the avenue of reception, that thought becomes known.

068 この四つの感覚が意識的状态の中でそれ自身を表現する為に反応する能力、言い換えれば存在する振動との接触を毎回記録する要素を所持しているからには、私達はテレパシーは確かにこれまで認識されている感覚器官の通常的作用の外にあるものではないことを認めねばなりません。何故なら、感受の経路に係わらず、想念が知られるのはそのフィーリングのチャンネルを通じてであるからです。

【解説】

私達の四感基本的部分でフィーリングの要素が関与していることは、今まで述べられた通りです。本項では更に、テレパシー、即ち想念を感知する能力はこれらフィーリングを通じて行われることから、各四感の通常認知作用の中に、テレパシーも含まれると言及しているのです。

つまりは、目で対象物を見る時、その画像や網膜によって読み取られますが、合せてその視覚というチャンネルを通じて、視覚の中のフィーリングの要素部分では、想念や印象を同時に感知することが本来出来るという訳です。これは、後年執筆された「生命の科学」で言う「原因と結果を同時に見る」と同じ意味を持っているように思います。つまり、私達は目で結果を見るのですが、その視覚に関連するフィーリングの要素を活発化させ、発達させれば合せて「印象」も同時に感知することが出来るということです。

069 The question may arise: How do you explain those rare individuals who are born without feeling? They suffer no bodily pain, even from severe injuries. Will this impair their telepathic ability?

069 疑問が生じるかも知れません。フィーリングを生まれながらにして持たない稀な人々についてはどのように説明するのかと。彼らは例えひどい怪我をしても肉体の痛みに煩わされません。このことは彼らのテレパシー能力を損なうことになるのではないのでしょうか？

【解説】

仮に触感（肉体の感覚）が無い場合は、テレパシー能力は損なわれるのかという問いかけです。結論は後続（070）に譲りますが、痛みを感じないことは一見、良いことのように思いがちですが、実は大変、危険なことです。例えば、歯科医で麻酔後は、しばらくは食物を摂ることを禁じられます。それは痛みの感覚が無いと、食べ物をそしゃくするという日常的な行為でも自らを傷つける危険性が高いからです。つまり、それほど、いわゆる触感は生活において大切な身体に対する警戒状態を受け持っている訳です。

その意外に大きな役割を持つ触感ですから、それが無くなれば、当然テレパシーに通じるフィーリングも損なわれると考えるのが普通ですが、その実態はどうでしょうか。答えは次項に述べられています。

さて、今回はここで、少し余談に入ります。今から3年前、2006年の頃のお話です。私が父を連れて台湾へ観光旅行をした時のことです。滞在した花蓮市のホテルの部屋で朝、何気なくテレビを見たら尼寺の朝の修業風景が放映されていました。一人の尼僧が修業の尼僧達に綿々と講義をしており、尼僧達はその講話を一生懸命聞こうとしている状況が映し出されていました。画面では漢字の字幕が出ていた為、ある程度の意味を把握することができました。その後、番組はその団体が行っている様々な社会慈善事業を紹介しており、哲学宗教面における大陸との違いを思い知りました。

また、台湾の花蓮空港では多くのチベット仏教僧を見かける等、ある意味、花蓮は仏教の聖地であるのかも知れません。実はその後、そのことについては、調べる余裕もなく、旅の行程が進み、最後の宿泊先である台北のホテルに着くことになりました。そのホテルの部屋の机には聖書の外に「静思語」と題する1冊の本がありました。内容は仏教語録のようなもので、釈證巖 (Master Cheng Yen) という尼僧が著者であり、中国語の語録に英語、日本語、スペイン語の訳語がついているものでした。その本の解説からその著者がテレビで見た花蓮で活動していた団体を主催していることが分かりました。当時の私としてはこの本を大変気に入った為、ホテルの支配人にその本を1冊分けてもらい、日本に持ち帰りました。その後の調べで、その慈善団体（慈濟Tzu Chi）は仏教をベースとして台湾国内はもとより広く、海外でも活動し、1991年には団体を主催する釈證巖さんはフィリピンのマグサイサイ賞を受賞していることが分かりました。様々な場所、様々な分野で人々を導く活動が行われているということです。

ちなみに「静思語」の一節（典藏版p.202-203）を参考までにご紹介しましょう。

”家庭不能只追求豊富的物質生活

應著重心心靈溝通

使親子、夫婦間和諧、圓滿”

"Do not just seek

a rich material life for your family.

It is more important for parent and child,
and husband and wife to communicate and
nurture harmonious and close relationships."

「家庭生活において、ただ物質的な豊かさを
追求するだけではない。

むしろ「心の通じ合い」に重きをおいて、
親子、夫婦の仲が円満にいくよう心
かけるべきである。」

"No persigas solamente una vida
de riquezas materiales para tu familia.

Es ma's importante que haya comunicacio'n
entre padres e hijos,
asi como entre esposo y esposa
y que mantengan relaciones
armoniosas y cercanas."

以上、長々と紹介しましたが、内容はテレパシーと無縁ではありません。原文にある「心霊溝通」の意味は単にコミュニケーションという意味の外に、テレパシーに重きを置くとも読み取れます。つまりは、物質的な豊かさを追求するだけではダメで、もっと互いの心が通じ合える、即ち互いに相手の心が分かるようなテレパシクな関係になることを求めているように私には思えるのです。そのようなテレパシーの効用として、互いに誤解が無く、人間関係も円滑になるということを意味していると解釈できます。

070 Not in the least. This is a purely physical condition caused by the malfunctioning of the nervous system; and has no more bearing upon the operation of the Life Force, or true feeling, than if the individual is born without a finger. The senses of sight, hearing, taste and smell, work normally in these people. The degree to which anyone registers pain is dependent upon the nervous system; the more sensitive the system, the more intense the pain felt.

070 全然そのようなことはありません。これは神経系統の機能不全によって引き起こされた純粋な肉体の状況であり、個人が指1本欠けて生まれたとしても生命力、即ち真実のフィーリングの作用には何ら問題が無いのと同様です。視覚や聴覚、味覚や嗅覚はこれらの人々の中で正常に働いています。人が痛みを表わす程度は神経系統に依存しています。その系統が高感度であればある程、その痛みは強烈に感じるのです。

【解説】

仮に触感が無くなったとしても、四感の動作には影響を及ぼさないとしています。それは触感を司る身体の神経系統とは別に、各感覚器官に固有の神経系統が各々備わっていることを意味するものと考えられます。しかし、それでもフィーリングの要素がこれら諸感覚はもとより、意識の深層部分で働いていることが大事な所だと思っています。

例えば、目を閉じて無音無味無臭の空間に端座する時、私達は周囲に自分の意識を広げ、宇宙からやって来る印象類をキャッチしようとしませんが、その際に行っている動作は、丁度、カタツムリがその触角を様々な方向に傾けながら、必要な情勢判断を行い、自分の進行方向を定めることに似ています。私達は触覚（フィーリング）を使って自分の進む方向を絶えず探りながら、必要な情報を得ているように思います。即ち、生きて行く上でフィーリングが大切な訳で、早期に事態を予測することが出来れば（印象に従った生活を送れば）、効率的な人生を送れることとなります。

071 These unfortunate individuals, rather than being envied, should be pitied. For the little sentinels who stand guard constantly throughout the body to flash warnings to the brain - nature's switchboard - of any unusual condition, are our staunch friends. Let us say we run a splinter in our hand. These sentinels, or nerves, immediately set up a clamor, informing the brain that a foreign substance is exerting pressure upon the surrounding tissue. We then relieve the pressure by removing the splinter and the wound will heal. But if the brain had not received this information because the nerves were not functioning properly, we would have been unaware of the splinter until the body, in trying to expel it, had caused the area to fester. But it is a physical condition; and lack of this nerve feeling has no more to do with a person's telepathic receptivity than the color of his eyes.

071 これら不遇な人達はうらやましがられるよりは、哀れまれるべきです。何故なら、どのような異常時であれ、自然界の交換機のように脳に警報を発するべく、体中を常に警備に立っているその小さな歩哨達は私達の信頼する友人達であるからです。私達が手に棘を刺したとしましょう。これらの歩哨達、神経はすぐさま大声を発し、脳に異物が周囲の細胞組織に圧力を加えていることを伝達します。私達は次にその棘を取り除き、その傷はやがて癒えます。しかし、脳が神経が適切に機能していなかった為にその情報を受け取らなかった場合には、私達は肉体がそれを追い出そうとしてその部分を化膿させようとするまでは、その棘に気付かなかったことでしょう。しかし、それは肉体の状態であり、この神経によるフィーリングの欠如は両目の色以上に各自のテレパシー感受力に関係するものではありません。

【解説】

肉体の神経ネットワークを司る各神経細胞は私達にとって信頼できる存在であり、彼らのお蔭で肉体が守られています。しかし、それらいわゆる触感要素の有無自体は各自のテレパシー能力とは関係が無いと言っています。つまり、フィーリングと触感とは同義語と言ってはいても、テレパシーを司るフィーリングは、これら肉体の感覚とは基本的に異なるものだと言うことでしょう。ちなみに目の色とは虹彩の中のメラニン色素の量の違いで起るとされています。一般に青い目は褐色の目と比較して極端にメラニン色素が少ない為に形成されるとされていますが、目としての役割にはいささかも違いがありません。

テレパシーにはついては、同乗記の中で金星から来た母船で以下の説明がアダムスキー氏に為されています。

「しかし万人にはっきり伝えていただきたいことが一つあります。今までここで話してきたテレパシーによるコンタクトは、地球人の言っている”心霊”や”降霊術”的なものとは全然違うということです。テレパシーは一つの心から他の心への直接のメッセージなのです。いわゆる心霊現象については別な機会に説明しましょう。」

「このメンタル・テレパシーを私たちは送信者と受信者という二点間の”意識が一体化した状態”と呼んでいます。これは私たちの各惑星では最も普通に用いられている伝達法で、特に金星ではそうです。私たちの惑星では個人から個人へ、惑星から宇宙船へそれがどこにいようとも、そして惑星から惑星へのメッセージを伝えることができます。前にも申しましたようにこれは特にはっきり記憶していただきたいのですが「地球人の言う空間または”距離”は全然障害にはなりません」（「宇宙からの訪問者」、訳者 久保田八郎、ユニバース出版社、昭和56年発行、p.164-p.165）」

つまり、両者の意識がつながることによって距離に係わり無く相互の想念が伝わるという訳です。他惑星人はテレパシー能力に秀でていとされています。言葉を発することなく相手の心の状況を理解できること、また遠く離れた友人にメッセージを伝えることは極めて日常的に行われているとされています。私達地球人がそのようなレベルに達する為には、この意識を拡大させ、印象を受け止めるという私

達の受信器の感度を高める必要があります。

072 Man is a miniature universe; so let us analyze him in that light.

072 人間は小さな宇宙ですので、その観点から人間を分析して見ましょう。

【解説】

「人は小宇宙である」と類似したことは古来から言い伝えられて来たように思います。アダムスキー氏も度々引用する「汝自身を知れ」の中にも同様な意味合いが含まれています。その意味する所は、各自の中には既にあらゆる物、全ての要素が含まれていること、また、それらが各自の肉体に留まらず、大宇宙と実は融合している存在であるということです。

人体には60兆個もの細胞があるとされています。それらがテレパシーによって互いに意思疎通し、全体としての調和を保ち、人体、或いは自然界というより大きな目的を果たす為、互いに奉仕している世界は一つの宇宙とすることができます。

また、植物等、自ら動くことがなく、割り当てられた場所で生きるものや犬や猫のように限られた地域で生涯を送るもの達も、皆、不自由な境遇を憂うことなく、毎日を喜びに満ちて過ごしている背景には、彼らは宇宙に繋がる意識を持ち、絶えず新鮮で楽しい印象類を感受できているからに外なりません。自己の肉体の微小な構成要素と大宇宙の両面から有意義な印象を受けている為に、他に必要とするものが無い状況であると思われれます。

073 We know all things in the manifested world are based upon four elements; earth, water, fire and air. From combinations of these four elements are brought forth the innumerable variations of form. But within each atom comprising these elements, is a force which is indestructible and inexplicable. It is a definite, yet elusive something, that evades the best efforts of the research workers; and even the most sincere cannot define its character or its source. It is this activating force which gives impetus to creation.

073 私達は創造された世界の中の万物は四つの要素に基づいていることを知っています。土、水、火そして空気です。これら四つの要素の組み合わせから無数の形有るものの変化がもたらされました。しかし、これらの要素を構成している個々の原子の内部には破壊されることのない、また説明できない、ある一つの力があるのです。それは確固としたものですが、どこか捕らえ所のないもので、研究者達の最高の努力もくぐり抜けてしまいます。また最も誠実な者もその特徴やその源泉を定義することは出来ません。創造作用に刺激を与えるのはこの活性化力なのです。

【解説】

本項では古代ギリシャ哲学の「四元素説」を踏まえて、物質を土（固体）、水（液体）、火（プラズマ）、空気（気体）の四分類した上で、各元素が秘めた創造への潜在力について述べています。著者アダムスキー氏が意図している事柄が何処にあるのか、十分には掴みとれていませんが、各原子が大きな力を秘めていると言っていることに注目しておくことが必要です。

その持つ潜在力については、通常の科学では認めたく無い所でしょうが、現実に各生命体において日々実現している生命活動の全てにおいて、これら潜在力は無縁ではありません。もちろん、原子の中には莫大なエネルギーが秘められていること自体は、原子爆弾や原子力発電所において核物質から大きなエネルギーが取り出されている事実からも、分かります。

私達自身、自らの内部あるいは周辺の各原子に、その秘めたる創造力を発揮してもらえる状況をつくる事が出来れば、今までとは比較にならない大きな変化をもたらす事が出来ることは間違えありません。

074 In man we find the same condition existing . . . four phases of action, or manifestation, aided and supported by the inexplicable force that causes impulse, or action, within them. It is therefore obvious that feeling is no more a physical sense, than is the activating force in nature one of the four elements.

074 人間においても同じ状況が存在することに気付きます。その内部に衝動や行動を引き起こす説明出来ない力によって助けられ、支えられた四つの行動、創造の側面の存在です。ですから、フィーリングは肉体の感覚ではなく、四つの要素における自然界の活性化力であることは明らかです。

【解説】

人間についても、同様に4要素に分類できるとしており、これまで述べて来たように視覚、聴覚、味覚、嗅覚の4感覚が相似していると指摘しているのです。重要な点は、フィーリングが、これら4つの感覚器官を支えていると同時に、肉体全域の生命活動を活発化する為、無くてはならない役割を果たしていることです。

宇宙の秩序性を考える時、大は宇宙空間における銀河や太陽系の形状と、小は原子核の周囲を回る電子群の形態等、様々な類似性があることに気付きます。人体も同様に、以前、何処かで他惑星人の宇宙船の内部構造が人体に類似していると指摘する話しも聞いたことがあります。また、曼陀羅等、宇宙全体を様々な要素で表わすことも古くから行われてきました。

自然界の中に自分と類似した要素に気付くことは、改めて創造主を見出す思いがして、感銘を受けるものです。

075 Once I understood this, I knew that this force, born of Cosmic Intelligence, is the foundation of all life. Nothing need be added; all is present. But I, as a physical man, must recognize and begin to use this all-inclusive power. At this point, I took a closer look at my mind. To my surprise, I found it badly equipped and behaving like a tyrant ! I saw it was merely the spokesman for the sense reactions; not the Knower of Cause.

075 一度このことを理解するや、私には宇宙的英知から生まれたこの力が全ての生命の土台であることが分かりました。何も加えられる必要がなく、全てがそこに在るのです。しかし、肉体の人間としての私はこの全てを包括する力を認識し、応用し始めなければならないのです。この時点で、私は自らの心を注意深く見詰めました。その結果、驚いたことに、私は心がひどく身構えて暴君のように振る舞っていることに気付いたのです。私にはそれが因を知るものの代弁者ではなく、感覚反応の代弁者となっているに過ぎないことが分かりました。

【解説】

本来は自らの中に備わっている全ての要素を持つ一大生命力に気付き、応用すべき立場にあるにも拘わらず、私達の心は自らの感覚の代弁者に留まっていると言っています。心は自分自身の中にある因なる生命力よりも、肉体を過剰に守り差別を繰り返す感覚反応の方に引寄せられるということです。常に結論を急ぐ心は微妙な印象の世界よりは、テキパキと判断を下す感覚に従う方を望みがちということです。

しかし、感覚の判断は通常、低俗なものですし、それら表層の世界だけに生きていては本来の生命の息づく世界を見ることはできません。通常感覚の範囲を超えた深淵な世界に私達も気付く必要があります。その世界や音や光を超えた印象の世界であろうと考えます。同じ風景、同じ対象物と相対していても、相手が生きてると実感するのは互いに印象レベルで交流が始まったことを意味します。

同様に、自分自身の身体に対して私達はどれ程の関心と敬意を持っているでしょうか。これから訓練すべき自分の心の反応、毎日の肉体の中で行われている生命の維持活動等、全ての側面で最高の教材が私達自身であることは間違いありません。

076 Let me explain it in this way. The mind of the average human we encounter today expresses only the opinions gathered from the reactions of his four senses. Therefore, his so-called intelligence is hampered by his likes, dislikes, and autocratic judgment of all that he does not understand. He should not be condemned too harshly for this. It has been the accepted attitude for ages. We have allowed our four senses to be the domineering rulers, quarreling and dissenting amongst themselves; totally unaware of the Creative Force which brought them into being.

076 このように説明しましょう。今日私達が出会う平均的な人の心は只、その人の四つの感覚の反応から集められた意見だけを表現しているということです。その為、その人のいわゆる知性はその人の好き嫌い、自分が理解しない物事すべての専制的な裁きによって妨げられています。しかし、人はこのことについてあまりに厳しく非難されるべきではありません。それが長年にわたって受け入れられて来た態度であるからです。私達は私達の四つの感覚が威張り散らす支配者達であることを許して来たのであり、それらは言い争い互いに異議を唱えながら、それらを産み落とした創造力に全く気付いていないからです。

【解説】

私達の問題は、「裁き」にあるように思います。通常、その裁きは対象物を見た瞬間、耳に音が入った瞬間に私達に対しての感情として現れます。これはいわば各自のエゴの好き嫌いからなのですが、その反応の湧き起るのは実に速いものです。これらは長年の習慣から、私達が各感覚の代弁者になって来たことが原因です。物事の本質を知ろうとする代わりに手っ取り早く外見的な判断で済ませて来たからに他なりません。

これでは表層の奥にある真理を悟ることは出来ません。それを改善する為には、この感覚反応にそのまま従うことなく、冷静に他の印象やより深く静かな波動に心を同調させる必要があります。本来、宇宙に流れている深遠な印象類に私達の関心を寄せることが必要です。空を行く雲や流れる水を見て、何を感じるのか、大自然の中に私達の求める生命力の現れを見るように心掛けることです。

お知らせ [2009-07-29]

明日から今週いっぱい、夏休みを取る予定ですので、ご了承下さい。再開は来週早々の予定です。

077 As I studied carefully the actions of these four senses, I realized that each one stands alone, contradicting and fighting with the others. Since each sense has a will of its own, it can, and does oppose the other three; and in so doing, it opposes the Cosmic Will. This condition will continue in man until he becomes a unified being; understanding himself in all his component parts.

077 私がこれら四つの感覚の行動を注意深く調べた結果、私はそれらが各々孤立しており、互いに反論し、言い争っていることがよく分かりました。感覚は各々自分の意思を持っておりますので、それは他の三つに対して反論できますし、そうしているのです。また、そうすることで、宇宙の意志に対抗しているのです。この状態は人が自分を構成する様々な部分の全ての中において自分自身を理解する一体となった存在にならない限り、続くことになるでしょう。

【解説】

人が抱える問題が、その四つの感覚が互いに他を尊重せず、各々勝手に騒ぎ立て、裁きを行っていることにあると指摘したのは、アダムスキー氏が初めてです。私達は未だ、そのことの重要性について十分認識できてはいませんが、その真理は他惑星社会で実証、応用されたものを私達地球人に授けられたことを良く考える必要があります。つまりは、人間の問題は自身の中にあり、各自がそれと対峙すること以外に解決の道はないからです。

また、これまで私達は感覚反応に由来する感情に従って生きて来ましたので、問題の各感覚反応自体に気付きにくいことも事実です。自分が毎日、どのような想念を抱いているのかにも関心を持たなければ、自分自身の問題も見えて来ません。

様々な対象を親しく観察する中で、他の創造物と人間の違いや自然界における生命の発現に学ぶ所が多いものと思われまふ。四つの感覚をどのような方向性に束ねて行くのか、各自の工夫も求められている所です。

078 Here are a few examples of how the senses disagree. First, let us use this fanciful situation. In a hall seating a thousand people, imagine we have sensitized the floor to the degree where an insect falling upon it would register a sound loud enough to be heard by all; and to implant this information strongly in the minds of those present, we have conducted a number of experiments demonstrating the sensitivity of the floor. So if, by the trick of using heavily padded soles, we have a man walk down the aisle without producing the sound of accompanying footsteps, the following imaginary conversation might take place between our eyes and ears.

Eyes: "I see a man walking down the aisle."

Ears: "Impossible! I hear no sound."

Eyes: "But I tell You he is there. He's about half way down."

Ears: "It's your imagination. We both know how sensitive this floor is. I'd hear anyone walking down the aisle."

078 ここで各感覚が如何に互いに意見が合わないかを示す若干の例を挙げましょう。この空想上の状況を採用しましょう。千人の人々が着席しているホールの中で、一匹の虫がその上に落ちても全員に聞こえるようなだけの大きな音が記録されるような位に床の感度を高めたとして、その情報を強くそれらの人々に植え付ける為に、私達はその床の感度を実証する数多くの実験を行って来ました。そこでもし、靴底に厚い当て物をするというトリックを使って、一人の男に足取りに伴って発生する音を出すことなく、通路を歩かせたとすると、私達の目と耳の間で以下の想像上の会話がなされるかも知れません。

目：「通路を歩く一人の男が見える。」

耳：「有り得ない！全く音がしていない。」

目：「しかし、言って置くが、その男はそこにいる。もう半分の所まで来ている。」

耳：「それはあなたの想像だ。私達二人共、如何にこの床の感度が高いか知っている。もし誰かがその通路を歩けば聞こえる筈だ。」

【解説】

これまでの講座から、私達は自己の感覚に支配された奴隷になっていることを学んで来ました。しかし、感覚反応に自分が完全に組み込まれている為に、そもそも私達自身と自分の感覚との違いを自覚することは難しいのです。また、その心の中の葛藤というものも、突き詰めれば矛盾する二つの感覚の意見に由来するということが本項は示しているものと思われまます。

一方、自然界を観ると、動植物達の行動には葛藤や迷いは認められません。草は刈り取られる間もなく、新しい芽を出しますし、虫達は迷うことなく花を訪れ、蜜や花粉を集めるのに忙しく働いています。そこには歓びこそあれ、悲愴感は一切ありません。彼ら人間以外の創造物はもちろん、各々の鋭敏な感覚を有し、それらを各々の生存活動に不可欠なものとなっています。しかし、彼らと人間との最大の違いは、彼らはその存在を100%創造主に委ねているということだと思っています。一瞬一瞬、油断の無い自然界の中で生きて行く彼らにとって、かくも落ち着いて短い各々の生涯をひたすら全うしようとしている背景には、自らを守ろうとする感覚器官以上に創造主に全幅の信頼を置いていることがあるように思えます。

079 The eyes see the man, but the ears hear no sound; therefore, the sense of hearing accuses the sense of sight of giving false information. The man is there, however, but due to their lack of respect for one another, neither the eyes nor the ears will concede that they could be mistaken; so the argument between them cannot be satisfactorily settled.

079 両目はその男を見ているのですが、両耳には音が聞こえず、その為、聴覚は視覚に対し嘘の情報を出していると非難しています。しかし、男はそこに居ますし、感覚同士、互いの尊重が欠けている故に、目も耳も自分達が間違っているかも知れないということ認めようとはせず、その為、彼らの間の議論は満足の行く解決ができないのです。

【解説】

感覚同士が互いに尊重し合わないことが、そもそもの問題だということです。これは個人の間についても言えることです。他人や環境に左右されない自我の確立や独立性等、各自の意志を強くすることが求められる余り、自分の主張を押し通すこと、ディベート（議論）で相手の論点を打ち負かすことが能力が高いとされる風潮も生まれてしまいました。

しかし、このままでは柔和や柔軟さを尊ぶ日本古来の生き方はやがて失われるかも知れません。訴訟社会となれば最終的に裁判で決着が着くまで争えば良いということにもなりかねず、平和はありません。

ちなみに「『和を以って貴しとなす』（聖徳太子の十七条憲法第1条）の和とは「因」と「縁」の出会いの結果を言い、和とは単に仲良くではない。和を大切にすることは因と縁の出会い、つまり因縁の法を厳粛に受けとること。日本仏教の祖といわれる聖徳太子が、その因縁法をふまえて『和を以って貴しとなす』と示すゆえんがここにある。つまり、自己中心の我執、すなわち自己の利益・立場をこり押しするな。また自分たちだけの利益のために、徒党を組んでこり押しするな。「和」を大切に思うなら、因縁法（原因と結果）、すなわち、何故、何故を明らかにするために徹底的に話し合い（議論）をなささい。ということである。（以下略）」という記事 (<http://www.dotcolumn.net/blog/index.php?p=66>) が出ていました。原因と結果を明らかにしようとする等、「生命の科学」のエッセンスそのものではありませんか。真理は既に、聖徳太子の時代から伝えられて来たことを知ることが出来、嬉しくなりました。

彼ら他惑星人社会では意思伝達はもっぱら印象によるものがほとんどでしょうから、そこに感覚による主張は入り込むことはなく、他惑星人の感覚は各自が生きる上で必要不可欠な存在とはなっていないものと思われれます。また一人一人の感覚は十分コントロールされた中にある為、地球人のような極端な感情の起伏を示すこともありません。

これら感覚の反応は死を前にして次第に消失して行く訳ですが、実は既存の感覚が消失するにつれて反対に多くの印象を感受し易くなるように思います。よく死の瀬戸際まで行った者が救命措置によって助かった後で、家族に「実は大変気分が良かった」「美しい景色を見た」等々の話しをする事例がありますが、この臨死体験は今までの感覚の支配が無くなる時に、代わってフィーリングが働き始めて、それまで感受できなかった印象類が一斉に入ってくることを意味しているように思っています。もちろん、私達は日常的に生きている最中において、これら宇宙からの印象を感受することを目的としているとは言ってもありません。

080 We will now reverse the procedure, and by remote control produce the sound of walking down the aisle. This time the eyes will accuse the ears of conjuring up an imaginary situation. Again, the argument will rage between the senses, each one sure it is right.

080 今度は手順を逆にして、遠隔制御を用いて通路を歩く際の音を出して見ましょう。今度は目が耳に対して魔法を使って想像上の状況を作り出したと非難することでしょう。再び感覚の間で各々自分が正しいと確信して議論が荒れ狂うのです。

【解説】

大事なことは私達各自が各々の感覚（器官）の主人（あるじ）にならなければならないということです。4つの感覚はそれぞれ有能ではありますが、それらに全てを委ねていては王国は立ち行きません。それらは各々の一面から見た意見を主張して来るだけであり、それら家臣の述べる意見に耳を傾けることは大事であるにせよ、最終判断は主人が行わなければなりません。

もちろん、これら4つの感覚の他に主人にはフィーリングという言葉ば情報機関からの支援があり、絶えず印象の形で居ながらにして必要な情報が寄せられています。

これら両面から得た知見から、適切な判断が出来る筈だと言えるでしょう。もちろん、家臣への日頃の薫陶も大事な主人の役目となっています。

081 Actually, both are right. The eyes did see the man, and the ears did hear the footsteps. If they had been properly coordinated or synchronized, the eyes would have told the ears what they saw, and in place of a flat contradiction, the ears would have accredited the report. When the ears heard the sound but the eyes did not see the man, the eyes, after scanning the hall carefully, would have admitted it was something they did not understand; yet have accepted the information given by the ears. In other words, instead of arrogantly accusing the other of telling an untruth, each would have conceded that they could have been mistaken.

081 実際には両者とも正しいのです。目はその男を見たのですし、耳はその足跡を聞きました。もし両者が適切に連携、或いは同調していたら、目は耳に対して自分達が見たものを伝えたでしょうし、単純な否認の代わりに耳はその報告を信頼に足ると評価したことでしょう。耳がその音を聞き、目がその男を見なかった場合でも、目はホールを注意深く見渡してそれが自分達が理解出来ない何かであることを認め、耳から伝えられた情報を受け入れたことでしょう。言い換えれば、他を嘘を言っていると横柄に非難する代わりに、各々は自分達が誤っているかも知れないことを認めるようになることです。

【解説】

既存の感覚が捉えられない要素があることを認めることが大切だと思っています。未知なるものに対して、各々の感覚が互いに情報を共有しながら、限界があるにせよ、その本質を掴もうとする姿勢が望まれているのです。

一方、現実には感覚器官が取扱う形に現れている現象についての情報と同時に、まだ現実化しない状況下においても「こうした方が良さそうだ」と感じるような印象の把握も起ります。様々なケースにおいて印象を優先させて得た良い結果と、印象に重きを置かなかつた為に得た失敗の経験から多くを学んだ後は、ある程度、今後起る状況について自然と感知出来るようになるものです。

その為、既存の感覚器官については、もちろん身体活動の上で無くてはならないものとして大切にすべきことはもちろんですが、それら感覚に依存することなく、宇宙を流れる印象類の目に見えず、耳に聞こえないフィーリングの世界に各自の関心を寄せる必要があるでしょう。鏡の前で化粧に余念のない女性を見てわかるように、既に私達は十二分に自分自身について高い関心を持っており、結果の世界の変化に一喜一憂している訳です。むしろ、既存の物質化する前の段階、即ち原因の世界につながるインスピレーション（印象）の世界からもたらされる情報に重きを置く等、バランスをとった生き方が望ましいと言えるでしょう。

082 This same dissention exists in the relationship of the other two senses. The palate may savor the delicious flavor of certain rare cheeses; but in many cases, the nose is so outraged by the accompanying aroma that it interferes with the enjoyment of eating the delicacy. So it is very apparent that in their dealings with each other, the four senses are constantly bickering, contradicting, and trying to gain autonomy over the others.

082 これと同じ論争は他の2つの感覚の関係においても存在します。舌はある珍しいチーズの美味しい風味を味わうかも知れませんが、多くの場合、鼻はそれに伴う香りに憤慨し、その美味を賞味する喜びを妨げます。ですから互いの関係において四つの感覚は他に対して常に言い争い、反駁し、自律性を得ようとしていることはとても明らかなのです。

【解説】

本項を読んで思い浮ぶのは、よくある仏像の構図です。片足で小さな邪鬼を押し付ける毘沙門天等の四天王像がそれです。像を良く見ると足で押さえ付けられている邪鬼はやんちゃでわがままな子鬼を表わしており、実は根っからの悪者ではないように見えます。確かに押さえ付けている四天王の方は厳しい表情をしています。その姿勢は鬼を殺そうとしている訳ではなく、あばれ回らないよう押さえ付けているにすぎません。

人間の課題はまずはこの各自の4つの感覚を、より静かで落ち着いたものにする事です。その為には、時に厳しく自らを律することも必要なのです。その邪鬼達もやがて自らの真の役割を教えられ、主人に従うようになれば、もっと優れた才能を発揮できるようになるでしょう。絵画や音楽、料理等、感覚本来の才能を発揮できる分野も多いからです。

083 Now do you see why I say the senses war with one another? how uncoordinated they are and how they pass judgment on each other?

083 もう貴方は何故私が感覚達が互いに戦い、またそれらが如何に協調性に欠け、互いに裁きを下し合っていると言うのか、お分かりになるでしょう。

【解説】

よくよく各感覚の争いについて、これまで述べられてきました。各自の精神発達の上でこれら各感覚の調和は最初の課題であるということでしょう。私達は通常、外界との接点としてこの感覚に頼っている訳ですから、その感覚を如何に自然と調和あるものとするかが、大変大事なことです。

もちろん、これまでの学習から、私達の感覚器官の物事に対する姿勢には結果のみを見て、原因を見ないという重大な欠点がありますが、一方の背後にある因、意識を重要視しても、肝心の自らの心を作り上げている各自の感覚そのものの取組姿勢を受容的なものに改め、自ら謙虚にならなければ、「意識！、意識！」という空文句に終わってしまいます。とにかく、日常、私達が感受する一つ一つの中に各々背後にある原因や理由、事柄の経緯を知り、その物の存在意義を学ぼうとする姿勢が必要なのです。

084 It is these four avenues that make up the mind of man today. They are the jailers holding him to the realm of the effective world; and until he can loosen their shackles by conquering them through self-control, man will remain a slave unto their whims. It is through our senses that we pass judgment on conditions, persons, nations; not understanding the oneness of all with Cosmic Cause.

084 今日の人間の心を作り上げているのはこれら四つの大通りです。それらは人間を結果の世界の領域に閉じ込めている看守であり、人が自制によってそれらを克服し、彼らの足かせを緩めるまでは、人は彼らの気まぐれの奴隷のままに続けることでしょう。宇宙の因とともに全てとの一体を理解することなく、状況や人物、国家に対して裁きを下しているのは私達の感覚を通じてなのです。

【解説】

地球人を長年、この程度の文明に留めて来た原因は、感覚の奴隷として閉じ込められていることにあるということです。しかし、その直中にある私達は、そのことの重大性に気が付きません。地球という惑星においては誰もが同様な人生を送っており、感覚を抛り所とする生き方を送っているからです。

以前、「禁断の惑星」というSF映画がありましたが、その舞台は地球です。ストーリーの詳細は割愛しますが、ヒロインの父親の科学者が本人が気付かない心の奥で、娘を守りたいが為、感情が強烈な力を発揮して探検隊員を次々に襲ってしまうという話です。この映画の持つ意味は感情の力は実に強力であるということでしょう。

本書で学ばれている皆様は、私達が各々の感覚の反応（感情）に左右され、支配されていることが分かる筈です。この感情こそが問題で、私達は時として殺人を犯す程、感情に支配されがちです。これに対し、本項ではself-control（自制）によって状況を改善できると述べています。自分の感情や行動を自ら制すること、感覚反応を鎮めることが重要だと述べています。

「怒りは敵と思え」という言葉がありますが、心に「裁き」を抱かせず自己を冷静に保つことで、表面的な感覚に左右されることなく、より深遠な印象の世界が広がって来るということです。

085 Thus, if we're to become a peaceful unit within ourselves, we must constantly guard against these wayward senses, and subdue their criticism and prejudices; for these are the greatest causes of divisions in the family of human relations. Our personal judgments divide brother against brother - nation against nation.

085 ですから、もし私達が私達自身の内側で平和的な単位となるのであれば、私達はこれらわがままな諸感覚に対して常に監視していなければなりませんし、それらの発する批判や偏見を抑制しなければなりません。何故なら、これらは人間社会に分断をもたらす最大の原因となるからです。私達の個人的な裁きは兄弟に対して兄弟を、国家に対して国家を分断させるからです。

【解説】

「心一つに」という表現がありますが、私達はこれら4つの心の分身を互いに協力、調和する体制を作り上げる必要があります。その為には、心が共に従うべき存在、意識あるいは創造主の意志を最重要視することが必要です。より大いなる者に対する受容的な姿勢を通じて、各々の未熟さを知る訳です。

しかし、単なる憧れだけでは具体的な進歩に到達しません。日々の努力、少しずつの行動の積み重ねで各自は様々な体験を経て進歩して行けるというものです。逆に少しばかりの能力が生まれながらにして備わっていたからと言って、精進がなければ退歩、脱落は必定です。

私達は当面、日常的な各自の感覚反応を監視して、行き過ぎないか、裁きはないかを見張っている必要があります。中にはその監視をくぐり抜けていつの間にか感情の波に自らが流されてしまっていたということもあるでしょう。少しずつ、自分の理解できる範囲で、毎日少しずつ歩む他はありません。

お知らせ [2009-08-13]

大変残念なお知らせがあります。米国のマデリン・ロドファー夫人が、本年（2009年）5月26日にお亡くなりになったとのことです。本日、かねてより親交のあった熊本の友人から私に連絡がありました。皆様、御存知のようにマデリンさんはアダムスキー氏の最晩年にワシントンD.C.におけるアダムスキー氏の活動を支えた人物です。有名な近接撮影の8mmフィルムを撮影したり、アダムスキー氏の最期を見送る等、大きな貢献をされました。

大変、明るい人物で、私も1982年にお会いし、その帰りにマデリンさんの運転する車の窓越しにスカウトシップを目撃する等、大変印象深い思い出があります。マデリンさんからは多くのことを學ばせて戴きました。とりわけ、上空の宇宙兄妹達への信頼に基づいたあの明るさは、多くの日本人が學ぶべき側面であるように思っております。

いずれ機会があれば、改めて当時のインタビュー内容を皆様に公開したいと思っています。

なお、マデリンさんのお別れ会は8月23日に催されるとのことです

086 When I realized this, I began to school myself by utilizing the law of patience. Even though at first my senses did not understand this law, I knew through discipline they would eventually obey. And by the very fact of acknowledging that they were subject to a higher law, they would in time understand the purpose behind each act; the Cause, (or Creator) behind effect. Therefore, my first step must be to coordinate my sense reactions to a unity with, and understanding of - Cause.

086 私はこのことを悟った時、私は自分を忍耐の法則を使って訓練し始めました。最初は私の感覚達はこの法則を理解しませんでした。私には鍛練によってそれらは遂には従うようになることが分かっていました。そしてそれらがより高次の法則に従うことを自覚した事実によって、それらはやがて各々の行為の背後にある目的や結果の背後にある因、(創造主)を理解するようになるのです。ですから、私の最初のステップは私の持つ感覚の反応を、因との一体と因の理解に向けて調和の取れたものにしなければなりません。

【解説】

各感覚の訓練が必要だと、これまで述べて来ましたが、それではどのような面について訓練や学習が私達に必要なのでしょうか。生命の科学第1課にも同様な事柄が記述されてきますが、物事の背後にある原因、各創造物の存在の目的を知ろうと忍耐強く努力せよと本項では述べられています。

その一番の研究の対象は私達自身であるように思います。その日の感情がどのように身体の各細胞に影響を与えているか、精神的な原因と実際の体調となって表れる結果としての私達の身体の関係等、本人が最も良く分かっているからです。

また、各自の生涯を有意義なものとする為にも、研究対象は先ず私達自身にすべきことは良く分かります。各々自分の自我(心)とは長い付き合いです。その相棒を忍耐強く所定の方向に導くことは、自分の人生を豊かにするという、他には無い結果をもたらします。そしてその仕事は他の者では成し遂げられない各自の任務とも言えるのです。自らに向かって忍耐強くあれと本項は述べているのです。

087 To use the violin as an example: we all know the four strings of a violin must be tuned with delicate precision before the musician is able to bring forth the subtle harmonies that this instrument is capable of producing. The pitch of each string must harmonize perfectly with the other three. The four senses of man may be compared with the four strings of the violin; for he must attune these senses to work together as a unit in order to fulfill his true purpose in life. And, just as the violin can be used to play baser music, yet it can, under a master's hand, produce melodies to thrill the souls of men so the sense perceptions, turning from effect to Cosmic Cause, will extricate themselves from the mire of self-delusion. They will in this way break old thought-patterns and habits which express automatically through the senses. Carnal mind, being innately lazy, accepts the opinions our senses have formed through their contacts and experiences, never bothering to search for the true Cause behind all effect.

087 例としてバイオリンを用いることを考えましょう。私達は皆、バイオリンの4弦は演奏家がこの楽器が創りだせる精妙なハーモニーを生み出す為には事前に細心の精度で調律されなければならないことを知っています。各々の弦の調律は他の3弦と完全に調和されていなければなりません。人間の4つの感覚はバイオリンの4弦になぞらえるでしょう。何故なら人は人生における自分の真の目的を成就する為にはこれら感覚を一体となって共に働くよう調律しなければならないからです。そして、バイオリンが低レベルな音楽に用いられることができると同様に、巨匠の手の元では人の魂を震わせる程のメロディーを作り出すように、感覚の知覚が結果から宇宙の因に転向すれば、諸感覚は自己欺まんの泥沼から自身を解放することでしょう。諸感覚はこのようにして感覚を通じて自動的に表わして来た古い想念パターンや習慣を打ち壊すことでしょう。生まれながらに怠惰である肉欲の心は、全ての結果の背後にある真の因を求めようと煩わされることなく、自分の感覚が接触したり経験したりしたことを通じて各感覚が作り上げた意見を受け入れるのです。

【解説】

バイオリンは人に近い楽器であると以前、ある人から伺ったことがあります。よく見ると四つの弦があり、四つの感覚と似ていますし、演奏も身体と一体になって行われることもその理由と思われま

確かにこれら四弦がバイオリンの精妙な音色の源である訳で、私達の感覚も同様に各々が正しい調律を済ませれば、思いも寄らない世界を感知することでしょう。

同じ楽器でも演奏する者の力量によって生まれる音楽には大きな違いがあります。私達自身が自分の四感をどのように調律し、各自美しい音律を出すことが出来るかが問われている訳で、自らの感覚を調和ある状況に保ち、表に現れた現象のみでなく、あらゆるものの背後にある因を知覚しようと努力することの報いは大きいと本項では述べているのです。

088 Thinking deeply about all this, I asked myself, "Suppose I had sight so great that I could see television pictures without the aid of a television set. Suppose my hearing was so keen I could hear the beautiful music traveling through space from station to station without using a mechanical device. Would not my sight and hearing be developed into the fourth dimension?" I then turned my attention to the senses of taste and smell. Suppose I were able to taste the apple before it matured; or detect the fragrance of the flower before it blossomed; would I not have the senses of a superhuman.

088 これら全てのことを深く考えた後、私は以下の事柄を自分に問いかけました。「テレビの助けを借りずにテレビ映像を見ることが出来る程の大いなる視覚を持っていたとしたら。」「私の聴覚があまりに鋭敏なので機械装置を用いることなく放送局から放送局の間の空間を伝わる美しい音楽を聞くことが出来たとしたら。私の視覚や聴覚は四次元の中にまで発達出来ないであろうか？」次いで、私は自分の注意を味覚と嗅覚に転じました。私がりんごが未だ熟する前にそのリンゴの味を味わうことが出来たとしたら、或いは花が咲く前にその花の香りを嗅ぐことが出来たとしたら、私は超人の感覚を持つことになりはしないかと。

【解説】

本項では正しい訓練を受けた感覚が将来、どのような感受機能を持つかを例示しています。よく言われる例はオーラを見ることが出来る人は目で見える光の波長範囲が広いとされています。本項に書かれている具体的な事柄についての原理等は不明です。しかし、各感覚器官が現象のみでなく背後に息づく宇宙の創造力を知覚できるようになると、宇宙を流れる映像信号や音声出力の波動を認識できるようになるものと思われれます。丁度、パソコンで様々な形式の映像、音声ファイルが再現出来るのと同様です。

また、合せて未来予測も可能だとしています。花のつぼみの段階でこの花がどのように咲き、香りをもたらすかが分ってしまうとしています。これについては植物育種家のルーサー・バーバンクの逸話を思い出します。バーバンクは試験農場を見回りながら、いとも簡単に将来優れた品種になるものを選び分けていたとされています。彼にはそれらが将来どのように成長するかが分っていた訳です。

私達も各々自らの感覚を調和させ、あらゆるものの背後にある真の生命力に感謝し、与えられる印象を大切に等、訓練を続けることで、最後はこれらが可能になるまで進化するものと思われれます。

089 I received my answer direct. "All of these are your potential when the senses give up their individual will unto the Will of Feeling. For Feeling is the Cardinal Sense . . . the expression of Cosmic Cause flowing through your being."

089 自分の返事は直接受け取りました。「これらの全ては、諸感覚がそれら自身の意志をフィーリングの意志の前に捨て去る時に出現する貴方の可能性なのだ。何故ならフィーリングは基本的な感覚であり、貴方の存在を通じて流れる宇宙の因の表現であるからだ。」

【解説】

前項の種々にのぼる感覚の拡張機能は、十分可能であると本項では明言されています。私達の知覚力はこれまでの目に見える、音として耳に聞こえるものばかりでなく、幅広い因の領域にまで拡げられる潜在力を有しています。これは一見、従来目の機構、耳の仕組みと矛盾するようですが、私達の感覚が自らの意志を捨てて、素直に対象に向かう時、背後にある因から適切な印象を受け、その感受する領域が一挙に拡大するものと思われます。

本項では後段に「フィーリングの意志の前に感覚の意志を捨てよ」と述べています。仏教用語として喜捨という言葉がありますが、これまでその「捨てる」対象として、各自の所有物のみが強調され、物に支配されない生き方が主張されて来ました。しかし、ここで分かるように、その本題はむしろ、各自の感覚の意志を印象の前に捨てることこそが重要だと言うことです。言い替えれば、全ての生活を自分が感じた「印象」を最優先に送ることです。

090 I then knew that Feeling was truly the Master Builder who had formed this body of mine; and that it could build empires in the absence of the other four senses. From this conclusion, I saw that my mind was only reflecting and reacting according to my limited knowledge of life and its purpose.

090 そして私はフィーリングが実に私のこの身体を造った棟梁であること、またそれは他の四感が無い中で王国を造り上げることが出来ることを知りました。この得た結論から、私は自分の心は生命とその目的についての私の乏しい知識に応じて心が反映し反応しているに過ぎないことが分ったのです。

【解説】

ここのわずか数行に書かれている内容は二つの重要なポイントがあることに注目したいと思います。

第一は、フィーリングが私達の身体を具体的に造り上げた存在であるということです。これまでの学習から本書でいうフィーリングとはどのようなものを指すのか、ある程度のイメージは読者の皆さんの中にあるものと思います。しかし、私達地球人は生まれてからこの方、或いは以前の人生からも、このフィーリングの実体について正しい教えを受けることはありませんでした。ですから、早い段階でフィーリングとはどのようなものか、それをよく知ろうとする気持、即ち心の受け入れ体制が重要となります。

目をつぶり、あたりに物音がしない場所で、じっと端座すると自分が知らず知らずの間に息をし、心臓の鼓動も感じ取れます。この生命活動を糸口に、各自フィーリングに対するイメージを探究することが必要です。

第二は、本項では私達の心が生命とその目的に関して極めて乏しい知識しか持っていないとしていることです。注意したいのは乏しいのは生命とその目的に関することで、むしろ他の分野の知識は過剰である可能性が高いのです。つまり、片寄った知識状態を是正する必要があることとなります。生命に対する認識程度、自らも含めて各生命体が果たすべき役割等、私達がバランス良く発達する為に、もっと生命（いのち）に対する理解を共感を高める必要があるということです。

091 All of this has been verified by the space Brothers, for they have observed and evaluated these phases of human activity in relation to the Cosmos.

091 この全ては宇宙兄妹達によって事実であると確証されました。彼らは大宇宙との関係における人間活動のこれら側面を観察し評価して来たからです。

【解説】

宇宙兄妹達もこれまで述べられたことを、自ら学び取ったことを本項では述べています。つまりは、宇宙の真理は自ら学び取るものだと言うことができます。とかく、アダムスキー哲学を信奉する人は、アダムスキー氏の多くの著作から物事のエッセンスを学ぶ一方、とかく、その内容を憶えることで終る傾向があるので注意が必要です。自ら自然を観察し、掴んだ真理こそが本人の学習の成果であり、単に言葉の羅列では意味はありません。

私達の進む道は大変長く、遠いものであるように思います。しかし、私達自身の仕事は私達自身が進める他はありません。またその過程は創造主によって絶えず見守られており、時々に応じて支援の手も差し伸べられるように思われます。

一度に登り切ることは出来ません。むしろ理解できる範囲内で自らの現状を見極めることから、進歩の歩みが始まるように思います。

092 But before my contact with the Brothers, as I sincerely endeavored to progress, I realized it was imperative to coordinate my senses to harmonize with, and fully understand - Cause. For this Cosmic Intelligence is back of, and permeates, all manifestation. I am aware of the fact that I have stressed this point more than once. But this subjection of the dissenting sense perceptions is a major factor in controlling the mental processes.

092 しかし、宇宙兄妹達とのコンタクトの前から、私は進歩に向けて誠実に努力して来た結果、私は自分の感覚を因と調和し、完全に理解するよう統合させることが絶対に必要であると実感しました。何故なら宇宙の知性はあらゆる創造物の背後にあり、染み通っているからです。私はこれまで一度ならず、この要点を強調して来たことは分っています。しかし、異議を唱える感覚の知覚反応を制圧することは心の過程を制御する上での主要な要素なのです。（訳注：原文では再終行But this subjectionからthe mental processes.までは太字体で印刷されています。）

【解説】

古来より修養の必要性は数多く説かれて来ましたが、その根本は各自の四つの感覚反応をよく観察し、鎮め、因との関係を理解させることにありと率直に説いた例は、アダムスキー氏以外に聞いたことがありません。自分の心を見つめるということは具体的には、瞬間瞬間の各感覚反応を自ら観察することだと明言しているのです。

この境地に到達するまでには、アダムスキー氏自身、長年月の試行錯誤があったものと思われます。事実、アダムスキー氏が宇宙兄妹達と公式に会見した後、氏自身の教えが正しいことを宇宙兄妹達から確証を与えられたのが、氏が61才の頃ということになりますので、実に長年月の間、氏は独力で探究して来たこととなります。

自分との対峙は実に毎日、毎秒のことですので、その積み重ねが正しければ進歩の歩みも次第に早まるものと思います。その結果としてより健全な人生を歩める訳で、先ずは何を優先すべきか、何を常にコントロールすべきかを自ら明確にしなければなりません。そうするとそれらの態勢がやがて自然に行えるようになり、宇宙の調和の中に伸び伸び生きると同時に、その人の人生も進歩に向かう着実な歩みを見せることとなります。

093 Fully realizing that my next step must be the disciplining of my senses and the observation of impressions received by my mind, I decided on a definite plan to follow, a sort of mental ledger. On one side I placed all thoughts received throughout the day that were of a personal nature; and on the other side I recorded the universal thoughts upon which I had acted. At the end of each day I would tally my score to decide whether limiting, personal opinions, or universal insight had governed the day.

093 そのことを完全に理解した後、私の次なるステップは私の諸感覚の鍛練と私の心によって感受された諸印象の観察である筈で、私はある種の精神面の取引記録という追うべき明確なプランを決めました。片方には一日を通じて個人的な性質であった想念の全てを置き、もう一方には私は私が行動した宇宙的な想念を記録しました。毎日の終わりに私は限界がある個人的な意見か、宇宙的な洞察がその日を支配したかを決着する為、得点を集計することとしました。

【解説】

本項はいわゆる日本で「想念観察ノート」と呼ばれていることについての記述です。各感覚から成り立っている私達の感覚の心 (Sense Mind、センスマインド) の実態を把握すること、またその観察を通じてその元となる各感覚を鍛練することがこれを通じて達成することが出来るとしています。

実際には感受する想念は時に膨大な数となりますので、一つ一つノートに記載する作業は容易ではないと思われまゝです。私自身は過去に何度か試みましたが、このような記録を付ける作業は途中で頓挫したままになっています。しかし、重要なのは各感覚反応を観察することであり、それによって自分の心の実態が良く分かります。また、良し悪しを断ずることなく、観察を続けることで自然と全体は良い方向にシフトして行くことは、私のささやかな経験からも分かります。

ネパールのチベット仏教の寺院では寺院の最上部の壁に目が描かれているそうです。宇宙を見通すこの目は同時に人々を見て人々の心を観察するかのようです。また、「観世」という言葉もありますが、これも同様に人間の心や行動を観察する仏の姿勢を表わしています。想念の観察には、より良い方向を気付け、導く大いなる力を持っているのです。

094 This called for a great deal of patience; but I was finally able to train my senses to listen so they could receive impressions without question. Admittedly, this was most difficult to do, for the old thought-patterns insistently reappeared and gave their interpretations to my mind. But as I continue to gain control over my sense-mind, my impressions became more distinct; containing an increasing number of thoughts of a universal nature, with less involvement in personal opinions.

094 これは非常に多くの忍耐を要しましたが、私は最後は自分の諸感覚を疑義を差し挟むことなく印象を受け取れるよう耳を傾けられるように訓練することが出来ました。正直なところ、これを為すのは最も難しいことでした。何故なら古い想念のパターンがしつこく現れ、私の心に彼らの解釈を与えたからです。しかし、私が私の感覚心に対しコントロールを掛け続けた結果、私の受ける印象はより明白なものになり、個人的な意見についてはますます含まなくなる一方、宇宙的な性質の印象はますます数を増して来たのです。

【解説】

よく「無心で〇〇をする」という表現を聞きますが、それは「心が自分の意見を持たず、余計な反応を掻き立てる余地なく印象をひたすら受け入れ、それに基づき同時に行動する境地」を指すものと考えます。本項で述べていることも「疑問や解釈、判断、批評等」を行うことなく、印象に率直に耳を傾け、感覚自体の反応を鎮めることが重要だとしているのです。

そうすることで私達が感受する印象はよりはっきりしたものになって行く、即ち、私達の感受性は高まるとしています。これらの状況は地球においては大人になるにつれ、逆に衰え、鈍感になって来ているように思います。毎日毎日の記憶、感動した時の印象等、年齢とともにまばらなものになり、習慣性は高まる一方で、新しいものへの感受性は退化しているのが実態です。

これに対しては努めて今までの習慣的想念を捨て、これまでの志向性を脱ぎ捨てて、常に新しい側面を取り入れ開発することが望まれます。かつて一遍上人が熊野本宮で阿弥陀如来から夢で「信不信をえらばず、浄不浄をきはらず、その札をくばるべし」とのお告げを受けましたが、その中にも本項と同様、「相手に対して感覚自体の反応や批評を行わず、ひたすらメッセージを伝えるべし」とする、遠く鎌倉時代に発せられた宇宙からの印象があったものと思われます。ちなみにその一遍上人は詩人、坂村真民も着目し著作（「一遍上人語録 捨て果てて」（大蔵出版 1994年））を残しております。私は「捨て果てて」という一遍上人の言葉の真意は、この感覚の勝手な意見を全て捨て去ることを指すものと思っています。自分を無にすることの重要性を本項は述べているのです。

お知らせ [2009-08-26]

明日から今週いっぱい、再び夏休みを取る予定です。再開は週明けの予定です。

095 I then turned to analyzing what impressions were, and found many of them to be what we classify as thoughts; our conscious thoughts, as well as the commands our minds are constantly transmitting to the various parts of our bodies.

095 私は次に向きを変えて印象類が何であるかを分析することにしましたが、その結果、それらの多くが私達が分類上想念とするもの、私達の意識に浮ぶ想念類であるとともに、私達の心が私達の身体の様々な部分に絶えず発している指令であることが分かりました。

【解説】

想念観察の難しさは観察する者と観察される者とが同一であるからのように思われます。おそらく観察に成功すれば本項に書かれているように、沸き起る印象（想念）の出所を分析できるようになることでしょう。しかし、私も含め多くの方にとって、いざ観察をしようと身構えると想念は引っ込んでしまって何も見つからないというような現象が起りがちです。それは海辺の砂浜に多数のカニが棲んでいる状況に似ています。人が来ると慌てて砂の穴の中に身を隠しますが、人が去った後は砂浜で皆活発に動き回る光景です。各々が自分の身を守ろうとする習性があるということです。

しかし、私達は自分の正体を見極めなくてはなりません。その為には、互いの緊張関係を無くし、ある程度は和やかに互いに包み隠さずありのままの姿を見せあう、リラックスした関係になることが大切です。たとえ観察の結果、自分の汚い部分が見えたとしても、それは長年月歩んだ人生航路の中で身に着いてしまったものですし、やむを得ません。少しずつ綺麗にして行けば良いことです。大事なのはありのままの自分を素直に見詰め、自身の実態を先ずは知ることだと考えています。

096 For instance: you are reading. When you reach the bottom of the page you will turn it and continue to read. Yet, before your hand made the slightest move to turn the page, your mind first had to formulate the thought, "This is the end of the page. Turn it and continue reading the next."

096 例えば、貴方が本を読んでいるとします。貴方がそのページの最後に到達したら、貴方はページをめくり、次を読み続けるでしょう。しかし、貴方の手がページを返そうとわずかな動きをする前に、貴方の心は最初にその想念を形作る必要がありました。「ページの終わりだ。ページを返して次を読み続けよう」と。

【解説】

心や肉体の行動の一部始終を指令し、支配しています。また肉体はその心の指令に従っています。これら日常的な行動について私達はその過程を自覚することなく過ごしている訳です。

しかし、心の実態を把握する為には、時としてどのようなことが起っているのか、私達はしっかり把握する必要があります。つまり、心が発する想念の実態とそれが行動として表現される時の肉体各部の呼応状況を知ることです。そうする中で想念が実は万物に作用し、諸々の実現力を持つことも分かることでしょう。つまり、各自が望むことは遠からず実現するということでもあります。

先日、休みに尾瀬を散策して来ましたが、私にとって新しいルートとなる山道を進んだ時、前方に立ち上がる急峻な坂に出会いました。目は「とても行けない、引き返そう」と訴えますが、落ち着いて、恐れる目を遠くを見て恐れるのではなく、目の前の限られた場所のみを見ることがとし、一步一步安全な足場を確保しながらゆっくり進めば、意外にこれらの難所を越えられることが分かりました。ゆっくりした一歩ですが、着実な一歩を積み重ねれば、一見大きいと思える問題に対しても解決できることを体験できました。心に対する毎日の発見こそが、重要な意味を持つように思います。

097 Normally, we are not aware of these thoughts; and we would indeed live in a slow-motion world if every action had to be expressed consciously in this manner. Yet no movement or action is possible without first having a blueprint drawn and an order given. The command for every physical move must first be a thought in the mind.

097 普通、私達はこれらの想念には気が付きません。また、もし一つ一つの行動が、このように意識的に表現されなければならないとしたら、私達は確かにスローモーションの世界に生きることになってしまいます。しかし、最初に青写真があり、指令が与えられなければ、どんな行動も不可能です。あらゆる肉体の動きに対する指令は最初に心の中の想念でなければならないのです。

【解説】

ここで述べられていることは、私達のあらゆる行動には、事前に計画があり、それを起動する指令が有ってはじめて行われるということです。それら一つ一つを確認しながら行っていると、動物のナマケモノのようにゆっくりした行動となってしまいます。通常、これらは半ば自動的に行われている訳です。

しかし、注意したいのは、これらはやがて習慣となることです。特段、考えも無しに毎日を過ごしていれば、行動はスムーズになりますが、何ら記憶に残らない状況に陥ります。十年一昔の例えのように、習慣に埋没することは大いに嫌うべきです。

そういう意味では、例え毎日、決まりきった仕事を行わなければならないとしても、何らかの工夫、新しい発見を探す、新しい側面に挑戦する等、自由で習慣に縛られない生き方が求められています。そうした新鮮さが若さの原動力だとアダムスキー氏も述べているところです。毎日の生活の中で自分の心と身体の中で、どのような反応が起っているか、興味深く観察し、行動に実現させることが望まれています。

098 As we mature, orders from the brain come automatically; but watch a baby learning to walk. His first attempts are made through the conscious effort of placing one foot before the other. Analyze your own movements. Say your hand has just reached up to brush a hair back from your forehead. You will find when you trace the action that you were first aware of a tickling feeling on the skin. If you analyze this action carefully enough, you will discover that the message telling of the tickling sensation was sent to the brain, which then gave the order to the hand to reach up and brush the hair away. Through habit, most actions become sense reactions; but our so-called sense reactions are intelligently controlled. The things we do now with no conscious thought, were major projects at one time in our development.

098 私達は成長するにつれ、脳からの指令は自動的に来るようになりますが、赤ん坊が歩くことを学ぶのを観察してご覧下さい。彼の最初の試みはもう一方の足の前に別の足を置こうとする意識的努力を通じて行われます。貴方自身の行為を分析して下さい。例えば貴方の手が貴方の額から後ろに髪を撫でようと今、手を伸ばしたとします。貴方がその行為を振り返る時、貴方は最初、頭皮にくすぐったい感じがしたことに気付くでしょう。もしこの行為を注意深く分析するなら、貴方はくすぐったい刺激を伝えるメッセージが脳に送られ、次に脳が手に手を伸ばして髪を後ろに撫でよう命じたことを発見することでしょう。習慣からほとんどの行為は感覚の反応になっています。しかし、私達のいわゆる感覚反応は知性的な制御を受けているのです。私達が今日、何ら意識的想念を持たずにやっている物事は私達の発達過程の中では一時期、主要な事業であった訳です。

【解説】

私達の脳が身体各部の動きを制御していることは、脳硬塞等で半身に麻痺が及んでしまった方のリハビリの苦労を見ればよく分かります。不自由になった手足そのものには何ら不都合はないのですが、本項で言う指令を司る脳の一部が損傷を受けたため、このような状況に至ってしまったのです。

一つ一つの行為にも身体各部からのメッセージのやりとりがあり、呼応する肉体各部が正常な機能を果たせることで成り立っています。私自身、以前、怪我で左膝を痛め、二ヵ月間休職したこともありました。その間はギブスで左足全体が固定され、大変不自由な生活でしたが、その後は二ヵ月間動かさなかった左足を徐々に回復させるリハビリに苦労したことを覚えています。

日常的に何らかの形で肉体各部が動いていることも大切です。絶えず想念や印象を取り入れ、人体を活動させ、人体内を活発な状況にしておくことも肉体を維持する上で必須な条件のようです。

099 This, of course, is but one level of impressions, yet one that is very important for man to understand; for it illustrates the dependency of all life upon thought, or intelligence. It is from this level of impressions that many carnal minds form their limited, opinionated, thought-patterns or habits.

099 このことはもちろん、印象の一つのレベルでしかありませんが、人にとっては全ての生命が想念、あるいは知性に依存していることを理解するという点で大変重要な所です。多くの肉欲の心がそれらの限界に満ちた、頑迷な想念パターン類、或いは習慣を作り出すのはこのレベルの印象類からなのです。

【解説】

ここで著者が述べたいことは、私達が意識するしないにかかわらず、私達の行動の全てが、感覚からの想念（情報）を受けて心が身体に指令を出した結果として為されるということです。心が発する指令が想念として分類できるものかは分かりませんが、少なくとも実現力のある命令であることは分かります。

しかし残念ながら、これらの事柄は最低のレベルである訳です。感覚が発する好き嫌いや品定め傾向は、現実に低次元なレベルの想念（印象）しか発することはありません。その想念に基づく私達の行動は多くの問題を引き起こすこととなります。

一方、これら感覚を鎮め、本来の姿勢に矯正することによって、少しずつではありますが、私達の感覚も変容して来るでしょうし、また取扱う印象もより高次なものとなる筈です。それまでは各自の感覚が発する反応を観察、監視することが大切です。

100 In Nature, this urge for action comes directly from the Cosmic Cause of all creation. She does not arbitrarily try to grow a pine tree from an apple seed, but follows the archetype set down by the Creator. Therefore, the universe moves in orderly manifestation of creation and recreation.

100 自然においては、行動に対するこの衝動は全創造物の宇宙的因から直接やって来ます。自然は勝手にリンゴの種から松ノ木を育てようとはせず、創造主によってセットされた原型に従うのです。ですから、宇宙は創造と再創造の秩序ある現れの中で動いているのです。

【解説】

決まりきった習慣的な、また問題のある私達の感覚からの印象に代えて、本項に記されているように、全てを知る宇宙の因から直接、印象（インスピレーション）を受けることが出来れば、どんなに素晴らしいことでしょう。

多くの芸術家は、このようにしてこれら宇宙の因と繋がる印象を、形あるものとして地上に作品を具現化した訳です。原理は同じでも感覚からの印象と宇宙の因からの印象には雲泥の違いがあり、私達は先ずは自らの感覚の前に宇宙の因、創造主の意図に忠実である必要があります。かつてイタリア、アッシジの聖フランシスコは着物も住い、所持品を全て投げ捨てて、ひたすらイエス・キリストに倣おうとしたとされています。多くの逸話が残る中で、フランチェスコは鳥達と語らうことが出来たとされています。まさに万物と会話するというテレパシー能力を示唆しているものです。

私達は決して特異な修業を行うことはありませんが、日々の生活の合間から、この宇宙の因に心が気付くようになりたいと願うことも大切です。

101 We, too, are under this law. That is why we are driven by an inner urge to strive beyond our present limitations toward a higher understanding.

101 私達もまた、この法則の下にいます。それが私達が、より高次な理解に向かって自分達の現在の限界を越えようと努力するよう内なる衝動によって促される理由です。

【解説】

私達の生きる目的とは何かについて、本項は明確に示しています。生命に対するより深い理解を得る為に、私達は日々の生活を通じて、より高いレベルを目指して努力しているということです。また、その成果には、他者を導く為に役立つ作品を現すことも含まれることでしょう。世の中の芸術の類いや建造物、その他文学に至るまで、他者に役立つものを残すことは、私達の本来の仕事です。

これらを可能とするのが、本項で言う、内なる衝動です。これらの出所は宇宙の深遠なる場所で、それらは誰にも無償で与えられている創造主からのメッセージである訳で、その持つ潜在力に気付けば、それを容易に現実化させられます。その為にも、その衝動に対して、何ら抵抗せず、素直に受け入れ、自ら行動して見ることです。その結果、たとえわずかずつでも実行し、対応する成果が得られることが分かれば、その法則性を知り、ますます人は印象（フィーリング）に従った生活を送るようになることでしょう。

CHAPTER IV

Thought As Energy

102 This clearer understanding of the basic working of my mind, awakened me to the realization that impressions came through many different channels. It would now be necessary for me to study each one carefully to see whether it stemmed from a carnal origin, known as effect to effect, or if it were a truly Cosmic impression; coming from the Cosmic Cause to the pure Cause (or Force) within me.

第4章

エネルギーとしての想念

102 私の心の基本的な働きに関するこのより明確な理解は、私に印象類というものは様々に異なるチャンネルからやって来ることを悟らせることとなりました。私にとって、個々の印象を注意深く、それがいわゆる結果から結果として知られるように、肉欲に起原があるのか、或いは真実、宇宙の因から私の中にある純粋は因（或いはフォース）にやって来たものであるかを研究することが今や必要となるでしょう。

【解説】

本項から第1部の最終章にあたる第4章に入ります。前章では人間の四感の間の葛藤や、人間が行動する時に印象や想念が発生してから脳を仲介として、心が個々の筋肉に指令して、具体的な行動に移るまでの各段階を経てはじめて行動として表わされること等を学びました。

本章では、その行為の源となる想念の持つ力（エネルギー）について学びます。

これまでも様々な所で学んで来たように、想念には力があります。それは直ちにスプーンを曲げたり、カードの裏の数字を言い当てたりすることよりも、私達にとってより重要なのは、それが実現力を持って空間に放射されるということでしょう。つまり、どのような考えであれ、自分が抱いた想念は遅かれ早かれ具現化する力を持っているということです。それに要する時間の長短はあるにせよ、想念には結果の世界に対して、現実化する潜在力があることに留意しなければなりません。

従って、そのような想念を抱くか、どのような想念を受け入れるかが大変重要なことなのです。人の人生を大きく変えてしまうのが、日頃の想念の在り方です。既に私達は4つの感覚が各々裁きに満ちた想念を発していることを学びました。それは本項でいる「結果から結果への」想念に属するものです。しかし、一方、インスピレーション（啓示）等で表現されるように、宇宙の因から私達に降り注ぐ恩寵の想念も多く存在します。私達は各自の感覚を修練する一方で、これら創造主からのメッセージにより多くの関心を持つ必要があります。一日一日の精進がその人を形作って行くことに間違いはありません。

進歩の道を歩むことが各自に期待されているのです。

103 As we take up the subject of telepathy, or thought-transference, we must learn something of thought itself. To do this requires an understanding of the universe in which we live, for man is a product of Nature; and in his natural mental state, aligns himself with its laws either consciously or unconsciously.

103 私達がテレパシー、想念移動の課題を取り上げる際、私達は想念自体についての事柄を学ばなければなりません。これを為すためには、私達が住む宇宙についての理解が必要です。何故なら、人は大自然の産物であるからです。そして人は自然な精神状態において、意識的或いは無意識に自分自身をこの諸法則に従わせるのです。

【解説】

先ずは私達の目標は、「想念」を捕らえることから始まるということでしょう。これを為すには、自分自身を冷静に観察し、湧き起こる想念を認識する必要があります。その上で、前項（102）で示されたように、どれが感覚が作り出した意味の無い勝手な意見なのか、深遠なる宇宙の中心から私達にもたらされたインスピレーションなのかを識別することが重要となります。その為には、ある程度、冷静に自分を見つめる余裕を持って日常を送ることになります。

一方、私達自身も、その本質は創造物の最高位に位置付けられる程の潜在力を持っており、基本的には宇宙の創造主の法則に沿って生きようとしている訳です。もっともそうでなければ、とうの昔に人類は地球から滅びてしまった筈です。自分の中に宇宙の源泉を志向する傾向があることは、創造物とその創造主を求めることと同じです。

104 To the best of man's knowledge, the universe is composed of three things: Intelligence . . . Force . . . Form. I have used the term intelligence here for lack of a better word. No language on earth possesses descriptive powers to define the true meaning of Cosmic Intelligence. We simply know that out of this Supreme Intelligence emerges all manifestation. Force and Form can be measured; one as an impulse, or energy; the other as a manifestation, or form. But the Creator of both, the Father principle in Christianity, is beyond the comprehension of mortal mind to understand.

104 人間の知る限り、宇宙は三つのものから成り立っています。知性、力、そして形です。私は知性という言葉了他により良い言葉が無い為に使って来ました。地球上の如何なる言語も宇宙英知の真の意味を定義できる表現力を持ってはいません。私達は単に、この至上なる知性から全ての創造物が出現したことを知っているだけです。力と形は計ることが出来ます。前者は衝動、或いはエネルギーとして、後者は現出した創造物、あるいは形としてです。しかし、両者の創造主であるキリスト教で言う父性原理は人間の心の理解を超えた存在なのです。

【解説】

本項で当たり前のように述べられている「知性」、「力」、「形あるもの」の3要素ですが、通常、私達はこの最後の「形」（物質）については、ある程度掌握しているものの、他の2つに気付くことは極めて少ないのではないのでしょうか。時折、雲の動きや大洋の波のうねりからエネルギーの存在に気付くのみです。私達の多くは形あるものを通じて現れる「力」（エネルギー）を見て、物質の奥に流れる生命力を知覚したと思っているのです。

ここで重要なのは、実はその力や形の奥に、それらを指揮する頭脳とも言うべき知性の存在があると著者アダムスキー氏が言っていることです。つまりは現象界にあるあらゆるものを生み出したのが、その知性だと言っているのです。つまりは、私達は宝石や芸術作品をめぐるように、創造物、つまり形あるものを大切にすることは出来ますし、古来から雷神を祀るように自然界の強烈なパワーを恐れ敬って来ました。しかし、これらの贈り主である宇宙の知性に対して、どれ程の関心を抱いて来たのかは疑問です。

広大は宇宙全体にも及ぶ全ての創造物をこの世に生み出した知性に、より以上の関心を抱き、その知性を少しでも理解しようとする姿勢が必要だと言うことです。

105 Of universal force we know little except that it has two fields of action; attraction and repulsion. These are transformed into energy, which pervades all substance, or form. We recognize force only by the effect of its actions, which in mechanical fields is known as energy; and in psychological studies as thought, emotion, etc.

105 私達は宇宙の力について、只、それが引力と斥力という二つの行動の場を持っているということ以外、ほとんど知ってはおりません。これらの場はエネルギーに変換され、全ての物質、或いは形に行き渡っています。私達は力をその行動の結果から認識するだけであり、その力は機械分野ではエネルギーとして、心理学の研究においては想念や衝動等として知られています。

【解説】

本項では前項（104）を受けて、宇宙の3要素の一つ、「力」（フォース）について述べています。

その「力」なるものは、引力と斥力の二つから成り、それらがエネルギーに変換されるのだとしています。力を「引力と斥力」に二分することは、東洋の「陰陽」にも通じるもので、これら二つの要素があって初めてエネルギーが生まれるということでしょう。磁石のN極、S極の作用と同じです。

問題は、これらの引力と斥力の変換先が、精神面では想念衝動を示すとしていることです。これについては、目下、明確な答えを持ち合わせていませんが、少なくとも想念を波動として捉えれば、その波動伝播について、若干のイメージは描くことが出来ます。即ち、水面に波紋が広がる様子を想定します。エネルギーとしての波動は次々に外側に波が広がって行く様子から、エネルギーが伝播する状況が分かりますが、その伝播は波に沿って水が移動する訳ではなく、あくまで水の分子はその場で上下に運動するだけで、波のエネルギーを後続に伝えているに過ぎません。水の分子が上下に運動することで全体としては、波のエネルギーを放射させている訳です。おそらく、想念についても同様に、これら引力と斥玉からなるエネルギーが何らかの媒体を通じて、伝わるものと考えられます。

106 It is this force that brings into existence, and activates, the atoms of form. But form in this sense is not confined to visible manifestation alone; for the same atoms which make up solid substance, also make up the elements of space. To our present knowledge, there are some hundred odd elements; out of which innumerable compounds and compositions are created. We are living in what could rightly be called a chemical universe; conceived out of Intelligence, and perpetuated by Force. Each manifestation we see about us is the effect of chemical action and reaction. Light, heat, sound, growth and disintegration, are all chemical actions. And believe it or not . . . thought is also a chemical action!

106 形有るものの原子達をこの世に存在させ、活性化させているのはこの力なのです。しかし、この形有るものという意味は目に見える創造物だけに限定されてはいません。何故なら、硬い物質を造り上げる同じ原子達が、宇宙の諸要素を造り上げているからです。私達の現在の知識では、百余りの元素がありますが、その中から無数の化合物と複合物が造り出されています。私達は正しく化学的宇宙と言うべき中で暮らしているのです。即ち、知性の中から生まれ、力によって永続されているのです。私達が目にする個々の創造物は化学的活動と反応の結果です。光、熱、音、生長や分解は全て化学的反応です。そして信じないかも知れませんが、想念もまた、化学反応なのです。

【解説】

物質世界を構成する分子原子の存在を支え、それらの間の反応を指揮しているのが力（フォース）であるとしています。ここで注意したいのは、この「力（フォース）」という言葉は、映画「スターウォーズ」にも出て来ますが、決して超常的な面は無いということです。確かに私達から見れば、その働きは怖れ敬う存在ではありますが、本項はそれらの活動を化学反応だと分析しているのです。つまりは所定の法則の下、物質をベースとして行われる自然界の化学変化であると解説している訳です。

生物の体内では各部からの様々な情報を化学物質のやり取りで伝達すると言われていています。これらのメッセージが樹液や血液に溶出して全身に行き渡るとすれば、想念が身体全体に大きな影響を与えていることが分かります。私達の身体と宇宙とがこの物質元素を通して一体になっていることを自覚することが大切です。言い替えれば全ての現象の背後には物質の化学変化、反応過程があるということです。生命そのものも化学的なものだと認識する必要があるということです。

107 We cannot explain Primal Creation from the effects we see about us, neither can we explain the creation of thought except as an activity brought about by the law of affinity. We do not know what causes certain attracting and repelling actions. We must simply accept the fact that such a law exists, and that it does command the combination of chemicals to create a form of energy. It is an aggressive force which radiates in all directions, causing pressure upon the surrounding force-space, thereby creating waves in that element.

107 私達は、私達の周りで目にする諸結果から、原始の創造を説明することは出来ません。想念の創造を親和の法則によってもたらされる活動という以外に言い表わすことは出来ません。私達はある種の引力と斥力が何によってもたらされるのか知りません。私達は単純に、このような法則が存在し、それがエネルギーの形を造り出す為、化学物質の組み合わせを命じているという事実を受け入れなければなりません。それはあらゆる方向に放射する積極的な力であり、周囲の力の空間に対し、圧力を生じさせ、それによってその要素に波を作り上げるのです。

【解説】

本項では創造の過程をイメージさせるような記述がされています。即ち、私達は宇宙空間に浮かぶ水面のようなものとします。そこに本項で言う原始の創造の力が宇宙の源泉からやって来ます。私達の体内をそれらが通過する時、私達は体内で起った原子の変化に気が付きます。それは想念或いはアイデアとして心に認識されます。

また、その反応は確かな影響力を持っていて、周囲にそのメッセージを体現して行くこととなります。もし、この宇宙の源泉との親和力が高まれば、より多くのメッセージを感受できることとなり、やがてはそれら宇宙の想念を自ら体現する者となるように思われます。

以上のような内容を、著者アダムスキー氏は述べているように思われます。

108 All thought registers as a vibration, in space. When thought is given to audible expression it create a pitch, or frequency, relative to itself. This same law applies to silent thoughts, for they, too, have a definite vibratory rate which registers upon the sensitive plate of space.

108 あらゆる想念は宇宙の中では振動として記録されます。想念が耳に聞こえる表現として与えられる時には、それはそれ自身に比例した音の高低即ち周波数を造り上げます。これと同じ法則が無言なる諸想念にも適用されます。それらもまた、宇宙の感光板に登録される明確なる振動率を有しているからです。

【解説】

前項（107）にあるように、想念が何処から来るものか、私達にはよく分かりませんが、その想念自体は振動であり、各々特有の振動数を有しているとしています。これら想念の振動は空間に満遍なく広がる形で放射され、接した先々で具体的な作用をもたらすということです。

それは本項では感光板に当たった際の画像の記録のように表現されていますが、今日的には各家の衛星放送のパラボラアンテナが宇宙から降り注ぐ放送電波を受信しようとしていることと似ています。耳に聞こえず、目に見えない電波ですが、ひとたび各自がその真のメッセージを解読できれば、ハイビジョンの映像を楽しむこととなります。

多くの家で衛星放送のアンテナが同じ方向に向けてセットされている光景を見るにつけ、実に多くの人々が宇宙からのメッセージを受けたいとしているように思えてしまいます。

109 Thought is not sent out in one straight line as a bullet travels from the barrel of a gun. It goes out in billions of straight lines in all directions. We may imagine a thought as a spark of light, with radiations extending as an equal force in all directions; giving the impression of a sphere at any point of its expansion. And like light, a thought vibration once created, will extend indefinitely unless intercepted by some object capable of absorbing and dissipating that particular ray of energy.

109 想念は鉄砲の銃身から打ち出される弾丸のように一本の直線として送りだされるのではありません。想念はあらゆる方向に向けた何十億の直線のように外に出て行くのです。私達は光のスパークのように拡大する過程のどの地点でも球体に見えるような、あらゆる方向に等しい力を広げながら拡大するものとして想念を想像しても良いかと思えます。そして光のように、一旦造り出された想念波動は、そのエネルギー光線を吸収し、消失することが出来る物体によって遮られない限り、無限に広がって行くのです。

【解説】

重要なのは、想念は発信者からあらゆる方向に放射状に広がって行くということでしょう。仮にある特定な対象に向けて想念を発したとしても、それはその他のものにも等しく放射されるということです。従って想いは本来、隠すことは出来ないものであり、他人が思うことも容易にキャッチ出来ることになります。また、想念は宇宙に広がって行き、それが通過する際に、誰にでも感知され、実行に移される可能性があります。よく、発明や発見が世界同時的に起ることがありますが、人々に浮かぶ発想は、他の人にも感知される良い例かと思えます。

そうなると、私達が発する想念は、よほど注意が必要であることが分かります。単に自身の肉体に影響を及ぼすのみならず、その想念が人と接する広範囲な場所で同様な影響を与える可能性が高いからです。良い想念は見知らぬ人々にも良い影響を与えますが、逆に劣悪な想念は宇宙全体に悪影響をもたらす可能性もあるからです。

他惑星社会においては、これら良質な想念が響き合っている訳ですから、その作用は計り知れないレベルであると思われます。一方、地球においては怒りや憎しみの想念も多数生まれておりますので、その中でそれらに影響されず正しく生きることは容易ではありません。学習者にとっては、格好のトレーニングの場となっているということです。

110 The question will now arise; if thought is merely a ray of energy produced by chemical action, what is mind?

110 そこで質問が上がるでしょう。もし、想念が化学反応によって造り出された単なるエネルギーの光線だとすれば、心は何であるかと。

【解説】

各自の生活、ひいては生涯に及ぼす影響が大きいのは心の状態です。同じ状況や環境に対しても、悲観的に見るのか、楽観的に過ごすのか、或いは何ら無頓着に気付かぬまま過ごすか等、心の有り様は様々です。これまで想念の伝播や伝播した際の作用について学んで来ましたが、心そのものについて改めて問いかけをしているのが、本項です。

私達が想念を発する時、ふとアイデアがひらめく時、その想念は私達の心によって捉えられた状態と言えるかも知れません。これら想念を受信すること、また受信した想念を再び増幅して放出するのも心の作用だと思われまます。このように心はこれまで学んだように、感覚からの反応を増幅する機能や通過する想念をキャッチする機能を持つ受信器であり、どのような種類の想念を好むかによっても感受性に違いが出ているように思います。

アダムスキー氏が心をどのようなものだと解説しているかは、次項以降に学びます。

111 Mind is the medium by which thought is carried from one point to another. Common reasoning tells us that it is impossible for any vehicle, whether it be of vibration or matter, to travel from place to place without a medium of transference. Science, in its study of electrical energy, and light and sound waves, acknowledges various agencies of transference. The medium of light transmission they have named ether. While admitting they do not know the character of ether, science is sure of its existence and certain of the fact that it is diffused throughout all substance; that it pervades all space, and is capable of handing on undulations of various types from one point to another. Yet the only proof they have of the reality of ether, is the effect produced.

111 心は想念が一点から他の地点に運ばれる媒体なのです。一般的な推論では、振動であれ物質であれ、どんな乗り物も移動の媒体が無ければ、ある場所から別の場所に移動することは不可能だとしています。電気エネルギーや光、音波を研究する科学は、様々な移動媒体の存在を認めています。光の伝達の媒体を、彼らはエーテルと名付けました。エーテルの性質を知らないことを認める一方で、科学はその存在とそれが全ての物質に拡散浸透している事実については確信しています。即ち、それが全宇宙に行き渡り、一点から他の地点に向かう様々なタイプの波動を取扱うことができるということです。しかも、彼らが手にしているエーテルの事実に関する唯一の証拠は作り出された結果に過ぎません。

【解説】

心によって想念が伝わるということは、心は単に身体のある特定部位に限定して存在するのではなく、身体を含めた広い空間に拡がっていることを意味します。そうすると「想念が伝わる」「想いに気付く」ということは、私の心が他の者の心に接する状況になっており、その中を想念が伝達することになります。

こうなると、私達の心は相当の距離まで放射状に拡がっていることになり、その状況は仏像の光背どころではない大きさになります。このように外部に拡がった互いの心が接し、想念波動がうまく伝達する時、「想いが伝わる」ということになる訳です。その為には、一方の心と他の心がある程度、融合できる体制が必要な気がします。遠距離からの想念が届く場合には、どんなに遠距離であっても発信者と受信者の心が繋がっている必要があるように思います。

112 In like manner, because we have abundant proof of the transmission of thought from a distance, we must admit a universal medium for thought transmittance. We cannot define the characteristics or composition of mind, we only know from effect that, like ether, mind permeates all space and all substance; and that it is capable of passing through itself those thought-waves which are so much finer than the vibrations of light. Whatever mind is, it must be composed of highly charged particles; and, except for fineness of character, be much like the more concentrated substance composing material forms. For only by means of a relay, can energy be carried from place to place.

112 これと同様に、私達も遠方からの想念の伝達に関する豊富な証拠を持っておりますので、私達は想念伝達に対して宇宙に広がる媒体の存在を認めなければなりません。私達は心の諸性質や構成を定義することは出来ず、只、エーテルのように心が全ての宇宙空間と物質に浸透していることを知っているのみです。また、それが光の振動よりもはるかに微細なそれら想念波動をそれ自身を通して通過させられることもです。心が何物であれ、それは高電位に荷電した粒子群から構成されているに違いありません。そして、それが繊細な性格であることを除けば、物体を構成するより濃密化した物質に近いに違いありません。何故なら、リレーの手法によってのみ、エネルギーは場所から場所に運ばれ得るからです。

【解説】

本項で私達の心が空間や物質に浸透しているという点について注目したいと思います。例えば、自然観察において、野外の動植物を見たとします。その際、その対象物に親近感が湧き、何らかの印象を受けた場合には、本項によれば、私の心と対象物の心が融合していることを意味します。

つまり、文字通り、心を通わせなければ、互いの暗黙の意思は繋がりません。また、相手を受け入れることの真の意味は、相手から放射される心の粒子に対して反発、拒絶することなく、融合的態度で受け入れることであることが分かります。この目に見えない互いが放射する心の拡がり同士の相互関係が、物質にも身体自身にも大きな影響を与えている訳です。各自の心の有り様が、周囲にも自身にも大きな影響を及ぼしているということは、改めて明記されるべき、重要なポイントです。

113 To demonstrate this relay, let us set up a row of dominos on a table, leaving a space between each one two-thirds the length of a domino. Now, using our finger to exert a slight pressure we energize, or propel into action, the first domino, which falls forward striking the second; thereby imparting its acquired energy to that domino. The second, as it falls, imparts its energy to the third, and so on until the last domino strikes the table; their total energy now having been transformed into sound and heat. The initial action here was produced by the forceful contact of two objects, our finger and the first domino, then conferred to the other objects by a system of relays.

113 このリレーを明らかにする為に、テーブルの上にドミノを一行に並べましょう。各々ドミノの高さの3分の2の距離を残して並べるのです。そして、私達の指を使って最初のドミノにわずかな圧力を加えるか、動かそうとします。するとそれは前に倒れて二番目に当たります。そうすることで次のドミノに獲得したエネルギーを伝えます。二番目のものは倒れることでそのエネルギーを三番目に伝え、最後のドミノがテーブルを叩くまで続きます。それらの全体のエネルギーは今や、音と熱に形を変えられたのです。その最初の行動はここでは、私達の指と最初のドミノという二つの物体の力強い接触によって作られ、その後リレーの体系によって他の対象物に与えられたのです。

【解説】

本項では想念が伝達されて行く様子をテーブルに並べられたドミノが次々に転倒して、波が伝わることに例えて表現しています。ここでドミノの薄片を心の一部分、テーブル上の一連のドミノ群を心に見立てて、想念が心の中を通過する状況を想定しても良いのですが、ドミノの薄片を各自の心に見立てればどのような状況になるのでしょうか。

つまり、ある者が抱いたアイデアは直ちに隣接する者の心に到達し、次々にその想念が四方に拡がって行く状況が思い浮びます。私達が想念を認識した時、その想念は引き続いて次なる者に受け渡されることとなり、こうして思いも寄らぬ広範囲な人々の間に拡がることとなります。まして、テレビ等のマスコミによって特定の想念が認識し易くされれば、その影響は計り知れません。

昔から、アダムスキー氏の哲学書に数多く出て来る表現に、「心の大通りに想念を通過させる」という表現があります。心がドミノの一片とすれば、次々に押し寄せる宇宙的想念エネルギーに対して何ら抵抗することなく、それらを自由に通過させることは、宇宙の構成員である私達の義務かも知れません。想念の発信者の意図を宇宙くまなく伝える為には、その構成員たる者、勝手な判断による波動を停止させるべきではなく、各自が宇宙からのメッセージを数多く通過させることが望まれているということです。日頃から努めて良い想念を抱くことが人知れず他の者に対する奉仕的活動の一つになるということです。

114 This is the way thought is transferred from one point to another. A thought-ray of energy, which is nothing more than a charged particle created by the contact of two or more units (remember, thought is a chemical action), is shot out imparting its energy to other particles by exerting pressure upon them. This continues indefinitely, or until this force once generated, is picked up by some instrument capable of changing its character. Energy of any type cannot be destroyed; it can only be transformed from one form to another. Thought, being a type of energy, will travel through space until it is put to some use.

114 これが想念が一地点から他の地点に移送される方法です。二つ或いはそれ以上の単位の接触によって作り出された荷電粒子以外の何物でもない想念のエネルギー線（想念は化学的作用であることを覚えておいて下さい）は、外に向かって発射され、そのエネルギーを他の粒子に圧力を加えることによって伝えます。これは、この一度生成された力が何かその性質を変えることが出来る何らかの装置によって取り上げられるまでは、無期限に続きます。如何なるタイプのエネルギーも破壊されることはなく、一点から他点に移送されるのみです。一つのエネルギーである想念はそれが何かに利用されるまでは、宇宙を旅するのです。

【解説】

本項では粒子間に次々に電荷が伝達されて行く様子こそが、想念伝達の姿だと解説しています。想念エネルギーは消滅することなく、宇宙に拡がり、伝達されて行く訳です。その過程で私達の心を構成する微小電荷の粒子群に到達し、エネルギーが伝達される時、私達はその想念を認識できることとなります。

注目すべきは、世に言うテレパシーをここでは、「超能力」というような神秘的なものでなく、極めて科学的な現象として説明していることです。残念ながら現時点では、これらの理論は地球の科学レベルでは観測されてはいませんが、いずれは認知される時代も来ることでしょう。

いずれにせよ、私達は広大な想念の海とも呼ぶべき無数の想念波動が飛び交う中に生きています。それら想念の中身はレベルの低い段階のものから、高次なものまで様々のものが存在する筈です。その内、どれと同調し、行動に活用して行くか、選択するのは私達自身です。まさに行動して呉れと願っているのが想念であり、その送り手です。それ故に、私達は常に警戒を怠らず、より望ましい想念に同調できるよう、自身のチューナー、自身の心構えを整えておかねばなりません。

115 From this we can see that there is no center to the universe; no Throne from which all knowledge is broadcast. Each action is the center of the universe unto itself; for radiations going out from it travel in all directions, and fill space. Since everything, both tangible and intangible (in this case we are speaking of thought), comes out of the one Cosmic Cause, we can safely assume that there is no action that is not universal.

115 ここから私達は宇宙には中心が無いこと、全ての知識が放射されるような王座は無いことが分かります。行動の一つ一つがそれ自身に対する宇宙における中心なのです。何故ならそれから発せられる放射物はあらゆる方向に向かって旅し、そして宇宙を満たすからです。理解できることと理解できないことの両方が（この場合、想念について述べているのですが）、一つの宇宙的因から発せられている故に、私達は宇宙的でない行為は存在しないと思って差し支えはありません。

【解説】

想念が各々の発信源から周囲に拡がる様子は、丁度、水面に降る雨粒が各々の波紋を拡げて行くのに似ています。各々の想念は広大な空間を各自の心を媒介として宇宙の隅々にまで拡がって行くということです。宇宙には中心はなく、各々の想念を発する所や行動を起こす所がそれら拡がる波紋の中心になると言う訳です。

もちろん、心を通わせる想念には、大きな潜在能力がありますので、それらの想念から引き起こされる事態に私達は注意する必要があります。また、当然のことながら、その中心である発信者には最も大きな影響力を持つことは当然のことです。また、想念が宇宙の果てや何らかの障害物によって跳ね返って来る場合は、その発信源に必ず帰って来て、大きな影響を与えるだろうことは、水面に拡がる雨粒の波紋の行方を見れば良く分かるところです。

116 Let us turn to the story of Creation for conformation. Careful reading of the first chapter of Genesis (or the first creation), tells us that creation was without form, meaning it was then only a thought forming in Divine Mind. In this chapter we find every detail scrupulously planned: the grasses, herbs, and trees yielding fruit; the waters bringing forth abundantly the moving creatures that hath life, and the fowl that may fly; the living creatures after his kind, cattle, and creeping thing and beasts of the earth after his kind. . . . Then God said, let us make man in our image, after our likeness.

116 構造を理解する為、創造の物語に目を向けましょう。創世記の最初の章（或いは原初の創造の部分）を注意深く読むと、創造は形が無かったことが分かりますし、このことはそれは神聖なる心の中に作り上げられた一つの想念でしか無かったことを意味します。この章で、私達はあらゆる細部が綿密に計画されていたことを見い出します。草や草木、果実をもたらす木々、命を持つ多くの動く生き物をあり余るほどもたらず水、空を飛ぶ鳥等、それぞれの生きるものたち、家畜や地を這うもの達、地上のそれぞれの獣達です。それから、神は言ったのです、人を私達のイメージに、私達に似せて造ろうと。

【解説】

宇宙開びゃくの遠い昔、原子の集まりから創造主の想念によって様々なものが造り上げられたと創世記は伝えています。ここでのポイントは、私達自身を含めて現実世界に現れているもの全ては、その源と言えば、この創造主の想念が具体化したものであることです。しかも私達人間は創造主の似姿、つまりは創造主に似せて造られたと伝わっています。何かの像を製作する芸術家は、実はその作品に対して全身全霊を込めて製作にあたります。その結果、出来上がった作品には、その作者が与えた命が宿るような作品に仕上がる訳で、作品の原材料（原木）には無かったような高次の表現物となる訳です。

この創造の場合も同様に、様々な創造物は決して安直に地上に産み出されたことはなく、各々創造主が時間を掛けて丁寧に造り上げたと考えなければなりません。これら創造の過程の最後に人間が産み出された訳で、そのものの完成度はその他に比べて格段に高いものであることが分かります。画家の晩年の作品がその画風を極めているのと同様です。

そして、各創造物がその後、代々にわたって種を繋いで行くことや、より優れた存在に進化することを生命を贈った創造主は願っているのです。

117 In the second chapter of Genesis (or the second creation), we are told how the mists went up from the earth and watered the whole face of the ground, causing the seeds to grow; how out of the ground the Lord God formed every beast of the field and every fowl of the air, and how the Lord God formed man of the dust of the ground, and breathed into his nostrils the breath of life; and man became a living soul. So the Creator, following the patterns that had been formed and pronounced "good," from formless void, brought into manifestation, heaven and earth and all life thereon.

117 創世記の第2章（または第2の創造）において、私達は如何にして霧が地表から上昇して全ての地表を潤し、種を発芽させ、その地面から主なる神が野原のあらゆる獣と空のあらゆる鳥を造り上げ、そして主なる神が如何にして地の塵で人を造り、その鼻の穴に生命の息を吹き入れられ、人は生きる魂となったと伝えられています。ですから、創造主は造られ、「良し」と宣言されたパターンに従って、形の無い空間から天と地とそれらの上の全ての生き物を創出したのです。

【解説】

本項で印象深いのは聖書で言う人が創造されたパターンが、毎回、人間が誕生する際に母体で営まれていることに再現されていることです。当初は、形なきものであった人間は、精子と卵子の受精後、母体の中で様々な必要物が供給され、遂には母体から外に出て、呼吸を始めます。その呼吸が始まればじめて人間としての誕生があるのです。この間の人体を創り上げていたものは、全て地上の分子原子のいわゆる塵の類いが原材料になっています。その創造の過程は場合によって変化するというのではなく、一定のパターンで進行します。即ち、妊娠第何週はどうかという具合です。言い替えれば、人体形成のプログラムが事前にセットされている訳です。

このようにかくされた設計図に従って、様々な創造が行われている訳ですが、創造の原動力はこれら目に見えないパターンということになります。前項でも学んだように、この設計図は事前に創造主によって「良し」とされたもので、細胞の奥深く、その内容はDNAその他の核酸分子の中に収蔵されているということでしょう。私達の中には、既に創造主の設計図、英知の成果品が多数、収蔵されているということでしょう。

118 This story of creation is not confined to our small planet, as we have been led to believe, but encompasses the entire Cosmos. All creation, from the firmament or sky (ether), through the varying states of density to minerals, was first a thought followed by the forming of matter (atoms) to produce the effect. Matter in this sense is not restricted to tangible manifestation, but refers to the Mother principle in creation. From the Father principle, or Creator, and the Mother principle composed of force, or matter, comes the Son, or all manifestation.

118 この創造の物語は、私達がこれまで信じさせられていたように、私達の小さな惑星に限定されるものではなく、全宇宙を包含するものです。天空あるいは大空（エーテル）から、様々な密度状態を通じて鉱物に至る全ての創造物は最初、想念であり、その後結果を作る為の物質（原子群）の形成が続きました。この場合、物質は手に触れられる創造に限らず、創造の母性原理をも示唆しています。創造主すなわち父性原理、そして力或いは物質からなる母性原理とから、その息子即ち全創造物が生まれます。

【解説】

重要なのは私達自身を含めて、全ての創造物は最初、その存在を願う想念があり、その後その実現に向けて様々な分子原子が力を受けて、生み出されたということです。各々の存在は偶然ではなく、また各々の生れ出した目的も最初から明らかになっているということです。

その中で、本来最高の創造物である人間だけが、自然の変化にも無頓着で、わがまま勝手な生活を送っているということでしょう。全てのものは、最初にそのものを生ましめ賜う神の意志があつて、生れ出したという言葉は私達が各々祝福された存在であることを気付かせます。

119 From this I now understood that Man is a thought in action! The original prototype was projected from Cosmic Intelligence; hence, Man is but an avenue through which Divine Thought expresses.

119 これにより、私は人は活動する想念であることを理解しました。最初の原型が宇宙の英知から投影されたのです。それゆえ、人は聖なる想念が表現する大通りでしかないのです。

【解説】

文字通りに、人の価値や正体はその人を通過する想念によって定まるということです。その人がどのような想念を心に流すのかによって、その人の人格が決まって来ますし、本項で言うようにそれら想念が行動することがその人の人物像になるという訳です。

もちろん、この背景には、私達自身の身体各部は創造主によって望まれた通りの構造、仕組みになっており、その運用を各自、任されている訳です。しかしながら、自分の心に通過させる想念によって各自のその後の経過は大きな影響を受けます。楽しく明るい想念を抱けば、身体も伸び伸び調和ある生命活動を行いますが、逆に苦しみや悲しみ、憎しみ等に浸った場合には、肉体活動は不活発になることでしょう。良し悪しは別として、私達は想念そのものである訳です。

従って、活発な精神レベルは肉体を若々しく保つ一方で、沈痛や落胆等は身体を痛めつける事態になります。そのどちらを選ぶかは各自の自由ですが、少なくとも私達の誕生に当っては、創造主の祝福の御意志が各々に向けられ、その結果、私達が誕生したことは明記して置くべき事項です。

120 This may seem startling to some at first, but remember all creation is Divine Thought in action. Therefore man, with his reasoning mind, "given dominion over all the earth," possesses unlimited potential. Owing his very existence to this Cosmic Intelligence (or God), man instinctively feels a kinship with all life. And, the evolution, or refinement, of his thinking is the path by which the Prodigal Son eventually returns to the house of the Father.

120 このことは人によっては最初驚くべきことのように思えるでしょうが、全ての創造は聖なる想念が行動したものであることを忘れないで下さい。それゆえ、人は理性ある心を持ち、「全地上の支配権を与えられ」、無限の可能性を持つのです。この宇宙英知（神）への自身の存在に起因して、人は本能的に全ての生命に親近感を感じます。そして人の考えの進化や洗練は放蕩息子が遂には父の家に帰る道程でもあるのです。

【解説】

ここでの注目点は「万物への親しみ」という人間の特性です。今年（2009年8月）、99才で亡くなった絵本画家、熊田千佳慕さんは、最晩年まで野原に出ては虫の観察を続け、多くの昆虫達の細密画を残されました。日本のプチファーブルと呼ばれています。以前、テレビのインタビュー番組を拝見しましたが、当時90才代という高齢にも拘わらず、大変活発で、虫達と遊ぶ姿は幼児のようでもあり、その緻密な観察はやがて生き生きとした虫達の姿を大きな画面の水彩画にひとつひとつの細かい筆使いによって、虫達の生活の様を再現していました。

このように様々な創造物への関心は、自分の周囲の創造物、ひいてはその生みの親である創造主を理解する上で欠くことは出来ません。只、その観察も私達は4感のみでなく、自らのフィーリングを通して対象物との印象のやり取りが出来るレベルが求められます。しかし、この作業は人によっては幼年期には自然に出来ていた可能性もあります。即ち、周囲の様々な存在に対して、もっと親近感を持って接していた筈だからです。

このような本来、人間に備わっていた創造物に対する親しみは、大人になるにつれて失われ、利害関係のみが関心事になりますが、自然への回帰という命題に対しては、どうしても日常生活の中で、植物や動物、その他自然への関心を高め、そこではどのような印象が交差しているのかを知ろうとする必要があります。

121 To digress for a moment: the space people, understanding that man is Divine Thought motivated by the Divine Breath (for ether is Divine Creation), feel a reverence for all humanity. This is the explanation of the statement in INSIDE THE SPACE SHIPS which has proved so puzzling to people. Practical Earthlings have questioned the philosophy of accepting death for themselves rather than the taking of human life; but the visitors know that when another stands before them, they are in the presence of the Living God.

121 少しの間、本題からそれますが、宇宙人達は人間は聖なる息（エーテルは聖なる創造物である故）によって活性化された聖なる想念であることを理解していますので、人類全てに対して敬意を感じます。これは人々に当惑を与えた「INSIDE THE SPACE SHIPS（空飛ぶ円盤同乗記）」における言及への解説です。現実的な地球人達は人生を迎え入れることよりも死を受け入れる哲学に対し疑問の声を上げています。しかし、訪問者達は他人が自分達の前に立つ時、自分達は生ける神の面前に居ることを知っているのです。

【解説】

地球上の生き物は全て同じ大気を呼吸しています。この大気について、本項ではエーテルと表現されていますが、これは以前（111）述べられたように、想念を伝達できる空間というような意味合いと思われれます。私達はともに創造主の想念を呼吸し、身体の中を通している訳で、一刻一刻、それら想念を表現できるという意味で生ける想念の現れと評せられる訳です。

一方、自身の他にも同じ状況が他の者にも起っている訳で、「生きている」ものに対しては、より崇高な尊厳感を抱くことは当然です。つまりは、目の前にいる人に対して、その個人ではなく、因としてその者を生かしている創造主を見ることで、自然と尊敬感が湧くということです。

とかく私達は、死者を祀り、祖先を敬いますが、実はそのことより、目の前の生き物の中に生きた創造主を見つけることが、より大切だということです。同じ空気を呼吸し、同じ星の上に生きる創造物としての親近感を持つことは、宇宙兄妹達の生き方に近付くことでもあります。

122 They do not condemn us for our shortcomings, for they know we are behaving according to our understanding. Where we now are in Cosmic growth, they once were; where they now are, through the natural evolution and refinement of our thought patterns, we will be. So it behooves us to remember our Divinity at all times; and try to guide our minds carefully.

122 彼らは私達の欠点をとがめることはありません。彼らは私達が自分達の理解に応じて振る舞っていることを知っているからです。宇宙的成長において現在、私達が居る所に彼らもかつては居たし、彼らが今居る所は自然の進化と私達の想念パターンの精化を通じてやがて私達が到達する所です。それ故に私達は常に自身の神性について覚えて置かなければならず、自身の心を注意深く導くよう努力すべきなのです。

【解説】

進化にとって重要なことは、先ず、自己（エゴ）の好き嫌い、損得判断への志向を無くして、創造主を常に思うことです。自己より創造主を常に「主（あるじ）」として戴くことにより、創造主への関心を高め、エゴを謙虚に保つことです。その上で、自身の心を訓練することが必要だということです。

問題は、この進化の道程を地球においては、地球人自身が自らの文明を破壊し、無に帰して来た歴史が多くあるということです。また、地球上では古代から多くの文明が栄え、やがて崩壊して来ました。良識ある人達が強欲な者達に滅ぼされた経過も多くあることも事実です。そのような問題を抱える星に私達は生まれて来た訳で、本シリーズを学ぶ人達は、少なくともこの星の神性を向上させることが何より期待されています。

現在、表立っての宇宙兄妹達の活動は私達には分かりませんが、最近の私の知人達の接近遭遇事例等を聞く限りは、彼ら宇宙兄妹達は今なお、私達を見守って下さる状況にあるようです。

123 Since each thought registers a certain pitch, or frequency, relative to itself, we will naturally find different levels of thought. The level of thought-frequency into which we tune daily depends entirely on our understanding. For remember, like attracts like. While at times we may contact either a higher or a lower level, our minds normally move in the ruts in which our understanding has placed them.

123 各々の想念はその想念に関連したある種の高低、或いは振動数を記録に留めるために、私達は想念の様々なレベルに自然と気付くようになります。私達が日常、合わせる想念振動数のレベルは全くの所、私達の理解力に依存しています。何故なら、類は類を呼ぶからです。一方では、時たま私達はより高い、或いはより低いレベルと接触することもあります。私達の心は普通、私達の理解力が敷いた轍（わだち）の中を動いて行くのです。

【解説】

私達が日常、極めて限られ、類似した想念しか持ちにくいのは、本項で明記されているように、想念そのものが、心を通過後に轍（わだち）を残し、痕跡を留める為、以後は毎回のように同様な想念を呼び込んでしまうということです。

同じような悩みや心配事が心から離れず、自身を支配するのは、こうした一定方向の想念のみが通り易くなっているからに他なりません。

そのような事態において必要なことは何でしょうか。私も最近の台風の中、濡れたままで長時間過ごしたことが原因で、風邪気味に陥り、一日二日休んでいましたが、そのような時、心は不活発となり、肉体の不調のことしか感じ取れなくなりがちです。その後、快晴の屋外に出て、明るく暖かな大気に包まれて、ようやく新鮮な雰囲気を感じた次第です。

各自が生きて行く中で、何かのスランプや習慣性から抜け出す手法を各々いくつか持っている必要があるように思います。それは、創造主への信頼感、あるいは自分が生きていること、生かされていることへの感謝、家族や友人への感謝やいたわり、あるいは自分の使命の再確認、趣味や気晴らし等、様々あって良いと思います。各自が自信を持てるような、あるいは各自がやりたい事柄を、改めて確認して前進できる自信を取り戻すことが必要だと言うことでしょうか。その上で、目の前に広がる高次元空間と融合したいと思うことです。

124 Most of the time, the only thoughts we are aware of, are those familiar ones amassed through our senses and experiences. Yet, gems of universal wisdom are interspersed in our habitual thinking.

124 大抵は、私達が気付く唯一の想念は、私達の諸感覚と経験を通じて蓄積されたものと馴染みのあるものに過ぎません。しかしそれでも、宇宙の英知の珠玉は、私達の習慣的な思考の中にもちりばめられています。

【解説】

長年の蓄積から私達は自分が同調し易い、或いは同調して来た想念帯があり、通常はそれらを取り込んでいるということになります。元来、自分が理解出来ないことは、拒否し、無視する傾向を私達は持っています。難しい課題には首を突っ込みたくはなく、少しでも楽をしたいと考えるのが人の常です。受け入れるべき心は、問題が大きくなると只、沈黙し、状況が収まるのを待つだけです。それでは多くの場合、問題は解決しません。

私達に求められていることは、私達自身の古い体質を努めて打破し、より広い世界を見ようとする事です。想念の世界は幅広く、豊かです。目の前の素晴らしいインスピレーションを逸するほど、もったいないことはありません。他人や万物への奉仕こそ、従来の習慣性を取り去る原動力の一つともなるでしょう。各自を創造主の通り道にとすべきなのです。

125 Let us say we are going about our daily routine, our minds quietly following their customary pattern of thought. From out of the "blue" will come a thought totally foreign to our normal thinking-something of a universal nature. The majority of people, not comprehending the magnitude of what is happening, will often break the flow with the startled inquiry, "Where did that come from?" Whereas, if they had quieted their carnal mind and listened to the small still voice within, vast vistas of understanding might have been unfolded.

125 例えば、私達が日常の決まりきった仕事に出掛けるとします。私達の心は黙って、いつもの習慣的な想念パターンに従っています。突然青空から降って湧いたように、私達の通常の考えとは全く異質な想念、宇宙的な性質を持つ何かが出て来ます。大多数の人々はその時、起っていることの重大性に気付かず、しばしばびっくりして「それは何処から来たのだろうか」と問いただしてしまうことで、その流れを壊してしまうのです。しかし一方、もし人々が自身の肉欲の心を静めて、ひそかな内部の声を聞こうとすれば、広大な理解の展望が解き明かされたかも知れないのです。

【解説】

いわゆるインスピレーションが出て来た時の対応のあり方を述べています。実はインスピレーションなるものは通常、大変微細なもので、余程気を付けて対応しないと逃げてしまい、元に戻れません。それをどう対処するのかについて本項ではヒントを与えています。

これまで、「想念の通り道」になることを何度か述べて来ました。まして、その想念を元に行動に移すとなると、浮んだ想念自体に怪訝な感情を抱いては、それ以降の流れが止まってしまいます。良否の判断を先送りして、行動に移した後、結果からそのアイデアの価値を知ることになるのが、通常の例かと思えます。一つ一つのアイデアの出所を詮索していたのでは、行動に移すことも出来ません。

画家や音楽家が作品作りや演奏に熱中するような、想念の流れに無抵抗の状況を作り上げることが大切だと考えています。もちろん、どのような想念でも受け入れるという姿勢には問題もあるのですが、少なくとも日常的に受け入れたい想念を良質なものとするよう受け入れたい方向性を堅持して置くことで、低俗な想念を避けることは出来そうに思います。

文字通り、無我の心境を維持し、各自の騒ぐ心を鎮めて、やって来る微妙な指示に何時でも同調できる素直な状態を保つことが必要です。

126 By this I do not mean we should accept every unusual thought which enters the mind as being of a universal nature; for as we progress in this study, we will learn that thought comes from many different sources. We have been accustomed to thinking of thoughts as coming only from other human beings; when in fact they emanate from Cosmic Cause, from the very atoms of our bodies, and from all phases of nature. It is obvious therefore, that man should be extremely selective about the thoughts he entertains in his mind.

126 このことで私は私達が心に入って来るあらゆるいつもと異なった想念を、宇宙的性質を持つものとして受け入れるべきだと言っているのではありません。何故なら、私達がこの学習を進めるにつれて想念は多くの異なる源から来ることを学ぶことになるからです。私達は想念は他の人間から来るように思い馴らされて来ました。しかし実際には、想念は宇宙の因から、また私達の身体の中のまさに一つ一つの原子から、そして自然の全ての側面から発せられています。それ故に、人は自分の心に抱く想念については極めて厳密に選択する必要があります。

【解説】

様々な想念に気付くよう努力することは大切で、感受性が高まるにつれて多くのレベルの想念が心に入り込むようになります。また、一つ一つの想念については、その実態を絶えず注目する必要があり、進歩するに連れて同調する波長帯もより高次なものになるように思います。

しかし、重要なのは、自分で良しとして心に留め置く想念については、その他一時的に通り過ぎるものと比較して、特に注意深く観察しなさいと言っていることです。長い時間、心に滞留させ、自ら良しとするものについては、他よりもより大きな影響力を持っているからです。

世の中には、想念の発信源は様々ある訳ですから、より適正な源泉からのものを取り入れる必要があります。低俗なものから宇宙的な源泉から発せられる高次なものまで、様々な波長の中で自分に適したものを取込む必要がある訳で、その見極めについては慎重であれと言っているのです。

(注：原文では"an from all phases of nature."となっておりましたが、文脈から"and from all phases of nature."の印刷ミスと解釈しました。)

127 Here is one more example of how help may be received unconsciously, which we all have experienced at some time; let us say our minds are struggling with a problem. We have studied it from every angle, and still the solution evades us. We may even be ready to give up . . . when, suddenly the answer is laid before us.

127 ここに如何にして援助が無意識の内に受信され得るかのもう一つの例があり、私達全てが時折、体験しているものです。それは、私達の心がある問題で奮闘しているとします。私達はそれをあらゆる角度から研究して来ましたが、未だに答えは我々をすり抜けています。私達もう諦めようとも思ったその時、突然にその答えが私達の前に置かれます。

【解説】

真の意味で「天の助け」があるということです。先ずは、問題を回避せず、困難にも拘わらず解決に向けて努力する中で、心が宇宙からの援助の声に耳を傾けることが出来た瞬間、解決法が提示されます。まさに、「求めよ、さらば得られん」の通りです。

しかし一般には、先ずは自分が何を求めているのかを明らかにし、とりあえずは過去の経験から解決策を模索することが通常でしょう。その上で、他の方法はということで、宇宙からの声を聞くことになるものです。もちろん、最初から宇宙の声を聞けば、合理的ですし、無駄がありません。一見、努力しないで成功することには危うい一面もあるように思われますが、創造主への信頼に裏打ちされている場合には、純粋な宇宙的な生き方と言えるでしょう。野のユリのように生命の表現者になり切れば良い訳です。

128 This is no mysterious extrasensory perception; but an unconscious tuning in to universal knowledge. The student, understanding the law he is employing, will control his carnal mind and allow the solution to come to him. This information has been verified by the space Brothers.

128 これは神秘的な超感覚的な知覚などと言うものではなく、宇宙的な知識への無意識の同調作用なのです。学習者は自分が用いている法則を理解すれば、自分の肉欲の心を制御して解決法を自分にやって来させるようにするようになります。この情報は宇宙兄妹達によって実証されて来ました。

【解説】

心を制して、意識からのインスピレーションの受け手になることや、やって来る解決策は宇宙の因から各自に与えられる贈り物であることです。つまりは、私達各人は皆等しく宇宙の因から愛されているということです。一見、全ての解決を全能者に一任することは、各自の責任をも全うしていないことを意味するように思います。しかし、奢り高ぶるエゴの状態よりは、ひたすら自らを謙虚に、目に見えない宇宙空間からの呼び掛けに目を凝らし、耳を傾けようとする姿勢の方が、はるかに創造主の目に叶うものなのです。

問題の多くは心（エゴ）の増長や無関心、未知なるものへの恐怖にある訳で、常時、自分の傍らに創造主が付いていらっしゃるとの認識を持つこと、その創造主からいつでも必要なアドバイスを受けられるとする「他力の思想」こそ、人間性を発展させるカギのように思っています。

全ては意識の為にとする姿勢の中には、万物への奉仕や隣人愛等、平穩に暮らす自然界の多くの生き物達の頂点に立つ人間のあるべき姿が見えています。

Summary of Part One

129 This first part is very important, for it is the foundation for the other two that are to follow. It should be read and reread until this knowledge becomes a part of you.

第1部要約

129 この第1部は大変重要です。後に続く他の2部にとって基礎となるからです。この知識が貴方の一部となるまで何度も読み返されるべきものです。

【解説】

「テレパシー」の第1部は、このようにこれから学ぶ内容を理解する上での基礎になるものとして何度も繰り返し読んで身に付けよと言っています。人間が乳児の頃から成長する過程も同様に、繰り返し学習することで上達する訳です。そういう意味から、私達は先ず、一切の先入観や予備知識を捨てて、本書で述べられている内容をじっくり、自分で確認しながら進むと良いでしょう。

とかくアダムスキー哲学の信奉者は、これまでの書物や他人の言動により、一通りの知識を有する為に、却って文章の表面を読み進み、結局は多くのものに気付かずに終わることも多いように思います。アダムスキー氏がどのようなことをイメージして、この文を記したのか、何を訴えたかったのかに思いを致し、一つ一つの文章を大切に読みたいものです。決して豚に真珠の例にならないよう、宇宙兄妹達を起源とするこのシリーズの価値を大切にしなければなりません。

130 Disciplining the senses is the first step you must take. They should not master you any more than do the hands and the feet. Our extremities do not suddenly develop a will of their own, and start acting independently. They obey the messages from the mind.

130 諸感覚を躰けることは、貴方が最初に取り組まなければならない一歩です。感覚は手や足以上に貴方を支配すべきものではありません。私達の末端手足は突如として自らの意思を発達させたり、個別に行動し始めたりする訳ではありません。それらは心から発せられたメッセージに従っているのです。

【解説】

ここで確認して置きたいのは、私達は通常、四つの感覚によって支配されて来たということです。通常、その自覚はあまりありませんが、視覚による「美しい、醜い」の反応、味覚による「旨い、まずい」の反応をはじめとして、感覚から発せられた好き嫌いの反応が私達の思想や行動を支配しています。丁度、巨大なロボットをこれら身体の一部の感覚器官が支配し、他の者に危害を与え、ある時は自ら命を絶つことさえ行わせる程の手に追えない状況ではないでしょうか。

このように感覚に人間を支配させることは創造主の本意ではありません。感覚は人間の手や足と同程度の位置付けであるべきだと本項では述べているのです。一方、手足はそれ自身で物と言うことは通常ありませんし、その人の最後の日までその人の身の回りのお世話をし、生活を支えています。実は人間に最も身近な存在が手足ではないかと常々考えて来たところです。それと同じ位置に四つの感覚を置いて、手や足と同様に、人間の主人公である私に奉仕する存在になるよう躰けることだと言っているのです。

131 Our senses of sight, hearing, taste and smell should be nothing more than conveyors of information to the brain, not the autocratic rulers of our lives. They should be our servants-not our masters. As you study these four senses, you will find they continually exalt their position in the scheme of life, belittling all that they see about them. Do not let this happen.

131 視覚、聴覚、味覚及び嗅覚から成る私達の感覚は、脳への情報の伝達人でしかなく、私達の命の独裁的支配者ではありません。それらは私達の召し使いであるべきで、主人ではない筈です。貴方がこれら四つの感覚を研究するにつれ、それらが見るもの全てを軽視することで、生命の図式における自らの地位を常に押し上げようとしていることを発見するでしょう。このことを起らせてはいけません。

【解説】

問題は、私達の感覚自体が外界との接点を良いことにして、自ら判断を下し、私達自身を支配するようになっていることです。いつの時代も情報を支配する者が優位な地位を持つものです。本来、伝令であるべき感覚は、その情報に自身の解釈を加えて本部に伝達し、何も知らない王様はその解釈に従って全軍を動員させるという図式です。

また、感覚自体が他の存在よりも常に優位に立つ為に、相手の欠点を指摘するほか、上位と思う相手には何らかの負け惜しみの口実を加えて、自分の立場を確保するのです。ある面、世間を渡る上で、挫折を回避するテクニックかも知れませんが、本来のあるべき姿ではありません。このことを特に問題視しているのです。

先ずは、自分の感覚を鍛練し、その反応が本当に妥当なものであるかをチェックし、即座に勝手な判断をさせずに、目に見えない因の部分に気付くよう訓練したいものです。

132 Observe nature with compassionate understanding, realizing that all forms are supported by the same Divine Breath of Life which gives you being. For within this Breath is contained the motivating Force of the vast Cosmos. It is this one Force, permeating all manifestation, which gives form the ability to fulfill its purpose.

132 自然を暖かみのある理解で観察し、全ての形あるものが貴方を存続させているのと同じ聖なる息によって支えられていることを認識することです。何故なら、この息の中に広大な宇宙の躍動を与えるフォースが含まれているからです。全ての創造物に浸透して、形あるものにその目的を成就する力を与えるのは、このフォースです。

【解説】

前項（131）で指摘されたように、万物を自分より見劣りするような見方を排除し、先ずは全てのものを暖かい心で受け入れ、あらゆるものに生命の息吹きを感じ取れと言っています。その命の呼吸は宇宙のありとあらゆる創造物に共通して、同じタイミングで同じ源泉から与えられていることに気付かなければなりません。

この生命力（フォース）が私達を含めすべてのものを生かしているということです。そういう意味で私達生き物は皆兄妹だという訳で、万物が同じ環境に生きているという感覚を持つことが大切です。

また、この生命力（フォース）は各自それぞれの生きる目的を成就させるよう絶えず私達の身体を活性化させる一方、同時に各自の生きる目的を成就させるよう援助の手を差し伸べる等、幅広い役割を担っているということです。通常、何気なく行っている呼吸が実は大変深遠な意味を有していることがわかります。単純に息をするということ以外に、目に見えない宇宙の力を取り入れるという大事な働きです。

133 So you can see there are no divisions. You must work until you honestly feel a oneness with all creation; for sympathetic feeling is the avenue of communication. This must be established before success in thought-transference can be expected. All Nature expresses the Creator in a free, unhampered manner, and you must strive to emulate her. A good example of what is meant can be found in the message given by the Masters in INSIDE THE SPACE SHIPS. You will notice they compared their way of life to ours, yet at no time did they pass judgment on us for our shortcomings.

133 その結果、貴方は分裂というものは一切無いことが分かります。貴方は正直に全ての創造物と一体になる感じを得るまで力を尽くさねばなりません。何故なら共感的なフィーリングが意思疎通の本道であるからです。このことは想念転移において成功が期待される前までに確立されていなければならない事項です。全ての自然は自由で妨げられることなく創造主を表現しており、貴方は自然を見習おうと努力しなければなりません。その意味での良い例が空飛ぶ円盤同乗記の中の長老によって授けられたメッセージの中に見出せます。長老達は彼らの生き方を私達のと比較しましたが、一度も私達に対して私達の欠点を非難しなかったことに貴方は気付かれることでしょう。

【解説】

古来からおびただしい数の宗教や哲学がある中で、アダムスキー氏の哲学が他と異なる点は、それが具体的に他の進化した人類によって実行され、生活の一部として応用されていることにあります。既にその概要は同乗記の中の長老の言葉によって与えられている所です。その具体的な取組みを導くものが、これらアダムスキー氏の哲学三部作であることは、既に知られている通りです。

しかし、具体的に取組む場合、エゴを制御し、感情をコントロールすること等、粘り強い鍛練が必要です。時には表立った「超能力」が発揮出来ず悩むことがあるかも知れません。その際に重要なのは、あらゆる自然は創造主を見習って日々の生涯を送っているという認識です。自然の有り様は日々私達の目の前にあり、季節の移り変わりや動植物の活動から、それらが創造主の働きそのものの表れであることを知ることです。

また、その際の大事な姿勢として、本文の中に"sympathetic"であることが挙げられます。直訳すると「同情する」、「思いやりのある」という訳になりますが、ここではそれらの語感を踏まえて、「共感的」と訳出しています。即ち、相手の気持を分かろうとする姿勢が互のテレパシー実現の為に無くてはならない状態だと言っているのです。相手と一体感が構築出来なければ、相手の思いを感じ取ることは出来ないのは当然です。

134 You must master and control your emotions. Do not be discouraged when your habitual thought-patterns try to oppose your desire to see things in their true state. Remember, you have been building your thought habits all your life. Perseverance will enable you to realize your oneness with all you see about you, and recognize the fallacy of the man-made divisions.

134 貴方は自分の感情を支配し制御しなければなりません。貴方の習慣的な想念パターンが物事の真実の状態を見ようとする貴方の願いに逆らうことがあっても落胆しないで下さい。貴方は貴方の全生涯を通じて自分の想念パターンを作り上げて来たことを思い出して下さい。忍耐は貴方に周囲に貴方が見る全てのものとの一体感を知覚することを可能にし、人間の作り出した分割の嘘を認知させることでしょう。

【解説】

万物との新たな一体感を持つ為にはこれまで培ってしまった習慣的な想念パターン、即ち、「美しい・醜い」、「心地よい・不快」という偏見に満ちた感情を解消する必要があります。しかし実際には、この作業は大変難しい訳です。私達は長年、各々の習慣を作って来ましたが、その習慣は想念のパターンにも及んでいます。自らの生き方、考え方はその人の個性として固まりつつあるからです。

これを乗り越える為には、ひたすら忍耐を伴った努力が必要であり、今日の自分に必要な事柄を見据えて、一刻一刻の湧き出る想念を監視し、方針に合うものだけを受け入れる作業が必要だと言うことです。そうする内に、表面的な区分け、動物や植物の分類等、違いを特出させる従来の手法は意味が無く、各々の類似点や自分との共通点を見出す中で、万物との一体感が増すものと思われれます。既存の常識に囚われずに、自然をじっと見詰め、耳を凝らす中で万物との共感性が進むものと思われれます。

135 Self-discipline is necessary before you can take the next step. Therefore, I suggest you keep a daily ledger to check on the thoughts and emotions that have influenced you during the day. Note and evaluate each one carefully (both good and bad), then weigh its effect upon your life that day.

135 自己訓練は貴方が次のステップに移る為に無くてはならないものです。それゆえ、私は貴方にその日の中で貴方に影響を与えた想念や感情をチェックする為の一日の記録簿をつけることをお勧めします。(良いものも悪いものも共に) 注意深く一つ一つをメモし評価し、貴方のその日の生活への影響を推し量ることです。

【解説】

自己訓練法の一つとして想念観察が推奨されています。どのような想念がその日の自分を支配していたか、良くも悪くも自分自身に明らかにすることです。ここで注意したいのは、その行為をkeep (即ち続ける) ということです。その日一日の記録として、どのような想念が湧き起り、心を支配したかを書き記して客観的に見る必要があるということです。

この作業、きちんとやろうと思うと実は容易ではありません。私自身も出来てはいません。しかし、アダムスキー氏は「記入をする」ということよりは自らの心を通過する想念を「観る」ことが大事だと言っているように思えます。即ち、単に良し悪しでなく、客観的に自分を見詰めることが大切であり、実は観察する中で明らかになった問題点は、その直後に消失することが多いものです。問題点が明らかになれば、その原因が分かり、たちどころに解決するというのが、私の経験であるからです。実はもやもやした渾沌状態が問題であることが多いものです。

自分自身の心の実態を理解できれば、次なるステップは自然と明らかになるものと思われま

136 Part Two, with its exercises, will give you a greater realization of yourself as an expression of Cosmic Intelligence.

136 第二部は、練習も含まれており、貴方自身が宇宙の英知の表現の一つであるとのより大いなる実感をもたらすことでしょう。

【解説】

本項で第一部は終了し、次回から第二部に入ります。

毎回の講義内容は、それぞれ深みのあるものとなっており、先に進むことよりも、時にはこれまでの内容を振り返って戴くことも大切かと思っています。

ちなみに、第1章の最初の部分を見ても、「テレパシーは本来備わっている能力(002)」、「人は活動する想念(003)」、「万華鏡の例(004)」、「フィーリングは警戒の状態(005)」、「古来からの知識(006)」、「探究者には優しく神秘を解きほぐす(007)」、「テレパシーは1885年に生まれた用語(009)」、「万国共通語の必要性はテレパシーの背景(012)」、「普遍的言語は印象の交流から(013)」、「万物共通の言語の必要性は大自然から来る(014)」等々のエッセンスが出て来ます。

是非、この機会にこれら第一部の内容を一つ一つ確認した上で、第二部に入ることをお勧めします。

PART ・

Chapter 1 Cell to Cell Impressions

Chapter 2 Impressions From the Body Cells

Chapter 3 Effect of Emotions on the Body Cells

Chapter 4 Other World Impressions and Thought Habits of Earth

Summary - Part ・

Suggested Exercises

CHAPTER I

Cell to Cell Impressions

137 Since there are over two-and-a-half billion people living in the world today-all of them thinking to some degree-we can readily see that we live in a veritable sea of thought. Not only do we receive thoughts from human minds, but since the cell structures of their bodies and all the cells that make up nature, are constantly broadcasting, we also receive impressions from these sources. To augment our conception of the immensity of this truth, we must realize that there is a perpetual blending and an interblending throughout the whole of the Cosmos. Therefore, it naturally follows that there is an intermingling of thought frequencies between the worlds. We will discuss this phase more fully in a later chapter.

第2部

第1章 細胞から細胞への印象

第2章 肉体細胞からの印象

第3章 肉体細胞に及ぼす感情の影響

第4章 他の世界の印象と地球の思考習慣

第2部要約

推奨される練習法

第1章 細胞から細胞への印象

137 今日、世界には25億人を超える人々が住んでおり、それらの全てが何らかの程度に思考していることから、私達は容易に私達が全くの想念の海の中で生活していることが分かります。私達は人間の心が発する想念ばかりでなく、人間の細胞組織や自然を作り上げている全ての細胞が常に想念を発している

ことから、私達はまたそれらの源泉から出た印象も受信しています。この真実の広大さに関する私達の概念をさらに増加させる為に、私達は全宇宙を通じて永続的な融合と混合が行われていることを実感しなければなりません。それ故、当然に世界の間での想念周波数の混ざりあいが起こることになります。私達はこの側面については章の後半でより詳細に述べることにしましょう。

【解説】

本項から第2部に入ります。目次を見て分かるように、第2部は細胞レベルの具体的な想念のやり取りについて解説がされるものと思われます。

本書が執筆された当時、世界の人口は25億でしたが、今日では68億人まで人口は増加しています。これらの人間が発する一人一人の想念は他人ばかりでなく、地球全体、更には近隣の宇宙空間にも大きな影響を及ぼすことは容易に分かります。

目下の所、世界的な経済の閉塞感が横行していますが、大自然を見れば美しい秋空が広がっており、これら人間社会の問題は大自然から比べれば、まだ幸い小さい領域に留まっているようです。一人一人が出来ることは、各自の日常の生活の鍛錬の中にあります。その中で少しでも良質な想念を取り込んで、世の中に役立ちたいものです。

138 While this combination of thought vibrations bombarding us at all times staggers the imagination, if we take one vibration at a time it becomes understandable. A common example of how thought, or violent emotion-bear in mind that emotion is the expression of strong thought-will impregnate itself upon matter, can be found in the atmosphere of a dwelling.

138 この想念波動の組み合わせが常に私達に衝突して来るということは想像力をも驚かすものである一方、私達は一度に一つの想念を捉えるようにすれば、その想念は理解できるものとなります。如何にして想念ないしは暴力的な感情、即ち感情は強い想念の表れであることを覚えておいて欲しいのですが、それらが物体にしみ込むようになるかは、住居の雰囲気の中に見い出すことができます。

【解説】

私達が諸々の想念からなる想念の海に暮らしている中で、如何に鈍感であったとしても想念の影響から離れることは出来ません。良くも悪くも様々なレベルの想念が私達の身体に絶えず衝突して来ています。しかし、一度にあまりの多くの波動が来る場合、多数の音楽が同時に演じられるのと似ていて、それらをコントロールしなければ、却って混乱が生じます。そこでやって来る多数の想念の内、自分に必要なものを一度に一つだけ受け入れれば良いと言っているのです。

一度に一個だけ集中的に受け入れることは、ある種の秘訣かも知れません。

また、中には強烈な想念や感情は物体にも浸透すると本項では述べられています。放った本人以外の者にも、更には物体にまで残留する想念の力は強力であり、古代の加持祈祷の類いは、これら人の発する想念の力を利用したものと思われまます。言い換えれば各自の日々発する想念の力にもっと気付いて、その正常なる適用を促す必要があるということです。

139 From the outside the house may appear very attractive. Upon entering we may find ourselves in a spacious, well-furnished room, with large windows offering a wide view of a peaceful countryside. But with the crossing of the threshold a strong revulsion, a deep depression, or in some cases an almost tangible feeling of hatred seems to fill the air around us. This disquietening effect will disturb us as long as we remain in the house.

139 その家の外側からは大変魅力的に見えるかも知れません。中に入ると私達は広々して上等な家具に彩られた部屋があり、大きな窓が平和な田園風景を見せています。しかし敷居を跨ぐや、強烈な憎悪と深い憂鬱、またある場合には明白な憎しみの感も私達の周囲に満ちているように思えます。この胸騒ぎの影響は私達はその家に留まる間中、私達を掻き乱すことでしょう。

【解説】

印象類に鋭敏になるにつれ、当初は良くも悪くも様々な印象類に気付くようになることでしょう。当然、この荒れた人間社会からは、多くの低い次元の想念が、丁度一度叩いてから長時間音叉が鳴り止まないように、物体にも浸透していることが考えられます。その為、その物体に近付いた場合、その残留波動を感知するようになる訳です。

問題はこれらの低次元の想念に出会った時の本人の対応姿勢です。以前(133)で述べられていたように、その際にはsympathetic feeling (共感的フィーリング)を持って、その訴えを鎮め、本来の平穏な状態に戻してあげることが望まれます。その為には出会った本人がいたずらに恐怖心や厭世感等を持つことなく、慈悲の心でそれらの波動を受け止め、鎮められる度量が必要だということです。これがテレパシー学習を単なる想念波動に鋭敏になるだけのテクニックの学習から始めることの危険性だと考えています。

この地球においては多くの苦しみや怒りの感情が渦巻いているのだと思います。過去の大きな戦争や今なお続く殺戮で日々、多くの人々が亡くなっています。その人達や家族の苦しみ、怒りは同時に同様な事件を呼込む連鎖となっており、これらの想念波動によって地球は蝕まれているのです。その星の上に生きる私達は、否応なくそれらと共に歩む必要がある訳で、これらの低次元の想念に対してもある程度受容的な姿勢が必要なのかも知れません。

140 If we trace this feeling to its source, we will find one of two things. Either a tragic or terrible incident, involving the destructive emotions of intense fear and vehement hatred, occurred here, which impinged these emotions upon the cells (or atoms) of the house; or the thought-patterns of former occupants, or of those now living here, have filled the atmosphere with hatred, greed, selfishness and animosity. In either case, if people live continually surrounded by these strong emotions they will be affected adversely by them. It can, and usually does, bring dissension into their lives.

140 もし私達がその源泉に向かってこのフィーリングを辿るなら、以下の二つの事柄のいずれかを見い出すことになるでしょう。強烈な怖れと激しい憎悪の破壊的感情が含まれた悲劇的あるいはひどい事件がここで起き、それがこれらの感情をその家の細胞（あるいは原子）にぶつけたか、あるいは以前の居住者、または現在ここに住んでいる者達の想念パターンが辺りの雰囲気や憎しみや貪欲、わがままや恨みで満たしているのです。いずれの場合も、もし人々がこれら強い感情に囲まれて継続的に暮らしていると、それらによって悪影響を受けることになるでしょう。それは人々の生活に不和をもたらす可能性がありますし、通常は実際、そのような影響を及ぼしているのです。

【解説】

想念波動に鋭敏になる程、本項に書かれているような言わば物体に反響しているような残留想念にも、数多く気づき、場合によっては影響を受けることもあるのです。

私達よりはるかに進化した宇宙兄妹達はテレパシー能力に優れている為、当然にこれら地球上の低次元残留想念にも遭遇しているものと思われます。彼らにとって地球での生活はこれら低レベルの想念帯の中にあっても、それらから影響を受けず、それらを浄化する役目を果たしてこそ、来訪の目的が完遂される訳です。聖書の中にもイエスが当時の監獄の中に入っても何ら影響を受けなかったとされているのは、こうした周囲から発せられる想念の影響を受けない程、高次元な魂であったことを伝えるものです。

しかし、このような体験は本人の技量に応じて対応した方が良いと思われます。つまり、自らの印象に従って避けたいと思えば、敢えてその場に入る必要はありません。問題はそれら低次元な想念を優しく包むような態度で接することであり、恐怖したり、嫌悪したりすべきではありません。それら地上のもの全ては私達地球に生きる者の共有物であり、私達自身にも何らかの原因があるからです。

141 Now, let us take an example of how equally strong, constructive emotions impregnate a dwelling. When we enter another house, a warm feeling of friendliness greets us at the door. In contrast to the first, the rooms may be small, the carpet thread-bare, and the view from the windows confined to shabby cottages across a narrow street; but the cells of this dwelling have been impressed with harmonious thoughts of love and laughter; and we instinctively respond to these emotions. We will find ourselves smiling unconsciously, and will settle back to absorb this feeling of peace.

141 今度は、如何に同様な強い建設的な感情が住居に染み込むかの例を取り上げましょう。私達がもう一軒の家に入ると、暖かい友好的なフィーリングが玄関口で私達を迎えます。最初の事例の家とは対照的に、部屋は狭く、カーペットは擦り切れ、窓からの眺めは狭い通りの向かいの古びた田舎屋が見えるだけです。しかし、この住居の細胞達は愛と笑いの調和ある想念によって印象付けられていますし、私達は本能的にこれらの感情に反応します。私達自身、無意識に微笑んでいることに気付きますし、この平和なフィーリングを吸収する為、ゆったり椅子に座ろうとすることでしょう。

【解説】

人々が放つ想念は周囲の物体に吸収され、残留するということです。これについては各地に残る仏像をはじめとする信仰の対象物についても同様の効果があるものと思われます。

最初は森に生える樹木であった木が、仏師により仏像として彫られた後は、人々の祈りの対象として長年月、人々の願いを受け止めることとなります。歳月を積み重ねるにつれて、木像は次第に深みを増し、今度はその像を見る者に何らかの印象を与えるようになることでしょう。像に向けて人々が発した想念が、木像に移って効力を発するようになる訳です。

また、日々発する想念は、その最も近い物体である各自の身体にこそより大きな影響を与える訳で、健全な身体を維持する為には、先ず健全な精神を維持発展させることが肝要です。

142 So we have proof that bricks and mortar do not make a house a home -- for a home is made from the harmonious thoughts of the people living in it. If at all possible, we will avoid the first house after our initial visit, for we will never feel at ease there; but we will revisit the second house as often as the opportunity presents itself.

142 ですから、レンガやモルタルが家屋を家庭に築く訳ではないという立証がある訳です。何故なら家庭というものはその中に暮らす人々の調和ある想念から作られるからです。もし出来ることなら、私達は訪問の後、最初の家は避けようとするでしょう。何故なら私達はそこでは決して落ち着かないからです。しかし、二番目の家は機会があれば何度も再来したいと思うことでしょう。

【解説】

真の家庭とは家の材質や大きさ等の目に見える結果の世界の問題ではなく、その家に住む者が発する想念が作り出すものであるということです。各家庭は私達各自が日々過ごす場所であり、そこで発する想念が「家庭」を構成するとなるとその家庭の想念雰囲気は自分自身の反映として受け止めなければなりません。

野生動物達の巣穴はもちろん、同様な意味において家庭であり、幼いヒナ達の巣立つまでの間のシェルターでもあります。人間の家と比べて、厳しい環境の中でそれらは粗末な材料から作られたものですが、それでも冬の寒さから身を守る和やかな雰囲気があることでしょう。

また、人間の成長と共に、家庭の想念レベルも高次なものに進化して行くことが想定されます。そしてそれら家の材料として自らを提供してくれた木々や草木その他に対して、より高次の想念で感化することがそれら奉仕してくれた者達への住う人の役割であるように思います。

143 These impressions are known as cell impressions. The cells (or atoms) of the structure have absorbed the destructive or constructive emotions of the occupants, and have communicated these impressions to the cells (or atoms) of our body; causing either a feeling of depression or tranquility.

143 これらの印象は細胞印象として知られています。構造物の細胞（原子）が居住者の破壊的あるいは建設的な感情を吸収し、これらの印象類を私達の肉体の細胞（原子）に伝え、憂鬱なあるいは穏やかなフィーリングをもたらしていたのです。

【解説】

残留するのは「印象」、即ち各自の「感じ」であり、言語になる前のフィーリングが各原子に浸透し、それらが引き続き印象を発信し得る為、後になって別の者と接した場合に、両者の細胞同士が互いの印象を交流する為、このような事が起るのだと説明しています。

ここでのポイントは物体には印象が染み込むということです。想念の内、言語になる前の印象の状態が物体に浸透、共鳴して残留することが重要で、言語に翻訳された後の状態のものが残る訳ではないのです。このことから、私達が着目しなければならないことは、この印象段階のものを特に大事にしなければならないということです。

この物体同士の印象の交流（やり取り）で例となるのは、小動物が互いを認識するのに相手の臭いを嗅ぐ所作を行うことです。各細胞は相手を知る為に、丁度、カタツムリが触角で相手を触って互いを認識するように、互いの持つ印象類を把握しようとするのかも知れません。私達の身体各細胞はこうして周囲の存在を認識するのも知れません。

同様のことはアダムスキー氏が同乗記で進化した宇宙兄妹達と握手を交わした際に、気持が高揚したと記述していることにも表れています。各自が日頃、発したり、取り込んでいる印象が、その人自身を構成すると同時に、他者にも影響を与えているという例です。

注：原文中の"tranquility"は"tranquility"の誤植と判断し、訂正しています。

144 Those who receive these impressions are often referred to as "sensitives," but when properly understood, this is nothing more than an automatic reaction to the world of effect. In other words, the effect of the strong emotions absorbed by the cells of the buildings, affected the individual. This is one phase of telepathy where the "feeling" within us is altered to, or communicates with, so-called inanimate substance.

144 これらの印象類を受信する者はしばしば「霊媒者」と評せられますが、適切に理解すれば、このことは結果の世界への自動的な反応以上のものではないのです。言い替えば、建物の細胞によって吸収された強い感情の影響がその個人に作用をもたらしたのです。これは私達の内側の「フィーリング」がいわゆる無生物の物体によって変えられたり、それらと意思疎通を行うというテレパシーの側面の一つです。

【解説】

持ち物からその持ち主の雰囲気に分ったりする能力は、これまでは超人的な能力とされて来ましたが、どうやらそれもこの講座の内容を身につければ、一般の方でも能力を発揮できることが分かります。

その為には、日常から印象を大切にすることを送ることが必要です。とかく私達は文字その他の結果の世界に表現し直された、いわば確定、固定されたゆるぎない根拠、事実を積み重ねることで社会を成り立たせて来ました。確かに今日の文明発展の源になったのは、文字を持ち、記号を発明したからに他なりません。

しかし、その結果、物体発現の発端となるべき言語にならない前の印象や想念はおろそかにされて来ました。一部の芸術活動には必要である以外は、日常生活ではそのような漠然とした対象は無視され続けています。

この印象や感情を如何に良質なものに保つか、また、それらに鋭敏になるかについて日常生活の中で注目し、自ら重きを置く生活をする事が望まれます。

145 Ninety-nine people out of every hundred consider thought only in relation to the human brain. They would be amazed to learn that every cell in their body, as well as every cell constituting any other form, is a thought-producing unit; for all manifestation is composed of atoms. We receive the illusion of divisions because of the different vibratory rates of the atoms; but in actual fact, the basic atoms making up the human body, and those manifesting as minerals, are the same. Thus, when we have an understanding of our true relationship to, and oneness with, all creation, we will be able to commune consciously with all phases.

145 毎100人の内、99人が想念というものを人体の脳とだけに関連して考えています。しかし、彼らは自分達の身体の一つ一つの細胞が他の形あるものを構成している個々の細胞ともども、想念を作り出す単位であることを知れば驚くことでしょう。私達は原子群の振動の違いの為に分裂の幻影を受け入れています。従って、人体を構成している基本的な原子と鉱物を現出させている原子は同じものです。従って、私達が全創造物との真の関係と一体性の理解を得れば、私達は全ての段階のものと意識的に交流することが可能となることでしょう。

【解説】

各自の肉体の細胞の一つ一つ、更には細胞を構成する原子の一つ一つが想念を発し得る存在であることは驚きです。人体には60兆個もの細胞があり、まるで地球上の人類が地球という惑星を構成しているように、人体は一つの星のような存在であり、全体として進むべき方向をその総意として決定すると同時に運命共同体でもある訳です。また、細胞を原子レベルで見れば、更に同程度の数の原子からなる世界が展開します。

もちろん、これら各レベルの運命共同体は当然、全体としてのあるべき方向に向けて相互に協力し合っている筈ですから、私達には莫大な数の協力者が存在することになります。このように考える時、私達には無限の智慧の参謀が居て、時々に応じて、必要なアドバイスが得られることが分かります。実はこれほどのスタッフを抱える組織は他になく、私達は大変、恵まれた環境の中に生きていることを実感しなければなりません。

146 Another good example of telepathic exchange between human and inanimate nature, can be found in people who possess what we call a green thumb. Everything grows abundantly for them, for while they are planting they unconsciously commune with the soil and the seedlings. You will notice these people know each plant intimately, pointing with pride to those which are thriving, and feeling concern for the plight of the sickly.

146 人間と無生物との間のテレパシー的交流のもう一つの良い例は、いわゆる園芸の達人とされる人々に見出すことができます。それらの人々の為に全てが豊かに育ちますし、彼らが植えている間も、彼らは無意識に土や種と会話します。皆さんはこの人々が親しく個々の植物を知っており、すくすく育つもの達を誇らしく指差し、また、病いの苦境にあるものに対しては気に掛けていることに気付くことでしょう。

【解説】

植物との会話についてはルーサー・バーバンクやその他の事例（「植物の神秘生活」：原題は"The Secret Life Of Plants"）、著者はピータ・トムプキンズとクリストファー・バード、工作舎から1987年に出版）についてご紹介しました。（035、038、040、088等）

ここでは「星の王子様」に出て来る王子が面倒を見ていた一輪の花について、ご紹介します。作品には「この世の中には花はたくさんあるけれど、自分が大事にするたったひとつの花がある」と記述されています。つまりは遠く離れていても、心は繋がっているという、世話をすることで特別な関係が築かれていることを表現している訳です。

また、同様のことは、ある人から生前、伺ったことがあります。それは例え遠く離れていても、その対象物を心から気づかっていることが大切で、そうでない（つまり心から忘れられている状態）とは雲泥の違いがあり、植物はそれに応えるというお話でした。距離に関わらず、対象物と意思を交わせられるということは、植物ばかりでなく、あらゆるものに言えることだと考えます。

147 Though the person is not aware of using telepathy in this instance, the inanimate manifestations of the plant world definitely respond to the love pouring out from the mind of the individual. This phase of telepathy is little understood and almost never used consciously by Earthlings, for its application calls for a thorough knowledge of man's unity with nature. It is just as easy to exchange mental impressions with plants, vegetables, trees, minerals, etc., as it is with another human being.

147 その人物はこの場合、テレパシーを用いていることに気付いていませんが、植物世界の無生物的造形物はその個人の心から注がれる愛情には断固として応えるのです。この側面のテレパシーは地球人にはほとんど理解されておらず、これまでもほとんど意識的には用いられて来ませんでした。何故なら、その応用には自然との人間の一体性についての完全なる知識が必要となるからです。植物や野菜、木々や鉱物と心の印象を交換することは、他の人間の場合と同様に簡単なことだからです。

【解説】

対象物に対する姿勢は大人よりは子供の方が優れていると言えるでしょう。物に対する愛情は大多数の大人より深く抱いており、その表現は対象物を擬人化して捉えることに表れています。

一方で、大人は幼児を手なずける目的で時に擬人化の表現を見えますが、それは本心ではありません。

しかし、子供は違います。意識レベルでは対象物と一体になれる程に自分の意識を他の対象物に融合させているのです。もし、しばらくそのように自分を開発して行けば、多くの能力を身につけることが出来るものと思われます。生物、無生物を問わず、周囲の全てのものと心を通じることが出来れば、私達の生活は天国のように美しく、清らかなものとなるでしょう。

148 Before going further, I believe it would be well to discuss the importance cell impressions play in our lives. To do this, we should have some understanding of the physical composition of both tangible and intangible manifestation.

148 先に進む前に、私は私達の生活の中で細胞の印象が果たす役割の重要性について論議した方が良いと考えています。そうする為には私達は有形及び無形の創造の現れに関する物理的な構成について幾分か理解を得ている必要があります。

【解説】

そもそも私達が頼りにすべき自身の細胞について、私達は実感としての理解は得ていません。私達は最も大切で頼りになる存在について何らの理解をしないまま、日常的に肉体の各細胞を酷使し、疲弊させているのではないのでしょうか。

細胞からのメッセージは音声や言語でなく、それ以前の思考の塊のような存在である「印象」であることについては本書をはじめとして、様々な機会では教えられて来ましたが、もちろん、印象は最も重要なのですが、それではそれを発する細胞の中はどのようになっているか等になると、細胞の構造も十分学んでおく必要があると言っているのです。

それは、想念レベルを議論する際、あまりに抽象的、観念的になると、私達は勝手に自ら仮想の世界を造り出して再び神秘主義に陥りやすいからに他なりません。

149 The average person is generally little concerned with the composition of space, for he conceives it to be a vast void existing between planets. The suns, planets and planetoids visible to the eye, he recognizes as form; but the space between these bodies appears to him as nothingness. However, our scientists know that space is a sea of activated attracting and repelling force, always in motion.

通常の人は一般的に宇宙空間の構成物にはほとんど関心がありません。何故なら宇宙空間は現存する惑星の間にある膨大な空（カラ）の空間だと考えているからです。太陽や惑星それに小惑星を形あるものと認識していますが、それら天体の間の空間は何も無いように見えているのです。しかしながら、私達の科学者は宇宙空間は活性化された吸引と反発の力から成る海であり、常に活動状態にあることを知っています。

【解説】

地上に暮らす私達の日常は宇宙空間とは離れた場所に留まっている為、普段、宇宙空間を意識することはあまりありません。唯一、宇宙空間の存在に気付くのは夜空に多くの星を見る時です。

この宇宙空間と地上の空間との境目は実際、無いと言って良いと思いますし、私達の日常暮らす大気圏は宇宙空間と繋がっており、実際には日々の気象変化等を通じて、その影響を受けているものと思われま

す。先日も早朝の空を見る機会があり、日の出前の月を観測していました所、太陽が登り始めると途端に雲の動きが活発になることに気付きました。太陽の熱が雲に変化を与えたのです。また、月面は地球の大気層の影響から絶えず揺らぐ様子も観測され、月と地球との間の空間の様々なガス層の影響があることも分かりました。

この宇宙空間の諸活動については「宇宙ホテル」と称せられたような様々な活動も知られており、また「2001年宇宙の旅」の中の木星への飛行シーンの中にも輝く光体群の活動が描写されています。このように惑星の揺りかごである宇宙空間には全てのものを造り出す創造の場としての大きな意義があるということを認識して置く必要があります。

150 When man gives any thought to material substance, he is very likely to accept the image given to him by those organs of deception, the eyes, which hold to the solidity of matter; so he believes a vast difference exists between matter and space. Yet, in the laboratory we have discovered that form is not solid; but may be likened, as one writer expressed it, to a mass of soap bubbles.

150 人が物質的な物に何らかの想念を与える時、人は欺く器官、即ち物質の硬さを把握する眼によって与えられたイメージを受け入れ易いものです。その結果、人は物体と空間とでは莫大なる差異があると信じているのです。しかし、それでも実験室で私達は形あるものは硬いものではなく、ある作家が表現したように、形あるものは石鹸の泡の塊に似ていると表現できることを発見しているのです。

【解説】

物質の真の姿、原子は中央の核を電子雲が取り囲むような、太陽系に相似した形態をとっていることが、現代の原子物理学によって判明しています。その原子の質量のほとんどが中央の核の一点に集中し、原子の占める空間のほとんどは電子の周回軌道である（原子核の半径は原子の半径の約10万分の1とされています）ことは、物理学の教科書にも載っています。

このように私達が固体と見なしているものも、実は液体や気体の状態と比較して原子や分子レベルでは何らの違いも無く、気体はその密度等の違いから視覚では捉えられないだけの問題なのです。事実、私達の周囲の空気も、1立方メートル当たり約1.2キログラムと結構な質量があるのです。つまりは、この大気中にも相当数の物質が詰まっているという訳です。

一見した眼で見る姿に自分の判断を委ねずに、もっぱら受ける印象を重視することの重要性を本項は指摘しています。

151 Every form is composed of definite measurements of space, surrounded by energized particles of force. All substance is made up of these tiny units, which we call atoms. An atom may be compared to a miniature solar system containing a central sun, around which, in definite orbits, revolve negative electrical charges, or units of force. The central sun, or nucleus of the atom, is a positive charge; equaling perfectly the total number of electrical charges revolving about it.

151 あらゆる形あるものは、周囲をエネルギーを持った粒子群によって囲まれた特定の寸法を持った空間によって構成されています。全ての物質はこれら微細な単位から成り立っており、それらを私達は原子と呼んでいます。原子は中央に太陽を持ち、その周囲の特定の軌道をマイナスの電荷あるいは力の単位が周回しています。中央の太陽、あるいは原子核はプラスの電荷であり、その周囲を回る電荷の全数と完全に等しいのです。

【解説】

広大な太陽系と極小微の原子の構造が同じであるという不思議です。私達の創造主は実に巧妙に万物を造り上げていると言えるでしょう。同様のことは雪の結晶にも見られると言います。水の分子 (H₂O) の形が様々な形成される雪の結晶の形に表れていると言うのです。何処を取っても同じ形があるフラクタルと呼ばれる創造の神秘です。

そういう意味では私達人間も同様に、全ての人に共通なものがある筈です。大も小も同じ原理でこの宇宙の中で生活し、同じ心臓の鼓動や呼吸動作で同期しているのかも知れません。それら生き物に共通する要素を数多く見つけ、共感できる姿勢が重要です。

152 The cells of manifestation are composed of manifold combinations of these atoms. All matter, ranging from the most dense, or what we call mineral, through the varying stages of form until we reach space itself, is composed of these tiny electrically charged atoms vibrating at different rates. So you see, contrary to the information received through the physical senses, form is merely space surrounded by inconceivably small particles of force. Yet it is the action of these tiny units that produces all visible and invisible phenomena. Manifestation is born out of the potential force, or basic vibration within the atom, which, through the law of affinity, forces the particles to unite.

152 創造物の各細胞はこれら原子の多様な組合せから構成されています。最も密度が高く私達が鉱物と呼んでいるものから、私達が宇宙空間自身に到達する様々な形からなる段階を通じて、全ての物質は各々異なる速度で振動している小さい荷電した原子から成り立っています。ですからお分かりのように、肉体の感覚を通して受けた情報に反して、形あるものは想像も付かない程小さくフォースを持った粒子によって囲まれた空間に過ぎないのです。しかし、全ての目に見える、あるいは見えない現象を造り出すのは、これら微小は単位の活動なのです。創造はこの潜在力あるフォース、即ち原子の内側の基本的な振動から生まれますし、それは親和の法則を通じてそれら粒子に結合するよう働き掛けます。

【解説】

「形あるものの実態は空間である」とは、仏典に言う「空」と同義語だと考えます。詳しくは存じませんが、仏陀はこの世のもの全ては空だと悟ったとされていますが、その「空」とは本項で言う「space (空間)」を指すものと考えます。つまり、肉眼では色彩や形、硬軟様々な形状があるように見えますが、細部を突き詰めるとその実態は荷電粒子に囲まれた空間に過ぎないという訳です。

しかし、この一見、空しいように思われる空間も、その空間内部の核と呼ばれるセンターから周囲を巡る電子に他との結合を命じる指令が出て、各原子が互いに結合し、しかるべき形を形成すると本文は言っています。つまり、空間を意義ある形に造り上げようとする意思が中央の核から絶えず発せられているという訳です。これは我が太陽系についても言えることで、中心となる太陽が全ての惑星を支えていることは言うまでもありません。古代の日本人も天照大神としてその恵みに感謝していました。このようにその形を構成し、維持して行く上で、それぞれの核となるべき存在が大変貴重であるということです。

153 Primal Matter, the Mother principle of creation, preceded form . . . and is indestructible! Through the law of attraction and repulsion the tiny atoms composing matter are gathered together to build a form; but eventually that form will disintegrate and the atoms will be set free, to be used again in manifesting yet another form. For, "dust thou art, and unto dust shalt thou return," Gen. 3:19.

153 創造の母性原理である原始の物質は形に先立って存在し、それは不滅のものです。吸引と反発の法則を通じて物質を構成する小さな原子は形あるものを作り上げる為、集められているが、いつかはその形あるものは分解し、その原子は自由にされます。更に別の形あるものを再び現出するのに用いられる為に。何故なら「汝はチリゆえにチリに帰る」（創世記第3章19節）からです。

【解説】

形あるものが、その形を形成する以前に、ある原始の物質状態のことを本項では触れています。この原始の物質 (Primal Matter) とはどのようなものであったかについては、本文からある種のガス状物質であったことが推測されます。つまり、形の無いガス状の物質（原子）が元となって全ての形あるものが作られたという訳です。

一旦、こうして宇宙が創られた後は、その中で物質の輪廻・循環が行われます。私達生物はもちろん、水や空気、あるいは鉱物でさえ、自然の循環の中で、気体や液体、固体を経て、状態を変化させますし、化合物も変わります。こうした中で各原子は次々に新しい体験を得るのです。

こう考える時、私達各人が出来ることは、日々私達の身体にたまたま組み入れられた各原子達に優れた体験を積ませることです。再び何者かの身体を構成する際に役立つ知識を付与すること、安定したより高い振動を帯びさせることが最大の任務であるのです。

154 Our gardens furnish a very understandable example of this law in operation. The flower matures, broadcasts its seed, then dies. Through decomposition, the plant will return to the dust from whence it came; thereby releasing into the soil and the atmosphere, the atoms which once formed its body.

154 私達の庭はこの法則が働いている大変分かりやすい例を提供して呉れています。花々が円熟し、その種を散らすとやがてそれは死にます。分解を経て、その植物はそれが生まれたチリに還ることでしょう。その結果、かつてその身体を形づくった原子群は土や大気に解放されるのです。

【解説】

庭は小宇宙であり、私達に癒しを与えてくれます。また、春夏秋冬の季節のうつろいの中で次々に起る植物槽の変化には目を見張るものがあります。植物や与えられた環境の中でも、各自が精一杯の自己表現、託された各自の役割を果たしています。

その植物の素晴らしいのは、虫眼鏡で細部を見れば見る程、繊細で美しい構造をしていることです。また、その生長への意欲も驚く程で、枝が折れても、次々に新しい芽を出して、伸びようとします。特に尾瀬等の高原の植物の活動は大変早く、数日で草原の様相が一変するほどです。また、花の寿命も大変短く、ニッコウキスゲの花は1日で終わってしまうとされています。短い夏の間、植物達は競って各々の生命を表現している訳です。尾瀬においてはそれらの植物の死骸が堆積し、貴重な湿原を形成している訳です。

庭の植物や昆虫達を観察することによって、優れた業績を残された方も数多いようです。ファーブルや熊田千佳慕、熊谷守一氏らがその代表でしょう。彼らは自分の庭に来る昆虫達の生活をつぶさに観察し、生態学や絵画の分野で独自の成果を挙げられました。物質循環を身近な場所に発見すること、その循環の中に生き物達の生きる姿を見ることが望まれています。

155 Let us now sow a totally different species in the bed. These new seeds will draw their sustenance from the soil enriched by the decomposition of the first plant, and in so doing they will use the very atoms that once made up that plant. Therefore, these same atoms are now bringing a new form into manifestation, yet basically, they have in no way been changed.

155 今度は苗床に全く異なる種のタネを播いてみましょう。これらの新しいタネは最初の植物の分解物によって豊かになった土壌から自分達の滋養分を取り込むことでしょう。また、そうする中で、それらは以前の植物をかつて作り上げた同じ原子を用いることになるのです。それ故、今やこれら同じ原子が新たな形あるものを現出させており、しかも原子は基本的に何ら変わっていないのです。

【解説】

私達の目には枯れて朽ちて行く植物には寂しさが感じられ、命のはかなさを思い起こさせますが、物質界の真理は本項で述べられているように、常に肯定的で明るいということです。原子レベルで見れば、万物に不安定なものはなく、常に活動の状態にある訳です。

庭を地球に置き換えれば、地球上のものすべてが真実、血肉を分ちあう兄妹であることがこのことから分かります。自らの肉体の一部が他人と共通し、入り交じっているからです。

このことはごく当然に化学を学ぶ者が気付く内容であり、地球人の概念は科学の進化とともに育てられる必要があります。バックミンスター・フラーは著書「バックミンスター・フラーの宇宙学校」で私達が宇宙に上下が無いことを知識として知っているものの、依然として北を上として、極地方が実際より広がったメルカトル地図を日常使用している等、私達の概念が旧態依然のままに留まっていることを指摘しています。私達に必要なことは科学で得た知見をどう解釈し、自らの人生観に生かすかにあります。

156 So it is with Man. The atoms of his physical body-made from the "dust," or atoms of matter-have been used and reused throughout eternity. Thus, these miniature universes carry an indelible memory of the experiences they have participated in during each manifestation.

156 ですから、それは人間についても同じです。「チリ」、即ち物質の原子から作られた人間の身体の原子達は永遠の時を通じて、利用され、再利用され続けます。こうしてこれらミニチュアの宇宙（訳注：原子を指す）はそれらが各々の創造物での間、参画した諸体験について消し去ることのできない記憶を運ぶのです。

【解説】

各自が本来備えている記憶は本文から、本来、膨大で幅広いものであることが分かります。水中で活動する微小原生動物から草木や動物に至るまで、細胞の元となる原子は様々、体験している訳です。これら体験の記憶をわずかでも引き出すことが出来れば、目前に活発な生命活動のイメージが拡がって行くことでしょう。

また人が自然に親近感を覚え、美しさを感じるのは各自の構成原子がそれを懐かしく感じることによるのかも知れません。よく「国民性」という表現がありますが、それはその国土に脈々と連なるこうした原子達の歴史が作り上げるのかも知れません。まさに原子を通じて経験や文化が伝播されて行くと言える訳です。

一方、人間は地上の「チリ」からなる肉体の他に意識や心といった霊的な実体を有しています。これらは各人生を歩む主人公であり、前述の原子は身体という環境に過ぎません。各主人公が学ぶ上で様々な環境が与えられる訳で、その都度、与えられた環境条件を十二分に生かし、自らを生長させることが望まれているということです。

157 This accounts for most of the so-called memories of previous lives. A person may receive an impression that he once lived on earth as Julius Caesar, and his ego will be inflated. But in reality, a few cells of his body may be composed of atoms which were once present in the body of Caesar.

157 このことはいわゆる前世の記憶と呼ばれるものほとんどに当てはまります。ある人は自分がかつてジュリアス・シーザーとして地球に生きていたという印象を受けるかも知れませんが、そのことでその者のエゴは増長することでしょう。しかし、実体はその者の身体の細胞のわずかがかつてシーザーの肉体に有った原子から構成されていたに過ぎないのかも知れないのです。

【解説】

本文の延長上の論議として、私達の得た「体験」は良くも悪くも自分自身の60兆個もの細胞、更にはその先の原子一つ一つに同様な記憶を与えるということに繋がります。これはある意味、恐るべきことで、私達の毎日の一つ一つの感情が自分の肉体を構成する原子に等しく記憶されるという大変大きな責任があることを意味しています。

もし、私達が身体に摂取する原子が良質の記憶を保持しているなら、私達はその影響を受けて落ち着いた喜びに満ちた生活を送りやすくなるとも言えるでしょう。よく言葉として「奉仕」という表現がありますが、人生において自身にこのような平穏で快活、宇宙的な想念体験を増やそうとすることは、後世に残るこれら原子達にその優れた経験を積ませるという体験活動であり、奉仕活動であるということも出来ます。これら一人一人の密やかな努力は、もちろん本人にとってのプラスになることはもちろんですが、真の意味で誰もが出来る後世へ残す遺産でもあるのです。

158 Over the years I have made an interesting observation regarding these "memories." It is indeed rare to find an individual who claims to remember being just plain Mr. Average Citizen. These memories-which in many instances can seem very real-usually involve illustrious persons; everyone from the high priests who officiated at the initiation ceremonies in the Great Pyramid, to more recent characters of history familiar to us all. The vast majority of these are not even cell memories . . . they are simply man exalting his ego.

158 何年にもわたって、私はこれら「前世の記憶」に関して興味深い観察を続けて来ました。全くのところ、自分が只普通の一般市民であったことを覚えていると言う個人は珍しいのです。多くの場合に大変リアルに見え得るこれらの記憶には、通常著明な人物が含まれており、偉大なピラミッドの開始儀式を司祭した高位の僧侶から、新しくは私達全員が良く知っている歴史上の人物までが含まれています。これらの大多数は細胞の記憶どころではありません。それらは人を増長させる自分のエゴの為せるものです。

【解説】

しかし、一方ではこの「前世の記憶」ほど、不確かなものはないのです。本文で言うように私達は他人に自慢し、優位に立ちたいと思うものです。その結果、往々にしてエゴが勝手なイメージを作り上げてしまうものと本文は述べているのです。

従って、この自分探究はその結果を他人に話すような事柄ではないこと、またありのままの過去の自分を受け入れる気構えが必要となります。しかし、より重要なのは過去の蓄積物よりは現在の学習内容にあるように思います。過去、十分に学んでいたら、今期は別の展開があったかも知れませんが、現在、自分がある状況こそが大切だと思うからです。

いずれにせよ、うわべを繕うエゴをより小さくして、各自目の前の課題に素直に取り組むことが重要です。

159 But to return to the true cell memory; because all manifestation consists of atoms, which, through creation and recreation are used and reused to make forms, the interrelationship between all things is self-evident. The atoms which now make up your physical body, previously contributed to the construction of innumerable other bodies and forms. And like the cells of the dwellings mentioned earlier which were impregnated with the vibrations received from the occupants, the cells of the body will carry memories received from each manifestation.

159 しかし、真実の細胞の記憶に戻れば、全ての創造物は原子から構成されており、それら原子は創造につぐ創造に何度も再活用されている為、万物の間に相互関係があるのは自明のことです。今や貴方の肉体を作り上げている原子達はかつては無数の他の肉体や形有るものの建造に貢献して来ました。そして以前述べた住居の細胞のように、占有者から受け取った振動を染み込ませており、肉体の細胞も個々の創造物から受け取った記憶を運ぶのです。

【解説】

期せずして、本文の内容は以前の解説と同じものとなっていました。本講座を続ける中で一つ一つの段落については丁寧に読み解いているつもりですが、先の段落までは十分、目を通してはいません。それでもほぼ似た記述に当たるといっておてや、アダムスキー哲学の平易さを表わすものと言えるでしょう。

しかし、これは本講座が宇宙を貫く大きな真理や法則を掴んでいるからに他なりません。法則や皆、簡素なもので、誰もが理解できるものです。この各原子が天地創造の昔から様々な創造物に使われて来たことは誰もが知識としては持っている訳です。その中で、原子は一つ一つに記憶があるということになると、私達の認識は一変して拡がることになります。

また、万物の一体感という修行者のいわゆる悟りの感想もありますが、これも自分の肉体の各原子とのコミュニケーションが確保出来れば、様々なものに分散、共有されている自らの分身を認識することで、親近感が湧くという解説も可能です。まさに万物に神宿るの心境です。

いずれにせよ、原子が記憶を運ぶということになれば、各自が自分の中に莫大な図書館を携帯しているとも言えるでしょう。利用しないことは「もったいない」の極みです。

160 The Living Soul, given to man when the Creator breathed the breath of Life into his nostrils, does carry the True Book of Remembrance; but few who have lived, or are now living on earth, have as yet evolved in understanding to the place where they may read. True, on rare occasions we may be given a glimpse of a word here and there, and with understanding can interpret these correctly. But since most Earthlings have not yet learned sufficient control over the sense-mind, more than a brief glance cannot be vouchsafed them.

160 創造主が人の鼻の孔の中に生命の息を吹き込んだ時、人に与えられた生ける魂こそが真実の記憶の書を持っています。しかし、地球にこれまで生きて来た、あるいは現在生きている者で、その者達がそれを読み取る場所まで理解力を発展させた者は極くわずかです。真実の所は私達はまれにここここで記載されている言葉の一瞥を与えられ、理解力により、これらを正しく解釈することが出来るかも知れません。しかし、ほとんどの地球人が感覚心に対する十分な支配を学び取っていない為に、わずかの一瞥以上のことを与えられることはないのです。

【解説】

最も大事なものは何かということになると、それは各自の記憶ではないかと思います。各々の人生は毎回、限りあるものということになりますが、その中でそもそも「私とは何者か、何処から来て、今日ここに居るのはどのような目的があるか」を私達は知りたいと思っています。

本項では、私達が創造主から与えられた生ける魂の中に全てが記憶されると述べられており、自らの中に既に莫大な記憶が収蔵されていると言っているのです。そしてその解決策として感覚心を抑制することを条件として挙げていることが分かります。即ち、感覚心を制御すれば自ずと自然に記憶が開示される状況になると述べている訳です。

後年、アダムスキー氏は「生命の科学」を一課ずつの通信教育として執筆しています。その中で私達が日常、振り回されている感覚心とはどのようなものかを繰り返し述べられています。古来より、様々な導師が地球に現れ、語った事柄も同様なものであったことが推定されます。最も重要な自分自身を理解する為にも、各自の内部にある記憶の本源に近づく努力が必要です。

CHAPTER II

Impressions From the Body Cells

161 Some may point to the fact that the cells of the body are constantly changing. How, therefore, is it possible for them to retain their memory?

第2章

肉体細胞からの印象

161 肉体の細胞は常に改まっているという事実を指摘する人もいるでしょう。それ故、細胞達にとって記憶を保持することは可能なのかと。

【解説】

本項から第2章に入りました。

人の身体は内部の細胞の活発な新陳代謝によっておよそ6年周期で新しい細胞に入れ替わるとされています。(http://www.ne.jp/asahi/happy/jolyboy/kisetu01.htm)。日々起る細胞分裂と古い細胞の死により、人間の身体は若さを保っています。元はと言えば、わずかな大きさの受精卵から始まった身体の細胞は、その由来全てを地上の原子に委ねています。身体を構成する原子はある時間、その身体にとどまるものと言うことが出来ます。

「私」自身はもちろん、これら肉体部分だけではなく、肉体を取り去ってもなお残る精神活動体の方がウエイトが高い訳で、仮に肉体が数年で入れ替わるとしても大きな影響はないものと思われま

す。原子達は、それらが構成する肉体の主人公が抱く感情に対して顕著に反応するものと思われま

162 In man, as in the flower bed, the same atoms merely form new cells. Remember the law of affinity, the action of attracting and repelling, is the foundation of the universe. And these tiny atoms, so complete in themselves, obey unquestioningly the Cosmic Intelligence which, through the Mother principle, Matter, has brought them into being. They do not lose their individual identity, but rather, add one more experience through the new manifestation.

162 人においても花壇におけるのと同様に、同じ原子群が新しい細胞群を形成するだけです。親和の法則、即ち吸引と反発の作用が宇宙の基礎であることを忘れないで下さい。そしてこれら微細な原子達は、それら自身が完璧である為、宇宙英知に疑問を挟むことなく、従い、母性原理である物質を通じて生を受けています。それらは自らのアイデンティティを失わず、むしろ新たな創造を通してもう一つの体験を加えるのです。

【解説】

宇宙創世の昔から、ここにある原子は創造主の用いる材料として、絶えず創造の過程に関わって来ました。場合によっては、惑星の範囲を超えて遠い宇宙を旅することもありました。しかし、文中の「花壇」の例のように大部分は惑星の範囲内で輪廻を繰り返して来ていることは明らかです。

当然に、その生い立ちや過去に記憶した感情の多くが、今日まで個々の原子に蓄積されているということになります。その結果、あまりに急速に印象類を感じたいと思うことは、逆に危険でもあるのです。感受性が高まることは、これら古くからの辛い印象も拾い易くなるからです。

私達がテレパシーを身につけようとするのは、こうした過去の辛い体験を味わう為ではありません。もっと創造主の近くで、明るく楽しい充実した生涯を送ることにある筈です。即ち、創造主の指導に声にこそ、耳を傾け、目を凝らす必要があります。取りあえずは、やって来る全ての印象類を受け入れはしても、自分の生き方に取り入れる際には慎重さも必要になります。

163 Atoms are endowed with alertness or awareness, and through feeling, can impress their messages upon man's mind. For instance, we may be strolling down a lonely road, or hurrying along a busy street; the mind occupied with its own thoughts when, through feeling, we become aware of someone staring at us. As yet the eyes have not seen this person, nor was the preoccupied mind aware of his presence until feeling alerted the brain. It was the cells of our body, responding to the directed thought from the other person, that alerted our mind to his fixed attention upon us. This same alertness can be awakened in us by the gaze of any living form.

163 原子達には警戒即ち、知覚力が授けられていますし、フィーリングを通じて自らの伝言を人間の心に印象付けることが出来ます。例えば、私達が人気（ひとけ）のない道を歩いている、あるいは賑やかな街路を急いでいるとします。心はそれ自体の想念によって占められていますが、フィーリングを通じて誰かが自分達を見詰めていることに気付きます。目はこの人物を見ていませんし、印象が頭脳に警告するまで、その存在に気付かませんでした。私達の心にその人物から私達へ動かない注目について警告したのは、その者から放射された想念に呼応した私達の肉体の細胞なのです。これと同じ警報は他の生き物の凝視によっても私達に知覚され得るのです。

【解説】

これまで「印象を受ける」と漠然と表現されて来ましたが、本項ではそれが自身の身体を構成する細胞やその先の原子群が感知した結果を、脳に伝達することによって生じることが説明されています。つまりは全身で感じるということです。既存の四つの感覚器官以上に全身の各細胞各原子がもたらす情報を謙虚に受け入れることが大切だということ、まさに全身全霊の体制が必要だということです。

これら細胞が他の存在の動向や意思を感じ取る能力は、夜行性の野生動物において優れているものと思われれます。真っ暗な中で、相手の動向を探り、安全を確保する為には、こうした目や耳に頼らない感受性が必要なのです。

一方、私達は普段から、既存の感覚器官に頼り切っている為、暗黒の世界や物音一つしない静寂の世界を恐れがちですが、既存の感覚器官を超える範囲にも感受力を伸ばす為には、自らの肉体細胞も既存の感覚器官と同等なネットワークに加えることが必要だということです。

164 What has this to do with telepathy? It is a very good illustration explaining one phase of telepathic communion between man and the body cells, or man and nature. Following is another in which I was a participant.

164 このことはテレパシーとどう結びつくのでしょうか。それは人とその肉体の細胞との間や人と自然との間のテレパシー的な意思疎通の一側面をととても良く表わしている例証と言えます。以下は私が当事者となったもう一つの事例です。

【解説】

従来のように、頭の一部にある目や耳のみに頼ることなく、足の先から頭の先まで、全身を自らの感覚器官、即ち外部からの印象の受容器として認めることです。印象は正直であり、真偽を見極める時や事態の予想をする上で欠くことが出来ません。しかし、心が落ち着いていなければ、その判断の源となる情報が届かないことになり、判断を誤ります。

テレパシーは実生活に活用してこそ意味がある訳で、私達はこれら体内の60兆個とも言われる細胞を自分のエージェントとして活動してもらうのと同時に、彼らの諸々の働きに対して常に感謝しなければなりません。

そこには欺まんや横暴といった姿勢は無く、もたらされる情報を率直に受け入れられる信頼関係が必要になります。そうする中で、やがて人は創造主の意思を自発的に実行できる体制になれるものと思われ

165 A number of years ago an acquaintance who had been feeling unwell, consulted a doctor. The doctor's diagnosis was that she was suffering from a serious heart condition, and that her teeth were so badly infected they would all have to be extracted. Naturally, she was very distressed by the diagnosis; and came to discuss it with me, asking for advise.

165 何年も前のことですが、長く気分が良くないと感じていた一人の知人が、医者にかかりました。その医者の診断は彼女が深刻な心臓の病を患っていること、また歯は細菌によりひどく感染している為、全て抜かなければならないだろうというものでした。当然のことながら、彼女はその診断によって大変心を痛め、助言を求めて私の所に相談に見えたのです。

【解説】

同乗記の最初の部分、アダムスキー氏が宇宙からの訪問者と最初にあった日も、アダムスキー氏を頼っていた一人の婦人とアダムスキー氏が面談し、助言を授けたことが記されています。アダムスキー氏の周囲には、その人となりや宇宙哲学的な教えに魅力を感じた人々がアメリカ西海岸を中心に集まっていたようです。そんな人々から諸々の相談事を受けていたのがアダムスキー氏であったのです。

さて、その中の事例を元に記述されているのが、本項です。自分の健康状態は、本来、身体の主人（あるじ）である本人が最も良く知る筈ですが、実際にはよく分からないでいることが多いものです。それ程に、普段、私達は身体の各細胞から寄せられる報告（メッセージ）に気付かずに暮らしているということでしょう。

また、一方的な思い込みや信頼する相手からの指摘に従って、自ら病気を誘引したり、悩んだりしてしまいます。人には本来、自分の身体を維持する様々な機能が備えられていますが、その機能を発揮できないようにしている思考習慣が問題なのです。その習慣を改めることが出来れば病も改善に向かう訳で、おそらくはアダムスキー氏も求めに応じて相談に乗っていたものと思われます。

166 The woman's mind had been deeply impressed with the idea that her heart might falter and stop at any minute, and that her teeth were ulcerated beyond medical help. Remember, these were the thoughts she was holding uppermost in her mind when she consulted me. Yet, I received a definite impression from the heart that the action of that organ was normal; and I could detect the presence of only a slight infection in the cells of the mouth. Therefore, I informed her that her heart was perfectly normal, and there was nothing wrong with her teeth except for a slight infection of the gums, which could be eliminated with proper treatment. I did not acquire this information by visible means, for I am not a doctor and I made absolutely no physical examination. The diagnosis-if you wish to call it that-was the result of thought-transference from her body cells to my mind.

166 その女性の心は自分の心臓はいつ何時、弱って止まるかも知れないことや、自分の歯が医療の手当てが及ばない程、潰瘍が生じているという思いに深く印象づけられていました。これらは彼女が私に相談した際に心の中で真っ先に抱いていた想念でありました。しかしそれでも、私は彼女の心臓からは、その器官の働きは正常であるという確固たる印象を受けました。口の細胞に若干の感染があることを感知しただけでした。それ故、私は彼女に彼女の心臓は完璧に正常であり、歯茎にわずかの感染箇所がある他は、彼女の歯には何も悪い所は無く、感染箇所も適切な処置によって取り除けることを伝えました。私はこの情報を視覚的手段で得たものではありませんでした。何故なら私は医者ではなく、どのような物理的な診察を行ったのでは決してありません。それを診察と皆さんが呼ぶというのであれば、その診察は彼女の肉体の細胞から私の心への想念転移の結果であったのです。

【解説】

この場合、アダムスキー氏はその婦人の身体の状態をどのようにして知ったのかが重要な所です。従来は「透視」その他の言葉で表現されて来ましたが、本文に書かれているように、その実態は婦人の身体の細胞とアダムスキー氏の心が交流したということなのです。

本来であれば、自分に最も近い自身の肉体の細胞ともっと交流できるべきなのですが、本人の心がその声を聞く耳を持たず、勝手なイメージを追い求めている為に、実際の身体の細胞との意思疎通もない訳です。この場合、他人の能力者の方が身体の状態を正しく把握出来たこととなります。

本当は私達の身体はもっと活発に活動が出来、若さを保つことが出来るように思います。これら活発に動く細胞も、長年その声を無視され、不要なストレスを受け続ける中で、次第に老化し、遂には生命活動が存続出来なくなって死を迎えます。私達が本来、耳を傾けなければならないのは、自身を支えるこれら細胞の声であり、彼らと対話しながら、最高の創造物としての役割を果たすことが望まれています。

167 This lady, still doubtful, went to a heart specialist who confirmed the impression of normal cardiac action I had received from the heart cells. She then visited a dentist, and the information I had received from the cells of her gums was substantiated, for, after taking X-ray pictures, he assured her the infectious condition could easily be cured by a few weeks' treatment.

167 この婦人はそれでも疑って、心臓の専門医の所に行ったところ、その専門医は私が得た正常な心臓の動きの印象を確証しました。彼女は次に歯科医を訪れ、私が彼女の歯茎から得た情報が実証されたのです。何故なら、レントゲン写真を何枚か撮った後、その歯科医が彼女に感染状態は数週間の治療で容易に治ると彼女に保証したからです。

【解説】

恐らく、この婦人はアダムスキー氏の指摘に半信半疑であったのでしょう。念のため、別の医者の方に受信に行った訳です。しかし、この場合、最初の医師よりはアダムスキー氏の細胞が訴える印象を捉えた診断の方が正しかったのです。とかく人の判断は誤るものです。この事例では最初の医師は明らかに誤った診断をしてしまいました。これら医師の診察については、生命の科学にも例示されているように、単なる表現上の症状のみでなく、自らの意識を用いて、体内奥深く起っている状況を意識を用いて把握するという、「原因」と「結果」の両方を同時に見ることの重要性が指摘されています。病の原因と身体の状態把握は最新の検査技術が発達した今日でも医師にとっては重要な能力の一つです。

各自が健康で過ごすことは基本的要件です。その為には、先ずは自らの肉体で日々生じている活動を維持し、それらの健全性を高める為、各自の細胞達、原子群と交流を図ることが重要なのです。

168 This proves that thought can be transmitted from the body cells within a form, without the necessity of passing through the brain of the form as a conscious thought. If thought could only be produced through action of the brain cells, this knowledge could never have been revealed to me; for the woman's brain was broadcasting strong, frantic, thought-vibrations of serious disorder in the body.

168 これは想念は一つの意識出来る想念として形あるもの（訳注：肉体）の頭脳を通過する必要はなく、身体の中の肉体細胞から発せられ得ることを証明しています。もし想念が頭脳細胞の活動を通じてのみ作られるとしたら、この知識は私には明らかにされなかったからです。何故なら、その女性の頭脳は、身体の中の深刻な疾患状態についての強烈で気も狂わんばかりの想念波動を発していたからです。

【解説】

通常、私達は頭で物事を考えます。頭脳こそが人の中心であり、司令塔だとされて来ました。目や耳、鼻等の感覚器官は頭部に集中していますし、それらの反応を伝える神経は直接、脳と接続されているようです。

しかし、本項の事例にあるように、それらが発する想念（情報）は、必ずしも真実であるものばかりではないのです。本来、宇宙の本源から来る印象は正しいもの、真実なものですが、この頭脳から発せられる想念は、感覚器官の意見により解釈を加えられたり、他の者の頭脳から受けた誤った情報も混在する等、その多くは混乱した（迷いのある）ものとなっています。

これに対して、肉体細胞が直接訴える情報は、頭脳から発せられる場合と比べて出力は大幅に小さいものではあるものの、そのメッセージの内容は真実から外れることはないのです。これら妙（たえ）なる想念波動に自らの受信器・増幅器である頭脳を同調させられれば、莫大な情報が本人に流れて来ることとなります。

169 Each atom making up the cells of the body possesses within itself the element of feeling-which is consciousness. Consequently, it is quite possible for the cells of one form, to convey the state of their activity to the cells of another form. When the cells of one body are impressed with vibrations from the cells of another body, the impulse is created in the nerve plasm and immediately carried through the afferent nerves to the brain, where it is decoded into a conscious thought. It may be difficult to accept the idea of cells as little conscious entities, capable of receiving and passing on vibratory impressions, or of forming their own messages; but experiments which have taken place in our laboratories have proved conclusively that all substance is possessed of consciousness.

169 肉体の細胞を構成する各原子はそれ自身の内部に意識であるフィーリングの要素を所有しています。したがって一つの形あるもの（訳注：肉体）の細胞群が他の形あるものに自らの活動の状況を伝えるというのは全くのところ、起こり得るのです。ある肉体の細胞群が他の肉体の細胞から来る振動を受感すると、神経の原形質に衝動が発生し、直ちに中枢神経を通じて脳に伝わり、そこで意識できる想念に解読されます。細胞が小さな意識ある実体で、振動による印象を受信し、転送する、あるいは自身のメッセージを作り出すとする概念は受け入れることが難しいかも知れません。しかし、私達の実験室で行われた実験では、あらゆる物質は意識を持つことを決定的に明らかにしているのです。

【解説】

各細胞が同じ身体の中の他の細胞と情報を交換しながら、互いに連携して生きていることは理解できると思います。ここでは更に進んで、他の身体の中の細胞とも意思を伝えあっていることが示されています。相手の気持ちが分かる、或いは親近感を持つてるといった感情は、こうした自身の細胞と相手の細胞との友好的な間柄が最終的には互いの頭脳に伝わって湧いて来るものと思われまます。

細胞が振動によって意思を伝えることは、顕微鏡下で細胞の活動をつぶさに観察することが出来れば実感が持てるものです。これに関して、私が紹介できるのは、原生動物と称されるやや大型の単細胞生物についてです。これらは単独に暮らすもの、群体を構成するもの等、さまざまですが、主に、汚水を浄化する過程で発生します。大きさは100ミクロン程度はありますので、容易に観察できます。水の中で、彼らは実に活発に動き、水中の細菌を捕食し、水の濁りを取り除く等、汚水処理にはなくてはならない存在です。それらを顕微鏡で観察すると、細胞ひとつの生物ですが、実に個性的であり、当然、意思を持って行動している様子が分かります。

細胞ひとつひとつが意思を持ち、意識を持った存在であるということは、古（いにしえ）より森羅万象に神宿るとする教えにも近いものがあります。従来、アミニズムとして迷信というレッテルが貼られて来たものですが、ここに来て、再度、その本来の意義が解説されているように思います。

170 For instance, living tissue taken from the body of a chicken has been kept alive for years without the aid of brain, spinal cord, or sense organs; not merely preserved but actively growing, or multiplying in cell composition. It is true that this tissue could not continue to live if it were not supplied with proper heat, moisture, and the necessary food; but if the cells of this living tissue were not conscious entities, how could they know how to assimilate the elements provided for their maintenance?

170 例えば、ひな鳥の身体から取り出した生きた細胞組織は、頭脳や脊髄あるいは感覚器官の助けがなくても、何年も生き続けられました。単に保存されたということではなく、活発に生育し、即ち、細胞分裂をし続けたのです。この細胞組織が適切な温度や水分、そして必要となる食物が提供されなかったとしたら、生き続けることは出来なかったのは確かです。しかし、この生ける細胞も組織が意識ある実体でなかったとしたら、どのようにして、それらは自分達の維持の為、提供された元素を取り込むことを知り得たのでしょうか。

【解説】

各自の肉体の細胞自体が「こうしたい」、「こうありたい」という意思があり、それに必要な元素を自ら摂取して、その実現を果たすという訳です。これら細胞の活動には本来、誤りはありません。宇宙意識と同調しており、到底、人智が及ばない奇跡的とも言える肉体の維持を成し遂げていることから、それが分かります。

問題は、これら各自の細胞とその肉体の主人公であるべき私達がどのように対するかです。単に全てをこれら細胞達にお任せしますというだけでは、進歩は望めません。そこで考えたいのは、私達を何万年も先行する宇宙人社会の中でどのような学習が行われているかです。アダムスキー氏を通じてわずかに伝えられていることは、彼ら宇宙の兄妹達は年齢に関わらず学習を継続しており、ある分野の理解者が他を教え合う、一週間の内、社会の為に働くことと自ら学ぶこと、生活を楽しむこと等をバランスのとれた生活を送っているということです。また、驚く程、大勢の人々が宇宙旅行に出て、違った世界を自ら体験するとのことです。

これらは宇宙の広大さを自覚し、自らに与えられた命が如何に宇宙に調和し、関連しているかを学ぶためでもあるのです。何処に行っても、同様なパターンの生命体が存在することを理解することで、改めて自らの細胞達の宇宙的価値が分かるということでしょう。

171 Every moment of our lives provides us with ample evidence of the intelligence of the body cells. While we go about our daily routine, these busy cells oversee the intricate functionings of our bodies. With no assistance from our conscious mind, they extract the essence of the foods we eat, parcel it out to the various parts of the body in proper proportions, and discard the waste. Admittedly, this is only what we have come to accept as a natural functioning of the body; yet when analyzed, it represents a miracle that man cannot duplicate. Does it not give us a wonderful insight into the workings of nature? And what is Nature but Cosmic Cause expressing Cosmic Intelligence? (訳注：原文では"provdes"となっていました、"provides"の誤植と判断し原文も修正しました)

171 私達の命の一瞬一瞬が私達にこの肉体細胞が持つ知性について有り余る程の証拠を提供しています。私達が日々の日課に出掛ける間にも、これら多忙な細胞達は私達の肉体の複雑な諸機能を見渡します。私達の意識ある心からは一つも援助を受けることなく、細胞達は私達が食べる食物のエッセンスを抽出し、それを身体の様々な部分に送り届け、老廃物を排泄します。明らかなところ、これは肉体の自然の機能として私達が認めるところです。しかし、分析すると、それは人間が真似することが出来ないような奇跡的なことであることを表わしています。それは私達に自然の諸作用に対し、素晴らしい洞察を与えているのではないのでしょうか。また、宇宙的英知を表現する宇宙的因以外の何者でもない、自然とは何であるかについてです。

【解説】

私達の肉体内の諸活動は、私達の心に影響をほとんど受けることなく、行われていることは確かです。毎日の食事を通じて、私達は自分の肉体の維持に必要な栄養素を摂取しますが、食物を口で味わい、飲み込んだ後、それらがどのようにして消化吸収されるのか、私達は全く自覚しません。

肉体の主人である各自の心が、身体の維持とかかわりのない問題で悩んでいる間も、悲しみあるいは怒っている時も、肉体の細胞達は懸命にその時々の方々の自らの責務を成し遂げようと努力しています。

これらは、肉体細胞が自ら自分の役割と責任を理解し、主人（心）によって認められなくても、ひたすら自分の使命に忠実に取り組んでいることを意味します。実は当たり前なこととして見なされていることの中に、多くの奇跡があるという訳です。

172 While our minds cannot consciously direct each detail of the complicated workings of the body - we must depend upon nature for this - through our mental attitudes we do wield a tremendous influence over these operations. If we are serene when we eat, the digestive processes are orderly; but if the mind is agitated by thoughts of anxiety or anger, the little cell chemists of the stomach and intestines will be thrown into confusion. This will result in an unbalance in the glands producing the gastric juices, and indigestion will follow. Because the digestive processes were unbalanced, the second group of little chemists, those responsible for controlling the gas, cannot perform their duties properly; and excessive gas will form, often settling around the heart. Since the waste matter was not fully digested, the third group, those responsible for elimination, will be unable to function properly.

172 私達の心は、このことを自然に対して依存しなければならず、意識的に肉体の複雑な作用の個々の詳細を指示することは出来ない一方で、私達の心の態度を通じてこれらの作用に対しては途方も無い程の影響を行使しています。もし、私達が食事する時、穏やかであれば、消化の過程は整然と行われます。しかし、もし心が不安や怒りの想念によって掻き乱されていると、胃や腸のそれら小さな化学者達は混乱の淵に投げ込まれてしまいます。これにより、胃液を作り出す分泌腺にアンバランスをもたらし、消化不良となります。消化の過程がアンバランスになった為に、ガスの制御を担う二番目の小さな化学者達は自分達の任務を適切に実行出来ず、余分なガスが生成し、しばしば心臓の周囲に溜まります。老廃物が完全には消化されない為、排泄を担う第3のグループは機能を適切に果たせなくなります。

【解説】

主人である私達の心は、一方でこれら肉体の正常な諸活動に大きな悪影響を及ぼします。一般にストレスや心配事で胃が痛い、あるいは食欲が無くなったといったことが起りますが、これらは心の影響が具体的な症状として顕在化するまでの段階に達した事態を意味します。

肉体の本来の機能を心が妨げ、自らの寿命を縮めるという構図です。心の平安を保つことが肉体の維持に大変大事なことであることは、言う間でも無く、長命の方は皆、穏やかさを保っています。ちなみに「怒りは敵と思え」とは徳川家康の言葉とされています。

しかし、一方で、ただ、長生きであることだけを目的とするのでは情けない限りです。各自が生きる目的を果たす活動の中で、長生きを考えねばなりません。同乗記の中で千年を生きる長老の講話が紹介されていますが、彼ら宇宙兄妹達は改めて、人間の可能性の高さを私達に示しているのです。

なお、文中に「心臓の周囲にガスが溜まる」とありますが、これは胃の中で過剰に発生するガスにより胃の上部にガスが溜まり、心臓の周囲まで胃が拡張し、胸の痛み（いわゆる「胸焼け」）等を引き起こすことを指しているものと考えています。

173 This unnatural condition in the digestive system is the direct consequence of the strong thought vibrations of anger or anxiety impinging upon the body cells, and if continued long enough can cause serious and lasting bodily damage. Science has definitely proved that anxiety and tension can terminate in neurosis, ulcers, etc. So here is evidence that the sense-mind can bring suffering upon itself, the physical man. There is great truth in the saying, "As ye sow, so shall ye reap." for it is applicable not only to our morals, as most people interpret it, but to every facet of our lives.

173 消化システムにおけるこの不自然な状況は、肉体細胞に衝突して来る怒りや不安の強い想念の直接的な結果であり、もし長く続く場合は、深刻で続く肉体の損傷を引き起こす可能性があります。科学ははっきりと、不安や緊張はノイローゼや潰瘍を起こして終結することを証明しています。ですからここに、感覚心が自分自身、即ち肉体としての人間に苦痛をもたらす得ることの証拠があるのです。「播く種は刈り取らねばならない」ということわざには、偉大な真実があるのです。何故なら、それはほとんどの人が解釈するような道徳ばかりでなく、私達の生活のあらゆる側面に適用できるものだからです。

【解説】

恐らくほとんどの方が、何らかの問題に直面して胃が痛んだり、緊張して下痢したりした経験があるかと思います。これらは、本項で言う自身の肉体に及ぼす心の影響です。実際には心の持ちようによって、問題の深刻さは変わりますし、問題自体の大きさは相対的なものです。これら問題を解決するのが人生ですが、その際、心の動揺に振り回されると、問題は巨大化して見え、同時に自身の肉体も不調にさらされるということになります。

一方、見方を変えれば、心は依然として絶大な影響力を自身について持っていることが分かります。本来であれば、宇宙の法則によって完璧に行われる筈の体内の維持活動に対し、それを阻止する程の力を持っている訳です。その心を各自どのようにして正常な姿に戻すかが、大きな仕事になります。

長い人生の中で、日々自らの心を律し続け、より高次な存在へと努力するなら、身体各細胞も当然、それに呼応するものと思われれます。いつまでも若々しく、柔軟で活発な心を保つことは、やがてその人の顔つきや肉体にも映し出される筈です。心を浄化し、新鮮さを保つことは真の健康美の表現につながります。

ご挨拶 [2009-12-31]

いつも、当サイトをご覧いただき、ありがとうございます。

来年も、このテレパシーの原文紹介と対訳、解説を続けて参りますので、引き続きご覧戴ければ幸いです。まずは、この1年間、ご支援戴きましてありがとうございました。

174 Stop and study yourself impartially. Do you rush about, your body a quivering mass of taut, jangling nerves? Is your mind racing ahead to all the things you feel you must accomplish? If so, you will find every muscle in your body is tense. At the end of the day your body and mind will be fatigued. Even sleep will not bring repose if the mind is not at rest, and in time nature will rebel against your continuously breaking one of her fundamental laws. For when your body and mind are tensed and worried, the cells will not function properly.

174 立ち止まって、片寄らずに自分自身を研究することです。貴方は自分の張り詰めて苛立つ神経の塊になった身体を急ぎ立ててはいませんか。貴方の心は貴方が成し遂げなければならないと感じる全ての物事に向かって、駆け出してはいませんか。もしそうであるなら、貴方はご自身の肉体のあらゆる筋肉が緊張していることに気付くでしょう。一日の終わりには、貴方の肉体と心は疲れ切っているでしょう。もし、心が安静になっていなければ、睡眠も休養をもたらすものとはならないでしょうし、また、やがては自然の基本的な諸法則の一つを継続的に破り続けている貴方に、自然は反逆することでしょう。何故なら、貴方の肉体と心が張り詰め、悩んでいる間は、肉体の諸細胞は適切に機能しないからです。

【解説】

現代社会の中で生きている私達は、ある意味では他の進化した惑星社会に比べて過酷な環境の中で生活していると言えるでしょう。また、加えて未発達、未成熟な自我を抱える中で生きる訳ですから、様々な面で私達は問題を抱えていると言えます。

当然、本項に書かれているように、私達地球人の肉体や精神は疲れ果てることになり、多くが本来の肉体の維持が出来ず、老化を加速し、死に至ることになります。

本項はそれに対し、静かに自らを觀ろと言っています。結局は自分の中に起っている緊張や悩みは、それ自身、私達が作り出してしまったものであり、本来の自然はもっとゆったり流れていることことを知り、自分の誤りを知れと言っているのです。先の生命の科学でもリラクゼーションや新鮮さの重要性について述べられていました。あくせくするのは感覚心であり、同じ内容の仕事を進化した宇宙兄妹達はもっと余裕を持ち、楽しんで行っているように思います。心を平安に保ちながら、肉体を柔軟かつ敏しょうに反応させると言った事柄は、古来から剣術の極意その他で示唆されているところです。

昔から、本項で指摘されている内容は、繰り返されて来たように思います。未だ全体像は知りませんが、中国の老子の思想もアダムスキー哲学に近いもののように思います。もちろん、真実の一つである訳で、その時代、その地方の言葉と表現で先人達は、真理をその時々伝えて来たということでしょう。ちなみに、「老子」上篇10章に「ひたすら”道”に随順すること」とあり、その”道”とはアダムスキー氏の言う宇宙意識を指すものと思えますし、「心身を柔軟に保つ」、「嬰兒のようにあること」等は、他の多くの賢者の教えに共通するものと思われま

175 The natural state of the body cells is a relaxed, yet busy approach to life, When you distort their normal expression through tenseness, they broadcast this inharmony to all about you. We have many examples of this in our daily lives. Notice that when you are tense and out of sorts, and lash out at someone with a sharp retort, you will usually receive a sharp answer. This is caused by the cells of your body impressing their feeling of discontent upon the body cells of the other person. And because you are expressing a strong, destructive emotion that most people have not learned to guard against, their body cells respond in like manner. So if you want to make a happy life for yourself and those around you ... watch those emotions! Stop worrying over every little thing-and over every big thing, too. Worry has never yet solved a problem or changed a circumstance.

175 肉体細胞の自然な状態とはリラックスして、しかも生命にせつせと近付こうとしているありさまです。貴方が緊張を通じてそれらの普通の表現をゆがめてしまうと、それらはこの不調和状態を貴方の全周囲に発信します。私達はこの例を日常生活の中で多く持っています。貴方が張り詰めていて機嫌が悪い時、誰かを辛らつな応酬で非難すると、貴方には大抵はとげとげしい応えが返って来ることでしょう。これは貴方の肉体の諸細胞が不満のフィーリングを他の人の肉体細胞に印象付けている為に引き起こされます。そして貴方がほとんどの人がそれに対して守らなければならない強烈で破壊的な感情を表現している為に、それらの肉体の細胞も同様に反応しているのです。ですからもし貴方が自分自身や周囲、等々に幸せな人生を成し遂げたいと思うなら、これらの諸感情を監視しなさい！個々の細かい物事、また個々の大きな物事についても心配することを止めなさい。心配が問題を解決し、あるいは環境を変えたことはありません。

【解説】

自然界の生物は各々ゆったりした生活を営んでいるように思われます。野や山に出でのんびりした時間を過ごせるのは、自然が落ち着いた、しかも移り行く季節の変化に備えて、無駄無く静かさの中にも活発な活動があり、それらを肌で感じ取ることが出来るからです。

私達が大自然の中で平穏な気分になれるのは、自然そのものの発する落ち着いた想念波動を受けているからと言えるでしょう。それと同様の、正反対の現象が、日々、私達の社会では起っています。荒れた感情に侵された人間は少しでも気に入らない事柄があると相手に怒りをぶつけます。また、その相手はその想念と同様な感情で対抗するといった具合です。こうした攻撃的で断定的な感情は他へも、また自分自身にも大きな影響を及ぼす為、要注意です。

むしろ周囲の人や周囲の環境に良い影響を分ち与える為に、常に調和ある暖かい想念を発することが重要です。豊かな想念を発すれば、その発信元である自分の肉体の各細胞は喜び活性化すると同時に、やがてそれらは周囲の環境や相手から返って来ることになります。同じ社会の中に生きる私達は相互に影響し合っているという訳です。一遍上人の言う「念仏」もそうした祈りの力を言っているのです。

従って、マイナスの想念は何であれよくありません。一見どのような困難な状況にあっても、プラスの思考を維持することが全てを解決する原動力になります。

176 Here is another example of how a worried mind affected the body cells to the point of physical breakdown. For twenty years a friend of mine had prided herself on being an immaculate housekeeper. In fact, her home was so "freshly-vacuumed" looking, both family and friends were never quite comfortable in it. While entertaining, she had an annoying habit of watching the ash trays, fairly snatching them out from under cigarettes so she could replace with clean ones. Her every move, every facial expression reflected nervous anxiety, making the atmosphere in the home vibrant with uneasy tension.

176 ここに心配する心がどのようにして肉体細胞を物理的な崩壊点にまで影響を与えるかに関するもう一つの例があります。私の友人の一人は20年間にわたり、完璧な主婦であったと自慢していました。実際には彼女の家は余りにも「真新しく電気掃除機がかけられた」ように見える為、家族も友人達もその中では決して心地よくはありませんでした。楽しんでいる最中でも彼女は灰皿をひったくって新しいのに入れ替えられるよう、灰皿を凝視するイライラさせる癖がありました。彼女の一つ一つの動作や顔の表情は神経質な心配の念を投影しており、その家庭の雰囲気落ち着かない緊張感でみなぎらせていました。

【解説】

恐らく、「心配」の対極にあるものは「楽しむ」という状況ではないかと思います。元々、心配は物事が先行き危ぶまれるとか、自分の能力に不足があることを危惧する気持です。従って、そこには創造主に対する信頼感は薄れていることになります。よく言われる例に「幼子のように」、あるいは「野のユリのように」と言われますが、いかなる事態にあっても「楽しむ」という気持の中には、創造主への信頼があり、自分自身の生き残りにさほどの価値を設けない潔さがあります。

さて、本項の例は家庭の主婦にはありがちなパターンです。この場合、主婦は家庭を物理的な環境として整えることに専心した訳で、そこにいる人の心についての配慮を怠ったということでしょう。相手の気持を思いやる立ち居振る舞いは、日本では茶道の所作に良く現れているように思います。客と主人が絶妙なタイミングで次々に茶の振る舞いを進め、隣席の客への配慮、主人への感謝等、穏やかな中に行事が進んで行くように思います。客をもてなす真髄は目に見えない所からの配慮や思いやりにあるように思います。

177 The focal point of this woman's life was her home, her husband, and her children. In her fervid desire to be a good wife and mother, she had become so immersed in physical tasks that she made everyone around her uncomfortable. On rainy nights her husband stopped on the drafty back porch and removed his shoes, traversing the length of the house in his stocking feet so he would not mar the freshly scrubbed tile. The children's lives were ruled by stern admonitions: "be careful not to soil your clothes; pick up all your toys; for goodness sake, don't disarrange the furniture."

177 この女性の人生の中心は彼女の家庭であり、彼女の夫であり、子供達でした。彼女の良き妻であり、良き母でありたいとする熱烈な願望のあまり、彼女は物理的な課業に没頭するようになった為、彼女は自分の周囲のひとりひとりを不快にさせてしまいました。雨の夜には彼女の夫は肌寒い裏のポーチで立ち止まり、靴を脱ぎ、真新しく洗われたタイルを台なしにしないよう、靴下を履いた足で家を横切ります。子供達の日常生活は「衣服を土で汚さないように注意して。自分の玩具を片付けて。お願いだから家具を乱さないで。」との厳格な説諭に支配されていました。

【解説】

本来、家庭は安らぎの場である訳ですが、肝心の家庭に問題がある場合、事態は深刻です。仮に外の荒んだ社会で問題を抱えたとしても、ゆっくりできる家庭があれば余裕も生まれるものです。しかし、家庭に問題を抱えた場合、ある意味、逃げ場が無いこととなります。

この場合、家を取り仕切る母親が家族の立ち居振る舞いと家の清潔を過度に固執した為に、他の家族に難儀な生活を強いてしまいました。

集団の中でもリーダーの及ぼす影響は大きい為、リーダーが抱く想いは構成員ひとりひとりに少なからず影響を及ぼします。また、従う構成員はリーダーが何を考えているかを感じ取るものです。昔の言葉ですが、「修身齐家治国平天下」という表現がありました。順次、自らの影響力を行使して、最終的には国を治めるという意味ですが、先ずは自らを修めることから始める必要があります。自らの存在をどのように理解し、60兆もの細胞を配下の構成員としてどのように付き合っていくかを修めねばなりません。

178 Nature finally rebelled; and this prolonged tension brought on a serious lung condition. When the doctor gently told her the results of the laboratory tests, outlining a plan for the necessary months of bed rest, the woman ignored the serious condition in her body, but expressed deep concern over the state of neglect she felt sure would invade the home without her personal supervision. In other words, her thought-habit pattern had become so set, even the threat of a dangerous illness could not register its full impact upon her mind.

178 自然は遂に反乱を起こし、この長く続いた緊張は深刻な肺の状態をもたらしました。医者が彼女に優しく、検査室での試験の結果を話し、数カ月の長期療養の治療計画の概要を説明した時も、その婦人は自分の肉体の深刻な状況を見做して、自分自身の監督が無くなった家庭には放置状態がきつとはびこると感じることについて深い関心を示したのです。言い換えれば、彼女の想念習慣があまりに固定化されていた為、危険な病の脅威ですらも、彼女の心に十分な影響を留めることは出来なかったのです。

【解説】

もちろんこのケースと反対に、自分自身の健康状態だけに関心があるというのも問題がある訳ですが、そもそも自分の肉体の状況を把握できないことがどうして生じるのか考えるべきかと思います。この場合、自らの仕事に対する過度の心配が本人の心を占めていて、全体的な状況把握、物事の重要度お比較が出来なくなっているのです。心が自らの思考習慣によって勝手な自分だけの世界を造り上げてしまっている訳です。

通常、痛みが出れば、その異常に気付く訳ですが、それはそこまで病が進行した結果、神経が悲鳴を上げるまでの状況に至ったことを意味します。本来、肉体細胞は主人である各自の意向に従順であり、多少なりとも痛んだ自分の肉体にねぎらいやいたわりの言葉（印象、想念）を掛ければ、各自の細胞は喜んで修復作業に取り組んでくれる筈です。そういう意味では自身の拠って立つ所の自分の身体の維持についてももっと真剣に取り組むべきなのでしょう。最近では週末にはジムに通うようになりましたが、そこでは中高年が各々身体機能の維持向上に汗を流している光景に出会います。かつて土星旅行記の中でアダムスキー氏は体力維持の為に母船の中で訓練を受けたとの記述があったように記憶しています。これらジムでの風景は、進歩した他惑星社会における各自の身体機能の訓練と似ているのではないかと思います。

179 The doctor's answer carried a philosophy it would be well to heed. "Forty years from now, no one will know, or care, about a little dust on your piano today. So just relax and look into the future forty years. This will give you some idea of how unimportant criticism actually is in your life."

179 その医者次の回答はよく心に留めるべき哲学を備えていました。「今から40年経てば、誰も貴方のピアノの上のわずかなホコリについて知りもしないし、気にも掛けることはないでしょう。ですから、ちょっとリラックスして、これからの40年間を覗き見て下さい。それは貴方に貴方の生活には如何につまらない批判主義があるかという着想をもたらすでしょう。」

【解説】

医者は大事なこととそうでない事の区別について教えています。大事なことは何十年経過してもその人に直接影響を及ぼすこと、あるいはその発展の原動力となるべき事項を指すもので、人としての生き方や家族や人々との繋がりを示すものと思われます。とりわけ、人との出合いや人から受けた影響は後々まで記憶され、その人の人生を決定づけることに成り得ます。

私もアダムスキー氏の著作に触れ、東京世田谷で当時行われていた毎月の会合に出て、当時、この分野の諸先輩からお話を伺ってから、早40年近くが経ちました。人各々歩む道は異なりますが、宇宙や自然、地球への畏敬の思いや人生の生き方等、アダムスキー哲学をベースにして多くを学んだことは私にとって貴重な経験であり、今日でも授けていただいた方々に感謝しています。

そして、今日、ささやかながらもこのようなアダムスキー哲学を自ら紹介できる場所を得たこと、そして道半ばで病に倒れた方々の分も合せて、多くの方々に大事だと思うエッセンスをお伝えできることは心底の喜びとなっています。

180 During the months of her enforced inactivity an amazing change took place in this woman. She found that the house-keeper managed very well without her. This awakened the realization that she had been laboring all these years under a self-imposed slavery to a false idea. The easy-going attitude the motherly servant introduced into the home, enabled the children to emerge from subdued little shadows, to become normal, boisterous youngsters; and as the woman listened to their uninhibited laughter, she could see that the same false standard which had ruled her life, had subjected theirs. Once she acknowledged this weakness and faced it squarely, she knew the doctor was right when he had said that anxiety and tension were the basic causes of her illness. Therefore, her first step on the road to recovery must be learning to relax.

180 彼女の強制的な不活動の数カ月の間、この婦人にある驚くべき変化が起りました。彼女は家政婦が彼女無しでも上手に家を管理出来ていることに気付きました。このことは彼女に自分が誤った着想に自ら課した奴隷状態の下、今迄の年月汗を流していたという悟りを気付かせました。その優しい使用人が家庭に導入したのんびりした姿勢は子供達に服従させられた影から、普通の騒がしい少年達にならせましたし、この婦人は彼らの抑制されない笑い声を聞いた時、彼女は自分の人生を支配して来たそれと同じ誤った規範が彼らの人生も支配して来たことに気付くことが出来ました。ひとたびこのことを理解し、それを真正面から直視した後、彼女は医者が不安や緊張が彼女の病の基本的原因である述べたのは正しかったことを知りました。それ故、回復への道の第一歩はリラックスの仕方を学ぶことでなければなりませんでした。

【解説】

不安と緊張が諸々の病の元凶である点については、多くの読者が同感出来、また少なからぬ体験をお持ちの筈です。もちろん、病気の具体的な現象としては、病原体の細菌やウイルスに感染した、あるいは癌細胞が出現したということですが、問題は日常生活において絶えずこれらの危険因子にさらされる中で、本来発揮されるべき免疫その他の防御機構が、心の抱く不安や緊張の為、十分に発揮出来なくなることが発症の原因である訳です。

これに対し、私達の心から不安や緊張を取り払い、明るく楽しい楽観的な思考を取り入れ、心配をしないことが大切とされています。その根拠は簡単で、宇宙の活動そのものがそうしたプラスの思考の流れで動いているからです。自然界においては、例え過酷な冬の嵐の中にあっても、生き物達はじっと春の来るのを待っていますし、南極では何ヵ月も続く厳冬の夜の間もペンギン達は集団を作ってそれに耐え、卵を暖めてやがて来る春にヒナが孵るような生活サイクルを持っていると言います。極地方の夜だけの冬の生活は私達には考えられませんが、それでも生き物達は楽観的に春の訪れを待って生きている訳です。

また、自然界には弱肉強食やピラミッド型を生態系があり、食物連鎖によって各々の種が生かされています。当然に生まれた者の多くが上位のものの餌になって生涯を閉じる訳ですが、それら幼生はそのような将来のことを心配するような様子は一切ありません。彼らは皆、精一杯その時々を生を満喫しています。自由に伸び伸び生きる中で生命を表現しており、そこに病の要素は見当たりません。

注：文中unhibitedはuninhibitedの誤植と判断し訂正しました。

181 Upon her recovery she again took over the household duties. However, with her new outlook on life, a feeling of ease now prevails in the home. Where once guests were made uncomfortable by her eyes darting anxiously around the room, checking to see whether a cushion was out of place, a curtain not hanging straight, or an ash tray needing emptying, they now find a charming, composed, hostess, Where once she would have dashed for a cloth at the first sign of a thin film on the recently dusted furniture, she now laughs and says: "If you can write your name on the piano, it proves you're educated."

181 回復後、彼女は家事の仕事を引継ぎました。しかし、生活に対する彼女の新しい展望から、安らぎのフィーリングが今やその家庭を覆っています。かつては部屋の周囲に神経質そうに睨んでクッションが所定の場所から離れていないか、カーテンが真直ぐに吊り下げられていないか、或いは灰皿が一杯になって代える必要があるかをチェックする彼女の眼差しによって客達が不快にさせられていた場所で、今度は魅力的で落ち着いた女主人を見い出します。彼女がホコリを払ったばかりの家具についてのホコリの薄膜の最初の兆候に対して、かつては布切れを取りに走ったのが、今度は彼女は笑ってこう言います。「もし、このピアノの上にご自分の名前を書ければ、教育を受けていることの証しですわ。」

【解説】

しばし日常から離れて自分自身や自らの生活を振り返ることは大切です。この場合は病に至った後の入院でしたが、これが旅行であったら、はるかに良い事例と言えるでしょう。とかく私達は習慣に支配され、夢遊病者のように何らの考えもなく、毎日を送りがちです。その日常を断ち切ってこれまでの自分を見つめ直す機会を積極的に作って見ることは、意外な程、価値があるように思われます。その為に、本例のような入院や旅行等、何か特別なことをすべきという訳ではありません。要は習慣に縛られない自分であるよう、心を常に自由にしておくことです。

本事例の場合、主人公は自分が維持すべき家庭を物理的な環境としてのみ見て来てしまった為、そこに暮らす家族が感じる窮屈さには気付いていませんでした。それが入院を契機に違った角度で自分の生き方を見つめ直すことが出来た訳です。病もそういったきっかけを与えて呉れるチャンスと捉えれば、大いに意義あるものとなり、感謝すべきものに変えることも出来ます。チャンスを生かすかどうかは常に私達の受取り方に掛かっている訳です。

182 Her change of attitude reflects through the whole family. Now, their youngest boy, the only one still living at home, feels free to bring his playmates in after school for cookies and milk; and the grandchildren romp through the house with an abandon their parents were never permitted. The family has found a new fullness in life, a new freedom bringing laughter to replace the tension that once existed.

182 彼女の姿勢の変化は家族全員に反映します。家族の内、最も年少の少年は唯一、家の中で生活する存在ですが、学校が終わった後、おやつに自分の遊び友達を連れて来ても構わないように感じていますし、孫達は彼らの両親が決して許されなかったような放任の下、家中を走り回っています。家族は生活の新しい充実感がかつて存在した緊張感に代わって笑いをもたらす新たな自由を見出したのです。

【解説】

組織の中心となる者が持つ心境は構成員の隅々にまで有形無形に作用します。そういう意味でリーダーの心の有り様はそのまま、その組織に投影されるということです。組織の長が和やかでリラックス出来ていれば、従う者も伸び伸び仕事が出来ますが、逆の場合は不幸な事態が起り得ます。過度に規範重視を徹底させると、ゆとりが無く緊張感を強いられる疲れた組織になるように思っています。そういう意味ではリーダーたる者、どのような困難な状況においてもリラックスできる余裕を持つことが必要だと言うことです。

また、本項にアダムスキー氏は好ましい家族像について述べていることが分かります。金星その他の進化した惑星ではどうか知りませんが、少なくとも、家庭は家族がリラックスし、楽しく心安らかな家を行い、中でも家庭を取り仕切る主婦の役割が大きいとしています。子供達には各々の年齢に応じて伸び伸び暮らせる環境が必要で、幼年期のこうした楽しく遊んだ経験が、老人になっても持ち続けられ、優しい心を育むものと考えています。これら楽しい幼年期を送ることが出来れば、大人になっても優しい心遣いが出来、穏やかな人物に成長することが期待されます。今日、この惑星が抱える多くの問題が、本シリーズで紹介する一連の心の開発を通じて、解決できるのではないかと考えております。

183 Does this help you to see how important is your approach to life? how all lives are intertwined? Do you, through your anxieties and fears, keep those near you uncomfortable and upset? If so, recall the change the woman brought into her life once she had released her anxieties. Where, before her illness, her body cells were a tense, nervous mass because a chair was out of place, they now radiate a calm, peaceful feeling that is soothing to those around her. Face yourself honestly . . . for the truth cannot be hidden from your body cells.

183 このことは貴方に生活に対する貴方の接し方が如何に重要であるか、全ての生命が絡み合っているかについて理解する助けになっていますか？貴方は貴方の不安や恐怖を通して貴方の近くの者達を不快と混乱状態にさせていますか？もし、そうなら、この婦人が自分の不安を解放してから自分の生活にもたらした変化を思い起こして下さい。病気の前、椅子が一つ所定の場所から外れただけで、彼女の肉体細胞は緊張した神経質な塊になりましたが、今やそれらは周囲の者を落ち着かせる静かで平穏なフィーリングを発しています。正直に自分を見詰めて下さい。貴方の肉体細胞から真実を隠すことは出来ないからです。

【解説】

自分が発する想念は例え言葉にならなくても、各自の肉体の細胞達は直ちにこれに反応し、それらが発する印象は他の者の肉体細胞に感受され、影響を与えることは、とりも直さず万物が想念（印象）によって密接に影響し合っていることに気付きます。

従って、家であれ国であれ、そこに暮らす人々は各々何らかの雰囲気を持つようになることがこれによって分かります。もちろん、制度や気候、社会情勢等の外的要因もこれに加わっていることでしょう。しかし、一番の問題は各自が自分の生命（生活）にどのように向き合っ、即ち、どのような想念を発し、印象を感受して、その日一日を送っているかにあります。その日一日の過ごし方がその家族や国を構成していると言ってもよいでしょう。

私達の肉体細胞が私達の抱く想念に極めて鋭敏に反応することは、時々身体の不調の多くが精神面の問題から来ることから良く分かります。かつて、ウエイン・ダイヤー氏は「悩みは何処になるか？」について、講演で「それは貴方の外（即ち外界、自然界）には無く、貴方の頭の中にあるだけだ」と明解に述べています。即ち、創造主が造った自然界には悩みや心配事は一切なく、それは貴方自身が頭の中で作り上げたものに過ぎないという訳です。

184 Remember, as long as we allow destructive emotions to govern our thoughts, we interfere with the natural operation of the body, and we set up an effective block against any incoming impression except those of a like nature. When properly analyzed, these emotions are expressions of the personal ego; and the personal ego must be controlled before we can reach the goal of selfless self-expression.

184 私達が破壊的な感情が私達の想念を支配するのを許す限り、私達は肉体の自然な働きを妨げ、同類の印象以外のやって来る如何なる印象も阻止する有効な障害物を設置していることを覚えておいて下さい。適切な分析を行えば、これらの感情は個人的なエゴの諸表現であることが分かりますし、個人のエゴは私達が無私の自己表現というゴールに到達する為には、統制されなければなりません。

【解説】

以前にも紹介した通り、「怒りは敵と思え」の言葉の真意は本項で述べられていることにある訳です。この感情統制が成されなければ、時としてエゴは暴走し、身の破滅をもたらすことが危ぶまれます。時に殺人ざたにも至るこうした心の暴走は結局は自我（エゴ）の傲慢さや恐怖に源を発しているように思います。その為、古来から羞恥心を無くす為の修業や恐怖への対応等の訓練と思われる行が行われて来ました。もちろん、現代人には別のやり方がある訳で、本項にあるように身体内の仕組を踏まえての自我の統制を各自が取組む必要があります。

実は、他人がエゴ的な感情で話しているのか、そうでないかは良く分かります。実は自分自身が一番分からないようです。即ち、善悪いずれにせよ、精神と肉体が一体となって物事を行動する訳で、例え破壊的であるにせよ、その時、本人は一体となって行動を起こしており、一体化しているが故に、冷静な判断が出来ないのです。それを防ぐには、もう少し上位に自分の視座を置いて、演じる自分を観察する必要があります。全てを知る者に真似て、自我を常時監視し、より良い方向に導くことが大切だと考えています。（注：原文にdestrictiveとありましたがdestructiveの誤植としました。次回は第2部第3課に入ります）

CHAPTER III

Effect of Emotions on the Body Cells

185 The little cell chemists within us perform their duties according to an exact pattern laid down by nature. But if through fear, anxiety, or anger, the mind distorts this pattern by over-activating certain glands in the body, the whole "assembly line" is thrown into confusion. The Master Builder, anticipating all situations, has provided both animals and humans with the ability to summon super-strength, unaccustomed agility, etc., when the body is in danger, by over-stimulation of these glands. This is the law of self-preservation in operation.

第3章

肉体細胞に及ぼす感情の影響

185 私達の体内の小さな化学者達は自然によって敷かれた一つのパターンに正確に従って、自分達の任務を果たします。しかし、恐怖や不安、怒りを通じて、心は体内のある種の分泌腺を過剰に作用させることによって、このパターンを歪め、全体の”流れ作業”が混乱に陥れられます。偉大なる棟梁（訳注：創造主）はあらゆる事態を見越して、動物や人間に、その肉体が危険にさらされた時に、これら分泌腺を過剰に刺激することによって、超人的や尋常でない俊敏さを奮い立たせる能力を与えているのです。これは自衛本能が作用する法則です。

【解説】

私達の心が発する極度な感情は体内の正常な生命維持活動を阻害するという訳です。心が発する感情は、個々の細胞にとって見れば、「御主人の一大事」として受け止められ、本来は正常な活動を行っているべき状況にも拘わらず、あたかも一身上の危機状況が襲って来たかのように臨戦体制に入ることになります。その結果、もし何度となくこのような状況に至る場合には、肉体細胞はその対応に疲弊してしまいますことでしょう。

これら緊張状態は身体に余分な負担をかけることになり、老化を早めるものと思われます。本来、人間は伸び伸び生きることが望まれており、古くから真理を悟った人々はこのことを理解していたようです。例えば、天理教の教祖である中山みきの「陽気暮らし」や天地を創造した神に従って、楽しく（悩む心を解放して）暮らせと伝えられたとされています。その他多くの教師が他力本願を基調とした教を説いており、大自然の潮流に従った、言わば印象に従う生活を送れと言っているように思います。

186 However, through our uncontrolled emotions many of us keep these glands over-active a great part of the time; thereby throwing the chemistry of our bodies out of balance. This goes back to the need of controlling the senses; for it is the sense-mind that arouses and tolerates these destructive emotions. So it might be well for us to take a closer look at these emotions, which, unless guarded against, make up so much of our lives.

186 しかしながら、私達の制御されていない感情から、私達の多くは大部分の時間、これら分泌腺を過剰に活動させ続けており、その結果、私達の体内の化学システムのバランスを陥れています。このことは諸感覚を制御する必要性にまで遡ることとなります。何故なら、これら破壊的な感情を引き起こし、許容するのは感覚心であるからです。ですから、それに対し警戒しない限り、私達に生活の多くを占めるこれら感情に対し、より綿密に観察することは賢明だと言えるでしょう。

【解説】

座禅の心境や内省と言われる自身を観察する態度は、本項でいう「警戒」であろうと考えます。元来、肉体内の各細胞は自立的に各々の任務を全うしており、身体の維持に奮闘しています。良い例が、眠っている間にもこれら細胞は休まず働いており、眠っている心に関わりなく、動いています。

一方、私達の周りには、これら感情に支配されている人々が実に多いように思われます。他人を批判し、社会に敵対心を持つ若者も多い気がします。もちろん、最近の社会状況や搾取が進む経済システムの中で、かつてほど、生きて行くのは容易ではなくなりました。しかし、よく電車の車内で携帯ゲーム器で遊ぶ人の姿を目にしますが、そのほとんどのゲームの内容は殺しあいのゲームであり、そのリアルな映像は、ゲームをする本人に殺人の疑似体験を与えています。この場合、ゲームに没頭している本人は叫び声を上げるまでにはなりません。少なからず感情レベルでは本項でいう「破壊的な感情」を放出していることは確かです。本当は、このような破壊的な感情を増長させるようなものは、排除して行きたいところです。もちろん、ゲームを買うのは本人の意志なのですが、このようなゲームを市場に出して、利潤を確保できれば、青少年の心がどのような状況になっても知らないとする経営者には、さっさと地球から去って欲しいと思っています。

187 We have ready proof that whatever thought a man holds in his mind affects every cell in his body, for his outward expression gives ample evidence of this. Anger quickens the respiration, raises the blood pressure - even to the point of apoplexy - causes the muscles of the body to tremble, and distorts the features. So it is obvious that it is not the brain alone which is affected; for every cell in the body reacts to the violent emotion. What is more, emanations radiating from that body can fill a room.

187 私達には人が心の中で抱く想念は何であれ、自身の肉体のあらゆる細胞に影響を与えることについて、いつでも準備できる証拠があります。何故なら、人の外的な表情はこれに対する十二分の実証を与えているからです。怒りは呼吸を早め、血圧を卒中する所までさえも上昇させ、身体の筋肉を震わせ、顔の表情を歪めます。ですから、影響を受けるのは脳だけではないことは明らかです。何故なら、肉体のあらゆる細胞がその暴力的な感情に反応するからです。そして更にはその肉体から放射された発散物が部屋を満たすことも起り得るのです。

【解説】

よく想いは実現するとありますが、自身の想いを直ちに反映するのがその人の肉体細胞ということになります。どのような想念も肉体細胞には隠すことは出来ません。本項に解説されているように、私達の感情は体内の奥深くまで、その影響は及びます。もちろん、長年、それらの感情が継続すれば、身体自身の形も変化して、顔かたちもそれに呼応した変化を遂げるものと思われます。何年かの間に大きく顔の表情をやつれた人、或いはいつまでも若い表情を保つ人等、様々ですが、若さを保つ人には、それなりの若い気持が体内に染みわたっているものと思われます。

そういう意味からは、アダムスキー氏の周囲に居た進化した惑星の人々は皆、年齢とは関わり無く、若さを保ち、いつも新鮮で楽しげな人物であったとされています。その典型が宇宙船内で会見した長老です。本項では破壊的な感情についての記述ですが、もっと自由活発な創造的な想念を自覚すると、体内隅々にまで、その効果が浸透し、肉体の老化が起らないことが想像されます。

古来から、美しいものを見ること、とりわけ万物の創造主をイメージした絵画や彫刻を見ることが尊ばれて来ました。それは、私達の見習うべき手本として、これら心静かな温和な存在を見詰めて来たことに背景があるように思っています。

188 We are given a good illustration of the tangibility of these emanations when we walk into a room where two people are quarreling. Upon our entrance the quarrel will stop abruptly, and both parties will turn to greet us with a false heartiness. Though they are trying to pretend that everything is normal between them, their eyes will still be bright with anger and their features tense, making their smiles appear fixed. And as we cross the room, the atmosphere around us will be vibrant with the strong thoughts of wrath. All present will be acutely embarrassed until the participants are able to bring their emotions under control. Unless the animosity between these two people is deep-rooted, the atmosphere will clear and a feeling of friendliness will return. However, regardless of how carefully they try to cover their true feelings with polite conversation, if the enmity between them continues under the surface, we can become aware of it through the feeling channel.

188 私達にはこれら発散物についての明白さについて、二つの人々の集団が言い争っている部屋の中に入って行った際の良い実例があります。この場合、私達が入るや、その口論は突如止まり、両集団は偽りの愛想で私達を歓迎するでしょう。彼らは彼らの間に何も変わったことはないように装いますが、彼らの目は怒りに燃えており、表情は厳しく、その微笑みはこわばっています。そして私達が部屋を横切って見ると、私達の周囲の空気は強烈な激怒で震えるでしょう。同席の者全員が、彼らの感情が制御できるようになるまでは、ひどく困惑させられることとなります。二つの人々の間の敵意が根深いものでなければ、その空気は澄んで、有効のフィーリングも戻って来ることでしょう。しかしながら、彼らが丁寧な会話で自分達のフィーリングを如何に注意深く隠そうとしても、彼らの間の敵意が表面下で続くなら、私達はそれをフィーリングの経路を通じて感知することが出来ます。

【解説】

個人的にはこのフィーリングの経路を通じてやって来る印象類について、未だ所要の能力を持ち合わせていない為、読者の皆様に十分な解説をお伝えすることは出来ません。通常、私が印象を感じる場合、大抵は目でその対象を見て、（即ち、既存の感覚器官でその対象物を観察して）、対象を把握する際に、何らかの印象を受けることが多いように思われます。未だ、既存の感覚器官を一切、頼りとせず、対象物の発する「発散物」を印象の経路から感受する段階には至っていないようです。

しかし、経験上明らかなのは、人間が発する感情については、自然界の生物には容易に感知できることです。恐らく、人間が発する感情は私達が想定する以上に強烈なパワーを持って四方に発散しているものと思われます。その良い例が、窓越しに野鳥を観察する場合に経験できます。窓越しに遠くの小鳥を優しく観察する場合は小鳥達は伸び伸び遊んでいます。反対に試しに遠い窓越しでも害を与えようと狙いを定めて小鳥を見ると鳥達は直ぐに飛び去って行ってしまいます。小鳥達は自分達に向けられた視線や感情を敏感に感じ取ることが出来るようです。

189 Here, again, we have received the true picture of existing conditions through telepathic impressions, or feeling, from the body cells. For even though we were sightless, the discordant vibrations in the room would impress themselves upon us, belying any honeyed words which might be spoken.

189 ここでもまた、私達は肉体細胞からテレパシー的な印象ないしはフィーリングを通じて現状に関する真の状況を受信していました。何故なら、仮に私達が盲目でありその部屋の中でお世辞が話されても、不調和な振動は私達にそれ自体の印象をもたらすからです。

【解説】

目をつぶっていてもやって来る印象を感受できるようになれば、私達は少しは進歩したことになるでしょう。実際には、自然界には真っ暗な深海や真夜中でも動物達は盛んに活動していますし、彼らは絶えず周囲の状況を視覚によらない自分達の感覚で把握しており、その感覚の中にはテレパシーの能力も相当程度含まれていることでしょう。

先日、山の廃坑の中に宇宙線の観測装置が設置されている模様がテレビで紹介されていました。宇宙から来る粒子が地表を通過し、山の岩石を貫いて観測装置に到達するというものです。宇宙には私達の想像を超える数の粒子が飛び交っており、私達の体内を通過していますが、これらを私達は未だ感知することはありません。

前項（187）で私達が発する想念をemanations（発散物）と表現されていましたが、この発散物はこのような宇宙線と同じ高エネルギーを持った粒子体である可能性もあります。それら空間を飛び交う粒子体が、体内を横切る時、私達の細胞がそれを感知できれば、それらのメッセージを心（頭脳）に伝えることで、印象やひらめきとして心が認知するという仕組みも考えられます。いずれにせよ、頭部に集中した既存の感覚器官でなく、身体全体をこうした想念の受信装置に進化させることが必要であるようです。

190 While we are discussing these undesirable emotions which play such havoc with our minds and bodies, it would be well to point out the danger of holding a grudge. When we nurse thoughts of hatred, feeding them constantly in our desire for revenge, we are poisoning our minds and our bodies as surely as if we were taking a noxious drug by mouth.

190 私達がこのように心や身体に大混乱をもたらすこれら好ましくない感情について議論する中では、他人に恨みを抱くことの危険性について指摘しておいた方が良いでしょう。私達が嫌悪の想念を育み、私達の願望の中で常に復讐したいと思う場合、私達はあたかも、有害な毒を飲み続けているように自らの心と身体に毒を入れていることになるのです。

【解説】

想念の力は自分自身にも作用します。本項で言う感情という強い想念は尚の事、その発信源において最も強力に作用するものと思われます。また弱くかすかな想念でも、継続的に発している場合には同様に作用することが分かります。むしろ私達が日頃、何気なく抱いているような先入観や心の奥に持ち続けているような思いは、本人の行動を支配するのみならず、自身の身体に大きな影響を与えるものと考えます。

本項ではマイナスの想念についての注意事項ですが、逆にプラスの想念についても同様な原理が働くという訳です。本来あるべき正しい想念を絶えず発信し続けることは、その想念の拡がり先への作用のみならず、発信元である私達自身の健全性の維持からも重要なことです。水面の波紋のように発信された想念は何処かで作用した後、再び反射して発信元に返って来ます。有形無形の影響力を及ぼすその想念の潜在力は一人ひとり、何ら特別な資材を要せず行うことが出来ます。こうした祈りの力こそは地球全体の状況打開に威力を発揮するものと思われます。

191 The target of our hatred may be totally unaware of our attitude; or if he is aware, he can turn these thoughts aside by refusing to allow them entry. In other words, he can recognize our mental immaturity and not accept these derogatory thought vibrations from us. This adds frustration to our hatred, and causes us still more harm.

191 私達の憎しみの標的は全く私達の気持ちに気付かないかも知れませんし、或いは気付いてもこれらの想念が入り込むのを拒絶して、それらの想念を脇にどけることも出来ます。言葉を替えば、私達の精神上の未熟さを認めて、私達からのこれら他人を傷つけるような想念振動を受け付けなくすることが出来るのです。このことは私達の憎しみに失望を加え、私達に更なる害をもたらすこととなります。

【解説】

私達が発する想念は必ずしも相手に感知されるとは限らないということです。また恐らく各自はそれなりの自己防衛本能があり、害のある想念に対して身構えたり、やり過ぎたりする機能があるのかも知れません。その場合、発せられた想念は受け取られる相手のないまま、結局は発した本人の元に戻って来るのではないのでしょうか。

従って、こうした他人に害を与える想念を発すること自体、理由の如何に関わらず、避けねばならない訳です。反面、他人を助けたい、力になってあげたいとする気持はやがて、自分自身にも作用するとも言えることが出来ます。

私達は想念の立場から観れば、いわば狭い空間に生きており、互いに密接な影響を及ぼしあっているのです。

192 So it is apparent that we, alone, suffer in these circumstances. And if prolonged, nature will exact a terrible price, because we not only keep the atmosphere immediately surrounding us polluted with our discordant thought vibrations, which will eventually alienate us from our friends, but all the while we are inexorably poisoning our physical bodies.

192 ですから、このような状況の下では私達だけが被害を蒙ることは明らかです。そして長引けば自然は恐るべき代償を迫ることになります。何故なら、私達は私達を直接取り巻く大気を私達の不調和な想念振動に保ち、それにより私達を友人達から遠ざけるほか、その間ずっと私達は自分の肉体に容赦なく毒を盛っているからです。

【解説】

結局はこうした憎しみや恨みを抱く側に多くの害が生じるということです。イエスは「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」（マタイ）と他人への恨みや憎しみを戒めています。大事なことは如何なる事態にあっても自分の心の中を穏やかなものに保ち、外界から影響されないことです。また、一方では不可抗力であっても他人から恨まれるような行為を行うことのないよう、自我を制御すべきことは言う間でもありません。

この憎しみについては、アニメ映画の「もののけ姫」によく表現されています。原作者宮崎駿は憎しみというものがどのように人間を縛り、世の中の破壊を拡大して行くか、またそれを利用して自然を破壊し、人々への支配を進めようとする勢力があるかを、良く描いています。

こうした怒りや憎しみという一見、私達の日常ではあまり関係がないように見えるテーマですが、少し視野を広げれば、中東アジア等で頻発している自爆テロや戦闘等、残念ながらこの種の仕組みが支配している地域も多いことが分かります。

193 Remember, we have shown earlier that thought can become a habit. We can develop thought-patterns of selfishness, discontent and greed; or we can cultivate thought-habits of humility, serenity and generosity. The choice is ours. And if a true analysis were to be made, we would find our lives are governed less by circumstances than by our thought habits.

193 私が以前、想念は習慣になり得ると説明したことを思い出して下さい。私達は自己中心や不満、そして貪欲の思考パターンを発達させることも出来ますが、一方では謙遜や落ち着き、寛容の思考パターンを育むことも出来ます。選択は私達の自由です。そしてもし、本当の分析がなされるなら、私達が自分達の生活が周囲の環境より自分達の思考習慣に多く支配されていることに気付くことでしょう。

【解説】

何事も習慣化するという事です。とりわけ重要なのは、物事の実現力を備える想念が習慣化する場合、本人が自覚しないまま、その想念パターンが継続作用し、結果を早めることになることです。いずれにせよ、習慣や惰性は新鮮さを失わせる為、良くありません。毎朝、鳥達は夜明けを待つてさえずりますが、そこには毎回、新しい経験を迎える楽しい気分があり、マンネリの気配はありません。率直に毎日の日の出を祝う気持がそこに表れています。

かつてイエスは「幼子のようにならなければ天国に入れない」とも言っていますが、何事にも物めずらしく、素直に直視する気持は、この想念の習慣化の対極をなすものです。人は年を重ねるにつれて、習慣化する部分が増え、感動も薄れる結果、時の経つのが早く感じられるようになるものです。それほどに感受する想念の数が減ってしまう訳です。何ら感度のない日常は習慣化した生活の現れであり、これに対しては常に新鮮な感動を日常生活に呼び覚ます必要があります。

194 It does not matter whether we live in luxury, or in poverty; we have the right to choose our thought-patterns. Our bodies may be enslaved by the false economic barriers that have been raised on earth, but our minds are free. Thoughts are ours to control, when we better understand our bodies and our minds.

194 私達が贅沢な暮らしをしているのか、貧しい生活をしているかとは関わり無く、私達には自分達の想念パターンを選択する権利があります。私達の肉体は地上で培われて来た偽りの経済的障壁によって奴隷にされているかも知れませんが、私達の心は自由です。想念をコントロールするのは他でも無い私達ですし、そうすれば私達が肉体と心を今以上に理解することになるのです。

【解説】

聖書のどの部分であったかは覚えていませんが、イエスが救いを求める人々に対し、語った場面がありました。人々のある者は生活の困窮を、ある者は病の治癒を求めたことでしょう。また、別の者は支配者への反旗をイエスに望んだものと思われれます。しかし、イエスは一部の病に苦しむ者を治したものの、その者にそのことを他人には黙っているように厳命する等、それらの行為はイエス本来の仕事ではないように振る舞いました。もちろん、支配層への反逆等は行いませんでした。その国の律法に従った行動をとっていたのです。

しかし、イエスは人々の内面について、とりわけ創造主への信仰については、様々な例を用いて人々に説きました。そしてその教えは2000年近く経て、再び進化した諸惑星からの教えとして地球にもたらされ、復活しています。

私達の生活は、生まれた国によって、個人によって暮らす環境は大きく異なります。また、時々の経済的、政治的、社会的な状況によっても変化するものでしょう。しかし、大事なことは、最も基本的な部分はこのような外的な環境ではなく、その人が日頃心の中に抱く想念パターン、即ち内的な環境であり、これらを改善することで各々新しい生命の息吹きが生まれ、その実行を通じて周囲の環境も自ずと変化して行くことを理解することにあります。

195 Those with whom we come in contact daily, will affect our lives; but only to the extent we permit them. For example, when we meet a disgruntled person and listen to him expound his philosophy of gloom, unless we are on guard, a feeling of depression will envelop us which may last for hours or even days. This is caused by the melancholy vibrations emanating from his mind and body, affecting our mind and body cells with a feeling of despair. But when we have understanding, we can refuse to accept his attitude, and keep our minds serene while listening to him. This balance of mind will counteract any harmful radiations that might otherwise influence us.

195 私達が毎日接する相手は、私達の生活に影響を与えます。しかし、それは私達がそれを許す範囲までです。例えば私達が一人の不機嫌な人物と会ったとし、その者が自分の憂鬱の哲学を講釈するのに耳を傾けたとすると、私達は警戒していないと、意気消沈のフィーリングが私達を包み、何時間或いは何日も続くこととなります。これはその者の心と肉体から発散している憂鬱の振動によって引き起こされますし、私達の心と肉体細胞に絶望のフィーリングを作用させるのです。しかし、私達に理解があれば、私達はその者に耳を傾けている間にもその者の姿勢を受け入れることを拒み、自分達の心を澄んだ状態に保つことが出来ます。この心のバランスは私達に影響を与えるかも知れない有害な放射物を阻止するのです。

【解説】

想念レベルにおいて私達は相互に深く影響をし合っています。とりわけ、尊敬すべき存在に対しては、その人の話に耳を傾け、その意味を心に留めようとするのは当然です。本項の例示の場合は、逆の例でしたが、地球には様々な段階、多様な波長の人々が生きている訳ですから、中には、事例のような注意しなければならない存在があり、或いは実際にはそのような決して参考にならない生き方の道歩く者の方が圧倒的に多いのかも知れません。

これらマイナス面の反面教師は、身の回りにも多いことですし、本項で述べられたことも、その影響について多少なりともかつて経験したこともあるのではないのでしょうか。世の中には迷える小羊を捕まえようとする悪徳の者もあり、金銭社会では詐欺も横行しています。しかし、最も注意すべきは「肉を切るものよりも魂を切るもの」に対してです。一見、もっともらしい事柄を述べ、個人の興味を引き付けて、最終的には本来の道を外させる、悪の手先に成り果てる者も多いのではないのでしょうか。

しかし、一方では、本来の道に導く多くの存在もあることが救いとなっています。古来から良書とされている書物を読み、偉人の歩みを学ぶことは、大変意義のあることだと思います。また、現に同好の友を有している者はその出会いを大事にし、相互に切磋琢磨の道を歩む責任があります。かつてアダムスキー氏の周りには、多くの人々が集まり、氏を囲んだ小規模の会が催され、その中で氏は多くの事柄を語り、集まって人々に真理を説き、生きる上でのアドバイスを与えています。私も後年、その何人かの方とお会いし、当時の模様を伺いましたが、どの方からも実に昨日のここのようにリアルなお話を聞いたことを覚えています。それ程に、人物に直接、会って接するという事は大きな影響を相手に与え、その生涯を決定つける程の出来事となることが分かりました。そういう意味でも、私達は一日一日を大事にしなければなりません。出会う人、一人ひとりに与える影響について心して一日を過ごしたいものです。

196 Let us now take the example of the cheerful, optimistic person, who looks upon all manifestation and "knows it to be good." The uplifting thought frequencies from this person will elevate our own vibrations, and our day will be enriched through contact with him. And although not necessarily conscious of it, as long as this influence lasts our minds will be operating on a higher frequency level. Just like the house that was impregnated with love and laughter, drawing us back for frequent visits, we will seek this person's company.

196 今度はあらゆる創造の現れを見て、「良きものであると知って」いる陽気で楽観的な人物の例について取り上げましょう。この人物からの高揚させる想念振動は私達の波動を高め、私達の一日はその人物と接する中で豊かなものになることでしょう。そして、それを意識しておくことは必ずしも必要ではないのですが、この影響が続く限り、私達の心はより高い周波数レベルで運用されることとなります。丁度、愛情や笑いで満ちた家のように、私達はそこを何度も訪れたいと思わせるように、私達はこの人物と同行することを求めることでしょう。

【解説】

以前、ある方から「哲学は明るくなくてはいけない」という意味のお話を伺ったことがあります。ともすれば難解な言葉を使い、また現状を悲嘆して人生に見切りをつけるようなものは真実でないし、生きて行く上で不要だという意味でのご発言であったように記憶しています。進化した他惑星人も皆、ほがらかで明るい方達であることは同乗記に記述されている通りです。こうした明るさの背景には宇宙に流れる生命の根源に源を発する宇宙の真実、生命の真理を知れば知る程、現状に感謝し未来に希望を持つことがあると思われまます。

昔のことですが、「野のユリ」という映画がありました。カトリックのシスターの一団に、行き会った黒人の青年（シドニー・ポアチエ）が様々な仕事で手伝うはめになるというストーリーです。タイトルが示すイエスの言葉の通り、シスター達の楽天的な様子は、実は創造主に完全な信頼を置いていることがよく表現されている映画です。

古来より、私達は安らぎを求めて来ました。もちろん、心休まる環境は居心地も良い訳ですが、その状況は先ずは自分自身の内側に造らねばなりません。私達の身体には私達だけの為に60兆個もの細胞が働いており、身に付けている衣服も私達だけの為に、今そこにある訳です。これらの者達を伸び伸びさせ、最適な環境を保つようにすることは主人たる者の任務ですし、そうする中で周囲にもその影響を及ぼすことが出来るというものです。

197 I strongly advise each student to observe this law working in his own life; for it is a perfect example of the meaning of "like attracting like." If we open our minds to the gloomy thoughts of the pessimistic person, these vibrations will have a depressing, narrowing influence on our lives; and if the contact with this outlook is continued long enough, our thought-pattern may drop to the same bigoted, mental level.

197 私は個々の学習者に、自分自身の生活の中でこの法則が働いていることを観察するよう強く促しています。何故なら、それが「類は類を呼ぶ」の完璧な例示であるからです。もし、私達が悲観的な人物の憂鬱な想念に対し私達の心を開けば、これらの振動が私達の生活に意気消沈と険しい目つきをさせるような影響を与えるでしょう。そしてこの態度との接触が長く続けば、私達の想念パターンは同じ頑迷な精神レベルに落ちるかも知れません。

【解説】

ここでのポイントは各自の想念レベルが現実の世界の法則として作用していることを、自分の目で確かめよと言っていることです。既に私達はかつての悲観的想念が自分の身体に与えた影響や、怒りの感情が自分のみならず周囲の人々に如何に大きな悪影響を及ぼしたかを十分知っている筈です。むしろ、一見どのような難局にあっても、明るく楽観的な想念状態を保つことで事態がどのように変化するかを、自身の生活の中で実証することが求められていると考えます。

多くの書物を読み、先人達の教えを学ぶだけでは十分ではありません。揺るぎない本質を掴む為にはどうしても自分で体験することが必要です。そういう意味で、自分自身が最良の教材となります。また、かつて中山みきがいみじくも述べたように、「身体も家屋その他も全ては神様からの借り物で、唯一、自分の心だけが自分のもの」だと考えると、自分の心を常にどのように保つかが重要で、その制御が私達の主要な任務であることが分かります。

法則というものは、何時如何なる所でも作用する基本原理ですから、これを体験し理解することが出来れば、応用は自由自在です。この体験は古来より、「悟り」と表現されて来ましたが、従来は難行苦行の末に得られる境地とされて来ましたが、本講座では精神と物質の垣根を超えたつながりを発見する中で得られるとしている訳です。

お知らせ [2010-02-08]

明日から、約 1 週間、海外に出る関係で、本ブログの更新が出来ません。

再開は 2 月 1 5 日以降となる予定です。

宜しくお願いいたします。

竹島 正

198 But if we open our minds to the thought of the optimist, a feeling of well-being pervades us, bringing a sense of peace. For happy thoughts stimulate and expand, activating little used lobes in the brain; broadening our horizons and giving us a better understanding of the Cosmos and all that exists therein.

198 しかし、私達が楽観的な人物の想念に私達の心を開けば、幸福のフィーリングが私達に拡がり、平和な感覚がもたらされます。何故なら、幸せな想念は頭脳の中でほとんど使われていなかった脳葉（訳注：脳の内、全体の8割を占める大脳は、前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉の4つの葉[よう]から成るとされています）を刺激し、拡張して活性化させますし、私達の視野を拡げ、宇宙とそこに存在する全てのものに対するより良い理解を与えるからです。

【解説】

何故、楽観的な思考パターンが大切なのか、その理由がここに述べられています。物事を解決して行く為には、各人が悲観的であれ、楽観的であれ、解決策に気付いて行く必要がありますが、その為には豊かな発想力や鋭敏な感受性が求められます。その点、本項でハッピーは感情が、頭脳を活性化すると述べている点に注目すべきです。

しかし、これは自分がエゴを好き放題にさせて、一切の責任をとらない姿勢を意味するものではありません。丁度、野生の動物が厳しい自然環境の中にあっても、明日のことを思い煩うことなく、時々に必要なことを直感的に行い、常にその日その時を楽しむ姿勢を意味しています。

創造主は、両親がその子供を愛おしく思うように、全ての創造物を等しく愛していると思うべきです。そうならば、私達創造物は常に穏やかに幸せな日々を送ることこそ、創造主の喜びであり、願いであることが分かります。常に創造主からの慈しみを受けていると感じること、その意味において楽観的な思考パターンが必要だということです。

199 You can easily demonstrate this in your own life. Consciously implant a thought of worry or anger in your mind, then study the effect it has on you. You will notice a feeling of heaviness spread rapidly through your body as the discordant thought impinges its influence upon the cells, disrupting their normal activity. Still holding the thought, watch how the law of affinity attracts impressions of a similar nature; and how each additional thought adds to the weighty feeling in the body. Here, we are breaking Nature's fundamental law of harmony. And because of the barrier of tenseness created in the mind, causing inharmonious functioning of the body cells, telepathic reception is almost impossible.

199 貴方はこれをご自身の生活の中で簡単に実証して見せることができます。意識的に貴方の心の中に心配あるいは怒りの想念を植え付けて、その後それが貴方に及ぼす影響を研究することです。その不調和な想念が各細胞にその影響を打ち付け、それらの正常な活動を妨げるにつれて、貴方は重苦しい感じが急速に貴方の身体中に広がることに気付くことでしょう。依然としてその想念を持ち続けた場合、親和の法則が如何に同種の性質の印象類を引き寄せ、更には個々の加わった身体に重苦しい感じを付け加えるかを観察することです。ここに私達は大自然の調和と言う基本法則を破っているのです。そして心の中に造り上げられた緊張の障壁の為、肉体細胞の不調和な機能をもたらし、テレパシクな受信はほとんど不可能になることでしょう。

【解説】

「病は気から」という言葉が示すように、私達の体調変化の多くは心的状況を反映しています。しかし、こう述べることは決して病に苦しみ戦っている方々に対して、誤りを指摘しようとするものではありません。むしろ、各々の病にある皆様に少しでも快復の助けとなるきっかけを御提供できればと思う次第です。ちなみに、アダムスキー氏ご自身も後年は体調不良を訴えていたとも聞いています。もっとも、氏の場合は、私達には考えられないような大きな責任と様々な妨害活動もあったことも、その背景になったことでしょう。

私達の場合、通常の問題は自身の仕事の成りゆきや家族その他の問題に自分の心が支配されていることにあります。本人自身の身体はこのような問題に対して一切の責任はない訳で、ひとえに心が抱く想念の影響を受けていることによって、身体の正常な活動が阻害されているのです。

先日、久しぶりに1週間程の海外旅行に出ました。毎度の事ながら、盗難等から身を守り、時刻までにチェックインする等、見知らぬ海外での非日常的な体験は、時に心に不安を抱かせることがあります。そういう時、心をリラックスさせ、印象に従って行動することで思いのほかのラッキーな事が進むことも多いようです。その反面、不安感ばかりが増長すると体調も不良となりがちで、緊張していると思わぬ怪我や事故も起りやすいものです。大切なのは自分の身体がどのような原因要素から影響を受けているのかを見極めて、本当に必要なもののみを心に取り入れることなのです。

200 Now, consciously change your thought-pattern by replacing the above thought with a cheerful one. Notice how the sensation of heaviness dissipates, and the body actually seems to lighten as the cells resume their normal activity. Notice how with the relaxing of the brain cells, thoughts once more flow freely. It is in this state of coordinated harmony between the mind and body cells, that true telepathic reception is possible.

200 今度は前述の想念を快活なものに置き換えることで、意識的に貴方の想念パターンを変えて下さい。如何にその重苦しい感じが消失し、身体が実際に個々の細胞が正常な活動を再開するにつれて、実際軽くなるように思えることに気付く筈です。頭脳細胞をリラックスさせることで、如何に想念が再び自由に流れるかに気付くことです。心と肉体の細胞との間のこの調和したハーモニー状態の中で、真のテレパシー的受信が可能となるからです。

【解説】

皆様には既に精神保健やカウンセリングの効果について聞いたことがあることでしょうか。他人に話を聞いてもらっただけで随分気持ちが楽になったと話される方も多いものです。詳しくは存じませんが、カウンセラーはひたすら相手の話を聞く姿勢を貫くと言います。これは相手に自分の心を理解してもらうことで、本項で言う心の中を自由にするような効果があるものと思われれます。それは同時に、自らの実状を言葉で表わすことによって、自分を理解してくれる相手が近くに居ることが分かり、また自らの言葉を自分の耳で聞くことで自分を見詰め直す機会を得るという意味もあることでしょうか。

テレパシーは本来、自由な心の状況でなければ機能しません。想念はそれ程、素早く、また微妙（妙なる）流れです。普段の私達はそのような微弱な信号を感受できる程、繊細ではないのです。それらの能力は私達は基本から学び取って行く必要があります、その第一歩として頭脳細胞を常にリラックスさせて置く重要性を説いています。

201 Since we all have certain daily routines we must follow, it is advisable to learn to do everything with joy. Be happy there is a task for you to do, and be thankful you are able to do it. No task is irksome, regardless of how menial, unless we give it the power to irritate us. Do not allow the little vexations of life to control your mind and upset the functioning of the body cells, for this closes the door to receptivity.

201 私達は皆、何らかの決まりきった仕事を持っていますので、何事も楽しく実行する仕方を学ぶのは賢明です。貴方には仕事があることに幸せを感じることを、そして貴方がそれを為すことが出来ることに感謝することです。仕事は如何につまらないものであっても、貴方がそれに苛立ちのパワーを与えない限り、退屈なものにはなりません。生活に関するどんな小さな苛立ちにも貴方の心を支配させてはならず、肉体細胞の機能を狂わせてはなりません。何故なら、これは感受性への扉を閉めてしまうからです。

【解説】

私達は毎日の生活の積み重ねで出来上がるものです。その毎日の生活をどのように過ごすかが重要で、日々の雑用を回避したり、卑下したりすることは誤りだと本項は説いています。見方を変えれば、どんな仕事も意義があり、実行するのは宇宙的価値があることだということです。

若かった頃、職場の先輩から「仕事は楽しく、遊びは真剣に」と言われたことを思い出します。当時の私は、仕事は十分余裕を持って臨めばうまく行く、また、つまらない仕事の中にも、楽しみを見出すように、遊びは自分が選んだ好きな道なので精進に励め、というように解釈していたものです。本項にある何事によらず自分の仕事に喜びを見い出せということはテレパシー能力の上からも基本的な姿勢であるということです。

202 I cannot stress too strongly the importance of our daily attitudes; for it is during the long hours of routine living that our thought-habits are formed. While it is an admirable practice to devote a specified number of hours each day to study, if, with the closing of the book, the mind reverts to the old thought-pattern of worry, the benefit gained from study is nullified.

202 私は私達の日々の姿勢の重要性について強調してもし過ぎることはありません。何故なら、私達の想念習慣が形成されるのは、決まりきった日常生活の間であるからです。毎日、特定の時間を学習に充てることは賞賛に値する訓練ですが、その一方でもし、本を閉じると同時に心が心配の古い想念パターンに戻ってしまうなら、学習で得た恩恵は無くなってしまいます。

【解説】

一日24時間、私達がどのような想念状態に生きているかが大切な所です。一過性の気分の高揚だけでは私達の思考習慣を変えることは出来ません。しかし、継続的な力は、例え微力であったとしても、遂には大きな力を発揮するというものです。私自身、40数年この分野に身を置けていますが、毎日の生活の中でこの教えを少しずつでも実証して行くことが効果的であると分ったのは、最近のことです。書物に書かれていることが真実なことなのかを自分の生活の中で応用し、体験することに勝るものはありません。

自らを実践の場とすることは、誰にもはばかりことなく、原因と結果の相互関係を知ることが出来、人知れず改めることも容易です。また、内なる創造主と対話する姿勢を保つことで、より一層、インスピレーションが湧き上がるようにも思います。日常の仕事をする中で、様々なアイデアが思いつき、物事が一挙に解決することも多いことでしょう。古来から様々な言葉で想念や肉体、宇宙と個人との結びつきについて、真理が伝えられて来ました。私達に足りないものは生活の中にそれら真理を取り入れること、実践であり、どんな些細なことでも実践することが大きな進歩をもたらすものと思われま

203 We have shown the detrimental influence destructive emotions have in our lives; yet, there is a simple demonstration to prove how easily their hold can be broken. If we can get an angry person to accept a pleasant thought, his strong, destructive emotion will quickly fade. The mind cannot retain thoughts of anger, fear, anxiety, worry, or any of the other destructive emotions which plague it, when one is happy. In this balanced state, we are using Nature's law of harmony; which relaxes the mind, releases tension in the body, and opens the way for unhampered telepathic reception.

203 私達は、私達の生活の中で破壊的な感情が持つ有害な影響について示して来ました。しかし、如何にそれらの支配が容易に壊れるかを示す簡単な実例があります。もし、私達が或る怒っている人間に、楽しい想念を受け入れさせることが出来れば、その者の強い破壊的な感情はすぐに消失することでしょう。心はその人物が幸せである場合、怒りや恐れ、不安や心配、その他、心を病に陥らせている破壊的な感情を保持出来なくなります。そのバランスのとれた状態では、私達は大自然の調和の法則を用いており、それは心をリラックスさせ、身体の中の緊張を解放し、妨げられることのないテレパシー受信への道を開くのです。

【解説】

心の持ち様一つで同じ状況も本人に与える影響は大きく異なります。心に何を取り入れるかはもちろん、本人の自由なのですが、その心が同調する想念によって肉体は大きな影響を受けるのです。それほどに肉体細胞は心が抱く想念と結びついている訳です。

この場合、重要なのはもちろん、心を宇宙的な想念で満たすことであり、そのことが各自の唯一の義務なのです。よく他人の迷惑にならないようにと言われて来ましたが、実際にはその逆で、他人を有形無形に援助できるのは、この想念の力であり、多くの方々が今後のこの惑星の安寧と人々の進歩を願う宇宙的な祈りの念を持って欲しいものです。どのような想念を選択するかは各自の自由とされていますが、その選択内容は直接、抱く本人に大きな影響を与えとも言えることができます。

204 Since the adult mental attitude overshadows and molds the mental attitude of the young, we should be particularly careful in our dealings with children. The young mind, not yet cluttered by our accepted tenets, is naturally receptive to impressions. Because the child is dependent upon us, both for physical care and love, this makes a very close tie; and our thoughts will have a direct bearing upon the mental and emotional development of the young life. If we are tense and irritable, the child will become nervous and filled with a feeling of insecurity; if we are calm and balanced, the child will feel secure.

204 大人の心の姿勢が年少者の心の姿勢に影響を与え、形づくることから、私達は子供達を取扱う際には特に注意すべきです。私達が受け入れた諸々の教義に未だ散らかされていない若者の心は自然と印象に感受性があります。子供は身体上の保護や愛情の両面において私達に頼っていますので、これはとても親密な絆を形成しますし、私達の想念は年少者の生命における心や感情の発達に直接的に関連します。もし、私達が緊張し苛立っていた場合、子供は神経質になり、不安なフィーリングで満たされることでしょう。もし、私達が静かで調和がとれていれば、子供は安心を感じることでしょう。

【解説】

幼児期を過ごす環境の大切さは、「三つ子の魂」等、古くから言われ続けて来ました。子供は穏やかで思いやりのある家庭で育てられなければなりません。これら幼児期は言葉を発する機能、即ち感覚心の発達はこれからなのですが、反面では印象類の感受力は大人以上に鋭敏です。私自身の記憶でも、幼児期に過ごした生活の断片は60年近くも経過した今日でも鮮やかに思い浮かびます。それ程に印象の記憶が深いものと思われます。

一方で、家庭内の不和その他の問題の悪影響は直ちに幼児の健康状態に影響を与えますし、私自身も病弱な幼児期を過ごしており、それらの病気が周囲の環境の影響を顕著に受けるのが子供達だとする本項の解説は良く分かります。

以前、どこかで紹介したように、ルーサー・バーバンクは著書 (The Training of the Human Plant, 1917) の中で、子供が最も鋭敏な生き物だと表現しています。また、同書の中で、ルーサー・バーバンクは子供は10才まで学校にはやらず、自然に近い田舎で過ごすことの重要性を指摘しています。都会では誘惑が多すぎることで、あまりに人工的な生活であることが問題だとしているのです。本書が書かれた1917年(大正6年)で既にこうした指摘がある訳です。将来の成長を前に、大自然の中で過ごすことの大切さとして言葉を発しない自然界の多くの生き物と接する体験をこれら感覚が鋭敏な時期に積み重ねることをルーサー・バーバンクは推奨しているのです。

205 Authorities now recognize it is the delinquent parent rather than the delinquent child who is the real culprit. This delinquency is not confined to the neglected child, for many of these young criminals come from homes where they have been given every advantage; but it would be interesting to make a survey of the mental outlook of their parents.

205 今や当局は本当の元凶は非行の児童よりは非行の両親であることを認識しています。この非行問題は捨て置かれた児童に限定されるものではありません。何故なら、これら若い犯罪者達の多くは、あらゆる便益を与えられた家庭から出ているからです。しかし、彼らの両親達の心の視点について調査することは興味深いことでしょう。

【解説】

ここでは子供に与える親の影響、とりわけ精神面即ち心の有り様についての影響が極めて大きいことが述べられています。物理的な環境というよりは精神レベルの真面目さや信仰心が子供に大きな影響を与えているのです。家庭におけるこれらの要素が幼児が発達する過程で特に重要だということです。

一方で同じ惑星でも国によって、地域によって社会状況は異なりますし、各家庭の状況も様々です。そういう意味では宇宙広しと言えども、各自の進化に必要な環境は数少ないものと思われます。今回の人生で自分は何を学ぶ為にここにいるのかを知ろうとすることは、その場所を用意してくれた創造主の配慮に感謝することもつながります。

206 In infancy and young childhood, before the indoctrination of accepted beliefs has filled the mind with preconceived ideas, the young life is governed almost entirely by impressions. Long before a baby can talk, it can receive thoughts and respond to them. Therefore, is not the importance of the parent's attitude self-evident? Remember, our children are little mirrors reflecting our emotional stability or instability.

206 広く受け入れられた信条が心を古くからあるアイデアで満たす前の幼児期や幼年期においては、年少者の生活のほとんどは印象によって完全に支配されています。赤ん坊が喋れるようになるはるか前、赤ん坊は想念を受け取り、それら想念に応答します。それ故、両親の姿勢が重要であることは自明のことではないでしょうか。私達の子供は私達の感情の安定あるいは不安定さを映す小さな鏡だということを忘れないで下さい。

【解説】

乳幼児が想念や印象に反応していることを本項では述べています。即ち、想念の感受力が優れている為、大人が想像する以上の状況判断が乳幼児には出来ているということです。それらはまた、言葉の発達前の印象による生活が大切であることを意味しています。

乳幼児の生活が印象に基づいているということは、私達一人一人が生まれて来た当初は、テレパシー能力を行使していたことを意味します。つまり、各自が言葉や文字に頼る生活から再び、昔の印象による生活を始めることの重要性を伝えている訳です。家で飼う犬や猫も各々話す言葉は異なりますが、人間が言葉の違う外国に行った時ほど、戸惑っている様子はありません。彼らは各々落ち着いてその環境を楽しんでいます。その背景には、彼らは言葉や文字によらない印象による優れた感受力があり、大自然から溢れる程の印象を受け取っているからに他なりません。

207 These are but a few examples of what I meant when I referred to impressions as being from effect to effect. This thought can be enlarged upon almost indefinitely; the only limitation placed on it is the scope of our imaginations. Each person should search thoughtfully into his daily life, recognizing and studying as many of these examples as possible. The key to opening the consciousness to commune with the Cosmos, is a thorough, impartial analysis and understanding of . . . mind. For it is through consciousness man expresses; so the better his understanding of the many pases of creation which are capable of influencing his mind - both from within the body, and from space itself - the more comprehensive will be his understanding of Cosmic Cause.

207 これらは、私が結果から結果への印象と表現した時に意味したことの多少の事例でしかありません。この考えはほぼ無限に拡大出来ます。唯一置かれた限界は私達の想像力の限界です。各自はこれらの事例を可能な限り多く見つけ出し、学びながら自分の日常生活を注意深く調べ上げるべきなのです。各自の意識を大宇宙との交流に開くカギは、……心を完璧に片寄らず分析し、理解することです。何故なら、人が表現するのは意識を通じてであるからで、肉体の内からと宇宙自体の両方から自分の心に影響を与えることが出来る多くの創造の経路を良く理解すればするほど、大宇宙の因の理解は幅広いものとなるでしょう。

【解説】

人の感情が及ぼす影響について記した第3章のまとめが本項です。これまで人が発する感情が自身の肉体や周囲の者達に大きな影響を与えていること等を学んで来ました。それら心の動きを本来の姿に持って行く為には、どのようにしたらよいかを本項でまとめています。

この場合、ポイントは心自らが自分の置かれている状況を想定して見て、その中に印象類に対しどのような内容が感受されるかを探知し、大自然の様々な働きを観察し学ぶということです。自ら設定した宇宙観に対し、その真相を自分自身の感覚によってそこに流れる印象類と接し、真実を一つ一つ確認して行く作業が必要だということです。進歩は決して短期間では達成できませんが、人の生まれ変わりを視野に入れれば、毎日少しずつの進歩こそ大切であることが分かります。

CHAPTER IV

Other World Impressions and Thought Habits of Earth

208 Now let us return to a fuller explanation of the blending and interblending of the Cosmos. As a planet moves through space, traveling at awe-inspiring speeds both on its axis and in the orbit it follows around the sun, it is eternally depositing portions of its body in space as dust, gases, etc. The atoms forming these particles are all impregnated with thought frequencies from that planet - just as were the cells of the dwellings mentioned earlier impregnated with the thought vibrations of the occupants.

第4章 他の世界の印象と地球の思考習慣

208 さて、ここで宇宙における融合と混和のより完全な説明に戻りましょう。惑星は宇宙空間をその自転軸及び太陽の周囲を付き従う公転軌道の両方で荘厳なスピードで運行していますので、その天体の幾分かを宇宙空間の中にチリやガスとして永久的に放出し続けています。これら粒子を形成する原子は丁度、以前お話しした家の細胞が住人の想念振動を染み込んでいるように、皆その惑星からの想念振動を染み込ませているのです。

【解説】

私達の日常の感覚では大地は揺るぎない静止した基盤に映りますが、地動説の論争を持ち出すまでもなく、地面は球体の惑星の一部であり、毎秒29.78kmで太陽の周囲を公転し、自身は赤道上で毎秒473mの自転速度で回転していることが、明らかにされています。

このように高速で運行する惑星は当然に宇宙空間への自身の成分を丁度、海の中を高速で航行する物体のように様々な成分を放出することでしょうし、また運行の過程では空間上に浮遊する物体との衝突も起ることでしょう。秒単位の狂いも無く毎年同じ軌道を周回している筈の地球が、毎年同じ気象条件にならないのは、航行する宇宙空間自体が変化しているからに他なりません。

問題は、私達が排出するチリやその他の成分が地球人類の想念パターンを残留させていることであり、これらが宇宙空間にまき散らされていることです。本来、神聖であるべき宇宙空間に、春先の黄砂のように汚れた煤塵をまき散らしているというのが地球の実像だとすれば甚だ残念です。

209 These gases and dusts will travel the waves of the sea of space, mingling and intermingling with similar dusts and gases from other worlds, until eventually they are gathered unto another planet through the same motion that cast them free from their home body. For centuries man has been aware of this star dust falling to earth, and science has studied it closely. While this cosmic dust sifts down from countless other worlds, our planet, in turn, is broadcasting dust particles and gases from its own body into space.

209 これらのガスやチリは宇宙空間という海の波に乗って移動し、他の世界からの類似したチリやガスと混ざりあい、混和して遂にはそれらの故郷の天体から放たれたと同じ運動を通じて、別の惑星に集められます。何世紀にわたって人はこの星屑が地球に降っていることに気付いており、科学はそれを綿密に研究して来ました。この宇宙のチリが他の無数の世界からの篩下（訳注：ふるいの目を通過する粉の意）である一方、私達の惑星はその天体からチリやガスを宇宙空間に放出しているのです。

【解説】

本項は一度、太陽系が形成された後も、宇宙空間では各天体の構成物のやり取りが、継続的に行われていることを示唆しています。惑星が太陽の周囲を周回する意味は相互の引力と周回による遠心力とのバランス、惑星への季節の付与等、様々な役割があるのですが、このような宇宙空間の星屑を通じた物質のやり取りとしても大きな役割を果たしていると言えます。

この星屑の地表への堆積のせいかどうかは知りませんが、地層を調べる考古学の調査では、地下の地層は年々新しいもので埋まっていることが当然のこととされています。多くな火山の噴火による火山灰の堆積が多いものと思われませんが、それでも地中深くになるにつれて、古い時代の地層が出て来ることは確かですし、このことは私達の生きる地表が常に上から降ってくるチリで埋まりつつあることを意味しています。

万物は流転する中で、時代を超えた真実こそ大切なものです。イエスは「天地は滅びるが私の言葉は決して滅びない」（マルコによる福音書第13章31節）と述べたとされていますが、絶えず破壊と創造を繰り返す宇宙の活動の中に貫く原理や法則について語ったものと言えます。

210 The thought frequencies pervading these dusts and gases are not altered by their trip through space. So when we intercept one of these vibrations that has come from another world and is now moving in our atmosphere, it does not mean we are in contact with a dweller on that planet. It can mean we have merely picked up a discarded thought from there, which contains no more value than any of the billions discarded by our own Earthlings.

210 これらのチリやガスに浸透している想念振動は、それらが宇宙空間を旅する間、変化することはありません。その為、私達がこれら振動の一つを掴み取ったとしても、それは私達はその惑星の住人とコンタクトしていることを意味するものではありません。それは私達が単にそこから捨てられた一つの想念を拾い上げたことを意味するだけで、私達地上の者が捨てた何十億もの内、いずれかを含む程度の価値しかないのです。

【解説】

私達は大洋を航行する船に乗っているようなもので、海には様々な漂流物があり、それらが次々に船に衝突しますが、それらの内で価値あるものは少ないということでしょう。このテレパシー学習で難しいのは、このように自分にやって来る印象が全て高次元の存在からのメッセージであるとは限らない点です。

地球上だけで、68億もの人が生き、刻々それなりの想念を発している訳ですから、大宇宙には莫大な数の想念がこだましていると考えべきでしょう。（ちなみに10の68乗を「無量大数」、更に桁の大きな数を仏教では表現していると聞いています。）その中で取り入れるに相応しいものがどれほどあるのか、或いは取り入れるべきでないものがどれ程多いのか、判別はつきません。一つ一つの想念に鋭敏になる前に、宇宙に対する基本的な見方、考え方を身につけることです。時間はかかりますが、その基礎の上に立って感受性を高めることで、自然と取り入れるべき高次元の想念を取り込むことが出来るものと思われます。

もちろん、これら自己学習の段階を経た後は、直接、価値ある人と会うことで、より深い理解を得ることが出来ることは当然です。アダムスキー氏の場合でも、氏の主張を確認させる為、後年、直接的な宇宙兄妹達（ブラザーズ）との会話や転生した亡妻メアリーとの再会があった訳です。

211 It must always be borne in mind that all levels of mental development exist throughout the Cosmos. Since in recent years so much publicity has been given to the coming of visitors from other worlds, and particularly since some theologians now recognize that the mysterious visitations spoken of in the Bible undoubtedly referred to space people, many Earthlings are inclined to think that all dwellers on other planets are more advanced than ourselves. This is not true. All planets are class rooms in the Cosmic School of Life; and there exist many grades, from those far below us in development, to the very highest . . . which are beyond our present comprehension.

211 宇宙全体を通じては、あらゆる精神的発展レベルが存在することを常に頭に入れて置かねばなりません。近年、他の世界からの訪問者の来訪についてあまりに多くの宣伝広報が為されましたし、またとりわけ何人かの神学者は聖書の中で伝えられた神秘的な訪問は宇宙人を指しているものと今や認識している為、多くの地球人は他の惑星の全ての住人は私達よりはるかに進んでいると考えがちです。これは真実ではありません。全ての惑星は生命の宇宙的学校の中のクラスであり、私達よりはるか下から私達の現在の理解を超えた最高次のものまで多くの段階が存在するのです。

【解説】

先史時代から宇宙からの訪問があり、私達地球人は訪問者達を神としてあがめていたことは確かです。しかし、技術的レベルと精神的レベルは必ずしも一致しません。訪問者達は科学技術の遅れた人々を支配したこともあるでしょう。アダムスキー氏は多くの講演の中で、宇宙からの訪問者達の全てが神としてあがめるような人達でないことを忠告しています。

しかし、私達が手本とすべきは、進化を遂げた宇宙兄妹達（ブラザーズ）です。もちろん基本的な科学技術も学ぶ必要がありますが、更に大切なのは遠い時代に仏陀やイエス、その他の聖人達が伝えようと努めた精神面の知識と心の進化についてです。アダムスキー氏の死後、既に45年を経過しようとしている今日、氏を通じて伝えられた宇宙兄妹達の生きた哲学はこの地球にどの程度普及したのでしょうか。私の知る限り、米国では財団が一つ残っているだけで多くな携わった協力者の死とともに消え去ろうとしています。わずかにアダムスキー氏の「実見記」「同乗記」等の初期の著書が古本市場に出回っているのみです。

この状況は外見上、日本でも大差はありませんが、他の国に比較してアダムスキー哲学に惹かれる人々も多く残っているように思います。現在、私もその内の一つのグループの会合に出っていますが、出席者は皆、長年アダムスキー哲学を学んでいる人達であり、アダムスキーに惹かれる日本人の特性のようなものを感じます。宇宙に存在する全ての物に知性が宿り、互いに意思疎通が出来ているとする思想は、万物に神宿るとする日本神道にも通じるものがあり、科学と宗教を融合させるこの民族の特性と一致するものなのかも知れません。

お知らせ [2010-03-04]

明日から約4日間、撮影旅行に出ます。

その間、本講座の更新が出来ませんが、ご容赦下さい。

212 Earth is one such class room in the Cosmos. It is a holy place, where we are given the opportunity to grow in understanding that we may climb to another rung on the endless Ladder of Life. When, through our own efforts, we place our feet upon a higher rung, we must then pause to assimilate the lessons to be learned at that level. But climbing far below us, struggling through the phases of development we have already mastered, are the dwellers of countless other planets.

212 地球は宇宙の中のこのようなクラスの一つです。それは私達に終わることのない生命の梯子でもう一つ上の段に登れる理解への成長の機会を与えられている聖なる場所なのです。私達自身の努力によって両足を上の段に置いた時、私達は次に立ち止まってその高さで学ぶべきレッスンを理解し、自分のものとしなければなりません。しかし、私達のはるか下方を登っていて、私達が既にマスターした発達の諸段階で奮闘している無数の他の惑星の住人達がいるのです。

【解説】

進化の道程を垂直に立つ梯子に例える本文は、さながら芥川龍之介の「くもの糸」を読んでいるようなイメージがします。しかし、この梯子は丈夫であり、取り付く人の重さでちぎれることはありません。進化の道程は上を見ても、下を見てもはるか遠くまで続いているという訳です。上位の部分は登って見なければその内容は分かりませんが、下位については自ら経験して来たので分かります。そういう意味では経験者がこれから学ぶ者に要点を教えるのは役立つものです。

このように長い梯子が続く訳ですが、決して登り急ぐ必要はないことが分かります。目標とする梯子の終端がある訳でもない以上、焦らず進むことが重要です。一步一步踏み締めた段階で、その位置で学ぶべきものを学び取り、その上で次の段階を登ることが出来ます。一步一步の階段があることで容易に上の階にも登ることが出来る訳です。一步一步着実に進化することで確実な進歩をものにすることが出来るというものです。

213 True, the space people I have met from our system are more advanced than we on earth. That is why they have such compassionate understanding of our present struggles; for they once met and conquered the same problems which face us today. They know we will eventually place our feet upon the rung where they now stand, while they in turn, will climb even higher.

213 私が会った私達の太陽系の宇宙人達は、地球の私達よりさらに進化しています。そのことが彼らが現在の私達の奮闘に同情的な理解がある理由です。何故なら彼らもかつては今日私達が直面しているのと同じ諸問題に出会い、克服して来たからです。彼らは私達が何時かは彼らが現在立つ踏み段に私達の両足を置きたろうことを知っていますし、その間、彼らは更により高く登ることでしょう。

【解説】

進化した他惑星人ではありますが、個々の置かれた環境は惑星によって、国によって、また地方によって大きく異なります。気候や自然環境は様々であり、その中で暮らして行く人々が置かれている環境は皆、違う訳です。その中で自然と向き合い、精一杯の努力をする中で人々は生きているということでしょう。

問題は、このように異なる環境の中で自ら進化と進歩の道を進めて行く決意を持ち、日々努力することにある訳です。都会における便利な生活、辺境の不便ではあるが自然豊かな暮らし等、各々において学ぶべきものも多いものです。

これら様々な状況は、その惑星、その国、その地方が長年月の末に作り上げたものであり、その多様さは生きた学習の場でもある訳です。進化した他惑星人にとっても、これら地球の状況は単なる未発達の状態として単に哀れむものではなく、創造の多様さを学ぶ格好のフィールドであるように思います。私達のありのままの生活を観察することは、彼らにとっても優れた学習の機会なのです。

214 So we can see that surrounding us in space are planets below us in development, and others far beyond the scope of our understanding. Impregnated vibrations from both lower and higher planets, through the blending and interblending of the Cosmos, influence our world in an ever-changing pattern.

214 ですから、宇宙の中で私達を取り囲んでいる惑星は進化において私達より下位にあるものもあり、一方では私達の理解の範囲をはるかに超えたものもあることが分かります。低次と高次の両方の惑星から帯びた振動は、大宇宙による混合を混和作用を通じて、永遠に変化し続けるパターンの内に、私達の世界に影響を与えているのです。

【解説】

もちろん意識レベルの遠隔的な想念伝達もありますが、物質自体、即ち原子が保持する想念振動に触れることで、その想念を感知することも多いことでしょう。本項ではこれら物質（原子）が宇宙空間を歩き来する中で、個人に触れてその想念波動を感知することについて述べています。また、逆に言えば、私達の日常的に抱く想念も私達が放出する様々な物質を介して宇宙にまき散らされることでもあります。

とかく私達は宇宙から来るもの全てを神聖なものと思いがちですが、実はその中には私達より低次の惑星を起源とするものも含まれています。問題は低次から高次に至る様々な波動がある中で、自分として何を志向してアイデアを求めて行くかということでしょう。この原点さえしっかりさせて置けば、余分な雑念は何時かは消えて、十分なるヒントに巡り合えるものと思います。生物にも多様性が必要であるように、宇宙にも多様性が存在するという訳です。

215 These emanations are the source of many of the confusing "messages" supposedly being received from people on other planets. You will notice they are filled with personal names, predictions of events to come, (usually dire), and divisions of all sorts. To all and sundry, they give personal messages confirming and condoning hidden desires in the heart of the recipient. These should be disregarded, for they are worthless to us in our present growth.

215 こうした放射物は他の惑星の人々から受信したものと想定され、多くの混乱を与える「メッセージ」の源です。それらは個人の名前や今後起る出来事の予言（通常は悲惨なもの）、またあらゆる種類の分裂で満たされています。各自に対しそれらは受信者の心の中の隠れた願望を確認し、容認する個人的なメッセージを与えます。これらは無視されなければなりません。何故なら、それらは私達の現在の成長にとって価値のないものだからです。

【解説】

いわゆる深層心理とか潜在願望とかとして説明される「インスピレーション」の類いの多くは、仮に本人が何らかの印象を感受していたとしても、本項で述べられているような源泉から来たもので、価値が無いどころか有害でさえあるということです。よく霊能者が来るべき災害を予言しますが、それらの多くは宇宙にさまよう低次元波動を持った想念に影響されているに過ぎないと本項は述べているのです。

貧しいながらも、私の経験上、優れた想念ほど、微妙でかすかなもののように考えています。もちろん、言葉にもならず、静かな中で何か存在するという感じ、あるいはその示唆する行動を自分の意志を入れずに素直に行動した結果、はじめてあれはインスピレーションであったと気付く有り様です。そこには言葉で表現できるようなものは何もなく、直接的に行動を示唆するようなものだと考えています。従って、本項に例示されている予言等は言葉が飛び交っているという意味でも、印象のレベルとしては低次元なものを見なした方が良いと思われます。

私達が求める印象は、もっと静かで言葉ではなく、直接、行動を促したり、解答をイメージさせたりするもので、瞬時に微妙なものだと考えております。

216 The higher thought vibrations, coming from the more advanced planets, often flow undetected through our minds; for they do not confirm our divisions, judgments and personal opinions. These people have grown to the realization of the oneness of all life. and their impersonal thoughts do not exalt our ego. Therefore, they do not fit into the familiar thought pattern of most Earthlings.

216 私達より進歩した惑星からのより高次な想念振動は、しばしば私達の心の中を感知されることなく流れ去ります。何故なら、それらは私達の持つ差別や裁き、個人的な意見を確認するものではないからです。これらの人々は全ての生命の一体性を自覚する程に成長しており、彼らの主観を交えない想念は私達のエゴを持ち上げることはありません。ですから、それらの想念はほとんどの地球人の馴染みのある想念パターンには合わないのです。

【解説】

「人智の及ばない」という表現がありますが、本人のレベルに合致しない高次な想念波動は心の中を通過しても全く気付かれることなく、通過して行ってしまうという訳です。また一方では、「類は類を呼ぶ」の通り、本人の志向に沿った想念には心が受け入れ易くなっています。

そういう意味では、テレパシー学習において最初から無理に高次な想念を受信しようとしたり、ゲームとしてテレパシー実験を行うことは避けるべきでしょう。本人のレベルが低いままでは、依然として低次なものしか感受できませんし、無理に成果を出そうとすると、前項にありましたように、エゴを喜ばすだけの混乱を招くものばかりに波長を合わせることになるからです。

人間を受信器に例えれば、その周波数の分解能と波長幅が重要で、私達が未発達の場合はその感度も低く、ほとんどが何も聞こえない状況が続きます。しかし、成長して感度が高くなると受信器本来の性能を発揮できるようになり、より繊細な放送番組を受信することができるようになります。

217 To make this illustration more understandable, should you, while daydreaming, have the good fortune to receive one of the great thought-frequencies Plato set in motion while he lived on earth, you would not be receiving a "message" from Plato in the "spirit world." You would merely be picking up that thought vibration which was imprinted in space during his lifetime.

217 この説明をより分かりやすくする為に、貴方が空想している間に、幸運にもプラトンが生きていた時、思いを起こした偉大な想念振動の一つを得たとしても、貴方は「霊の世界」のプラトンからの「メッセージ」を受けたことにはならないということです。貴方は単に彼が生きていた間に空間に刻み込まれた想念振動を拾い上げているに過ぎないのです。

【解説】

要は至る所に生きる上のヒントが隠れているということでしょう。即ち、低次元な想念を排除する心得が出来ていれば、世の中に学ぶ所は際限なくあることとなります。こうした偉人達の思考（想念）をトレース出来たとすれば、きっと素晴らしい体験になるものと思われます。私達が地球に残す最大の貢献は、自ら高次元な印象を發し、私達を取り巻く原子達に伝え、その思いを後世に残すことであるとも言え換えることが出来ます。

また同時に、人との出会いが大切なように、広大な宇宙空間にある様々な思考に出会うことも大切な機会です。想念との出会いは一瞬であり、わずかなことでも逃してしまうデリケートなものです。想念との出会いには澄み切った静かで受容的な心が不可欠であり、私達は日常的に自分の心をそのような出動体制に保つ必要があります。

218 Many mediums are caught in this trap, and never escape from the illusion that they are in actual contact with the person. Not understanding the workings of their own minds or the impressions coming from the cells of their bodies, and having no comprehension of the vast sea of thought vibrations within which they live, they eagerly accept the "prophecies and messages" contained in the innumerable frequency levels around them. True clairvoyance is a natural unfolding of the perceptions, which will be discussed in Part Three.

218 多くの霊媒達はこのワナに捕えられ、自分達はその人物と実際にコンタクトしている幻影から逃れ出すことはありません。自分自身の心や自分達の肉体細胞から来る印象類の作用を理解せず、また自分達が生きている広大な想念波動の海を理解しないまま、彼らは自分達の周囲の無数の振動数レベルに含まれている「予言とメッセージ」をひたすら受け入れています。これに対し、真実の透視とは知覚の自然な開示であり、それは第3部で討議されることになるでしょう。

【解説】

本項から、米国においてもいわゆる霊媒と称せられる者が多く居たことが分かります。恐らくは、催眠状態等に身を置いて古代の英雄の霊が語り出すような状況が想定されますが、それに対してアダムスキー氏はそれが起る仕組みを解説しているのです。

問題は私達がこのような超能力者に頼ることにあると思います。誰もがこれから起ることを知りたいと思うことは確かですが、それは不確定であり、誰一人未来を確実に見ることは出来ないことは周知のことです。その未来を知ってどうしようというのかが問題です。金儲けに利用するのは誤った道であることは明らかですし、他人の知らないことを知っているという自己満足であるかも知れません。むしろ未来を知ることは地球の場合、苦しい未来である故に、辛いことも多いものと思われま

一方、啓示であれ、インスピレーションであれ、宇宙的な想念波動については、大切にする必要があります。つまり、混沌とした中であって、やって来る想念や印象を見極めて、生きる上で有益なものについては積極的に受け入れ、生活に応用することも求められます。つまりは判断する自分があって、取り入れるべきものを見極める能力も求められていることにもなる訳です。

219 But of more importance to us in our daily lives than either the strong, destructive emotions, or the interception of vibrations from the lower planets, is the subtle manner in which we are influenced by the waves of thought floating around us at all times. Inasmuch as the total universe is composed of thought-producing action, we can easily perceive that the human form as well as every other type of manifestation, is not only bombarded with billions of thoughts per second from outside sources, but is also creating billions of thoughts pertaining to itself. In most cases, the thinkers who gave birth to those thoughts coming to us from the outside, were limited to an understanding of the world of effect. Therefore, their thought emanations are steeped in divisions, discriminations, personal likes and dislikes, and other expressions of the ego.

219 しかし、日常的な生活の中で私達にとって強烈な破壊的感情や低次元惑星からの振動の傍受より重要なのは、いつも私達の周囲を浮遊している想念波に影響を受けているような密かな種類のものであります。全宇宙は想念造成の作用から成り立っている以上、私達は人体は他のタイプの創造物と同様、外部発信源から毎秒何十億個の想念が衝突するばかりでなく、自身に関連して何十億個の想念を造り出しています。多くの場合、外部から私達にやって来るそれらの想念を生み出した思考者は、結果の世界への理解に限られています。その為、彼らの想念放射物は分裂や差別、個人的な好き嫌い、またその他、エゴの表現に浸っています。

【解説】

前項での話は、いわゆる霊能者の示す宣託の類いに対し、どのように見るかについての解説でした。ここではそれよりも私達自身が日常的に感知する、より微妙で小さな出力の想念波動の取扱いの方が、より大切であることが述べられています。

私達が自らの取り込む想念については、以前お話したように大変、微弱なもののように思います。これらは従来は「潜在意識」等の言葉で表現されて来たように思いますが、日常的に想念を感じる場合、多くはそれほど明確なものでなく、心がよほど落ち着いていないと取り逃がす程の微妙な存在ではないかと考えています。

しかしその日常的な想念こそが、私達自身を含め、結果の世界には大きな影響を与えているという所がポイントになります。

もちろん、他者が発したものの大多数は怒りや憎しみ、落胆等、地球上で暮らす人間の置かれた状況を反映する関係上、低次元のものでありましょう。そうした想念を取り込むことに対して、私達が十二分に注意する必要があるという訳です。つまり、自分の進路についてきちっとした指針を持っていないと、いつも間にかそれらの想念に染まり、同調した生き方に陥り易いこととなります。宇宙兄妹達が創造主の肖像画を毎日見るように、彼らでさえも、日々創造主に向き合う心構えを新たにしているということでしょう。

220 While these will not have the immediate impact upon our consciousness that contact with the strong emotions registered, unless guarded against constantly, they will insinuate themselves insidiously into our thinking pattern as opinions, criticism, snobbishness, and so forth. A flare of anger impresses the mind momentarily, but unless the person develops into a perpetual grouch, the mind will gradually regain its normal equilibrium; and once again resume its pursuance of thoughts in the same old rut it has been following.

220 記録された強烈な感情は接触した私達の意識に対し、直ちには影響を与えない一方で、常時見張っていないと、それらは自分達を気付かれぬよう私達の意見や批判、上品振り等々の思考パターンの中に巧みに入り込ませます。怒りの炎は瞬時的に心に印象付けますが、その当人が不機嫌を永続させない限り、心は次第に通常の平衡状態を取り戻しますし、これまで追従して来た古い轍（わだち）に沿った想念の追求を再開します。

【解説】

私達は大変鈍感で、強烈な感情想念が体内を横切っても、何ら影響を受けないことも多いのかも知れません。以前にもご紹介したと思いますが、岐阜県神岡鉱山地下1000mに設置されたカミオカンデは宇宙から降り注ぐ高エネルギー粒子を観測する世界的な素粒子検出施設でありました。このような地表を貫く高速粒子が絶えず地球に衝突している訳ですが、私達は何ら頓着なく、生活しています。同様なことは想念波動についても言える訳です。

その一方で、本項では日常的な想念パターン、思考傾向がより大きな力を持っていると述べています。つまりは一時的な力よりは継続的なものの方が影響を及ぼすということです。つまりは如何に私達の日常的な想念パターンを私達自身が注目し、観察を怠ることなく努めるかが大切だということです。まさに「継続は力」なのです。

221 It is the instinctive, inborn desire in Man for a better understanding of all he sees about him, that keeps his eyes raised heavenward and his hand ever reaching for a higher rung on the Ladder of Life. If this were not so, he would have been content with a sub-human existence; never seeking the answer to why the Sun God rode through the sky each day, or how his protector from the storm, the mighty oak, sprouted from a tiny acorn.

221 人が生命の梯子のより高い段を目指して両目で天空を見上げ、手を上の段に伸ばすのは、自分に関するより良い理解を得たいとする本能的な生まれながらの願望です。もしそうでなければ、人は類人の状態で満足していたでしょうし、何故毎日太陽の神が昇るのか、どのようにして小さなドングリから彼を嵐からの守護者となる樺の木が芽吹くのか知ろうとはしなかったでしょう。

【解説】

向上心、探究心が進歩には必要だということです。また一方では、これら研究心は高齢者にとっては若さを保つ秘訣ともなっています。毎日、決まったように日が暮れ、再び夜が明ける日々ですが、朝早く日の出前に外に出れば、必ずと言って良い程、鳥達がじっと東の空を向いて太陽が昇ってくるのを、今か今かと待っている姿を目にすることでしょう。

私達は人工の現代文明の中、とかく自然とは隔絶した環境で生きがちですが、所詮、地球の表面に生きる他はなく、自然から暮らしの糧を得ている訳です。当然、身の回りの事物の探究心となれば、自分自身の肉体の諸作用や宇宙や大地における刻々の営みが探究の対象となることでしょう。先般、2月の下旬、アラスカのフェアバンクスへのオーロラツアーに参加しましたが、オーロラを見た感動よりは、ほぼ日本人だけがオーロラの出現に喜んでいたことに驚きました。元来、日本からJALのチャーター便が出るせいもありますが、現地でオーロラ観測に参加するのは日本人ばかり。まさに日本人は現地にとっては冬の閑散期に迎える絶好な観光客でもあるのです。このような暗い凍てつく真夜中に戸外に出て、天を仰ぎ、冷えきった中でカメラを構える光景は、欧米系の人々にとっては理解できない存在なのだろうと思った次第です。

いうまでもなくこの自然界の中で夜空の発光現象は美しいものであり、見ていると自然へあるいは宇宙への思慕の気持は自ずと湧いて来るものです。これら自然の美しさに関心を持ち、自ら進んで体験したいとする気持は大事なものだと考えます。このオーロラツアーに参加していた年齢層は様々で、若い女性のグループも多かったですが、特に杖をつくような高齢者が遠く長崎から成田に集まり、チャーター機に乗って、元気にオーロラ観測に参加し、戸外で写真を撮っていたのが印象的でした。日本も豊かになったと思うと同時に、皆さん元気の秘訣はこれら探究心にあるのではないかと思った次第です。

222 To the impatient mind, man's progress seems discouragingly .slow; but the Living Soul is ever unfolding and expanding. And though at times we may appear to have slipped back two steps where we have taken one, slowly but triumphantly man is preparing himself to become an occupant in another of the many mansions in the Father's house.

222 せっかちな心にとって、人間の進歩はがっかりする程、遅く見えます。しかし、生ける聖霊は永遠に開示し続け、拡張し続けます。そして時として私達は一段昇った所で、2段滑り落ちるかも知れませんが、人はゆっくりではありますが、意気揚々と父の家の多くの館の内のもう一つの館の主人となるよう準備を進めているのです。

【解説】

事を急ぐのは年をとった証拠でもあるように思います。長年、エゴの支配下にある人間は望んだことを直ちに結果として手にしたいのです。しかし、種を播いたからと言って、直ぐに芽が出て花が咲く訳でもなく、成熟には各々のプロセスと時間が必要です。

しかし、せっかちな心は一方で怠惰な心でもあり、最も大事な継続する努力を怠りがちです。自然界の時間の流れは雄大です。氷河の流れは年間30m程（1日約8cm）と言われる程のゆっくりとしたものですが、この間にも地球全体では毎秒29.78kmの公転速度のスピードで動いている等、その大きさの幅は広いものです。

問題はその歩みの速さではなく、その方向性です。個々の人間がどのような方向に進もうとしているのが重要で、その方向性さえ誤っていなければ、無限の時間の中にあっては速さは問題ではありません。様々な側面を磨き、生涯を閉じる時、評価されるのは成果だけではない筈です。様々な環境の中で与えられた任務に如何に取り組んだか、少しずつの精進の中でどのようなことを身に付けたかが重要だということでしょう。その魂が習慣に流され続けた人生か、高さはわずかでも自ら取り組んだ中で理解を高めた項目があったかどうかで次の人生に大きな差異が生じるものと考えています。

223 But to accomplish this he must first learn to control his emotions, his sense reactions, his selfish desires; and to understand that he is one with all creation. He must comprehend that the atoms vibrating in his present body have been used and reused throughout creation; therefore, they have participated in every phase, from the lowest conceivable form, to immense planetary bodies that ages ago were absorbed back into space. There are no divisions except those man has imposed upon himself.

223 しかしこれを達成する為には、彼は自らの感情や自らの感覚の反応、利己的な願望をコントロールすることを学ばねばなりません。そして自分が全ての創造と一体であることを理解する為にでもあります。人は自分の現在の肉体の中で振動している原子群は創造を通じて利用され、また再利用されて来たことを理解しなければなりません。ですから彼ら原子群は考えられる最も低次元な形状物から大昔に宇宙空間に吸収された惑星体に至るまであらゆる段階に参画して来たのです。人が自分自身にこれらを押し付けられない限り区分というものは無いのです。

【解説】

私達は既に原子は不変であることを知識としては知っています。また、このテレパシー講座でこの原子に想念や印象が刻印されることを学んで来ました。そこから見えて来ることは、どのような世界かを各自で考えて見る必要があります。

即ち、今両手を組んで互いの手の暖かみや血流の流れを感じあう時、これら肉体の成分は自分という肉体が亡くなっても宇宙に存在し続け、各々新たな創造物の創造に参加するであろうことが分かります。しかし、各原子はかつて私の手の一部であったこと、また私がどのような想念パターンの持ち主であったことを永久に記憶して行くに違いありません。各原子は私が考え及ばない程、理知的であり、記憶力に優れていると思われるからです。そうなるとこれら各原子に努めて良質な体験を持たせることが大変重要になります。地球においては植物から動物に至る諸々の子孫により良い未来をもたらす為にも、これら地球の原子達に穏やかに喜びに満ちた基本素材を引き継ぎることが必要だと考えています。

このような活動を「祈り」の一つとするなら、各自の思いはこれら原子達に受け継がれ、宇宙に記憶されることになることでしょう。

224 We have shown earlier the influence uncontrolled emotions play in our lives; how bad temper can separate us from our friends and cause people to avoid us; how anxiety can bring unhappiness to us and to all around us. Therefore, is it not clear that our first task should be the conquering of these destructive emotions? No one can do this for us. Only we can change our thinking habits. However, now that we have a clearer understanding of the workings of our bodies and minds, this should be an easier goal to reach.

224 私達は先に、制御されない諸感情が私達の生活に及ぼす影響、即ち、如何にして不機嫌が友達から私達を引き離し、人々が私達を避けるようにさせ得るか、如何にして不安感が私達や私達の周囲の者全てに不幸をもたらす得るのかを示して来ました。従って私達の最初の任務はこれら破壊的な感情を克服することにあるべきだということは明らかではないでしょうか。誰もこれを私達に代わって行うことは出来ません。私達だけが私達の思考習慣を変えられるのです。しかしながら、私達は私達の肉体や心の働きについてより明確な理解を得ている今、これは到達するに易しいゴールである筈です。

【解説】

自分の感情をコントロールすること、即ち自制こそ、最初に取り組むべき課題であると本項で述べられています。ここで注目したいのは、講座の前半が終わる段階に来て、具体的な指導が示されている点です。各自のエゴや感情をコントロールせよということは種々の道徳書にも書かれていることであり、アダムスキー氏も同様のことを指摘している訳ですが、大きく違うのは、宇宙の中の全体の中の原子分子の活動や目に見えない想念のやりとりの中で、私達の心や想念・印象の果たしている役割を十二分に読者に分からせた上で、日常生活における感情のコントロールを説いている点にあります。

真理というものはいつの時代にも変わらぬものです。かつて道を極めた先人が把握した真理は、周囲の者に伝えられましたが、その真理の言葉だけを引き継いだだけでは、その背景を理解することは出来にくいのです。全体との関係、何故そのことが大事なのかについて十分な理解があれば、半ばゴールは達成したと同じことです。これまで本講座で説明されて来た宇宙のこと、自身の肉体や心のことを十分に理解した上で、いよいよ実践的段階を迎えるという訳です。

Summary of Part Two

225 There are six channels of impressions; three of effect, and three of Cosmic value. As we have shown you, the three of effect carry discriminations, divisions, and hatreds, so well-known in the world today.

第2部要約

225 印象には6つの経路があります。3つは結果の、残り3つは宇宙的価値を持っています。これまで示したように結果の3経路は差別や分裂そして憎しみ等、今日の世界で良く知られている要素を運びます。

【解説】

次項以降、具体的な印象の経路について、まとめの解説が続きます。各々の具体例については該当の項でお話出来ると思いますが、本項では印象には宇宙的価値があるものと、結果の世界に由来する低次元なものがある等、実はやって来る印象に全てを同調すべきではないことを示しています。

もちろん、私達はこれら言わば飛び交う印象類の内、自分の好みや習慣に合致したものは容易に取り込みますが、そうでないものはなかなか感知することが難しいということでしょう。まさに「馬耳東風」の状況です。このような中であって、より高次元な印象に気付く為には、24時間、自分自身を監視して、少なくとも低次元な想念を取り込まないようにしなければなりません。具体的には「自分が低次元な想念を現在、取り込んでいないか」見張る必要があります。

また同様に、悪環境の現実世界の中で生きているにせよ、努めてより高次元なものを志向することが大切です。通勤途上、多くの人々を電車の中という同一空間で過ごす毎朝ですが、これらの人々一人一人が想念を発し、また吸収している訳で、私達の周囲には本項で言う結果の世界から来る想念が圧倒的に多いことが分かります。その中であって、宇宙からの印象（インスピレーション）を希求する姿勢は大変貴重であり、一人でも多く、それら高次元な印象を引き込むことが出来れば、周囲に及ぼす効果も大きいものとなる筈です。

226 The first channel of effect that you should guard against comes from the average human mind. Since there are over two-and-a-half billion people on our planet, most of whom live under the daily influence of thought-patterns of avarice, personal judgment, and a thousand and one petty worries, you must try constantly to protect yourself against attracting these impressions to your mind. Remember, like attracts like. So endeavor to keep your thoughts on a level where they will not attract these emanations. If one is to develop to the state of Cosmic understanding, although these impressions will come to him, he will recognize their character and not lend himself to them. This is a major thing to watch for.

226 それに対し身を守るべき第一の経路は平均的な人間の心から来るものです。私達の惑星には25億を越える人々があり、それらのほとんどが強欲や利己的な裁きで千一夜の些細な心配事という日常的な想念パターンの影響下で生きている以上、貴方はこれら諸印象を自分の心に誘引しないよう自身を常に守らなければなりません。類は類を呼ぶことと覚えておいて下さい。ですから貴方の諸々の想念をこれらの放射物を誘引しないレベルに常に保つよう真剣に努力することです。もし、人が宇宙的な理解の状態まで進化すれば、これらの印象がやって来ても、それらの性質が分かり、自身をそれらに委ねることはないでしょう。これが警戒すべき主要な事柄です。

【解説】

人がどのような気分の状態になるかは、その時、本人がどのような想念に身を委ねているかで決まります。また、その想念は同種のを次々と引き寄せるとも本項では言っています。こうして怒りは怒りを増幅させ、悲しみは悲しみに暮れる状況を作り出すということでしょう。

しかし、こうした感情の問題は実に人間だけのように思えます。動物は群れを外敵から守る為、争うことも多く、弱肉強食の厳しい自然環境の中で肉親を失うことも多いのですが、私の知る限り、動物が長く怒ったり、悲しんだりする姿を見たことはありません。彼らは怒るべきことや悲しい出来事があっても、淡々と前進し、自らの生命を状況に関わらず全うしようとしています。

犬がわずかな家の周囲の散歩に意気揚々と出かけるように、動物達は日々の生活の中にも宇宙を感じているのかも知れません。ひとり人間だけが迷いの薄暗い世界に生きているような想念状態である訳です。

毎日、低次な想念を避けて、自分が同調する想念を明るいものに保つことは、心身両面の健康維持の上から、最大限の優先順位で取組まなければならない課題です。

227 The second channel of effect that we should avoid comes to us through the interblending of the Cosmos, bringing thoughts from other planets, or systems, where the inhabitants have not yet evolved to our level. These, too, will carry divisions, judgments, discriminations, etc. Such thoughts are of no help to us. They will only add to the confusion already prevalent in the world today.

227 私達が避けるべき第二の経路は宇宙の混和を通じてやって来るものであり、他の惑星や太陽系等、その住人が私達のレベルまで未だ進化していない所の想念をもたらすものです。これらもまた分裂や裁き、差別等々を運んで来るでしょう。このような想念は私達には何の助けにもなりません。それらは今日の世界に既に流行っている混乱に付け加わるだけです。

【解説】

例え大宇宙から来るものでも、低次元なものもあるということです。宇宙人についても同じこと。技術的には優れていても精神レベルは低い類いも存在するかも知れません。宇宙船による拉致事件や地球人への人体実験等、この惑星を植民地にしようとする勢力も存在する可能性もある訳です。

地球人が宇宙に存在するこれら低次元の想念と接することの他に、こうした勢力が私達地球人を征服するために様々な低レベルの想念を送り付けてくるかも知れません。それに対して私達各自は自分の心身を守る必要があるのです。宇宙には様々な段階が存在する訳で、私達はこれらの現実を認識しながら、より高次なる宇宙的要素を希求して行く必要があります。

そうした取組むべき想念は絶えず自らの心を通過する際に得る印象によって、少し静かになっていけば比較的容易に判断が付くように思います。自らの想念に100%載ってしまうのではなく、少し冷静に自らの反応を見据えることでこのチェック機能が発揮できます。

228 The third channel to be shunned is that of the memories of discarnate entities who have lived in this world. These thoughts are often mistaken for "spirit communion." Remember the illustration we used about tuning into a thought frequency Plato had set in motion while he lived? This same principle applies to thought frequencies from others who have lived on earth; but unless they have evolved above the personal pettiness of most Earthlings, these thoughts are of no value to us. We are growing and unfolding daily, so except for a few outstanding minds who have sojourned here, we have advanced past the place in development these people had reached. The Law of Progression is a fundamental law of the Cosmos.

228 遠ざけるべき第三の経路はかつてこの世界に生存し肉体を失った存在の記憶の経路です。これらの想念はしばしば「霊的な交流」と誤解されています。私達が用いたプラトンが生きていた間に起こした想念振動に同調した事例を思い出して下さい。これと同じ原理が過去に地球に住んだ他の者達から来る想念振動にも適用されるのです。しかし、それらが大部分の地球人の個人的な些細な事柄を越える程進化したものでない限り、これらの想念は私達に何ら価値はありません。私達は日毎に成長し目覚めています。ですからここに逗留した一部の秀でた心を除けば、私達はこれらの人々が到達していた発達の場所を既に越えて進化しています。進化の法則は宇宙の基本的な法則なのです。

【解説】

もちろん、かつて地上に居た優れた人物が発した想念もあるでしょうが、圧倒的多数は私達一般人の想念が残留していると考えた方が良いでしょう。また、時代は紆余曲折を経ながらも確実に進歩している訳で、古来の人物の一部に優れた方が居たからといって、当時の社会は現代に比べれば大きな差があり、現代の私達の生活が格段に優れていることは明らかです。

よく自分の過去生について語る人がいますが、それもこうした過去の残留想念を拾っていて、自分のエゴを自慢するだけのものであるかも知れません。私達にとって今必要なことは何であるかに焦点を置いて、昔のことに引きずり回されるべきではありません。言い換えれば、各自生まれる前の社会や出来事については一切の責任が無いと私は考えています。そうなれば、社会や経済等の学習の教材として、あるいは現在生きている社会の文化、伝統を知る教材として歴史を学ぶことは有意義ですが、私達自身の生き方は過去に縛られる必要は全く無い訳です。故人の想いはそのまま理解することとして、私達は自らの進む道を自分自身の選択で切り開く必要があります。

229 For the most part, impressions coming from all three channels of effect are steeped in discriminations and judgments; but occasionally a message may come which contains certain gems of Cosmic Truth. The average person will recognize these gems and because of their presence, will then accept the entire message, divisions, personal promises, etc., as being of Cosmic origin. Whereas, the very presence of discriminations proves it to be from a confused source.

229 大抵の場合、これら結果の3つの経路から来る印象類は差別や裁きに染まっています。しかし時には、宇宙的真理について或る種の珠玉を含んだメッセージもやって来るかも知れません。平均的な人はこれらの珠玉に気付き、その存在の為に次にはその全体のメッセージや分裂、個人的な約束等々を宇宙の源泉から来るものとして受け入れてしまいます。しかしながら、差別の存在そのものが、それが混乱した源からのものであることを証明しているのです。

【解説】

結果の世界から来る印象も時には幾分かの真理を含んでいると本項では述べています。こうなると私達は仮に優れたインスピレーションを受けたと思っても、100%それに自分の心を委ねることは問題があることとなります。何処に宇宙的なものとの違いがあるのか。先ずはその見極めを行える能力が必要となる訳です。

その解答について、本文ではさり気なく”discriminations (差別)”が有るか否かであると述べています。私達が従うべき印象は差別的要素を含むものであってはなりません。具体的には「好き嫌い」の要素があるか否かで判断できるとしていることに注目しなければなりません。

世の中には一部だけの真理を掲げて、その実は誤った方向に導こうとする宗教団体が多いものです。宇宙人問題についても高度に発展した宇宙人とコンタクトしたとか、メッセージを受けている等々のものも数多く存在します。これらに入会しても得るものは無いどころか、やがては誤った道を歩むことにもなりかねません。

私達が為さねばならないことは、何はさて置き、自分自身でやって来る情報を観察して、少しでも不審なものは取り入れないよう見張っていること、自分の求めるものをより明確にしておくことだと思います。

230 The first channel of Cosmic impression comes from Cosmic Cause, or true Life Force, to the pure cause, or life force within us. We have shown that this Force in Intelligence permeates all manifestation, carrying no judgments or divisions. This is the Law of Relativity wherein, through interrelationship, pure knowledge is accessible to those who seek in humility. For the Cosmos can become an open book when we overcome our personality.

230 宇宙的印象の第一の経路は、宇宙の因、即ち真の生命力から、私達内部の純粹なる因、即ち生命力に向けてやって来ます。私達はこれまで英知におけるこの力が全ての創造物に染みわたり、如何なる裁きも分裂ももたらさないことを示して来ました。これは謙虚さを希求する者にとって相互に関係することによって、純粹な知識に触れることが出来る相関法則なのです。何故なら、大宇宙は私達が自らの個性を克服する時、開かれた一冊の本になり得るからです。

【解説】

本項では宇宙的印象がやって来る経路の第一として宇宙の因から直接、私達自身の因なる部分に伝達される印象について述べています。この場合、注意深く本文を読むと、宇宙の因から直接、私達の因なる部分に向けて印象が発せられている訳で、これについては私達は通常、その内容を把握出来ないでいることが分かります。

また、この作用原理はLaw of Relativityと表現されており、本項では「相関法則」と訳出しています。このRelativityという表現はアインシュタインの相対性原理 (Principle of Relativity) の「相対性」と訳すのが一般的ですが、本項における意味合いは、むしろ、relative (親類) に近く、互いに関連があるという意味で用いられています。つまりは大宇宙の中で起ることは各自の中でも行われるように、皆、平等に同じ情報が提供されるという意味に解釈できると考えています。

もし、個我が構築した壁を取り払い、それら宇宙英知からの声無き印象に耳を傾ければ、宇宙を動かす無尽蔵の本源的知識が各自に開示されるという訳です。

231 While not of Cosmic value, when you receive a thought from a relative or a friend who is now living, you can accept it. This communication is natural, and will often carry an important message from a loved one. But guard against thoughts of discrimination or dissension--even from those we know best. For a discordant thought is just as harmful when received from someone dear to us, as it is from a total stranger.

231 宇宙的価値を有しないものの、現に生きている親類や友人から想念を受けた場合には、貴方はそれを受け入れても良いでしょう。この意思伝達は自然であり、しばしば愛する者の大事なメッセージを運ぶことでしょう。しかし、差別や口論の想念からは、私達が最も良く知っている者達からのものであっても、守る事です。何故なら、不調和な想念は私達と親密な者からのものであっても、全くの未知なる者からのと同様、有害であるからです。

【解説】

しばしば近親者の間には「あうんの呼吸」、「虫の知らせ」等に表現される文字や音声以外の想念レベルの直接的なコミュニケーションがあるように思います。また、緊密な関係の場合、一人の状況がもう一方の者に知らず知らずの内に反映することもしばしばです。離れていても、相手が今、どういう気分であるか等、判ってしまうというものです。

これらは本項で言う、親しい者の間に交わされる想念の伝達の一種ではないかと考えています。

進化した宇宙人達の感性はあらゆる存在に対し、更に鋭敏な感度を持っている訳で、これを用いれば如何なる遠隔の地にあっても、想いは相手につながるという訳です。以前、何処かで聞いたニュースに地球では潜水艦との通信にテレパシーを応用しようとしているという話題がありました。もちろん、有りそうな話ですが、せいぜい、その程度の認識が地球のレベルということになります。

仏典には、「ここから西の方へ十万億の仏の国土を過ぎたところに極楽があり、その国土に阿弥陀と申し上げる仏がおられ…」等々という話があり、人々の願いを聞いて下さるという信仰があります。その仏達と親密な関係になれば、その願いを伝えるのも容易だということになるということでしょう。

232 The second channel of Cosmic impression, comes from the same interblending of the Cosmos which brings the thought frequencies from the lower planets; but in this case the thought frequencies are coming from people of higher development than those on earth. Impressions from them can be of great value to us, since they can help us better conditions in the world.

232 宇宙的印象の第二の経路は、低次元惑星からの想念振動をもたらすのと同じ宇宙の混和現象から来ますが、この場合、想念振動は地球人よりも高次元に進歩した人々から来ます。彼らの印象は私達にとって大いなる価値を持っています。それらの印象が、この世の中の状況をより良くする為に私達の手助けをしてくれるからです。

【解説】

各惑星の自転や公転、あるいは太陽系そのものの宇宙空間を移動する意味は、単に、昼夜や季節の変化をもたらすばかりでなく、私達人間の及ばない深く幅広いものがあることでしょう。中でも各惑星が宇宙空間を運行するにつれて接触する様々な想念波動は惑星上の人々にも大きな影響を及ぼすものと言えるでしょう。とりわけ進化した宇宙人から発せられた想念は私達に大きな支援の力を与えていると本文では明言しています。実にありがたいことです。

同様のことは、地球上で暮らす私達の間ではもっと強力に作用する筈です。各自が日常、抱く想念は近親者のみならず、様々な機会を通じて同じ惑星に暮らす諸々の生物によって感受され、活用されることでしょう。良くも悪しくも私達は互いに有形無形に影響を及ぼし合っているのです。

中でも大事にしたいのが、この惑星の住人を支援する為に来ている宇宙人達への配慮です。アダムスキー氏は何よりもこれら宇宙兄妹達の身を守ることを最優先にしていたことが知られています。彼らの正体を明かさないことや、まだ公開できない様々な秘密について最後まで守ったとされています。今日、逸話として言い伝えられているケネディー大統領やヨハネ23世についてのこと等、氏は最後まで秘密を守ったとされています。私達の支援の為、命を懸けて来訪した友人達への感謝と彼らへの誠意は、仏典で言う多くの菩薩への信奉と帰依に似た心構えが必要だということです。

233 For instance, those of you who have read INSIDE THE SPACE SHIPS, will notice that the space people mentioned in the book compared their way of life to ours quite impartially. They did not criticize or pass judgment upon us; they merely analyzed the two phases of life. They pointed out the path of brotherhood we should follow, but they did not condemn us for our selfish shortcomings. Rather, theirs was an attitude of compassionate understanding for a wayward, younger brother. These more highly evolved people are the only ones we should look to for enlightenment and help. Their thought frequencies are as accessible to us as the impressions from lower planets; but here again, because they do not conform to our normal thought patterns, we allow them to pass through our minds unnoticed.

233 例えば同乗記を読んだことのある皆さんは、その本に書かれている宇宙人達は何ら分け隔て無く彼らの生き方と私達の生き方を比較していたことに気付くでしょう。彼らは私達を批判したり、裁いたりしていません。彼らは単に、生命の二つの姿を分析して見せたのです。彼らは私達が従うべき兄妹愛の道筋を指摘しましたが、彼らは私達の利己的な短所に対し非難することはありませんでした。むしろ彼らの姿勢は一人のわがままな弟に対する思いやりのある理解の姿勢でありました。これら更に高度に進化した人々は私達が啓発と支援を期待すべき唯一の人達です。彼らの想念振動は低次元惑星からの印象類と同様に私達が近付き易いものです。しかし、ここでもまた、彼らが私達の通常の想念パターンと一致しないが為に、私達は気付かないままそれらを私達の心の中に通過させているのです。

【解説】

私達がより高次元の想念振動への感受性を高めるにつれて、本項で記されているような宇宙的支援の経路も拡がって来るという訳です。それまではそれら高次元の想念の存在に気付かず、習慣的な想念に抑えられたままの生活を送っているということでしょう。

そうなる問題は外にどのように支援を求めるかではなく、自らの心を如何にしてそれら高次元レベルの想念・印象を感受できる状態に保つかとなります。つまりは浮ついた心を如何にして静め、やって来る印象に鋭敏になるかが重要です。このように考える時、イメージとして浮ぶのは座した仏像や座禅行の姿です。

また、このように特別な行をせずとも、日常生活をしながら、心を解放しようとする事も出来ますし、その方が継続性があるとも言えます。私達が各々、宇宙的な想念振動を得たいと志向することは、やがてそれらとのパイプを太くし、各自が生きる上でより有益な印象、ヒントをもたらしてくれるように思っています。

234 The third channel of Cosmic impression, is the cell to cell communication. Remember, that every atom in the universe speaks the cosmic language, and is capable of communicating with every other atom. We have shown that the Mother principle in creation forms matter by gathering together atoms vibrating at different rates to bring forth manifestation. This Mother principle is equal to the Divine, or Father principle of creation; therefore, you will find in it no judgment or discrimination; for this would be discriminating against itself. Nature respects man equally; so does Cosmic, or Natural law. As the sun shines alike on the just and the unjust, judging no form-life, so does Cosmic Matter lend itself impartially to all manifestation. When we can look upon all form-life and see it in its true light, Nature unlocks her secrets, and gladly shares them with us.

234 宇宙的印象の第3の経路は細胞から細胞への意思疎通です。宇宙空間の中のあらゆる原子は宇宙的言語を話し、他の全ての原子と意思疎通が出来ることを覚えておいて下さい。私達は既に創造における母性原理は、創造物を生み出す為に異なる速さで振動している原子達を集めることによって形有るものを形成していることを示して来ました。この母性原理は聖なるもの、即ち、創造における父性原理に等しいのです。ですから貴方はその中に如何なる裁きも差別も見つけることはありません。何故なら、これは自分自身に対する差別になってしまうからです。自然は人を平等に尊敬します。ですから、宇宙や自然法則も同様です。太陽が正しい者にも不正な者にも等しく輝くように、宇宙の物質も全ての創造に分け隔てなく自身を委ねています。私達が全ての形ある生命を見て、その真実の光を見ることが出来る時、自然は諸々の秘密を明かして、それらを私達にゆっくり分ち与えるのです。

【解説】

これまでの一連のまとめから、宇宙的印象がやって来る経路として、・宇宙の因から人体の生命力に直接働きかけるルート、・進化した他惑星から発せられたものが宇宙の融合活動の一環としてやって来るルート、それに本項で述べられている・細胞と細胞との間に交わされる、計3つのルートがあると解説されています。

この第三の経路については、細胞自体が意思を持つと同時に、その細胞を構成する各原子自身が互いに意思を通じ合っているということから、実に私達の身体は莫大な数の印象やメッセージが絶えず飛び交っていることが分かります。肉体を構成する各原子はその肉体の主人の心がどのような感情で満たされているかで、大きな影響を受けることは明らかですし、こうした本来、宇宙の創造物としての調和が保たれている身体に、それら心の不調和が及ぼす影響範囲は計り知れません。また同時に、心がより宇宙的志向に戻ることが出来れば、各肉体細胞はそれを喜び、肉体自身も大きく変化するものと思われま。本人がこうして日常抱く想念は、本人の顔つきや肉体各部に大きく影響を与えることとなります。

訳注：本文中にある「異なる速さで振動している原子達を集めることによって形有るものを形成している」とありますのは、地球の化学では、物質の反応は各原子の最外殻電子数が互いに安定数になるよう結合することで分子が生成するとしており、ここでの「異なる速さで振動」とは原子核を取り巻く電子数と関係したことを述べているものと思われま。

235 There is one thing you must keep firmly in mind when practicing telepathic communication. Let no thought go out from you bearing discrimination, judgment, or harm to another form. And at all times guard vigilantly against allowing similar thoughts to enter your mind. Cosmic impressions, with their all-encompassing understanding of the whole, are the only three avenues which can be of any help to us in climbing the Ladder of Life.

235 貴方がテレパシー通信を練習する際にしっかり記憶して置かなければならないことが一つあります。それは貴方から差別や裁き或いは他の形あるものへの危害を帯びた如何なる想念も出してはならないということです。そして、常に同様の想念が貴方の心に入り込まないよう絶えず見張っていることです。全体に対する全てを包み込む宇宙的印象類のみが私達にとって生命の梯子を登る上での助けになり得る唯一の3つの大道なのです。

【解説】

これまで述べられて来たように現実には様々な程度の想念が飛び交い、自身でも毎日何十億もの想念を放出しているものと思われまゝ。しかし、こうした中で私達は未だに旧態依然とした思考習慣を続けており、低次元の想念を發し、また同様のものを引き寄せて生活を送っています。これに対する方策の第一は、自身の心から差別や裁き、憎しみ等の相手に危害を及ぼす類いの想念を發することのないよう監視することだと述べられています。ちなみに、原文ではLet no thought go out from you bearing discrimination, judgment, or harm to another form. (それは貴方から差別や裁き或いは他の形あるものへの危害を帯びた如何なる想念も出してはならないということです。)の部分は太字で印刷されています。

化学の分析の世界では、分析目標物以外の成分を事前に除去することで目標成分の検出計量を容易にするクリーンアップと称される前処理法がありますが、それと同様に、様々な想念波動から目標とする宇宙的想念成分を心に通すようにすることが重要になります。分析の場合にはそれら前処理によってノイズが小さくなり、本来のピークがより鮮明に現れることになります。必要なのは宇宙的印象であり、それらを通し、他は通さないフィルターの機能を各自が持たなければならないということです。

庶民が唱える真言宗の経文「十善戒」 (<http://www1.plala.or.jp/eiji/kyomon1.pdf>) の中に「弟子其甲 (デシムコウ) 尽未来際 (ジンミライサイ)」(弟子である私はこれをずっと守ってゆきます) に続く言葉として、「不殺生 (フセッショウ、ものをころさぬ)」・「不偷盜」(フチュウトウ ぬすみせぬ) ・「不邪淫」(フジャイン ふぎをせぬ) ・「不妄語」(フモウゴウ そいわぬ) ・「不綺語」(フキゴ たわむれいわぬ) ・「不悪口」(ファツク あくくののしらぬ) ・「不兩舌」(フリョウゼツ なかごといわぬ) ・「不慳貪」(フケンドン ものおしみせぬ) ・「不瞋恚」(フシンニ はらたてぬ) ・「不邪見」(フジャケン よこしまなところおこさぬ) とあります。日常的な心のあり方をわかりやすく説いたその内容は、本項に極めて近い趣旨であろうと思います。

236 Since we are part of this world, we must differentiate between the acts in our lives. We are allowed to analyze for the purpose of understanding, but must not divide or condemn. We have not the right to sit in judgment on our brother. He has come this way to learn his own lessons. And just as we cannot attend school for our children and expect them to receive an education, so we cannot attend the School of Life for another. We can offer a helping hand or a guiding word, but at no time should we try to force our will upon him. Remember, he may be struggling to learn the lessons we have already mastered, but he must master them himself.

236 私達はこの世界の一部である以上、私達の生命における諸活動の間を識別しなければなりません。私達はその理解の目的の為に分析することが許されています。しかし、差別したり、責めたりしてはならないのです。私達には兄妹に裁きを下す席に座る権利はありません。その兄妹は自身の教科を学ぶ為、ここに来たのです。また、私達が私達の子供達に代わって学校に行くことで子供達に教育を受けさせることが出来ないことと全く同様に、他の者に代わって生命の学校に出席することは出来ません。私達は助けの手を差し伸べたり、導きの言葉を掛けることは出来ますが、如何なる時であっても私達の意味をその者に強制しようとすべきではありません。覚えておいて欲しいのは、その者は私達が既にマスターした諸教科を学ぼうと努力しているかも知れませんが、彼は自分でそれらをマスターしなければならないということです。

【解説】

進化した宇宙兄妹達が私達を見つめる視点は本項によく表現されています。本項はまた、私達自身についても言えることで、例え親子や兄妹、夫婦の間であっても同様です。進化の過程で上位の者から見れば、下位の者には歯がゆいものを感じるかも知れませんが、何事も本人に代わって行えることには限りがあるということです。暖かく見守ること、タイムリーにアドバイスすることのみが出来ることなのかも知れません。

まして相手の未熟さを突いたり、低俗なものを毛嫌いすることは裁きの行為であることに注意が必要です。

毎年、春になり、動物達が産卵の時期を迎える頃、これら小さな幼生が各々生命の息吹きを謳歌しながらも厳しい自然の掟の下、各々が元気よく生き抜こうとしている様子を見ることが出来ます。カエルの卵塊からは数えきれない数のおたまじゃくしが生まれます。もちろん、客観的に言えば彼らの全てがカエルになる訳ではありませんが、一つ一つはやがて来る試練にも耐えて一日も早く成体になろうと努力している筈です。もちろん、私達も宇宙兄妹達から見ればそのような存在だという訳です。各自の可能性は皆平等に天与されており、真の大人に成長できるかどうかは、各自の努力次第だということでしょう。

237 Let us use the example of a wayward child. The parents will correct the child for a breach of discipline, but they do not condemn it. They understand that as the child grows, it will gradually learn right from wrong. All human beings throughout the Cosmos, are children learning lessons . . . and should be recognized as such. Jesus exemplified this when He said, "Father, forgive them; for they know not what they do." If this law is obeyed, we shall have no trouble in employing the Cosmic Language.

237 わがままな子供についての例を用いましょう。両親は躰を破ったとしてその子供を正しますが、責めることはしません。両親は子供が成長するにつれて次第に誤ったものと正しいものの違いを学ぶようになることを理解しています。宇宙を通じて全ての人類はレッスンを学ぶ子供達であり、そのように見なされるべきなのです。イエスはこう言ってそれを例示しました。「父よ許して下さい。彼らは自分達が何をしているのか分かっていないのです」。もしこの法則に従えば、私達には宇宙的言語を導入しても何ら問題は起きないでしょう。

【解説】

これから私達がテレパシー能力を身につけるにつれて、様々なレベルの想念を拾い易くなることでしょう。その中には真に宇宙的なものももちろん、多い筈ですが、中には低次元なものもあることでしょう。何よりも普段接する人達の多くは地球上の習慣的な想念に染まっています。当然に交わされる想念波動は低いものと言わざるを得ません。その中で私達がそれら一つ一つを非難しているようでは、向上するどころか、逆に裁きの泥沼に陥り、ひいては世間を糾弾するだけの存在に成りかねません。

本項はその点を子供を躰ける親のように向き合うことを教えています。十字架に掛けられたイエスが述べたとされる本項の言葉（ルカの福音書23章34節）は、イエスは自分を殺そうとする者達に対してすらも、寛容の目で見つめていたことを伝えています。

Suggested Exercises

238 If you wish to test your ability to receive impressions, there are many simple experiments you may try. But while doing so, always bear in mind these three important facts. First, when you allow the feeling to give the impression freely, there is no division between your mind and the mind of the one with whom you wish to communicate. Second, all objects are living forms. In their structure, besides the elements necessary for them to maintain their individualized form, each cell contains the same Intelligence which gives you life. Each particularized cell can receive impressions, and is capable of transmitting its experiences. Third, control your sense reactions carefully. They must remain completely neutral. Do not let your senses tell you anything is impossible simply because they have not had experienced it previously.

推奨される練習例

238 もし貴方が印象を感受する自分の能力を試したいと思うなら、貴方が出来る幾つかの実験があります。しかし、それを行っている間、常に心に留めて置いて欲しい大切な事実が三つあります。第一は、貴方がフィーリングに対し自由に印象を与えるように許す場合、貴方の心と貴方が意思疎通を行いたいと思う人物の心との間には何らの区別は無くなるということ。第二は全ての対象物は生き物であること。それらの構造の中には個々の形を保つ為に必要な元素の他に、一つ一つの細胞には貴方に生命を授けているのと同じ英知が含まれているということ。一つ一つの個別化された細胞は印象を受け取ることが出来、またその体験を発信することが出来るということ。第三は貴方の心お諸反応を注意深くコントロールすることです。心の諸反応は完全に中立に保たなければなりません。貴方の諸感覚が貴方に何事も過去に経験したことがないという理由だけで、不可能だと告げさせてはなりません。

【解説】

本項は、これからテレパシー訓練を行う際の私達に対する心得を伝えています。とかくテレパシーと言うと、一般には「無言で相手と会話する」という程度の認識ですが、想念レベルまで掘り下げての解説としては、「相手の心と同一化することだ」と明解に本項では述べられています。自分の心を相手の心と同一化することで相手にどのような想いが浮んでいるかを把握するということでしょう。同乗記にもあるように宇宙兄妹達は皆、私達自身が気付いていないような心の中の想いであっても容易に察知することも、この状況を表わしています。

次に万物は私達を含め、皆同じ生命体であるという一体感が不可欠だと指摘しています。全てのものを包容し、受け入れること、万物に生命を見ることが大切です。私達が新しい印象への扉を開く際には、何か特別なもの、別な世界があるかと想像しがちですが、実際には何も特殊なことを学ぼうというのではなく、ごく自然な生命活動を学んでいることを認識しておくということでしょう。

最後は未体験なものへの心の拒否反応への注意です。私達の心は忘れやすく、自信もありません。しかし、せっかく優れた印象がやって来ても、本人がその実践応用をたじろいではせっかくのチャンスを手放してしまいます。もっと自由に印象を信じることだと言っているのです。

239 Exercise 1. Two people can experiment with sending and receiving messages. Try this while in the same room, then at a distance; confining your attempts to simple impressions at first. When you are the "sender," form the mental picture clearly in your mind, then release it. Do not concentrate! Concentration does not add power to your thought, but rather interferes with it through the tension it creates in your mind. This is fully explained in Part • of this course. The recipient should remain relaxed, allowing his thoughts to flow freely. It is considered a good average if at first you can successfully exchange three out of five impressions.

239 練習1. メッセージの送り手と受け手の2名で実験出来ます。最初は単純な印象に試みを限定し、同じ部屋の中で試した後、次に離れて行きます。貴方が「送り手」の時には貴方の心の中に明確な心像を作り上げた後、それを放出します。集中してはいけません。このことはこのコースの第3部に完璧に述べられています。受け手はリラックスを保ち、自分の想念が自由に流れさせるようにしなければなりません。最初は5つの内、3つのやりとりが成功すれば、良い打率だと考えられます。

【解説】

これから練習例がいくつか紹介されます。本項はその最初の事例です。

私達はこれまでテレパシー訓練を行って来ませんでしたが、それは、いたずらに技能（テクニック）だけに秀でていては却ってマイナスになる為、想念や心の問題について基礎的な理解を優先させて来たと言えるでしょう。また、これら訓練はゲーム（遊び）ではなく、自らの生きて行く為の能力を発達させる重要な要素であることに留意したいものです。

さて、本項で述べられているポイントはいわゆる精神集中の弊害についてです。通常、私達は想念を発信したい、願いを叶えたいと神仏等に祈る時、精神はおろか肉体までも集中させ、緊張させることで願いを強く出来るとされて来ました。しかし、本項ではそれらは完全に誤りであることを告げています。

むしろ、心をリラックスさせ、想念を自由に流れるようにせよとしています。つまり、想念の本来持つ流れを阻害することなく、心の中を自由に通過させよと言っている訳です。私達の心の中で想念の自由な発信が出来、自由な流れ込みが可能となった時、はじめて想念や印象のやりとりが進むこととなります。

240 All experiments should be conducted as a game, for a serious attitude will produce tenseness; thereby defeating your purpose. Human nature being what it is, tension from trying too hard is bound to enter, so your first attempts should be for short periods only. These experiments should be discontinued at the first sign of fatigue, for nothing constructive can be accomplished then.

240 全ての実験はゲームとして行われるべきです。何故なら真剣な姿勢は緊張を作り上げ、それによって貴方の目的を挫くことになるからです。そもそも人間の性質として、一生懸命やり過ぎると緊張が入り込むことになるのです。そこで貴方の最初に行う試みは短時間にしておくべきです。これらの実験は疲れの最初の兆候が現れたら、中断しなければなりません。それ以降、何ら建設的なものは達成されることはないからです。

【解説】

本項で述べられている「ゲーム」についてですが、これまで「解説文」で私が述べて来たことは、テレパシーを単なる興味本位で取組んだり、人格的な向上よりは他人とは異なる能力を高めたいだけの、やり方（ノウハウ）を身に付ければ良しとすることへの警鐘です。一方ここでの「ゲーム」については、具体的な練習に際しては、気軽に楽しみながら行えと言っている訳です。

何事も心が落ち着いて自由な状態になっていないと良い仕事は出来ません。また本文では疲労感があってもダメだとしています。緊張や集中の状態は肉体細胞に著しい緊張状態を作り出し、各細胞に大きな影響を及ぼし、その影響からその後、著しい疲労感に襲われる訳です。本来の宇宙的生き方は、これら疲労感とは無縁なもので、自然と一体化した心の有り様をあらゆる場面に適用させなければならないということです。これら自然体の生き方は古代中国の老子の説いた内容に近いものだと思います。（ちなみに、最近、「タオ老子」（加島祥造著 ちくま文庫）を読んでいます。従来は難解な漢籍としての「老子」でありましたが、この本ではそれを現代語で表現しており、アダムスキー哲学の学習者には随分と親近感が持てる内容ではないかと考えています）

241 Exercise 2. Thoughts can be received from jewelry or other personal effects; for the frequency of the owner has been recorded upon the metal, or cell structure, of the object. It is interesting to try this experiment without the owner's knowledge, then see how nearly correct your analysis has been. If that person knows what you are attempting, thoughts pertaining to the object will naturally pass through their mind; and these could be picked up by you. This would be thought-transference from the person, rather than testing your ability to receive recorded impressions from the cell structure of the object.

241 練習 2. 想念は宝石や他の個人の持ち物からも受信出来ます。何故なら所有者の振動がその対象物の金属や細胞構造に記録されているからです。持ち主に対する知識の無いまま、この実験を行おうとすることは興味深いものがあり、どれくらい近く貴方の分析が正しかったかを知ることです。もし、その人物が貴方が行おうとしていることを知っていれば、その物体に関連する想念類は自動的にその人物の心を通過することでしょう。そしてこれら想念は貴方に拾い上げることが可能となります。これは、その物体の細胞構造からの記録された印象類を受信する上での貴方の能力を試すというよりは、その人物からの想念移動になることでしょう。

【解説】

本項の内容は対象物に残留する想念をピックアップすることの他に、対象物を介して他の者からの想念を感受する可能性について述べられています。著者アダムスキー氏が具体的にどのような事例を指していたのかは今となっては不明ですが、人がある対象物に心を寄せて、その残留想念その他の印象に心を合わせようとする時、そのことを別の者が知っていれば、その者はその対象物を介して、元の感受しようとしている人に自らの想念を送ることが出来ると述べています。

この事例から、想念伝達は電気をつなぐケーブルのようなもので、直接でなくても共通の話題や対象物があれば、容易に互いの意思がつながるということでしょう。万物が互いに関連し合っていると度々述べられて来ましたが、その意味は丁度、人体の神経のつながりのように、互いにネットワークを構成し、意思や印象を交流し合う等、より深い意味があるように思います。

242 Try this same experiment with the contents of a sealed letter. If you are able to receive two or three thoughts from the letter, it is a very good average. This same exercise can be used with playing cards.

242 これと同じ実験を、封をした手紙の中身について行って見て下さい。もし、貴方がその手紙から二、三の想念を受け取ることが出来れば、とても良い成績です。これと同じ練習はトランプカードについても用いることが出来ます。

【解説】

目に見えないものを認知する一つの訓練法と言えます。これら通常人より拡がった知覚力は、従来は「勘」として分類され、偶発的なもの、さもなければ尋常ではない超能力者の証しとされて来ました。それに対し、これらの能力は私達誰でも身につけることが出来るとしている点に留意が必要です。つまりは適切な訓練、即ち印象の感受力を高める訓練をすることで、誰でもその能力が高められ、実生活に応用出来る訳です。

その結果、どのようなことになるかと言えば、誰もが隠し事が出来なくなり、各自の心情が他人に容易に察知される訳ですから、正直な生き方しか出来ない社会になるものと思われれます。

また、これら透視の能力は単にゲームとして楽しむのでは意味がありません。病に苦しむ人にその患部を透視してその痛みの原因や治療法を助言したりする等、人助けに本来の力を発揮すべきことは言うまでもありません。また、ご自身の身体各部が正常に機能しているか、各部位の細胞がどのようなことを訴えているかについて、自ら各部位に意識を巡らし、その声を聞き、患部をいたわり、修復することこそ応用すべきです。

243 Exercise 3. Test your ability to unify your mind with an object by giving a command to a coin to appear "heads" when it is tossed. Try this same command with dice.

243 練習 3. 投げ上げた時、硬貨に「表」を出せと命じることで、物体に対して貴方の心を一体化させる貴方の能力を試して見て下さい。これと同じ命令をサイコロに対しても試みて下さい。

【解説】

何事も相手と心を通わさなければ、始められません。芸術や趣味の分野で疲れというものが無く、創造的な仕事を続けられるのは、目の前の対象物と自分が一体化していることに他なりません。他の感覚心の雑念が入り込まず、没頭して作業に従事してはじめて優れた作品が仕上がります。

本項の場合、硬貨の裏表、サイコロの目を自分の意思でコントロールすることを、それら対象物と自分が一体化することで可能になると示唆しています。従来、とかく自分の意思を実現させるのに「強い思い」等、とかく思いを集中し、あるいは大声を発することで発する想念を強力に出来るとして来ました。しかし^h、既に学んだように、元来の想念の流れを妨げないことが重要であり、集中は体内に緊張を作り出し、その流れを阻害することが分かっています。

それ故、相手に自らの想念を伝える為にも、まずは相手と意思疎通のパイプをつなぐことが重要で、その上で静かに時分の意思を伝えるべきなのです。そういう意味でも距離に関係なく、対象物と融合、一体化しようとするのが重要だと言えます。

244 When you look at a fire, endeavor to see the coarser substance transformed into gaseous elements through intense friction.

244 貴方が火を見る時は、粗い物質が強烈な摩擦により、ガス状の元素に変質する様子を見ようと努力することです。

【解説】

古来より人は物質を気体、液体、固体の3相に分け、また近年ではそれにプラズマ（電離した気体）を加えて4状態に区分して来ました。科学的には水も氷も水蒸気も同じ水分子であることは知識として知っていますが、我々の日常的な感覚ではそれらは全くの別物として認識しています。

ここでは火について表面的な既存の認識を越えて、起っている本質の現象を見ようと努力することを求めています。私達は温度は分子が運動する速さであることは知っています。例えば電子レンジで食物を暖められるのは、中の水分子を高周波の電磁波で振動させるから等等です。しかし、ここでは知識を記憶するのではなく、現象の奥で起っている目に見えない微小な世界の状況に関心を持ち、自ら知覚しようと努力せよとしている訳です。

分子同士の摩擦（即ち運動）が熱となることは、ロープを伝わって勢いよく落下する際に手に火傷を負うことから実感できますし、物が燃えるという現象の背景には、物体が熱せられながら、気化し酸素と反応して更に熱を発する等、劇的な化学反応が起っているのです。

よく炎を見つめて心を落ち着かせるという話もあり、また遠くゾロアスターの時代に火を神聖なものと崇める人々の心情の中には炎にこうした目に見えない物質変容の要素を見ていたとも考えられます。毎日、地上を照らす太陽もまた真っ暗な宇宙空間にあってその太陽系の子供達（諸惑星）を照らし、各々に暮らす生命を育む光となっている等、火の力は甚大です。本項で言う火の中に基本的な因の要素が現れていることに古代の人達も気付いていたのかも知れません。奈良東大寺二月堂のお水取りの行事等、炎が主役となる宗教行事も多いように思われます。

245 Approach a tree with a feeling of unity, then try to realize, your oneness with that life-form. In time, you will feel its pulsation. You will be able to trace its intricate network of roots through the earth, understand how they gather the needed elements for growth, and at the same time act as a ground for the tree. The portion above ground, the trunk, spreading branches and leaves, serve as an antenna; drawing life-giving elements from space that are just as necessary for its growth as are the minerals it obtains from the earth. The entire history of the tree, from the time the seed germinated, through all the years of drought and flood can become an open book when you are able to receive impressions from it. This knowledge and much more is available to you, because the same Breath that gives you life as a form, gives the tree life. You will find that the more you work with this inner feeling, the more you will become united with all phases of nature. This can be carried to the point where a flower will turn and nod to you.

245 自分と統一体であるとするフィーリングを持って木に近付き、その生命体と貴方が一体であると認識するように努力することです。やがて貴方はその木の脈動を感じるようになるでしょう。貴方は地面の中の根の複雑なネットワークを辿ることや、それらの根が生育に必要な諸元素を如何にして集めるか、また同時に木の基盤として役立っているかが分かるでしょう。地面から上の部分、幹や広がる枝や葉は地中から得るミネラルと同じように成長に必要な生命を与える元素を引き込むアンテナの役割をしています。木の全歴史は貴方がそこから印象を受けることが出来れば、種の発芽から、日照りや洪水を含んだ木の全ての歴史が明らかになるでしょう。この知識やそれ以上のことが、貴方には手に入ります。何故なら貴方に生命体として命を与えているのと同じ生命の息がその木に命を与えているからです。貴方がこの内なるフィーリングについて力を尽くす程に、貴方は自然の全ての側面と一体化することに気付くことでしょう。このことは花が貴方に振り向き、うなづくという所までに成し遂げられ得るのです。

【解説】

この頃の春の季節には毎朝通るケヤキの並木は、日毎に真新しい若葉が吹き出し、その勢いを見ることが出来ます。冬の間、葉を落とし、じっとしていた樹木がその枝先から各々新しい葉を出し始めています。この時期、1日で目覚ましい程の若葉の成長が起っていることは皆様お気づきの通りです。

本項は樹木との会話について詳しく説明されています。樹木と一体感を持って相手に溶け込み、その上で内部の生命力を感じ取ろうとする気持が大切です。とかく私達は動物と植物、あるいは鉱物と分け隔てを行っていますが、実はペットの犬と樹木との差は無いのかも知れません。植物と会話する話は、以前、ルーサー・バーバンクやピーター・トムキンスの著書（「植物の神秘生活」、The Secret Life of Plants）を紹介した通りです。

ここでの留意点は、誰かが特別な能力を持っていることを称讃するのではなく、自ら樹木と一体感を持って接し、相手の生命波動を感じ取れるよう、努力せよとしていることです。つまりはテレパシー訓練としてより本質的な意義を持っている訓練である訳です。また、それが可能となる理由として、私達の方が万物を貫く生命力に気付くからと明確に述べられています。

日本においてもこのような植物との親交を持った例としては、芹沢光治良の著書「神の微笑」を挙げる事が出来ます。著者は自らの半生を振り返りながら、静かな山荘での生活の中で体験した樹木との会話の内容を述べており、著者が感じた樹木との会話がありのままに述べられています。一見、小説の形式を採ってはおりますが、著者が樹木とどのように親交したかが正直に書かれているように思います。

246 Exercise 4. If possible, stand some distance from a body of water (its size is unimportant), preferably on a hilltop or rise, so you are looking down on it. Then, realizing your unlimited capability as consciousness, picture how cool and refreshing that water will feel as you place your foot in it. You can soon get to the place where your whole body will be invigorated by the contact; for inreality, there is no distance between your body and where you have directed your feeling. The feeling is the consciousness of the body. Once we realize feeling is not shackled to the physical form, therefore is not confined to one place, distance offers no barrier. It is in this manner that consciousness can roam the universe.

246 もし可能なら、水面（その大きさは重要ではありません）から、ある距離離れて、望ましくは丘の頂上か高台に立ち、下の水面を見下ろして下さい。そして意識としての貴方の無限の能力を実感しながら、貴方が自分の足をその中に浸けたらどんなに冷たく気持ち良いかを思い描いて下さい。貴方は貴方の全身がその水との接触で爽快になる所までにまもなく到達出来るでしょう。何故なら、実際には貴方の身体と貴方が自らのフィーリングを差し向けた場所との間には距離は無いからです。そのフィーリングは肉体の意識なのです。ひとたび私達がフィーリングは肉体に鎖でつながれるものではないことを実感すれば、即ち一箇所に限定されることはなく、距離は障壁にはなりません。意識が宇宙空間をさまようようになれるのは、このようにして為されるのです。

【解説】

これまでも対象との一体感を育むことが意思疎通の第一歩であると繰り返し述べられて来ました。その究極の解説として上記本文(246)があるように思います。私達のフィーリングを司る意識体が距離に関わらずそ対象物を瞬間的に包み、対象物と一体になることで、対象物の持つ想念や対象物に関連する諸々の状況を感じ取ることが出来ることが、即ちテレパシーということになります。

一方、私達はこの意識体について、その機能や能力についてはこれまで知識として学んで来ました。今後はその潜在能力を実生活に応用する段階を迎えています。自分の周囲に自らの意識を拡げれば、そこを通り過ぎる印象も感受し易くなるでしょう。小さなパラボラアンテナで一方向を志向するよりもより大きな範囲、周囲全体から電波を受けようとする方が効果的であるのと同じです。

しかしこの意識の拡がりには自分の関心に依存しますし、あらゆる側面に関心を払い、常に他者への手助けや自らの向上心を促進する中で、その拡がりも増すことでしょう。多くの仏像に見られる光背はこれら仏達の持つ意識体の輝きを表わすものであり、オーラについても同様の事象であると思っています。

247 When your impressions are not received clearly, examine yourself and try to analyze what is wrong. Did one of the four senses interfere? Did an old thought habit reassert itself? Do not allow either. For even a split-seconds interruption can cause misinterpretation of the impression. We have really illustrations of how easily a trend of thought can be lost; for when we are relating an incident and someone interrupts, quite often we completely forget the point we were discussing. And because impressions flash through the mind at high speed, this situation is magnified a thousandfold.

247 貴方の印象類が明確に感受されない場合は、貴方自身を調べて何が間違っているか分析することです。四つの感覚の何れが妨害していませんでしたか。古い思考習慣が再び顕在化しませんでしたか。そのいずれも許してはなりません。何故ならほんの一瞬の妨害も印象の誤った解釈を引き起こすからです。私達は如何にたやすく想念の方向性が見失われるかについて実際例を知っています。何故なら、私達がある出来事について説明している時、誰かが話に割り込んでしまうと、しばしば私達は議論していたポイントを完全に忘れてしまうからです。また、印象というものは心の中を高速度で一瞬ひらめく為、この状況は一千倍も拡大したものになります。

【解説】

とかく妨害され易いのが印象の流れです。自分自身だけの環境下においても、ちょっとした雑念で想念の流れは大きく歪んでしまいます。只ひたすら湧き上がる印象に対し、率直に受け入れる姿勢が必要なのですが、私達の未熟な心はあれこれと考えを巡らせて本来の印象を取り逃がしているようです。

本文で言うように、心にとって印象はかすかで、且つ素早いものです。折角感受しかけた宇宙的な想念も何か現状にそぐわない要素があると心が勝手な判断をすれば、その印象（インスピレーション）とは二度と会えないかも知れません。

そういう意味では私達の貧しい心に時折やって来る宇宙的印象に対しては、心から歓迎し、その全てを受け取った後、その印象が何を示唆しているのかを考えて見る必要があります。多くの能力者は古来から、心身を清め、このような宇宙的印象（インスピレーション）を感受しようとして来たように思います。

自然の中に身を置いて、周りの動植物達がどのような印象を感受し、また互いに発しているか、じっと心を傾けたいものです。観察の結果は、それら印象類のもたらす効果として、彼らは大自然の中で生きるものは、いずれも活発で時々の生活を楽しんでいることが分かります。唯一、彼らが絶対的な信頼を置いているのが、この印象（インスピレーション）だと思ふのです。

連休中はお休みします [2010-04-28]

日頃、ご覧いただきありがとうございます。

明日から連休に入りますが、筆者の生活パターンが日常とは変わることから、申し訳ありませんが、連休中の更新はお休みさせて戴きたいと思ひます。

再開は5月6日を予定しております。宜しくお願ひいたします。

4月28日

竹島 正

248 The more disinterested we become in ourselves as a personal ego, the finer our perception becomes. Cosmic Life, or conscious awareness, is never confined to the body. Our limited mind-the mind of effect-tries to hold all things within the realm of its concrete understanding. But the mind that we know is only a shadow; while Cosmic Cause is Reality expressing. When the individualized mind recognizes its limitations, then wills itself to that which knows its purpose for being, its power becomes unlimited.

248 私達が各個人のエゴとしての私達自身に対して関心が薄れるにつれて、私達の知覚力はより繊細なものになります。宇宙的な生命、あるいは意識の知覚力は私達の肉体に限定されることはありません。私達の限られた心、即ち結果の心は全ての物事をその確固たる理解の領域の中に把握して置こうとします。しかし、私達が知っている心は影でしかなく、宇宙的因が表現されている現実なのです。各自の心が心の限界を認識し、心の存在目的を知るものへ自身を仕向ける時、心のパワーは無限になるのです。

【解説】

「自意識過剰」という表現があります。これは私達の日常生活をよく表わしている言葉です。例えば鏡の前で髪の毛を整えたり、私達は絶えず自分自身の外見がどのようになっているかに気を使っています。また、考える事柄も自分に関連したことが多いものです。

しかし、このように自分自身に私達の関心が向いている限りは、宇宙の因からの印象をキャッチできる筈ありません。元々のアンテナが内向きになっているのは、衛星放送が受信できないのと同様です。私達は既に十分、自分自身の事柄に関心を持ち過ぎており、これからは、自分を忘れて宇宙や自然に没入することを学ぶべき段階を迎えているように思います。

本文にあるように、真理が分からないながらも、一つ一つの断片を理解し、把握しようとする姿勢が大切だと思っています。よく真理をジグソーパズルに例えられますが、最初から心で全てを理解しようとするのではなく、全てを直感的に受け入れた上で、それらが全体として浮かび上がらせるイメージをご自身の中で醸成させることです。その道程の先にやがて大きな全体像が見えて来ることでしょう。短気に成果を望まずに、ひたすら自然や宇宙から学び取ろうとする気持です。次回からは第3部に入ります。

Part III

CHAPTER I Control of the Ego

249 In olden times, teachers of philosophy demanded strict adherence to certain disciplines of body and mind before they would accept a pupil. They did this because they knew that if a man could not control his sense mind and body-habits, he was not yet ready to receive higher instruction. Some great teachers demanded a five-year period of absolute silence from the pupil before they would even consider the possibility of instructing him. This may seem drastic to us today, yet it served a two-fold purpose. The student learned self-control through not being able to participate in conversation around him; and the enforced role of an impartial listener made it possible for him to study and evaluate both sides of every question.

第3部

第1章 エゴを統制すること

249 古くは哲学の教師達は弟子を受け入れる前に肉体と心についてある種の訓練に厳密に従うことを要求したものです。教師達は、もしその者が感覚心や肉体の習慣を統制できなければ、より高次の教えを受ける準備が出来ていないことを知っている為、そうしたのです。偉大な教師の中には、その弟子を教えられるかを考える前に、その弟子から5年間の間、全くの沈黙を課した教師もいました。これは今日、私達にとっては過激に見えるかも知れませんが、それには二重の目的があったのです。弟子は自分の周囲の会話に参加出来ない為に、自己統制を学びましたし、また隔てない聞き役としての強い役割によって、すべての問いに対する両方の側について学び、評価することが可能となったのです。

【解説】

「テレパシー」が3部作になっている理由は、今となっては知る由もありません。原書では3冊の冊子に分かれたものとして自費出版されています。勝手な想像では、後年の「生命の科学」のような講座をイメージして執筆された可能性もあるのではと考えています。つまり、本書は単なる読み物として取扱うべきではなく、各部各章を各学年の教科書のように取扱うべきことを意味しています。

また、一方で、第3部に入ってエゴのコントロール（統制、制御、支配）について章を設けている点に、この問題の重要度が表れている気がします。本来は、講座のはじめの心構えとして述べられても良い内容ですが、ある程度の知識を授けた後、再びこの問題を取り上げること自体に、このテーマの難しさがある訳です。そして、ジグゾーパズルと同様に、全て一から整然と理解して行くことは、一見にして心にとっては分かりやすいのですが、現実には理解した部分毎にイメージが出来上がる訳で、その要点毎に基本に立ち返る必要があるということでしょう。

本項について、著者アダムスキー氏は具体的にその教師として誰をイメージしていたのかは知られていません。内容からは仏教の「無言の行」のイメージかと思います。伝えられる所では、アダムスキー氏は幼年期にチベットで学んだとありますが、その内容も氏が体験したことをここに記述している可能性もあります。いずれにせよ、私達は再度、自分自身のエゴをコントロールすることが求められているのです。

250 We would do well to ponder this ancient requirement, and incorporate a little of it into our lives today. Most of us are so busy imposing our opinions upon others, that we really do not listen to what they have to say. While others are presenting their side of the subject, our minds are so busy marshalling our own arguments to prove them wrong, that we do not hear more than a fraction of what is being said.

250 私達は古代のこの要件についてじっくり考え、今日の私達の生活にその少しを組み入れた方が良いでしょう。私達のほとんどは他の者達への自分達の意見を押し付けることに躍起になっており、私達は実際には他の者達が何を言おうとしているのかに耳を傾けてはいません。他の者達が課題に対する自分達の側面を提示している間に、私達の心はそれらの提示が誤りであることを示すべく、自分達の議論を組織立てており、私達は話されている事柄の一部しか聞いていないのです。

【解説】

いわゆるディベートと称せられる討論等はこの典型です。現代の私達には相手を言い負かすことに汲々とする風潮があります。相手の優位に立ち、他人を支配しようとする動きはエゴの増長でしかありません。

その点、植物は違います。終始無言の生涯を送っています。また音声を発しない動物も多いものです。しかし、彼らは何ら支障なく生活を送っており、印象への感受性も高いものと思われれます。この連休中、実家の雑草取りをしましたが、わずか1～2ヶ月で背丈が50cm、茎の径は2cm以上にも伸びる野草があることに驚きました。彼らは他の草よりもいち早く成長を遂げ、光を享受することで繁栄がもたらされることを知っているのです。また、その野草の下には様々な昆虫達が住処を構えていました。野草が日影と湿気を作り、虫達に快適な環境をもたらししていました。これら全ては無言で互いに何の議論もなく行われたことは明らかです。自然界はこのようにほとんどのことが無言で進行しています。もちろん、私達の肉体各部も余程のことが無い限り、神経を通じて騒ぎ出すこともありません。

251 So the great teachers of the past, comprehending that real development cannot come until man has disciplined himself, refused to waste either their time, or that of the pupil, where growth would be doubtful. They understood that the Cosmic Law of Progression would in time inspire the person to realize the necessity of an honest evaluation of himself, and of his relationship to all creation. He would then know that self-control was a prime requisite.

251 その為、昔の教師達はその者が自身を訓練し終わるまでは真の発達がやって来ないことを理解していた為、成長が疑わしい間は、自分達やその生徒の時間を無駄に過ごすことを拒絶したのです。彼らは進化の宇宙法則はやがてはその者に自身について正直な評価を行う必要性を認識させることを理解していました。その者は次に自己統制が主要な必要条件であることを知るようになるのです。

【解説】

真理は表面的な鵜のみでは得られず、受け入れる側に十分な態勢が出来上がっていないければなりません。例え各自の意思として真理を悟りたい、道を極めたいという願望があっても、それだけでは不十分だということでしょう。まずは自らの自我の正体を見据えて、必要な訓練を行わなければなりません。それは誰れの力を借りることは出来る訳でもなく、自ら自我と対峙して少しずつ実行する他はないのです。

その上ではじめて真理を学ぶ態勢が出来る訳です。

それでは、こう述べたアダムスキー氏は真理を求める人々に対し、実際、どのように応じていたのでしょうか。手元に残る小グループにおけるアダムスキー氏の質疑応答を記録したテープがありますが、様々な質問に氏は一つ一つ丁寧に答えています。当時、その回答を受けた当人がどれほどの自覚を持って聞いたかは分かりませんが、アダムスキー氏は各々の質問に対し、何らおっくうがることもなく、誠実に回答しています。むしろ、（自分が生きている時間が短いので）もっと、質問せよと言っている程です。原理は本項記載の通りであっても、実際には各自の求めに誠実に応じていたこと訳です。

これは宇宙哲学を学ぶ人達の中にあっても言えることで、私の経験からも、多くの方々に説いても結局はごく少数の方が残るのがこの分野の宿命です。しかし、広く道を説き続けなければ、それらの人々とも巡り会えないことも確かです。本項の原理を踏まえつつも、時には興味深い事象を取り上げて、燃えている家からまだ気付いていない人々を呼び寄せることも必要なのだと思っています。

252 Telepathy is an expression of the Law; which is as ageless as the Cosmos. If man hopes to use it with understanding, he must recognize how imperative it is for him to practice self-discipline. As long as he allows dissension to continue within himself, his receptivity will be confined to the level upon which his mind works. The Laws of the Cosmos are immutable, and in time man will awaken to his potential; for the only limitations placed upon man, are those his unawareness imposes.

252 テレパシーは偉大なる法則の内の一の現れであり、それは大宇宙と同様、永遠に不老です。もし人がテレパシーを理解して用いたいと望むなら、自身にとって自己訓練を実践することが如何に必須なことであるかを認識しなければなりません。その者が自身の内側で意見の不一致を許す限り、その者の感受性は心が働くレベルに限定されるのです。大宇宙の諸法則は不変であり、やがて人は自身の潜在能力に目覚めることでしょう。何故なら、人の上に置かれた唯一の限界は自身の無知が押し付けたものだからです。

【解説】

結局、問題は各自の心の有り様ということに帰着します。環境その他の条件は大きな問題ではなく、各自の心を訓練することが唯一の方策であるということです。また、本文中に「自身の内側の意見の不一致 (dissension)」が問題とされていますが、これは「迷い」や「葛藤」も含めて、心が一つの誠実な一体物になっていない状況を意味しています。

最近見た映画に「禅ZEN」(DVD)という作品があります。道元の生涯を描いた映画です。私自身、「禅」についての知識はありませんが、ひたすら座禅により、心を正しく落ち着かせようとする修業の中には、本項で言う自身の内側の不一致を修め、自己訓練を実践する一つの形があるように思えます。この作品が感動的なのは、道元がやがて入滅の時を迎える時です。死期を迎える中であっても道元は最後の力を振り絞って弟子達が参禅する修業堂に入り、その座禅のまま、息を引き取る場面です。教師たる者、そこまで弟子達に自らの信じる姿を見せることで、はじめて時代を越えて受け継がれるものが生まれるということでしょう。このテレパシーの奥義を伝える場合も同様な心構えが必要だということではないでしょうか。

253 Nothing in the universe is at rest; so all things must be conscious. The only difference between consciousness and intelligence is that intelligence, or the perception of thought, is the result of consciousness, or activity, acting upon itself. In other words, thought is produced by one unit of consciousness contacting another unit of consciousness; and the recognition of thought is intelligence, or knowledge. Consciousness is abstract awareness.... intelligence is concrete awareness. Thus, all concrete facts, or phenomena, are merely manifestation of the abstract; and are dependent upon it for their existence.

253 宇宙には休止しているものは何一つなく、それ故に全てのものには意識的でなければなりません。意識と知性の間にある唯一の違いは知性ないし想念の知覚は、それ自身に作用する意識あるいは活動の結果であるということです。言い替えれば、想念は一つの意識単位からもう一つの意識単位と接触することで作り出されます。そして想念の認識は知性あるいは知識なのです。意識は抽象的な気付きであり、知性は具体的な気付きであるのです。このように全ての具体的な事実あるいは現象は、単にその抽象物の現れに過ぎず、その存在をその抽象物に依存しているのです。

【解説】

本項は意識や想念について従来に無い角度から説明されています。

私達は「意識」について、アダムスキー氏のこれまでの著作から各々のイメージで捉えた理解をして来たものと思います。ある人にとっては具体的なイメージを伴った理解かも知れませんが、別の人にとっては単に「意識」というお題目に留まっているかも知れません。私自身も確かな理解という訳ではないので、誤っている面もあるかと思いますが、敢えて述べれば、本項から以下のことが分かるのではないのでしょうか。何故、アダムスキー氏はこの問題となる生命力を「意識consciousness」と表現したかが大きなテーマでもあります。

先ずは本項で述べているように動いているものには生命があることは誰もが認めることです。そういう意味では岩のように何万年もその場所に立つものも、少し考えを巡らせれば、鉱物内部の原子の振動や惑星自体の運動等、絶対的な「静止」状態はなく、全てが生きていることは理解できます。その生き物たらしめているのが、生命力であることも理解できます。そしてこの場合、これを「意識」と表現している訳ですが、敢えて「意識」とした背景には言葉でなく感覚的な把握ができる領域として表現されているように思います。

よく大怪我をした人の状況判断の一つに意識があるかという項目があります。それは意識があることが、生命の源が残っていることで命が保てることを意味しており、逆に意識が薄れることは全ての生命力が失われつつあることを意味します。このように私達は日常的に「意識」という言葉を使っていますが、アダムスキー氏もそのことを踏まえて、もっともイメージに近い表現として「意識」を使ったものと思います。つまり、日常的な意識とアダムスキー氏の言う「意識」とはほとんど同じものだと思った方が理解が進むように思います。

さて、その「意識」ですが、本文に書かれているように、全てを知る者であり、その知っている内容を一つ一つ言葉に出して明かすことはありません。私自身、それは言葉や知識として具体的に表現される前の混沌（表現が不適切ではありますが、全ての知識や知性が詰まっているという意味です）とした状況のように感じています。本文にあるようにその意識が互いに接触することで「想念」が生まれるとしている点は興味深いものがあります。つまりは想念以前に存在するものが「意識」ということになります。

茫漠とした表現ですが、全ての答えを知っているもの、そのような見えない存在が私達を生かしており、私達自身もその暗黙の指導に従うことで、自然界の他の生き物と同様、生命を謳歌できる存在になれるということでしょう。

254 When we consider that consciousness is activity, and that thought is energy produced by that activity, and that thought cannot be destroyed but can be transmuted or transformed, we must stand in awe before the realization of the prodigious bombardment to which our bodies are subjected by billions upon billions of charged particles flying through space in never ceasing activity. Since these countless variations of vibrations surrounding us at all times, and the human body is capable of receiving all of them through the feeling channel, why is that the average person receives so few? Why are some more receptive? What determines the type of vibration to which each individual is receptive?

254 私達が意識は活動であり、想念はその活動によって作り出されたエネルギーであり、想念は破壊されず変質あるいは変容するだけだと思える時、私達の肉体が止むことなく宇宙空間を飛来して来た何十億もの荷電粒子による桁はずれの数の衝突にさらされているという自覚を前にして私達は驚きの中、立ち尽くす筈です。私達を常々取り囲むこれら無数の諸振動はフィーリングの経路を通じてそれら全てを受信することができますが、一方で何故平均的な人間は感受がそんなに少ないのでしょうか。他の者がより多く感受できるのは何故か。各々が感受する振動の形式はどのようにして決まるのでしょうか。

【解説】

これまでの講義から、私達には宇宙空間から莫大な数の微小な荷電粒子が衝突しており、それらは私達の身体を貫いていることを学んでいます。それら粒子が各々想念を保持している訳ですから、私達は居ながらにして様々な印象を宇宙から受け取ることが出来る訳です。

この例から分かるように、想念を帯びた粒子（原子や素粒子）が肉体を通過する際、私達はその極く短い時間ではありますが、想念を感じる事が出来るのです。即ち、このように想念は私達にとって一瞬のヒラメキである理由がこの現象に表わされています。高速で肉体を通過する微細粒子が肉体に残す航跡を私達のフィーリングが感受するという訳です。

もちろん、荷電粒子は満遍なく降り注ぐ訳で、感度の鈍い人間は何一つ感じる事のないまま、無為に時を過ごしていることとなりますが、感度を高めて行ければ、それら宇宙からの様々なアイデアを受け取ることが出来ます。

255 To answer these questions, let us imagine the creation of a human consciousness through a concentration of forces, or rather, particles of force. Let us visualize a vast sea of force, composed of invisible units. By a means inconceivable to the human intellect one of these units is project forward through this force-space in a whirling motion, creating a form of magnetism within itself which draws other particles to it. Because of the magnetic force within them, which we have called the law of affinity, these particles cling together and gradually become more and more concentrated, or bound to each other, by a mutual form of activity.

255 これらの疑問に答える為、人間の意識が力の集中、あるいはむしろ力の粒子群を介して創造される過程を心に描いて見ましょう。目に見えない単位から構成された広大な力の海を目に浮かべましょう。人間の知性では認知できないある方法によって、これらの単位の一つがこの力の空間の中に回転しながら打ち出され、それ自身の中に磁力を造り出す結果、他の粒子をそれに引き寄せます。私達が親和の法則と呼ぶこの内部の磁力の影響から、これら粒子は互にくっつき合い、やがてより密度が高まり、相互の活動形態を通じて互いに結合します。

【解説】

ここでは人体の源となる意識自体の誕生の仕組みを解説しています。物質誕生以前の意識の段階がどのようにして生まれるのか、精妙な世界の話と言えるでしょう。思い出すのは創世記の記述と雰囲気似ていることです。中でもポイントは「回転しながら (whirling motion)」という記述です。原子レベルの物理学の世界、或いは化学分野では、電子のスピン（回転）が重要な要素になっています。電子が安定化する為には各軌道上の電子の回転が調和していることが必要で、調和していればその物質は安定ですが、不調和の場合には著しい反応性を示します。つまり電子は安定化しようとする為といった具合です。

また、私達の惑星の自転や公転も大きな意味で粒子の回転であり、小は電子雲から大は銀河の渦まで、物質全てに「回転」という共通の要素があることが分かります。

この意識についても、同様にその構成要素が何らかの回転運動を続けながら成長して行くことを本項では示唆するものと思われます。

256 Professor Einstein spoke of substance, or any mass, as a knot in time-space - a very logical definition. For any material form is simply a section of space tied, or bound, together. This concentration, or binding together of particles, creates a sense of individuality (which is almost totally interested in itself).

256 アインシュタイン教授は物質、あるいは質量を時空における一つの結び目のように表現しており、それは大変、論理的な定義です。何故なら、どのような物質についても形は縛り付けられ、あるいはくくられた一部の空間のまとまりでしかないからです。この集中、即ち、諸々の粒子群を一緒に束ねていることが、個性（全ての関心をほとんど自身に向けていること）を造り出しています。

【解説】

まずは物質を時空の結び目と見ることについてです。以前、原子の構造（原子の占める空間のほとんどが中心の原子核の周囲を回る電子の軌道になる）から言って、物質はシャボン玉の泡のような存在であるとお話したかと思います。つまりは、私達の感覚では「固い」と感じる物体も、その実質は空間であり、それらが形を留めているということは、特定の空間を縛り付けていることになり、本文の時空における結び目を示すものになっています。

次に物質にはそれ自身を保持する為に自分の構成物を保持する傾向（結合力）があり、各々その傾向があることについてです。これは各々の物体がそれ自身を保持しようとする力が本来、生まれ、それがエゴにも繋がることだと本文は明解に述べているのです。もちろん、宇宙の中には形あるものの存在は不可欠であり、各天体もこうした固体から成り立っています。そういう意味でも、エゴの問題は排除すべき要素ではなく、本来の姿が用意されていることになります。私達自身の身体も小さいながらも宇宙における時空の結び目であり、今、この時に必要とされてこの場に存在します。この結び目で括られた空間を本来の望まれている活動の場への導くことが必要です。

257 For instance, let us mentally picture our own solar system-which resembles in every detail the tiny, invisible atom described earlier-with its twelve planets and countless planetoids revolving around a central sun. This solar system is traveling through space-force, which is composed of an infinite number of particles and innumerable other planets and suns, yet our own little system is so interested in itself that not one of the planets will wander off. They cannot help being affected to some extent by every other concentrated force in the universe, because no atom, or unit, can separate itself from the Cosmic Whole. But the planets do not allow any force to influence them sufficiently to draw them out of their chosen orbits around the sun.

257 例えば心で私達の太陽系を思い描いて見ましょう。それは以前お話したように、小さく目に見えない原子に細かい所まで似ており、中央の太陽の周りに12の惑星と無数の小惑星を伴っています。この太陽系は力の空間の中を移動しており、その空間は無数の粒子と他の無数の惑星と諸太陽から成り立っていますが、私達自身の小さな太陽系ではそれ自身の指向性が高い為、惑星のどれ一つとしてさまよい出るものはありません。諸惑星は如何なる原子や他の単位もそれ自身を宇宙全体から分離することが出来ない以上、宇宙空間の一つ一つの他の集約された力により幾分かは影響を受けざるをえません。しかし、諸惑星はそれらが選択した太陽の周囲の軌道から引き落とす程の影響を与えるような如何なる力も許すことはありません。

【解説】

この太陽系が太陽を両親とする一つの家族であることは本文からも良く分かります。私達が無気なく用いている「宇宙兄妹達（ブラザーズ）」も、その持つ意味はこうした真理に基づいた概念なのです。これら原子から太陽系に至るまで物質界はポイントとなる要素に相関性（相似性）があることは、それらは共に同一の根源に由来していることを示唆しています。

結局、私達は宇宙の中で生きており、これら天空の中で調和ある構成員となる為に、努力すべき分野が多数残っています。目下、世界的な混乱が進んでいるように思います。これらは全て惑星に住む人間に起因する問題です。しかし、人々の想念がこれらの問題の影響で混乱したものとなれば、惑星を含む近隣の宇宙にも大きな影響を及ぼす筈です。人の想念が惑星自体や宇宙にも大きな影響を与えることは十分考えるべきことです。

基本的に私達の惑星は過去のひどい人間達の状況にも拘わらず、その役目を果たして来ましたが、それがいつまで持ちこたえられるかは不明です。アダムスキー氏が生きていた当時も、太陽の変化についてブラザーズが注視していると伝えられていました。果たしてこの地がほろんでも語られた真理は変わらないということにならないように注意したいところです。

258 Because of its higher state of concentration, the same thing is taking place in our bodies to a much greater degree. The human consciousness, or personality, has come to the place where it is almost wholly interested in itself. That is, the chemicals composing the form are so highly organized that they do not feel the need of outside forces; although they must draw upon those sources for their support. Each human form is interested only in perpetuating itself; and through thousands of years it has created the habit of accepting only those impulses, or vibrations, that pertain to its own well-being.

258 そのより高密度の状況の為、同様の事柄は私達の身体の中では更に大きく起っています。人間的な意識、あるいは個性というものは、ほとんど全く自分自身にしか関心がない状態の所までに至っています。それは即ち、形を構成している化学物質は余りに高く組織化されている為、それらはそれらの維持の上から原材料を引き込む必要はあるものの、人体の外側の諸々の力を必要だとは感じていません。一つ一つの人体はそれ自身を永続させることのみに関心があり、何千年もの間、そのような衝動もしくは振動のみを受け入れる習慣を作り上げてしまい、それらは自身の満足の一部になっています。

【解説】

本文で言う人体維持への執心は、食物に対する関心によく表れています。一般的に見られる空腹時の食事の食欲さは傍から見るとまさに、鬼のような様相をしているのではないのでしょうか。また、食物については視覚から嗅覚までの感覚を総動員しており、各自が生き続けようとする意欲にはある意味、感心する程です。

しかし、その結果は自我は益々増長する一方、他人には考えが及ばない等の問題が発生します。各自が自己中心の生き方をしていれば、他人との衝突や環境の破壊は避けられません。何より他者を思いやるには、関心を他者にも向けることが必要であり、唯我独尊では外部から情報も入って来ない訳です。

その解決策は現実の世界である惑星を含めた自然環境が互いに切っても切れない相互関係で結ばれていることを学ぶことでしかありません。渡り鳥は誰がリーダーに選ばれるのかは知りませんが、整然と編隊を組むことが合理的な飛行方法であり、群れを成すことで外敵から身を守れることを知っています。また、その一羽一羽は全体と調和した飛行を続けることで遠距離を渡れるのです。各自の自主性、独創性を保ちながら、必要な時には一糸乱れぬ編隊を組む鳥達は、とうの昔にこの問題を解決している訳です。

259 The intense concentration of the particles composing the body has set up such a definite barrier of resistance to the free-flying atoms of space, that the form appears to be acting under a self-made law; or to have a separate will of its own. The law of evolution which has brought the cells of the body to such a fine degree of organization, or concentration, does in time lead them into a field of universal expansion so that this barrier of resistance is lessened; and the human consciousness becomes more receptive to the vibrations about it.

259 人体を構成する粒子の強固な集中状態は宇宙空間を自由に飛翔する諸原子に対し、断固とした防御壁を作り上げており、人体は自ら作った法則の下で行動している、あるいはそれ自身の分離した意思を持っているように見えます。人体の諸細胞にこのような緻密な組織、あるいは濃度をもたらした進化の法則はやがて、この抵抗の防御壁を宇宙拡張の領域に導き、その結果、この障壁は小さくなり、そして人間の意識はそれに関わる諸振動をより多く感受するようになります。

【解説】

毎朝10分程、ケヤキの並木道を歩いて通勤していますが、今の時期、植物達の活動の旺盛さには目を見張ります。少し前までは若葉が出た段階であったのに、見る見る内に葉の量と緑を増して今では通り一杯にケヤキの緑の葉が覆っています。

植物と動物とでは事情は違う訳ですが、植物に関する限り、宇宙への指向性ははっきりしています。木々の枝先は皆、大空から光を受けようと葉を伸ばしますし、中にはヒマワリのように身体全体を太陽に向けて動くものもいます。本項との関連で言えば、植物は宇宙からの光、即ちエネルギーを受けようと関心を常に光に向けていることになります。

しかし、動物は自己防衛の指向性が強い為、植物ほどの感受性は無いかも知れませんが、野生動物達は迫りくる危機を直感的に回避したりする能力に秀でていますし、全身を通じて絶えず警戒を怠りません。そういう意味では人間だけがこうした外部からの微小粒子の衝突に対して鈍感なのかも知れませんが、あまりにも自分自身に捕われている為、取り巻く環境から必要な印象を得ることが少なくなっているということでしょう。本講座を読み進まれている皆様は少しずつ諸々の感受性が広がっているのではないのでしょうか。美しいもの、大切なものに敏感になること等は、その典型かと思えます。宇宙には受け入れるべき多くのエッセンスがあることが分かれば、これまで自分が作り上げた自己防衛の壁は自ずと低くなるのではないかと考えています。

お知らせ [2010-05-21]

明日から写真撮影の為、尾瀬に入ります。

次回の更新は5月26日になる予定ですが、皆様ご了承下さい。

260 We are an intensely selfish lot. If you were to make an impersonal analysis of your mental reactions, you would find that ninety-nine and ninety-nine-one-hundredths percent of your thoughts pertain to yourself, your home, your business, your mate, children and possessions. To break this down, eighty-five percent of your thoughts are dedicated to the idea of self-preservation; the other fourteen-and-ninety-nine hundredths percent, to self-pleasure. That leaves a mere one-one-hundredth percent to be devoted to a searching for universal knowledge.

260 私達は強烈なる利己的な奴です。もし貴方が自分の心の諸反応を客観的に分析するなら、貴方は貴方の想念の内、99.99%が自分自身や自分の家族、自分の仕事、自分の仲間や子供達、持ち物に関連していることが分かるでしょう。更に分解すれば貴方の想念の85%が自己保存の想いに、他の14.99%が自己快楽に捧げられています。つまりはわずか0.01%が宇宙的知識の探究に捧げられているに過ぎないのです。

【解説】

私達の過ごす日常において、本文で言われている内容を「時間」で解釈すれば、次のようになります。1日24時間の内、「0.01%」は $24 \times 60 \times 60 \times 0.0001 = 8.6$ 秒となり、私達が宇宙的知識の探究に費やす時間は1日、わずか10秒足らずということになります。この10秒をどのように解釈するかは人によって異なるでしょうが、私の実感としては、十分に有り得る数値だと思っています。

自宅でテレビを見て過ごす時間や通勤時間、職場で過ごす時間等、その他文字通りの大部分の時間を私達は自己の保全や快楽の追求に充てているのです。残り10秒を時として宇宙的な関心に振り向けているという訳です。

しかし、これら自己中心の生活の中でも咲く花の鮮やかさに驚いたり、先人の言葉に感動する等、宇宙的知識の志向性が目覚めるチャンスも多いのではないのでしょうか。少しずつですが、無駄な時間をこれら宇宙的志向の時間に振り向けて行くことにより、私達は少しずつ進化するのだと思います。おそらくはその少しずつの歩みがある一定水準に達した時、私達は後戻りしない本当の進化の道を歩むことになることでしょう。

261 The human must have a definite reason for acting; first, as a duty of self-perpetuation; second, because the act brings pleasure. Either of these is pure selfishness; and creates this barrier of resistance against universal knowledge. This self-interest created by the concentration of cell consciousness, we call the ego. And because of our lack of understanding, it is this human ego which we seek to perpetuate.

261 人間は行動する際には明確な理由を持たねばなりません。第一は自己を永続させる為の義務として、第二はその行動が快樂をもたらす故です。これらのいずれもが純粋に利己的なものであり、宇宙普遍の知識に対して抵抗の障壁を作り上げています。この自己への関心は、私達がエゴと呼ぶ細胞意識の集中化によって造り上げられました。そして私達の理解の不足の故に、私達が永続させようと求めているのは、この人間のエゴなのです。

【解説】

私達が日頃、必死に守りたいと思っているもの、大切に感じているものは実はエゴという表面的でうつろい易いものであるという訳です。このエゴなるものは常に失敗を恐れ、面目を失うことを懸念して様々な本来不要な仕事を各自に課しています。一方では物事の最終段階に来るとどうすべきかの決断が出来ず、先延ばしするか、放り出すかのいずれかで、事態に直面しようとしないう等、私達のそれまでの労苦に報いることはありません。また、大した用も無いのに持ちたがる所有欲は、逆に商品を買りたい他の者にとっては格好の相手となっています。

さて、この問題のエゴですが、言い訳は大変上手で、表面的な繕いで世間を渡って行こうとします。しかし私達はこのエゴの支配から自ら抜け出なければ展望は開けません。そのヒントは本文後半にある「理解」という言葉の中にあるものと思われます。

つまり、前項（260）にあるように重要なことを学ぶ時間も無く（1日10秒程）、周囲の他の者も教えるだけの進歩に達していない以上、目に見える結果の世界だけに導かれるのは当然です。この点、現象の奥にある因を感知し、宇宙からやって来る印象類に対して心を開く時、真実の姿が自ずと見え始めることになって、やがてはエゴが縮小し、真の守護者が見えて来るものと思っております。

262 As I have said, all manner of vibrations are constantly beating upon the cell portals of our bodies. Inasmuch as every cell is a conscious entity, the mass as a whole is perfectly capable of intercepting any one of these vibrations. When the cell-minds do not receive them, it is because they have become too interested in the central ego of the form. This means that they have concentrated their actions about the ego to such an extent that they are not aware of the existing outer force.

262 これまで述べましたようにあらゆる形態の振動が常に私達の肉体の正面入口部分の細胞を叩いています。一つ一つの細胞は意識を持つ存在でありますので、全体の質量としての塊は、これら振動の如何なるものも捉える能力があります。細胞の心がそれらを受信出来ない場合は、それらが形あるものの中心のエゴに対し、あまりにも強い関心を持っている為です。このことはそれがエゴに自分達の行動をそれ程に集中化させて来た為に、それらが外部の力の存在に気付かなくなっていることを意味します。

【解説】

これまで私達はエゴにあまりに忠誠を尽くして来たということです。全てはエゴの世話をする為であり、そのエゴは常に不安げな殿様であった訳です。しかし、本講座で再三出ているように、私達は私達の肉体の中心にばかり目を奪われていないで、もっと大宇宙からもたらされる印象に気付く必要があることを先ずは自覚する必要があります。

宇宙からもたらされる印象の中には、もちろん低次元のものもあるでしょうが、私達の進歩に役立つものも多い筈です。この宇宙からの情報は物理学上は地球に降り注ぐ宇宙線と同じものを示していると思われれます。実態についてはよく知りませんが、ラジオの雑音のように無数の粒子が地球に降り注いでいることは、皆様のご存知の通りです。

よく年を取ると感覚が鈍くなると指摘される所ですが、私達は進化した宇宙人達から見ると何と無感覚で無感動な人達だろうと嘆かれる存在なのかも知れません。エゴへの集中を仏教では「執着」等の表現で表わしたとすれば、このエゴへの集中問題は、古来から繰り返し説かれているテーマであることが分かります。

263 Let us use an illustration such as this: We will take an ordinary pie tin, sprinkle a very light layer of fine steel dust over the bottom, then place it at one end of the room. Standing at the opposite end of the room, we will play a note on a violin. Since it is a recognized fact that a musical note creates a certain vibratory wave in the atmosphere relative to itself, if the note is held steadily we will find that the steel particles have moved about to form a picture of the note played. Because these particles are in a state of non-resistance, therefore easily moved, waves will appear in the layer of steel dust. This non-resistant state is comparable to the atoms when they are free in space, vibrating in harmony as they express Cosmic Cause. In this state they recognize their oneness with, and dependency upon, Cosmic Force.

263 このような事例を用いましょう。一般的なパイ焼き用ブリキ鍋を用意し、底に細かい鉄粉を極く薄く散らばせ、それを部屋の隅に置きます。部屋の反対側に立ってバイオリンで曲を弾くことにしましょう。音楽の音曲はそれ自体に相関して大気中にある振動波を造り上げることはよく知られている事実ですので、もしその音曲が一定に保たれば、私達はその鉄粉が演奏された音曲の絵を形づくろうと動き回る様子を見ることでしょう。これらの粒子は非抵抗の状態にある為に、容易に動いて鉄粉の層の中に波紋が現れることでしょう。この非抵抗の状態は宇宙空間の中で自由に存在する原子達になぞらえることが出来、それらは宇宙の因を表現しながら調和した振動を起こしています。この状態の中で原子達は宇宙の力と一体化していることと、それに依存していることを悟っているのです。

【解説】

一つには宇宙を貫いている生命力のパワーに気付くことが大切です。都会では季節を味わうことも少なくなりましたが、少し足を伸ばして田園地帯や山に出掛ければ、そこでの生活は人間から小動物まで全く自然に依存している姿が見えて来ます。長い冬が終わり、春が巡って来れば、田んぼの代掻きや田植えにいそしむ等、農業は季節と調和して行われていることを見ることが出来ます。

一方、水が張られた田んぼでは、夜はカエルの大合唱がこだまし、明るくなるとサギが獲物を狙って白い姿を見せます。植えられたばかりの稲の葉も伴侶を求めて鳴くカエルもヒナの餌運びに余念のないサギも、これら全ては同じ生命の息吹きを感じ取っているように思います。これらのことが全国同時に行われており、生命の大合唱となっていることに驚くばかりです。

これら地表の隅々にまで統一的に起っている営みは、宇宙から降り注ぐある種の指令を自然界の各構成要素各々が受け止め、本項で示される鉄粉粒子のように、その波動に従い、身を任せていることを意味しているようです。季節の変化と簡単に片付けずにもっと生き物の各部を注意深く観て、彼らがどのようにして季節の変化を感じ、適切なタイミングに沿った生活が出来ているかを感じ取りたいと思っています。

264 Now let us take the steel dust, sprinkle it lightly over the tin once more, and place a magnet in the center of the vessel. What happens? The particles immediately respond to the magnet, and gather around it in a concentrated form. It makes no difference what note we play on the violin now, nor how long we hold it. The particles will not be moved by the lesser vibration, because they are so intensely interested in another and stranger force . . . the force of magnetism.

264 今度はその鉄粉を取り出し、再びブリキ鍋の上に薄く散らばせ、その容器の中央に磁石を一つ置きます。どうなるでしょう。粒子は直ちに磁石に呼応し、それに向かって集まるように取り囲みます。今度も何ら変わることなく私達がバイオリンでどのような音曲を弾こうとも、あるいは如何に長く音を鳴らそうとも何の変化も生じません。粒子は別のもの、磁石と言う見知らぬ力に対し強烈に関心を持っている為、弱い振動では動かされなくなっているのです。

【解説】

私達は身体の一つ一つの細胞を含め全てがエゴ（自我）へ絶えず関心を持ち、他のものには目もくれない生涯を送っていること、また、エゴは全てを自分の方に引き寄せている訳です。その結果、例え外から有益な振動が流れて来ても肉体細胞は気付くことなく、エゴに束縛された人生を送っていることになります。

こうした傾向は各自の所有欲にも現れており、磁石はありとあらゆるものを手に入れようとしますし、その結果として磁石は身の回りにガラクタを集め、その中に埋もれたまま生活しているということでしょう。

エゴを小さくすることで、身体の細胞を解放し、自由にすることが出来、地上では表現できない優れた波動をも各細胞が表現できることになります。よく、オープンな姿勢が好ましいと言われますが、何ものにも捕われず、隠し事のない素直な性格はひいては、この外部からの印象にも鋭敏になれる要素を持っているように思います。

265 This is exactly what happens within our bodies. Since we are one with the Cosmos, our rightful condition is a free state so that we might be receptive to all vibrations. But, due to the exaltation of the personal ego within us, we are usually adhering to the false magnetism with which we have endowed it.

265 これが正しく私達の身体の中で起っていることです。私達は宇宙と一つである以上は、私達にとってふさわしい状態は私達が全ての振動を感知できるような自由な状況です。しかし、私達内部の個人的なエゴの増長によって私達は自ら与えた偽りの磁力にいつも付き従っているのです。

【解説】

私達は自ら、エゴへの忠誠を許して来たことが問題の本質であると言っているのです。そのエゴへの引力は実は真実のものでなく、偽りの力とも言っています。つまりは私達が日々勝手に造り上げた引力であり、習慣です。その解消は私達自身で行うことができますし、そうする他に手立ては無いのです。

前項（264）にあるように、散らばった鉄粉の中央に置いた磁石のようにエゴへの集中が作用している状況であるなら、鉄粉を磁力の呪縛から解放するには、中央の磁石の引力を弱めて行く他はありません。エゴを小さくすること、即ち自己統制は古くから言われている修業の一つでもあります。ごく最近、生前にアダムスキー氏と極秘会見したことで知られる法王ヨハネ二十三世の日記（「ヨハネ二十三世 魂の日記」ドンボスコ社、2000年発行）を入手しましたが、その中で法王がまだ若い頃に記述した部分に、自己愛を無くすることに懸命に努力していたことが書かれていました。エゴに対して自ら厳しく接することでその増長を抑えることが、人間の生長にとって如何に大切であるか、分野を問わず優れた人物に成長する為、時代を越えて取組まれていたことがこのことから分かります。

266 It is quite possible, nevertheless, to bring about a free state of cell activity. We speak of this state as relaxation. And the secret of being a good recipient of telepathic communication is the ability to keep the body in a state of active relaxation at all times.

266 それでも細胞活動の自由な状況を取り戻すことは全く可能です。私達はこの状態をリラクゼーション（訳注：本来は「緩和」或いは「弛緩」と訳すべきですが、原文の意味合いを込めてカナ表記にしました）と呼んでいます。そしてテレパシクな意思交流の良い受け手となる秘訣はいつの場合も活動的なリラックス状態に身体を保つ能力にあります。

【解説】

細胞を束縛から解放する方法がリラクゼーションであるとしています。古来より厳しい修業で自我（エゴ）を縮小しようと努力して来ましたが、それでも容易には自我から離れることは出来ませんでした。しかし、本項ではリラックスすることで肉体細胞の集中化が解き放たれるとしています。活動的なリラックス（active relaxation）については次章で詳しく述べられる筈ですが、心が自身にこだわりを無くし、無我の状態になり、同時に肉体細胞が伸び伸び各々の任務を実行する時、そのリラックスは生まれるものと思われます。

反対に緊張し、将来に不安を持つことは偽りの恐怖に集中し、各細胞は固まってしまうため、良い事は起る筈もありません。一方、自然界を見ると、野のユリ、野の鳥を見ても分かるように、皆、各々の生活を謳歌しており、不安げな様子は少しもありません。彼らは実に生き生きと毎日を楽しんでいます。その姿は本項で言う活動的なリラックスと言えるのではないのでしょうか。

CHAPTER II Relaxation, Interest and Receptivity

267 We have been taught that intense concentration is the only means by which anything can be accomplished in this world. We are told that the happy-go-lucky individual never becomes an outstanding figure in any line of endeavor; so we should at all times keep our shoulder to the wheel, our eyes on the ball, and our nose to the grindstone (a most uncomfortable position). But here again, we will find that we have been unwisely informed.

第2章 リラクゼーション、関心及び感受性

267 私達はこれまで強烈な集中が、この世の中で何かが成し遂げられる為の唯一の方法であると教えられて来ました。私達は楽天的人間は決して如何なる努力の分野でも秀でた人物になることはないと教えられて来ました。ですから私達は常に車輪に肩を付け、ボールに目を置き、砥石に鼻先をつけ（最も不快な姿勢を）続けるべきとされて来ました。しかし、ここで再び私達は愚かなる情報を与えられ続けていることが分かるでしょう。

【解説】

言わば願望を通す為、精神を集中することで強い想念を出し、我武者らになって努力することで物事を達成できるとしたいいわゆる頑張りが不可欠だと、私達は長い間、教えられて来ました。しかし、本項はそれらの頑張りには誤解があることを諭しています。即ち、これら精神集中では肉体細胞が疲弊するだけで、感受性は低くなるということが前項までに学習で分かります。

一方、本項では楽観的な精神状態が良い結果をもたらす事実を示唆しています。その詳しい理由は本項以降で述べられる筈ですが、一つだけ言えることは、肉体細胞を本来の自由な状況に保てなければ、早晩、病気に陥る危険性も出ることが挙げられます。

古来より、「他力本願」「野のヨリ」「陽気暮らし」等、自らの力ではなく宇宙につながる壮大な法則に委ねること、自然と一体になることで、自分自身も含めて物事を本来の姿に戻すことの重要性が繰り返し述べられて来ました。多くの宗教の教祖はこうした宇宙を貫く力の存在を確信しています。その関心の下に各自の自我を抑制し、自由で宇宙的な生活を送ることが大事であるという訳です。努力はもっぱら自我（エゴ）の縮小と自ら発する想念の監視に使い、他の全ては宇宙の法則に任せることが秘訣のように思われます。

268 Let us look into past history, back to the great minds still influencing our thinking today. Here, we find the Master Teachers: Buddha, Jesus, Aristotle, Socrates, Plato, to name but a few, all sharing one common faculty. All were possessors of serene, balanced minds; which enabled them to pierce the veil of materiality and trace manifestation to its true Cosmic Source. Long after the big business tycoon has returned his body to the dust and been forgotten, their guiding words will continue to influence the destiny of the world throughout time.

268 今日の私達の思考に今なお影響を与えている偉大な心について過去の歴史を覗いて見ましょう。ここに偉大な師でありる仏陀、イエス、アリストテレス、ソクラテス、プラトン等、わずか数人を挙げましょう。これら全員は一つの共通した才能を共有しています。全員が穏やかでバランスがとれた心の持ち主であり、そのことが物質性のベールを貫くことを可能とし、真実の宇宙的源泉に繋がる創造作用をたどることを可能にしたのです。この大御所がその肉体を塵に返し、忘れ去られた後も長い間、彼らの導きの言葉は時間を越えて世界の運命に影響を与え続けることでしょう。

【解説】

世の中には芸術作品を含め、後世に伝えるべき様々なものがありますが、その中で最も後世に残る可能性があるものは、文字、文章であるように思います。絵画や彫刻も作歌の意思を現象世界に表わしたものです。歳月の経過とともに失われてしまうのが、世の常です。その点、偉人達が語った言葉は綿々と伝えられることがあります。本項で紹介されているかつて地上に生きた大師達もその足跡は今日残されている著作物を読むことで知ることが出来ます。

信頼できる身近に居た人達の伝える大師達の日常の生き方も後世の人達には当時を知る良い助けになります。私もかつてアダムスキー氏に身近に接していた協力者の何人かにインタビューをして来ましたが、今となればその人達も亡くなっており、そのインタビューの記録テープだけが手元に残るのみです。なお、これについてはいつか何らかの形で公表できればと思っています。

アダムスキー氏自身についても生前、数多くの著作活動を行っていたことが今日になって、大変重要であったことに気付きます。哲学3部作をはじめ、ほとんどが出版され、人々の前に提供されています。その足跡から何を学ぶかは各自に委ねられている訳ですが、本講座もこれから先、アダムスキー哲学を伝える一翼になればと思っています。

269 It is true that all form is brought into being through a drawing together of free elements; that concentration is the father of manifestation. So if we are interested only in discovering how much space we can press into the smallest conceivable mass, concentration is a marvelous thing. But I sincerely hope that the goal for which we are striving is much higher.

269 全ての形あるものは自由な元素を互いに引き寄せることを通じてもたらされたこと、集積は創造の父であることは真実です。ですから私達が如何に考えうる極小な塊に空間を圧縮させることが出来るかを知ることだけに興味を抱くなら、その集積は驚くべきものになります。しかし、私としては私達が努力しているゴールはもっと高いものであって欲しいと心から思っています。

【解説】

何気なく目の前の自分の手を見ても、この形あるものの由来はとなれば、その元素は宇宙空間のガス成分であったかも知れません。今日各々お原子が一つの形を作り上げる為、集積し、有機体を構成していることが分かります。即ち、本文で述べられているように、様々な元素がある目的の下、集約することで創造作用が実現することになります。

また、人間自身も自分の意のままに動く集約物を作りたいと願って来ました。集約集積の度合いが技術レベル、文明の段階を示すものとされている筈です。

その典型例が集積回路、ICチップです。髪の毛の太さの中に何本もの電気回路を組み込み、小型化高速化が計られた結果、今日では、携帯電話やパソコン等、かつて考えられなかった機能を現代の私達は日常、持ち歩くことが出来るようになりました。

しかし、本項ではこうした集約化、集中化の志向には問題もあると指摘しているのです。つまりは人間の思うようにコンパクトに凝縮させる思考傾向では、元来、宇宙空間に満ちている創造的な気運、自由な思考とは離れているからでしょう。私達が自然を自分の思い通りにしようとしていることに警鐘を鳴らしているように思えます。先日、たまたまICタグの応用事例について伺う機会がありましたが、何と米国では飼い犬にはICタグの埋め込みが義務付けられているとのこと。わずか直径1mm、長さ10mmほどの微小カプセルを犬に埋め込んで、外からリーダーをかざすと、そのタグの番号が読み取れます。まさに個体を管理する時代になっているようです。アダムスキー氏が本書を執筆した当時、世間では想定もされていなかった事柄が、起りつつあります。そもそも何の為の技術であるかが問われる時代になって来ている訳です。

270 Our aim in this study is to discover how far out we can work from any given point. We are not trying to draw the universe into the level of the human consciousness, but to turn the human consciousness away from the personal self, that it may become universal. So the development of the true sense-man, and the reception of telepathic communication, does not depend upon concentration . . . but upon interest.

270 この学習における私達のねらいは、どんな与えられた地点からも如何に遠くに私達が作用することが出来るかを発見することにあります。私達は宇宙を人間の意識のレベルにまで引き寄せようとするのではなく、人間の意識レベルを各自の個我から離して宇宙的にしようとしているのです。ですから、真の感覚人の発達やテレパシー的意思疎通は集積にではなく、関心に依存するのです。

【解説】

私達はややもすると自分の手の中に全てを凝縮させ、それらを保持することで、自我（エゴ）の支配力を及ぼすことを志向して来たように思われます。もちろん、その中には箱庭や盆栽のように、その凝縮された中で広大な宇宙の片鱗を見ることもあったかも知れません。

しかし、私達は私達を取り囲む圧倒的に広大な宇宙に向けて自らの意識感覚を拡げて行くことが求められています。本項では"how far out we can work"と述べられている所です。この"work"については一言でうまく訳出出来ませんでした。要は「自分の認識領域、影響を及ぼす範囲とする」という意味であろうと考えています。

私達が自分の意識感覚をこのように宇宙空間へ拡大することで、今後、様々な印象も感知出来るようになる筈です。そのきっかけ、原動力になるのが、本文最後に書かれている"interest（関心）"です。つまりは宇宙的なものに関心を持つことが、この意識拡大の原動力となっており、若さを保つ秘訣でもある訳です。さり気なく書かれている言葉ですが、私達の視野を広げる上で、「関心」は進歩の原動力となることが大きなポイントなのです。

271 A very great difference exists between the two. Concentration is a fixed, or set condition, which allows only one idea to manifest at any given time. Interest is a state of curiosity which opens real consciousness to all ideas around it, and in this way actually creates an impersonal participation with them in a free state.

271 両者の間には非常に大きな違いがあります。集積とは固定化した固まった状況であり、如何なる時でも一つのアイデアしか現出を許さないものです。一方、関心は現実の意識をその周囲の全てのアイデアに開放する好奇心の状態であり、このようにして自由な状態の下、それらと非個人的なる参画を実際に造り出すのです。

【解説】

物事に集中すると言うことは、他に耳を貸さず、ひたすらその対象のみに心を寄せることであり、その他の要素は一切受け付けない頑迷さを意味しています。これまで私達は物事の実行に当っては雑念を払う意味から「精神を集中させ」るよう言われて来ましたし、望んだ物事を実現させる為、強い想念を発する為に、精神を集中させることをして来たところです。しかし、本項ではその集中（集積）にはテレパシー能力の開発上、大きな問題があることを指摘しています。

一方、望ましい心の持ち方として広い関心の姿勢が重要だとしています。私達の意識の範囲を広げ、より多くの想念波動、印象を感受するには、自由にこれら波動を受け入れる態勢を用意しておく必要がある訳です。先日、テレビで盲目のピアニスト、辻井伸行氏の紹介番組がありましたが、氏は実に楽しそうにピアノを弾き、音楽を楽しんでいる姿が印象的でした。物事を大成する人は、例外なくリラックスして自由な表現が出来ており、それら原動力は開放的な意識の発現にあるように思います。

272 During experiments conducted in the field of intentional telepathy by researchers, it has been found that the rate of accuracy in reception in any group is higher for the first series of tests than it is later. They have attributed this to mental fatigue, but it might more logically be explained as concentration fatigue; for it is produced by the enforced focusing of the attention upon one point, or idea. Because it demands an increased expenditure of the potential body force, any form of concentration will produce fatigue. The energy of the cells is being dissipated at a very high rate, and due to their tenseness caused by this mental strain, they are not able to replenish their energy as fast as they are giving it out. This creates an unbalanced condition in the body.

272 研究者達による意図的テレパシーの分野で行われた実験の間、如何なる集団においても正確さの割合は最初のテストが後のものよりも高いことが発見されています。彼らはこれを精神的疲労のせいとしていましたが、集中化による疲労と説明する方がもっと論理的と言えるかも知れません。何故なら、ある一点あるいは概念に注意を強制的に集中させることで疲労が作られるからです。その集中が潜在する肉体の力の消費量を増加させることになる為、どのような形であれ、集中は疲労を作り出します。細胞のエネルギーが非常に高速度で消失し、心の引き締めによって作り出された緊張の故に、細胞は自分達のエネルギーを補給することが出来ないまま、エネルギーを放出してしまいます。これは肉体にアンバランスな状態を作り上げます。

【解説】

これまでの経験からも極度の緊張を強いられた後は、どっと疲れが出るものです。また大抵は最初のトライアルの方が、その後、一生懸命目標目がけて努力したケースより、良い成績を納めることが多いようです。

ここではその原因を精神集中による肉体細胞の疲労であると解説しています。つまりは、目標一点に心を集中させることが通常言われているような良いものではないと言っているのです。

実は野生動物のしぐさを観察すると、例え獲物を狙う時でも周囲の状況を見回したり、自分は関心が無いという風にリラックスした態度を示しているように思います。

私達は自身の肉体細胞の状況に十分配慮して、細胞が本来の機能を発揮できる精神状態を維持することが自分の役目であり、責任です。その点だけ十分行えば、あとは細胞自身が伸び伸び本来の活動を行う筈です。どんな時でも自己の関心を一点に集中させず、広い視野の下、リラックス出来ることが物事の上手の決め手となることでしょう。昔、何かの本に書かれていましたが、武士の時代、ある剣豪が言った言葉の中に、相手と刀で対峙した時、その切先を自分の刀で触れて見て、相手がもし柔軟な動きを見せたら、余程相手は強いので、直ぐに逃げた方が良いという趣旨であったと記憶しています。どんな時でも柔軟性を保つことは達人の条件でもあるようです。

273 We are living examples of this law in action. Our modern mechanical age with its labor-saving devices, which should give us more time to become acquainted with ourselves and the universe in which we live, has enslaved the average person by the fast pace they now expect. We work, eat, sleep and play in a state of high concentration; then wonder why we suffer from constipation, colds, high blood pressure, and drop dead with heart failure in the prime of life. All the medicine in the world cannot make the little cells of our bodies operate efficiently while our minds are under tension.

273 私達はこの法則の生ける実例です。私達の現代の機械化の時代には労働を軽減する装置があり、それらは私達に自分自身と私達が住んでいる宇宙をよく知るためにより多くの時間をもたらす筈なのですが、平均的な人間を自分達が思い込んでいるテンポの速いペースの虜にしています。私達は高い集中度の下、働き、食べ、眠りそして遊びます。そして何故、私達が便秘や風邪、高血圧に苦しみ、生涯の全盛期に心臓麻痺で倒れるのかを不思議に思うものです。この世の全ての薬は私達の心が緊張下に置かれている間は私達の肉体の微小な細胞を効果的に動かすことは出来ないのです。

【解説】

文明が進むにつれて、本来、人間は肉体労働から解放され、自由な時間を享受できるようになる筈です。しかし、現代の私達は便利になればなる程、益々あくせく時間に追われる生活を送っているように思われます。確かに昔の生活に比べれば、生活自体のレベルは上がっていますが、心の余裕という面では、以前より貧しい生活を送っています。

これに対し、誤解を恐れずに言うのであれば、実は私達は自ら進んで自分自身を忙しくしている傾向もあるのです。自分の自由になる時間があるよりも、仕事で日程が詰まっている方を好むとする傾向です。この背景には私達自身、何らかの組織に属し、その庇護の下、他の構成員と同様な働きをすることで保身を図りたいとする要素があるように思います。

今から40年も前のこと。GAPの久保田代表が益田におられた頃、当時東京のGAPの有志だけで月例会が東京で開催されておりました。当時、大学生であった私もどういう経緯から忘れましたが、この会に参加するようになりました。会場は長年、映画関係の事業をされて来たN氏が成城の自宅を提供され、多い時には月2回の例会が催され、毎回5～10名程度の人々が集まっていたように記憶しています。その会の中で、既に高齢であったN氏から、晴耕雨読的な生活についてお話があり、決して忙しく働くだけの人生ではダメだという趣旨のお話を伺ったことがあります。神道にも造詣が深いN氏は哲学を勉強し、また映画を撮る等、会社勤めとは無縁の人生であったように思いますが、何よりも古典をはじめ哲学の研究、アダムスキー氏の著作を学ぶことがはるかに重要だと述べておられたことを思い出します。社会の歯車にならず、自ら歩む道こそが本来の道という訳です。

274 Interest, unlike concentration, does not deplete the cells. Due to their state of curiosity regarding the new information, the cells are open to the incoming force. Being in a free state, instead of using their stored-up energy as they do with intense concentration, the cells are so normally balanced in action that they receive equally as they give out; so no fatigue is felt.

274 関心は集中とは異なり、細胞を枯渇させることはありません。その新しい情報に関する興味を持った状況の為、細胞は入って来る力に対し開放しています。激しい集中ではそれら貯えたエネルギーを使っていたのに対し、自由な状態においては細胞は正常にバランスされ、出すのと同量を受け入れることとなる為、疲労は感じられません。

【解説】

いわゆる「疲れを知らない」とはどういう状況なのか、本項では明確に示されています。疲れとは全身の細胞レベルにおけるエネルギー収支として捉える必要があるということです。これら細胞が緊張し、外部からのエネルギー供給が滞れば個々の細胞が消耗することは良く分かります。詳しいことは知りませんが、細胞はひとつひとつが細胞膜で被われており、独立性を確保している訳です。その細胞膜の微細な穴を通して栄養素が取り込まれ、また代謝物が排出されることで各細胞が生きています。そこに心の精神集中や恐怖心による緊張状態が課せられれば、おそらく各細胞は細胞膜を収縮することが考えられます。その結果、外部との行き来が遮断され、細胞が疲労するのではないのでしょうか。

一方、関心については、単に心の好奇心について良しとしているのではないと考えます。各細胞が自由に活動でき、外部から情報を得ようと自身の細胞膜を開放しようとする状況こそが望ましい訳です。その点、多くの芸術家は作品を造り出す時、心で考えるよりは、ひたすらインスピレーションを待つ心境になるのではないのでしょうか。その状態は実は60兆個の人体細胞が全てアンテナになって、宇宙からの信号を待っているとすれば、多くの芸術家が若々しさを保っている理由が理解できます。

275 But even with interest we must analyze our mental reactions; for there is personal interest, and universal interest. One may find that he is able to receive many impressions or premonitions regarding his own affairs; yet be a closed channel for national, world, or universal impressions. If this person will watch his thought action closely, he will discover that hundreds of thoughts pass through his brain during each day which do not register strongly; because they do not seem to pertain to himself, his personal experiences, or have appeal to his individualized knowledge of outside affairs.

275 しかし、関心についても私達の精神面の反応を分析しなければなりません。何故なら、個人的な関心もあり、宇宙的な関心もあるからです。人は自分が自分自身の事柄に関しては多くの印象や予感を感じることが出来ていることには気付くかも知れません。しかし、国家や世界、あるいは宇宙的な印象類については閉ざされた経路になっています。もし、この人物が綿密に自らの想念波動を観察するならば、毎日何百もの想念が強い印象を残さないまま自身の頭脳を通過していることを発見するでしょう。何故ならそれら想念は自身や自分の個人的な体験に属するようなものでなく、自身の外部の出来事についての個人的な知見に訴えるものではないというのがその理由です。

【解説】

本項から感受性を高めようとする努力は、何か未だ来ない印象をじっと待つようなものではないことが分かります。即ち、既に私達は日常的にある程度の印象を受けており、これらは通常、私達自身の関心分野の範囲外であるため、特に目立った注目をしないまま、通り過ぎるのに任せているという訳です。

そうであれば、私達の姿勢として、私達自身の細胞に対して、感受した印象を要不要の判断をせず、素直に受け入れるよう指導することが重要だということになります。日常にかすかな印象に対しても大切に心構えです。私のわずかな経験からも、印象には誤りはありません。必ず、ご自身にとって有益な助言となるのが、この印象です。

276 If he gives these thoughts any recognition, he generally releases them immediately as mere figments of his imagination. But, after all, what is imagination? Is it not the faculty to objectify, or imagine, that which is invisible to the senses? As one Eastern philosopher aptly phrased it, "Imagination is the bridge between the known and the unknown."

276 もしその者がこれらの想念に何らかの認知を与えたとしても、その者はそれらを単なる自分の想像の産物だとして通常は手放してしまいます。しかし、結局のところ想像とは何でしょうか。それは既存の諸感覚には見えないものを具体化し、考えてみる能力ではないでしょうか。あるアジアの哲学者はこれをつましく表現しました。「想像とは既知と未知との間の橋である。」

【解説】

このimagination（想像）は、ある時には自らの心（エゴ）が、その創造力をたくましくして、自分の望むような世界を造り出すべく、勝手にイメージを作り出す場合と、本項のように宇宙その他の外部からの印象を感受した際に感じる場合とがあり、取扱いは難しいところです。

しかし、一方でエゴの統制が出来ていれば感受する印象は外部から来ているものということが出来る訳で、私達は日々の印象に誠実に対応することが重要となります。従来からの延長上の内容でなく、例え奇異に思ったとしても注意深くその意味する所を理解しようとする事です。先日も実家の庭の手入れをし終わった時、「（古い家なので）もし地震があったらどうするか」という考えが湧き起り、その時は「やはり外に出て逃げた方が良いだろうか」などと思っておりました。すると5分もしない内に、電柱が揺れ出し、外に居た私達は地震であることに気付きました。恐らくは地震発生間近の大地からの何らかの異常を知らせるメッセージが放出されていたのかと改めて思った次第です。

本項では想像をより積極的に捉えています。つまり、私達は現実に未だ存在しないものを、心の中でイメージとして先行して作り上げることが出来ます。やって来る未だ現象化していない印象の塊を受け止めて、その意味する所を学び取って具体的な形にして行く作業です。これは芸術家の制作活動に類似しています。作家の心の中で構築されたイメージを具体化したのが作品であり、重要なのはその作家に授けられた初期の印象、インスピレーションです。その感受した状況を再現出来れば、作家は再び同様の作品をものにすることが出来るからです。

277 The wise man will learn to pay attention to all thoughts passing through his brain. He will heed not only those pertaining to self, but also those thoughts taking place outside his personal field of comprehension. For only in this way will he grow in knowledge and receptivity. It is indifference and lack of interest which causes man to lose the greatest jewels of wisdom . . . lose them through apathy when he actually holds them within his grasp.

277 賢明な者は自分の頭脳を通過する全ての想念に注意を払うことを学ぶでしょう。彼は自身に属するもののみでなく、自分自身の理解の分野以外で起る想念についても心に留めることでしょう。この方法を通じてのみ、知識や感受性において成長するからです。人に智恵の最大の宝石を失わせるのは無頓着と関心の薄さであり、実際、手に握っているにも拘わらず無感動のまま無くしてしまうのです。

【解説】

もちろん人間が成長する上で、このような外部から来る印象から学ぶことが全てではありません。私達のこれまでの生涯を振り返っても、学校における系統的な知識の学習や家庭その他、身の周りの人々や書物、放送番組等、様々な経路を通じて学習し、今日に至っています。

これらの各科目に向き合う態度が重要なことは言うまでもありません。とりわけ、理解するという事の中には、自らの意識をその場面に移入させる中で、半ば自分の体験として理解し、記憶する過程があるような気がします。そういう意味ではこれらも実際には印象を取扱っているのと大差はないのかも知れません。

とかく学生の時代は表面的な内容を記憶することに重点が置かれがちですが、大人になってからは（特段の試験がある訳ではないので）、様々な事物について自分の意識的な触覚を動員して、その本質を感じ取ることを行うべきでしょう。

例え偶然、飛び込んで来た印象を手掛かりに、新しい世界が広がる様子は、今日ではインターネットの検索作業を通じて出会ったサイトから自分が長年求めていた人物やテーマに巡り会うことと似ています。わずかな印象を大切に取扱うことが予想もしない宝物に出会う可能性を秘めているということでしょう。

278 Often, however, the loss of important telepathic communications - whether from animate or so-called inanimate sources - is not due to lack of interest, but due to a too intense interest; or a personal greed for knowledge. A thought, as we have explained, does not travel in a lump like a cannon ball, but in a series of waves. One complete thought may produce itself in fifty thousand individual undulations. Yet, nine times out of ten the instant a forerunner of a thought-message strikes the human brain the ego, if interested, will grab it and immediately tense the brain and body cells by concentrating upon the incoming thought. That sudden tensing of the cell activity is merely slamming the door in the face of the incoming thought. The five or six hundred impulses which found their way into our conscious brain cells before the door was closed, produced only a fleeting impression in our awareness; which, because we have received only a portion of the message, often results in a sense of confusion.

278 しかし、重要なテレパシクな意思疎通の喪失は生物からであれ、いわゆる無生物からであれ、関心の欠如に起因するのではなく、しばしば過剰な関心や知識に対する個人的な貪欲さにも起因しています。想念は私達が説明して来たように、大砲の弾丸のように塊で移動するものではありません。一つの完全な想念は5万個の個別なうねりによって自身を作り上げているかも知れません。しかし、10の内、9回は想念メッセージがエゴである頭脳を叩く瞬間、エゴが関心を示せばエゴはそれをつかみ取り、そのやって来る想念に集中することで、頭脳と肉体の細胞を即座に緊張させます。細胞活動をそのように急に緊張させることは、入って来つつある想念の目の前でドアをボタンと閉めていることに過ぎません。その扉が閉まる前に私達の頭脳細胞の中に入った500から600の衝動は私達の知覚の中に先頭の印象しか作り出すことが出来ませんし、私達はそのメッセージのわずかな部分しか受け取らなかったため、しばしば混乱の感じしか結果として残らないのです。

【解説】

印象（インスピレーション）を受け入れる際の姿勢について、これほど明解に解説している例を他に知りません。一つの想念が5万個の微小想念波から成り立っているとすることは重要です。私達は想念をこれまで、「瞬時に」と表現して来ましたが、実際には伝わるのにある程度の時間を要する波動状のものであることが分かります。

これに対して私達は時としてあまりにもせっかちであり、未だアイデアの全貌を受信していない間に騒ぎ立てて肉体細胞を興奮させてしまうという訳です。つまりは如何なる場合においても心身を穏やかにリラックスさせておくことが必要だということです。とりわけ、そのメッセージの送り主を信頼して、全体を受け入れることから始まります。この相手を受け入れること、話しを全て聞き入れようとする姿勢にはカウンセリングの対応が似ているかも知れません。やって来るアイデアの全貌が分った時点で、自分に適しているか、正しい内容であるかを判断すれば良いことです。

279 Thought-transference is much like a radio broadcast. In radio, a message or vibration is spoken into the microphone; passes through an amplifier and transformer; travels through space as an electric wave; is picked up by a receptive instrument; carried through the wires to the detector tube and transformer, where it again changes into the original sound waves. But if the power fails, or a tube goes dead in the middle of the message, the sound waves coming from the set will stop, and the speaker's voice may be interrupted in the middle of a word. When we tense our minds to an incoming thought, it produces the same effect on the brain that the power failure, or dead tube does in the radio set.

279 想念伝達は、ラジオ放送により近いものです。ラジオの場合、メッセージあるいは振動がマイクロホンの中に話され、アンプや変圧器を通り、電気的な波として空間を移動し、ある受信装置に拾い上げられると、電線の中を通過して検波管や変圧器に運ばれ、そこで再び元の音声波に変換されます。しかし、メッセージの途中でも、電力が無くなれば、あるいは真空管が作動しなくなれば、ラジオから出る音声波は停止し、話し手の声は途中で中断させられることになるでしょう。私達が入って来る想念に対し、心を緊張させると、ラジオにおいて電力が落ちたり、真空管が切れるのと同じ影響を作り出すことになるのです。

【解説】

未だ想念伝達について、あるいは人間の脳が如何にイメージを作り上げるかについて、詳しいことは分かっていません。しかし、ここではテレパシー現象をラジオに類似したものであると解説しています。メッセージの発信者から発せられた想念波動が如何にして空間を伝わり、相手に届き、再び発信者の意図と再現するかについて述べられているのです。

これについては、私達は、そもそも想念が空間に拡がり、伝播することすら、理解出来ていません。まして、それら想念波動を感受した細胞が如何なる経路を経て、頭脳に伝わり、元のメッセージに復元されるか、よく分からないまま過ごしています。

しかし、日々の生活の中から、時折、テレパシク現象を体験している訳で、少なくとも感受の際の心構えとして、これら一連の流れをスムーズに出来るよう、慌てず騒がずの姿勢を貫くことが重要なように思います。結局はこれら緊張の姿勢の背景には、過度の知識欲や不確かなものへの恐れがある訳で、何よりも宇宙を流れる意識を信頼して受け止めることが大切だということでしょう。

280 It is not easy to hold one's self always in a state of receptivity, because it demands a perfectly balanced consciousness. It is not a simple task to keep the body in a state of relaxation and still maintain a positive interest in all action around, and within us. Yet, this state is necessary to a good recipient. We must learn to look upon our mental reactions as though we were an impersonal bystander, and our thoughts were nothing more than actions taking place upon a stage.

280 自我を感受性のある状態に保つことは容易ではありません。完全なる調和した意識が必要だからです。肉体をリラクゼーションの状態に保ち、しかも周囲や自らの内面のあらゆる活動に対して積極的な関心を維持することは容易な任務ではないのです。しかし、良い感受者にはこの状態は無くてはならないものです。私達はあたかも自分が個人的に関係がない傍観者であるかのように、私達の精神的な反応を観ること、また、私達の想念がステージで起っている演技でしかないかのように観ることを学ばなければなりません。

【解説】

想念観察については、様々な所でその有効性について説かれて来ましたが、その基礎となる自らの「立ち位置」について説明しているのが、本項です。つまりは、あらゆる場面において、あたかも自分（エゴ）がどのような想念を発し、対象物に接しているかを、もう一人の自分（意識）が観察するという構図です。

よくチベット仏教の僧院に目が描かれている話を聞きますが、自分（エゴ）の行動を絶えず観察する訓練が重要だということでしょう。私達のエゴを訓練するのは容易なことではなく、絶えず両親（意識）の庇護の下、見守っている必要があります。こうすることで本項のテーマである心のバランスを保ちながら、感受性を持たせることが出来るとしています。

また一方、日常生活における実用面としては、例えどのような困難な状況に逢おうとも、その状況に支配されることなく、冷静に余裕を持って状況判断をする為に、自らをその場の舞台俳優と見なし、演じる中で、自分を外から観察する余裕と客観性を持つと良いことをも示唆しています。

281 To some people, this may seem a very haphazard way of experiencing life. For has not the human ego, through hundreds of thousands of years, been trained to the idea of accomplishment by aggression and personal effort? Yet, there are the fortunate few who have discovered the universal way of life. Such persons include not only the seers and the philosophers (who, we pointed out earlier, understood that mastery of the body was essential), but those in all walks of life. Thomas Edison, one of the great scientists of our times, once remarked, "I have found that the answer to some of my most perplexing problems come to me after I have ceased trying to solve them." In other words, the thoughts started to flow freely when his interest was impersonal; when his intense concentration had been released.

281 人々によっては、これは人生を経験する上で行き当たりばったりのように思えるかも知れません。何故なら、人間のエゴは何十万年もの間、攻撃と個人的な努力による物事の達成という概念で訓練されて来たのではなかったでしょうか？それでも宇宙普遍的な生き方を発見できた幸運な人達もいます。これらの人達の中には先見者や哲学者（彼らは古くから肉体の支配が不可欠であることを指摘し理解していました）ばかりでなく、あらゆる人生の歩みの中におりました。今日の偉大な科学者であるトーマス・エジソンはかつて、こう述べました。「私のいくつか悩んでいた問題の回答は、私がそれを解決したいとする努力を止めた後にやって来ました。」言い換えれば、彼の関心が非個人的になった時、即ち彼の強烈なる集中が開放された時に想念が自由に流れはじめたということです。

【解説】

ここで言う「肉体の支配」とは自らの精神状態を含めて、自分をコントロールすることを意味し、とりわけ心の有り様を自ら制御することを意味していると考えます。つまりは、従来、自我（エゴ）の力任せの努力や健闘というものが目標達成には不可欠だとされて来ましたが、それでは自らの願望によって肉体細胞が緊張し、恵み多い宇宙からのインスピレーションに触れることは出来ません。如何にして英知から降り注がれている印象に接することが出来るよう、心身の状態を整えるかが重要となる訳です。

日本の神社では身を清め、心を鎮めて、いわば印象感受の前準備を整えた後、社殿に上がり、神託を受ける等、一連の作法を行うようですが、その根本思想は本項で言う想念が自由に流れる状態を自ら作った上で神に向き合うことを意味しているように思います。

また、自ら懸案に努力することは必要ではありますが、自分の努力だけで問題を解決することは出来ません。努力の中でもひたすら気分をゆるやかにしてこだわりのない生き方を貫くのが本来の生き方であろうと考えています。その場合、自分の努力と自らの精神状態のどちらを優先すべきかについては、本項を学んだ結果から、自分の精神状態こそが最優先の課題であることが分かります。

282 Relaxation is generally misunderstood. In consequence, there few people who have ever experienced true relaxation. Contrary to popular belief, it is not a state of inertia. It is a condition of intensified activity . . . because it is free activity.

282 リラクゼーションは概して誤解されています。結局のところ、これまで真のリラクゼーションを体験した人は少ないのです。よく信じられているのとは反対に、リラクゼーションは何もしない惰性の状態ではありません。それは、自由な活動であるが故に、激化した活動の状態なのです。

【解説】

通常、私達はリラックスすることを、何も考えず、何の行動もせず、のんびり過ごすこととして来ました。しかし、本文ではこうした自ら動きのない惰性的(inertia)状況は真のリラックスではないとしています。

海の波も、生き物の心臓の鼓動も呼吸の動きも、一瞬として休むことはなく、活動的です。このような活発な生命活動に同調し、本流に乗ることが、却って抵抗を無くし、疲れを無くすことになるということでしょう。

その状態をどうやって達成するかが問題となるところですが、その様子は同乗記にブラザーズが宇宙船の操作卓に就くや、一心不乱にデータを打ち込む情景として、良く表現されています。波動には同調や共鳴という現象がありますが、周波数が等しくなれば、わずかな力で大きな力を発揮することが知られています。それと同様に、宇宙源泉と同調できれば、自ら低レベルで強引な力を行使して疲労を溜めることなく、気分は爽快に力を発揮できるのではないかと思います。その状態を真のリラクゼーションと言っているのです。

283 As an illustration; let us imagine we place a large number of goldfish in a small bowl. This crowded condition will not enable them to move about freely, and any motion on their part will cause them to bump into other fish. Each contact-shock will result in the expenditure of a certain amount of energy. If they try to force their normal activity in such congested surroundings, they will soon become fatigued. If they are wise, they will instinctively lessen their action; in which case they are reduced to a condition of lethargy. But as soon as these fish are placed in a larger receptacle they will again expand their activity to its natural state.

283 例示として小さな鉢に沢山の金魚を入れた場合を想像しましょう。この混み合った状況は金魚達に自由に動き回れることを出来なくさせており、少しでも動くとも他の魚にぶつかってしまうこととなります。この接触の衝撃は幾分かのエネルギーを消費します。もし、金魚達がこのような詰め込み状態の中で通常の動きを無理にしようとするれば、すぐにも疲れてしまうでしょう。彼らが賢ければ本能的に活動を低下させるでしょうし、その中で彼らは不活発状態に弱められて行きます。しかし、これらの魚達がより大きな容器に入れられるや否や、彼らは再び自然な状態まで活動を広げることでしょう。

【解説】

このすし詰め状態における各金魚の置かれている状況については、私達も毎日の通勤電車の中で体験するところです。ひたすらじっと我慢して、目的地に着くのを待つという疲れる日常を多くの方が体験していることでしょう。本来は、もっと自由にゆったりとした朝夕の時間を過ごしたいものですが、この例示を学ぶには格好の材料でもあります。

以前にも述べられて来たように、物質は気体－液体－固体の順に密度が高まっている訳で、当然、私達の身体も、この金魚鉢のように多数の細胞が集積し、人体を構成している訳です。本文では一見すると高密度に集積することが問題かのように読みがちですが、上述のことを考えれば、問題はその集積問題にあるのではないように思われます。細胞が集積されなければ、形あるものの現出はなく、より大きな創造の現れは実現できないからです。

一方、魚の群集については、外敵に立ち向かう際、大群があたかも一つの生き物のように行動するイワシの群れの映像をテレビで見たことがあります。上下左右に一糸乱れぬ大群のうねりは、これら各細胞が協調できれば、より大きな活動を実現できることを示しているようです。本項に対する著者アダムスキー氏の言いたかったことは、次項（284）に述べられています。

284 The same holds true of the cell entities of the human body. Our minds are constantly "bumping" into the worries and anxieties around us in the crowded fish bowl of our own creation; and each contact-shock dissipates a certain amount of energy. So we can safely say that tension is the chief cause of non-activity of the cells, and non-receptivity of telepathic impressions. But due to a misunderstanding of the true meaning of relaxation, there exists another condition that is just as detrimental as tension.

284 これと同じことが人体の各細胞実体についても当てはまります。私達の心は私達自身の創造物である混み入った金魚鉢の中の私達に心配と不安を常に「ぶつけて」おり、一つ一つの接触の衝撃が何がしかのエネルギーを消耗させています。ですから私達は確かに緊張は細胞の非活発やテレパシー的印象の非感受性の主原因であるということが出来ます。しかし、真のリラクゼーションに対する誤解から、この緊張と同じくらい有害な状態も存在するのです。

【解説】

訳文としては"of our own creation"（私達自身の創造物）の付く先がややあいまいな形になっています。文型としては「混み入った金魚鉢」に付くような位置にあります。意味合いとしては「心配と不安」に付くと考える方が意味が通ります。

即ち、人体にある60兆もの細胞は現に塊になって存在するのですが、心が自ら作り上げた心配や不安の想念は、真っ先に自らの肉体細胞を通過する訳で、その際、当然ながら各細胞は心の指令に常に従順な為、それらマイナスの想念を浴びると、おそらくは身震いする程のショックを受け、緊張することが想定されます。度重なるこうした状況の中で各細胞は疲弊し、老化が発生することになります。

こうした事態を緩和する為にも、努めて不安やその他マイナスの想念を心から駆逐しなければならない訳です。

285 Not unlike the goldfish in the small bowl, the individual nearly always reverts from the extreme of tension to the extreme of lethargy . . . completely ignoring the half-way house of relaxation. Usually, if a person is told to relax, he simply lets down and loses interest in everything. By doing this he not only retards the cell action of the body, but he often goes even further and by main force of will tries to create a mental vacuum. This torpid state is what takes place in nature when certain animals hibernate through the cold weather, but with them it is in obedience to a natural law for the perpetuation of the species. You will notice that the customary foods of these animals is not available during the winter months; therefore, nature slows down the activity of their body cells, so they may husband their energy until Spring sets her bountiful table.

285 その小さな鉢の中の金魚とは異なり、個人はリラクゼーションという中間施設を完全に無視して極端な緊張から極端な無気力に逆戻りする程の方向転換を大抵は行います。普通、もしある者がリラックスするように言われると、その者はあらゆるものに対する関心を低下させ失わせてしまいます。こうすることで、彼は肉体の細胞活動を遅くするばかりか、しばしば更に進んで意志の主力を使って精神的な空白状態を作り出します。この不活発な状態は自然界ではある種の動物が寒い季節を通じて冬眠する時に起るものですが、動物達にとっては種の永続性の為に自然法則に従っているものなのです。皆さんは冬の間、これら動物のいつもの食べ物が入らないことにお気づきでしょう。それゆえ、自然はこれらの肉体細胞の活動を低下させ、彼らが春が食卓を用意するまで自分達のエネルギーを節約出来るのです。

【解説】

結局のところ、私達は自分の心に抱く想念が如何に様々な所に大きな影響を与えるのか理解出来ないことに行き着くように思います。通常、私達は心の中に抱いている間は、それを具体的な行動に起こさない限り、非を問われることはありませんし、思い描く段階は思想信条の自由として認められています。しかし実際には私達が心配事や不安定な精神状態の下、混乱したあるいは不快に思う想念を放出すれば、それが自らの肉体細胞或いは身近なものの細胞に作用し、それらを身構えさせることとなります。また、他方ではリラックスと称して、無関心な状況に自らを置くことで本項にあるような停滞状態を作り出します。同様なことは今日の精神科医においても精神面で不調を訴える患者に同様な作用をもたらす薬剤を処方されているように思います。

実は本項の中で本来のリラクゼーションとはその中間地点にあると明確に解説されています。古来から中庸の大切さについては種々述べられているところです。うさぎと亀の童話を出すまでもなく、人間は強烈なる精神集中の次には、無気力に陥る極端なパターンを繰り返しがちですが、重い荷物を担う者のように、急がず、怠けず継続した歩みが必要だということでしょう。

人間の短い時間軸では未だ結果が現われないことを理由に、志しをあきらめることは良くありません。自らの精神状態を結果に左右されず、望む方向に保つことで、結果（成果）は必ず芽を出してくるものと思います。

286 More than once I have heard the remark: "Oh, I was in such a beautiful state of relaxation. I was barely conscious of having a body, and my mind was simply a blank!" That is not relaxation. It is merely a state of lethargic indifference; and has almost no constructive value. When a person is truly relaxed his body feels tremendously "alive," and thoughts pass through his consciousness at such a high rate of speed it may seem to him afterwards that he has lived years in a few moments. Relaxation is the releasing of personal desire to the natural sequence of relativity, or continuity of thought; and the person has normal, unbiased interest in everything while in this state.

286 一度ならず私はこうした発言を耳にしたことがあります。「そう、私はとても素晴らしくリラックスしたことがあった。ほとんど自分が肉体を意識することなく、心もまっさらな状態だった。」しかし、これはリラクゼーションではありません。それは単なる無気力で無関心の状態でしかなく、建設的な価値はほとんどありません。人が真にリラックスしている時は、自分の肉体はとてつもなく「生き生き」感じ、想念は本人の意識の中を非常な高速度で通過する為、後でわずかの時間に何年間も過ごしたような感じをその者に与えます。リラクゼーションとは個人的な願望を自然の相関性の一連の流れ、即ち想念の連続性の中に放出することであり、その時、人はこの状態の中にあって、あらゆるものに先入観の無い関心を抱いているのです。

【解説】

本項からリラックスとは自由な想念の流れが行われている状態を指すことが分かります。人体の各細胞が緊張することなく自由な状況にあれば、内外からの想念を感受、発信することが出来ます。つまりは体内を自由に想念が通過することが出来るようになり、その結果、様々な体験や知識、ヒラメキを受けることが出来ます。その結果、例え短い時間であっても、数多くの体験をすることで従来 of 時間と比べて長期間暮らしていたような気分になるという訳です。

そのような状態になる為には、本文最後にある「個人的な願望を自然の相関性の一連の流れに放出する」ことがポイントとして記述されています。ここで「個人的な願望」とは必ずしも「利己的」という悪い意味だけを指すものではありません。そもそも自分がこうしたいと思うこと、自分あるいは身近なものに関する願いは全て含まれます。その願いをいつまでも心に留め置くことなく、自然界の流れの中に委ねなさいと言っているのです。

つまりは願いを持ったら、それを早々に自然の中に放ってやがてそれらが結果をもたらすのを待つ姿勢です。しかし、放出するだけではダメで、本文がその後続くように「あらゆるものに先入観の無い関心を抱くこと」が大切で、放出したら、後は全てお任せということではありません。その結果の再来も含め、あらゆるものに関心を保つことで来るべき印象、自らの願いの回答が寄せられる場合も見逃さないようにする必要があります。本項はこうした内容を読者に示唆しているものと思われま

287 I have said that in general, lack of receptivity is due to lack of interest on the part of the individual. We know that some persons are intensely interested in all that goes on around them, whereas others have limited interests. Why should this be? What causes the psychological difference?

287 私は一般論として、感受性の不足はその個人の側における関心の不足に起因すると言って来ました。私達はある人々は身の回りで起る全てに強烈に関心を持つ一方で、他の者達は限られた関心しか示さないことを知っています。これは何故でしょうか。その心理面の違いは何によるのでしょうか。

【解説】

私達はこれまでこのテレパシー講座を通じて、自分もその能力を高めたいと思って学んで来ました。もちろんそれは単に表面的な技能を高めるテクニックだけの学びではなかった筈です。そうした一連の学習の流れの中で、本項は改めてテレパシー能力の大きな側面と言える印象を感受する能力は各自の関心の程度にも大きく影響していることを明言しています。

従って、私達は自分の関心の範囲や深さについて再点検する必要があるようです。

十人十色と言うように、人の個性は様々であり、同じ時刻、同じ場所に居ても各自が示す興味は様々です。ある人は旅先で細かい部分にも感動しますが、他の人はそれらに気付くこともありません。人に促されたとしても大した関心も示さないことも多いものです。このような関心の程度や範囲の差異については、もちろん、その人が前世も含めて歩んで来た道程にも大きく影響を受けている筈です。その為にも各自、今一度、ここに少しの間留まって、自分自身の志向性の背景について考えて見る必要があるでしょう。

その結果、努めて自分の関心の幅を広げ、探究心を深めること、同朋である生き物の生きる姿を学ぶ姿勢が重要となります。テレパシー能力は得に奇異な修業を行うことはなく、ごく普通の哀れみ深い心情と万物に対する庇護の気持を育成することで育て上げることが出来ます。

288 To answer these questions, we must again refer to the universal law of action. The scientific definition of this law is, "Any object set in motion has a tendency to continue in motion in the same line, or direction, until acted upon by some external force."

288 これらの疑問に答える為、私達はもう一度、運動の普遍的法則を引用しなくてはなりません。この法則の科学的定義は「如何なる物体も動かすはじめると、何らかの外力が作用しない限り、それと同一の直線、同じ方向に運動を続けようとする傾向を持つ」としています。

【解説】

個性や性質というものは容易に変わるものではありません。変わった場合には、「人が変わったみたい」と称せられる程、驚かれるものです。実はその個性の形成は本項に描かれているような氷の上を滑るのに似た動きという訳です。まして毎日、その人が取り入れている似かよった想念パターンが動く方向を益々固定化したものとして行く様子は良く分かります。

こうして個性が形成されてしまう訳ですが、それでは誤った方向に向いている場合、問題は深刻化します。この言わば習慣的な想念パターンからいち早く抜け出して、もっと自由にあらゆる角度からの印象を求めることで様々な方面からの印象も来るようになり、更に関心が拡がるということでしょう。

仏教では阿弥陀仏は西方浄土にあって、現世のすべての衆生を救おうとしているとされていますが、その阿弥陀仏が衆生すべてが発する悲喜こもごもの想念にもじっと耳を傾ける優しさを人々は感じ入っている訳で、テレパシー学習の目指す方向もこうした関心を自然や社会のあらゆるものに向けることにあるように思います。

289 Psychologically, we express this law by the statement that "a habit is difficult to break." In other words, any thought that is allowed to impress itself upon the body, sets the cells of the body into a state of motion corresponding to the thought-vibration. The body then has a tendency to continue in that particular motion until acted upon by another force which is strong enough, or positive enough, to change that vibration. The highly organized, concentrated, personal ego, in its aggressive manner, is so prone to force-frequencies that it intensifies the natural tendency of matter to continue in any motion, once that motion is created. When we allow habit-motions to become set, it necessitates contact with a very positive vibration to change them.

289 心理学的には私達は「習慣は打破するのが難しい」と表現します。言い換えれば肉体に対して印象付けることを許された想念は皆、その想念波動に対応した運動状態に肉体細胞を整えます。肉体はそれ故、次にその振動を変化させるに十分な強さや大きさを持った別の力によって作用されるまで、その特定の運動を継続する傾向があります。その攻撃的な振る舞いにおいて高度に組織化され、集約化された各個人のエゴは、力のある振動から大きな影響を受け易いため、一度運動が創り出されると継続するよう物質の自然の傾向を強めてしまいます。私達は習慣的な運動をセットすることを認めた後は、それらを変える為には別の強力な振動と出会う必要があるのです。

【解説】

具体的に私達が想念に影響を受けるということはどういうことかについて、明解に示されているのが本項です。度々想念波の受信をラジオに例えられて来ましたが、各細胞が受け入れた想念に共鳴し、梵鐘の余韻のように以後継続的に振動し続けることで、その後の心身に大きな影響を及ぼす訳です。

一方、心の作用として、ここでは本来微小な力しか持たない想念が、実は心という受信器を介することによって、より大きなパワーに増幅される様子についても触れられています。つまり、私達の心はアンプ（増幅器）だということでしょう。その増幅器、本来の妙なる調べを増幅する分には良いのですが、そもそも同調する想念レベルが低次なものであれば、その悪影響も大きなものとなってしまいます。まして私達の肉体細胞は心の支配下にある訳で、それら増幅された想念振動を継続的に保持することになります。

もう一点、本項で大事なことは、既存の心の信奉想念を入れ替える為には、別のより強力な想念と接することだとしている点です。日々の生活の中でも、より優れたもの、学ぶべきものに鋭敏であり続けて、それらに巡り会うことで、新たな心情を得ることが出来るという訳です。こうした師と呼ぶべき存在に出会う上からも、心は常にオープンな姿勢を保つべきなのです。

290 Remember the illustrations we used of the pessimist and optimist? The pessimist has formed the thought-habit pattern of always looking at the gloomy side of life, and will resist the presentation of joyous ideas. Even though the sun might be shining brightly, if you were to comment on the beauty of the day he would remind you of the terrible storms we had last winter. His thought-habit pattern looks upon all manifestation with suspicion.

290 以前、私達が用いた悲観論者と楽観論者の例示を思い出して下さい。悲観論者は常に生命の暗い側面を見る想念習慣パターンを形成してしまい、楽しいアイデアの披露に抵抗しようとします。太陽が明るく輝いても、貴方が日光の美しさを評しようとしても、その者は貴方に前年の冬にあったひどい嵐のことを思い出させようとするでしょう。その者の想念習慣は全ての創造を疑問の念をもって観ているのです。

【解説】

これまで述べられて来たように想念は肉体細胞に大きな残留影響をもたらし、細胞はその振動を継続し続けることが分かりました。その結果、長年の思考習慣はその個人の性質（個性）を形づくり、最後は「石頭」と称せられる程の頑迷さを示すまでになる訳です。

もちろん、老子の言うように柔軟性を得なければならないことは言うまでもありません。しかし、その為には幅広い想念・印象に対して感受できる許容幅が必要だということでしょう。とりあえずは多くの本を読み、先人の歩みを学ぶ中でそれら貴重な想念に接することも出来る筈です。また、自然の中に出て、そこで生きる生物達の生きざまを学ぶことも大切です。

私達は各々自分の生き方をどのように設定するかは各自に委ねられています。楽観的な見方で生きようと、悲観的な目で人生の大半を過ごそうと、それはその人の自由ではありますが、しかし、本人はとにかく、他人への影響としてどのような生き方が望ましいかは自ずと明らかな筈です。他の者の生きる上で参考となるような生き方です。

本文最後に述べられている「創造を疑問の念をもって観ている」のが悲観論者であるとしている点は大変重要です。私達は少なくとも、宇宙の創造主を信じ、自らの肉体が与えられていることに感謝すれば、世の中、悲観論は誤りであることに気付く筈です。

291 On the other hand, the optimist will see the beauty in the drifting snowflakes. He will call your attention to the majesty of the towering clouds, and point out the gratitude of the thirsty ground. These two minds are using the same universal law of action. But one has set his mind in motion along a destructive, vibratory thought-habit pattern; while the other follows a constructive vibratory thought-habit pattern; recognizing all creation as a manifesting expression of the Supreme Intelligence.

291 他方、楽観論者は漂う雪片に美しさを観ることでしょう。その者はそびえ立つ雲の偉容と渇いた大地の感謝の気持に貴方の注目を呼び起こすことでしょう。これら二つの心は同じ宇宙普遍の運動法則を用いているのです。しかし、一方は自分の心を破壊的な振動の想念習慣に沿って動かしていますが、もう一方は全てお創造は至上なる英知の現出された表現として認め、建設的な振動の想念パターンに沿って自らの心を動かしているのです。

【解説】

確かに個人の特性として楽観的な人と悲観的な者がいる訳ですが、本項まで続く両者の分析をこれほど、著者が詳しく述べるには理由があると思っています。それは各自にとって日常、向き合う問題や事物、目標に対して、どちらの姿勢をとるのかという点で、この例示が生かされる為だと考えます。

私達はとかく、これまでの自分の思考習慣に基づいて、物事を処理しがちです。その際、これまでの失敗の経験から、多くの場合、チャンスに尻込みしたり、また一方では過度の楽観視から将来の事態を正確に予測することが出来ていません。

この時、物事を宇宙普遍の法則が働くダイナミックな創造活動の一環として観ることで、未来の姿が見えて来るものだと考えています。あらゆるものを、例え自分には不利な条件と思えたとしても、より大きな視点で観ることで、これから進むべき方向性が明らかになるものです。

楽観視はただ、自分の願望の実現を願うだけで、その持つ本質的な意義と原理を理解しなければ、価値の無い単なる盲信に留まるだけです。各自が宇宙・自然の中にその真理を発見出来れば、後は揺るぎない信念に育て上げることが出来ます。

292 We must understand that the human cell has a basic vibratory rate, that naturally responds more easily to other human vibrations than it will to those of animal, plant, or mineral life. But the human cells are just as capable of receiving impressions from all of these phases of nature, as they are from human beings. The same atoms, vibrating at different rates, make up the forms of human, animal, plant and mineral and they all speak the one universal language.

292 私達は人体の細胞は基本的な振動率を持っていて、動物や植物あるいは鉱物の生命に対するよりも、他の人間の振動により容易に自然と反応することを理解しておかなければなりません。しかし、人体細胞は丁度、それらが人間からであるのと同様に、自然のあらゆるこれら側面から来る印象を受信することが出来ます。同じ原子群が異なる振動率で振動し、人間や動物、植物や鉱物の形状をつくり上げており、それら全ては一つの宇宙普遍言語を話しています。

【解説】

人間が一番影響を受け易いのは、やはり人間だという訳です。他人に同調し、やがて思考傾向が似かよえることは広くは民族についても言えることであり、選挙をはじめ多くの政治の舞台で起っていることでもあります。演説が上手で、人を引き付ける話振り等、いわゆるカリスマと呼ばれる人達は、こうした人心掌握の技術を身に付けているという訳です。しかし、悲しいかな、多くの人達はこれら中身の乏しい言葉に何度も騙され続けているのではないかと思います。「空飛ぶ円盤の真相」の中に、「サタン、時の人」と表現されている箇所があったかと記憶しています。時代の寵児とされる人物にこそ、注意すべきなのでしょう。

よく「気が合う」等の表現がありますが、これは互いが発する想念が相互に受け入れられている状態かと思われまます。人とペットとの間もまた、互いに音声の言葉のやりとりはしていなくても、気持が通じるというものでしょう。

本来、テレパシー開発の目的は、宇宙に暮らすありとあらゆる生き物、これまで無生物とされて来たものまでも含め、すべての「生き物」と意思の交流をすること、相手を理解することにあります。その過程では宇宙の創造的想念とも混然一体化する道程であろうと考えます。実はそのような心境に至れば、何ら所有物を持たなくても豊かな気分になります。周囲のあらゆるものが、貴方を支える味方になるからです。また、こうした中で、貴方で自身もより良い想念の発信体になることが出来る訳です。

293 For example: We know that different species of the animal kingdom are able to communicate with one another. They do not use a spoken language as we do, but they convey their meaning to each other very clearly. I well remember a little fox terrier and a deaf white cat that belonged to friends of mine. These animals were inseparable companions, and although the cat was as deaf as a post, they often gave positive proof of their ability to commune with each other.

293 こういう例があります。私達は動物界の中の異なる種が互いに意思疎通を行えることを知っています。彼らは私達のように話す言語は用いませんが、互いに大変明確に自分達の意図を伝えます。私の友人が飼っていた小さなフォックステリア（訳注：犬の種名）と耳の聞こえない白い猫のことをよく思い出します。これら動物達は、離れがたい間柄であり、その猫は耳がまったく聞こえないのですが、彼らはしばしば互いに心を通じ合う明確な証拠を示してくれました。

【解説】

家でペットを飼っている人も多いかも知れません。しかし、私達はそのペット達がどのような手段で互いの意思を伝え合っているか、普段あまり考えることはありません。呼び掛けの通常の音声によって、飼い主の所に寄ってくるペット達ですが、私達はそれらペット達がどのような気持で一日を過ごしているのか、関心を持たず、多くは自分の都合でペットを取扱いがちです。

しかし、動物達は本事例に紹介があるように、何ら不自由無く他の存在と意思疎通を行い、暮らしているように見えます。また野生動物は食料の確保や外敵から身を守る等、様々な注意を払いながらも、自然を楽しんでいると言えるでしょう。ちなみに人間の場合、そのような大自然の中に一人放り出された場合には、前途を悲観してとても満足に生きられないかも知れません。実は、それ程に野生動物のテレパシー能力は優れており、間近に起ることを察知したり、無言のまま印象をやり取りすることが出来るのではないかと思います。

さて、こう考えると実は身近な生き物達はテレパシー応用事例としても良い教材であることが分かります。私達も動植物を含め、あらゆる生き物を観察することで、テレパシーの生きた事例を学ぶことが出来る訳です。

294 It became quite a game with my friends to place a tasty titbit in the center of the table, well out of reach of the little dog. The family would then pretend complete indifference to the action of the animal, who would circle the table, sampling the air. When he was assured his nose was not deceiving him, he would trot off to find the cat. Upon locating her sleeping curled up in a chair, he would nudge her awake and silently obviously converse with her. She would rise, stretch, and stalk across the room. One nimble leap would carry her to the center of the table, where she would pick up the morsel in her mouth and drop it to the waiting dog. Her task performed, the cat would resume her interrupted nap, while the dog chewed contentedly on the stolen food. This was no coincidence, for it so delighted the owners that they had the animals repeat it frequently for interested friends. In this case the dog and cat, different species of the animal kingdom, were merely using the universal language which is natural to all forms of manifestation.

294 私の友人達にとって、その小型犬が届かないテーブルの中央に、一口大のうまい食べ物を置くことは、楽しい遊びになりました。家族達はその犬の行動には全くの無関心を装うこととし、犬はテーブルの周囲を回って空気を嗅ぎます。自分の鼻が偽っていないことを確認するや、犬は猫を見つけようと小走りになります。椅子の上で丸まって寝ている猫を見つけるや、犬は猫を軽く突いて起こし、無言のまま、明らかに猫と会話します。猫は起き上がり、伸びをしてゆっくり大またで部屋を横切ります。敏しょうな一飛びで猫はテーブルの中央に乗り、そこで食べ物の一片をくわえて、下で待つ犬にそれを落としてやります。猫は任務を果たした後、邪魔されたうたた寝を再開し、犬は奪った食べ物を満足気に噛みしめていました。これは偶然の一致などではなく、飼い主は大変喜び、興味を持った友人達の為、その動物達に度々繰返えしやらせました。この場合、動物界の異なる種である犬と猫は創造の全ての形有るものにとって自然である宇宙普遍の言語を用いているに過ぎなかったのです。

【解説】

思い出すのは、昔、生物の授業にあった「共生」についてです。蟻とアブラ虫、ヤドカリとイソギンチャク等、子供にもよく知られている事例です。このような場合、授業では互いのメリットがある関係として整理されているだけですが、その共生を支えるのは、異なる種属間の意思疎通であり、それこそ本講座で学ぶテレパシーということになります。

互いに苦手な側面を補い合い、両者のプラスになる、今日的な表現で"Win-Win"の関係になる仕組み、「ビジネスモデル」という訳でしょう。

しかし、その基本は互いに他者を信頼できることが前提であり、双方ともに大自然の創造主を信頼していることが、共通の信頼感を持つ源となります。この事例における猫と犬の場合も、日常を過ごすその家庭が構成員に安らぎを与え、信頼感を育む素晴らしいものであったことにも、留意する必要があります。

295 The basic vibration of any form is a constant thing; otherwise, the cell would not always reproduce its kind. But so far as the cell's activity and capability of transmitting impressions is concerned, it is unlimited in a relative, or natural state. It is this relative activity with which we are dealing in the study of telepathy; and it may be referred to as the sympathetic vibration. This sympathetic vibration can be demonstrated by using two violins exactly attuned. When we pluck the string of one, the other violin will respond in the same key. A similar experiment may be performed with ordinary drinking glasses, but these are limited in their vibratory range.

295 如何なるものもその基本的振動は不変のものです。さもなければ細胞はいつもその種を再生産できなくなるだろうからです。しかし、細胞の活動に関する限り、また印象を伝達する能力に関する限り、それは相対的あるいは自然の状態としては制限がありません。私達がテレパシー学習で取扱っているのは、この相対的な活動なのです。また、それは同情的振動と表現されるかも知れません。この同情的振動は正確に調律された二つのバイオリンを使って実証することが出来ます。私達が弦の一つを弾くと、もう一つのバイオリンが同じ音で呼応します。同様な実験が普通のコップについて行われるかも知れません。しかしこれらはその振動範囲に限られているのです。

【解説】

私達の細胞一つ一つにはDNAと呼ばれる遺伝情報が確固なる形で埋め込まれており、その情報に基づいて日夜細胞分裂が行われ、肉体が維持されています。また、いわゆるガン細胞はこれら遺伝情報の損傷によって引き起こされることは、私達が知るところです。これから分かるように各細胞はそのものの増殖を確保する為には、ある種の確固たる情報を維持している必要があります、これを著者は「基本的振動」と表現しています。その意味合いには私達が未だ気付いていない電磁気的な要素も含めて、より深遠な内容を指しているものと思います。

一方で、他者の想念を感知する能力として、ここでは「相対的な活動 (relative activity)」という表現が用いられています。他人の想念に同調するのは、同情的な振動であるとしていることから、その想念を感知するということは、やって来る想念に自ら同調 (同情) して自らの中にその想念と同じ振動を起こすことだと解説しているのです。

その例として本文では二つのバイオリンの弦の例が出ていますが、同様なことは音叉を用いても実験することが出来ます。物理ではこれを共鳴・共振と呼んでいます。様々な想念に自らの周波数を合わせて受信した電波を音声波に変換するような作用は、ラジオそのものであり、私達自身、想念を受信して言語として表現する等、そのラジオの機能を備えていると言えます。ちなみにこの受信作用は細胞のアイデンティティを示す基本的な振動とは別に、「相対的な活動 (relative activity)」と表現されており、そのrelativeの意味合いとしては、左右いずれにもある程度、振れることが出来る範囲を言い、本人が受け止められる範囲、同調できる範囲を指すものと思われる。

296 The human form, in a natural state of impersonal relaxation, is receptive to all vibrations. Of course, it must be freed from habit action, the sense-man must be controlled, and the ego, or intense concentration upon its basic vibrations, must be relaxed. Telepathy comes as an impression through the feeling channel; and when we control our reasoning mind (or the ego), we can receive impressions from all phases of manifestation: for we are a unit with them.

296 個人としての感情を持たないリラクゼーション状態にある人体は、全ての振動に対して受容的です。もちろん、それは習慣的行動からは解放されなければなりませんし、感覚人は統制され、また、エゴあるいはその基本振動への強烈なる集中は緩められなければなりません。テレパシーはフィーリングの経路を通じて一つの印象としてやって来ます。そして私達が論理する心（あるいはエゴ）を統制すれば、私達はあらゆる創造の側面からの印象を受信することが出来ます。

【解説】

ここでのポイントはreasoning mindではないかと思えます。私自身、用いられているこの言葉の意味合いを正確に掴みきれてはいませんが、訳語としてはここでは「論理する心」としました。本文中ではこの「論理する心」をエゴとして説明しています。つまり、物事を論理的に考え抜くこと、推論することをreasoningと言っていることから、私達の心のこの傾向に対して注意している訳です。

もう少し詳しく述べてみましょう。ある印象が突然、飛び込んで来たとします。その際、私達の心は未だその正体ははっきりしない印象類に対し、とかく詮索好きで、あれこれ思い巡らしてしまい、その印象全体を受容するという態度をとれません。これが最初の課題であると言う訳です。

印象自体、その意味する全貌は最初は分からないものではないかと思っています。逆に言えば、初期段階では私達の感性が鈍い為、容易にはその内容を理解出来ないと言っても良いでしょう。しかし、その塊としての印象をとにかく受け取ってしまうことが大事のように思います。その上でこの印象が示唆する事柄を丁寧に学び取れば良いのです。つまり、その印象に対して心を謙虚にして次第に明らかになる事柄について、指示に従うということでしょう。

受容的な状態とは、やって来るインスピレーションを喜んで出迎えることに似ています。当初はどのような種類のお客さまかは分かりませんが、訪ねてくれたことに感謝し、心を落ち着けて対応する中で、いろいろな事が語られるように思っています。

297 Some individuals find they receive only telepathic communications of a dire nature; while others receive beautiful visions of a more universal expression. This difference in quality of receptivity can be explained by the fact that the relative vibrations of each person is different. (In speaking of relative vibrations here, I mean to denote the thought-habit of the individual.) And since it is not possible to receive a vibration to which we are not attuned, we will attract those sympathetic to our habitual thought pattern. Remember, when the violin is not properly tuned it will not respond to the sound frequency of the other instrument.

297 ある個人は自分達が不吉な性質のテレパシー的意思疎通しか受け取らないことに気付きますが、他方ではより宇宙的な表現の美しい幻影しか受信しません。この感受性の性質の違いは、各個人における相対的な振動が異なるという事実によって説明出来ます。（ここで言う相対的な振動とは、私としては各個人の想念習慣を印す意図で用いています。）そして私達が調律を受けていない振動を受信することは不可能である以上、私達は私達の習慣的想念パターンにそれら同情的なものを引き寄せるのです。バイオリンが適切に調律されていなければ、もう一つの楽器の音声周波数に呼応することはないことを思い出して下さい。

【解説】

以前にも「類は類を呼ぶ」という記述があったと思います。結局は想念受信においても各自の持つ志向性に対応したものに同調し易いということでしょう。しかし、ここで大事だと思うことは、そもそも何の為にテレパシー学習を私達が行っているのかということです。低次元の想念を身体に取り入れているのでは、心身ともに健康に良くありません。もちろん、広大な宇宙の中には高レベルから低レベルまでの様々な段階の想念が存在しています。とりわけ、この地球は過去から相当ひどい状況も刻み込まれている訳ですから、テレパシー開発に当っては、まずその認識をしっかりと身に付けて取りかかる必要があります。

その為には私達が日常的にどのような想念振動に身を置いているか自らよく監視し、常に正常な状態に保つ努力をしておく必要があります。イエスは牢獄の中に捕えられても、何ら影響を受けなかったとされています。まして、私達は恐怖や誘惑等、様々な脇道が仕組まれている世の中であって、宇宙普遍の真理に従った希有な生き方をしようとしている訳です。私自身、ある友人の例を見ても、本当に必要とされている時は真面目な探究者には宇宙の兄妹達も支援の手を差し伸べてくれることを知っています。この講座を学習される方は、この点については安心して次に進まれると良いでしょう。

お知らせ [2010-07-16]

来週はJICA関係の仕事で中東からお見えになる方々への研修や施設見学への同行の為、10日以上（7月28日頃まで）不規則な勤務状況となります。その為、本講座の更新が出来ない日も多くなるかと思いますが、ご了承下さい。

なお、蒸し暑い時期ですので、皆様、お身体御自愛下さい。（竹島 正）

298 The human instrument, or mind, may receive thought vibrations corresponding to its own thought-habit; but may be totally oblivious of vibrations of another nature. Thus, we perceive, it is necessary to develop a universal interest if we are to become unlimited telepathic recipients.

298 人体の計器である心は自らの想念習慣に対応した想念振動は感受するかも知れません。しかし、他の性質の振動に関しては全く気に止めないのかも知れません。こうして私達は感知する訳で、もし私達が無限のテレパシー受信者になろうとするなら、宇宙普遍の関心を発達させる必要があります。

【解説】

よく「打てば響く」「一を聞いて十を知る」等の表現がありますが、物事をいち早く想念レベルまで同調し、理解できる状況を指すものと思われます。これに対し「能天気」と称されるように周囲の動向に一切関心無く、もっぱら自分の固有の関心事のみの精神世界に生きる者もいます。過去の地球の荒廃の歴史から見て、他の物事に一切関心を持たず、自分のみの世界に生きることは、地球で生きる者のある種、培って来た生きる術かも知れません。

しかし、これでは進歩はなく、私達はあらゆる生命活動に対し、低レベルから最高レベルまで幅広い感受能力を開発する必要があります。鈍い自分自身をどのようにして開花させて行くのかについて、本項をはじめ様々な箇所で宇宙全体、あらゆるものに関心を持つと言っています。

身の回りの自然、動植物への興味も周囲の人達へのお世話もこの一環の訓練となる筈です。また、心の有り様として身体に入って来る漠然とした印象を何ら解釈を加えることなく、即ち、自分が言語的に理解するしないに関わらず、何かかすかなインスピレーションが来たら、それを大切に取扱い、後になってそれが何を示唆しているのか明かされるのを待つことも大切な気がしています。やって来る印象を大切に取扱うことで感受性も高まるものと思われます。

299 We find that in the case of thought, like the spark of light, vibrations proceed outwardly from it in all directions. We can tune in on any radiation of that impression, and receive the full thought. Therefore, contrary to current belief it is not possible to transmit a thought directly to any one individual, to the exclusion of everyone else! For inasmuch as mind, the medium of thought transmission, permeates the whole of space and form, there is no place where a thought vibration is excluded.

299 私達は想念は光の閃光のようにそこからあらゆる方向に外に向って進行する振動であることに気付いています。私達はその印象のどんな放射線にも同調させ、その完全な想念を受信することが出来ます。従って最近、信じられていることとは逆に、他の者を除き、何か一人の個人に直接想念を伝達することは出来ないのです。何故なら心、即ち想念伝達の媒体は全宇宙と形あるものに浸透している為に、想念振動が排除される場所はないからです。

【解説】

ここで想念を「光の閃光」と表現されていることにも注目したいものです。つまり想念は瞬間的なヒラメキとして短時間輝くようなエネルギーを持つ光のような存在であるということです。丁度、宇宙空間における太陽のようにその影響は万遍なくあらゆる方向に伝播されて行くということです。また、それは静かな水面に雨滴が落ちた後のように発生した波が周辺に広がって行くことにも似ているものと思われれます。

従って、誰でも、動植物に関わらず、あらゆるものが何処に居てもその波をキャッチ出来る訳です。各々が日常、何らかの想念を放ちながら暮らしている訳ですから、梅雨時の水面のように私達の住む地表空間には様々な想念の波が行き交い、他の人々や物体に影響を及ぼしていることが良く分かります。もちろん、地球では低次元のものが圧倒的に多い訳ですから、その中であって気分良く、毎日を宇宙由来の優れた想念波動を取り入れて生きる為には、余程、注意深く暮らす必要がありそうです。

300 The secret of what is termed "direct transference" from one individual to another, is simply that with the thought projected the sender incorporates the image of the person he has chosen as recipient. A million people might receive the thought, but because it does not pertain to their personal affairs, they will let it pass through their minds unnoticed. But the chosen recipient will recognize his image in the thought, and direct his attention toward its perfect reception.

300 一人の個人からもう一人の個人への「感情の直接転移」と名付けられることの隠れた実体は、単純に放出される想念に送り手が受け手として選んだ人物のイメージを組み込んでいるのです。百万人の人々はその想念を受信するかも知れませんが、それらの人々の個人的な事柄にそれが関係しない為、それらの人達は自分達の心の中を何ら気付かれずにそれを通過させるのです。しかし、その選ばれた受信者はその想念の中に自分のイメージを認め、自らの関心をその完全な受信に向けて導くのです。

【解説】

詳しいことは知りませんが、今日、世界中に電子メールのネットワークが出来上がっており、毎秒膨大な数のメールが飛び交っていますが、それらメールが誤り無く目的のメールサーバーに到着するには、各々の発信するメールにアドレスが組み込まれており、中継する各サーバーは、そのアドレスを頼りに目的地まで伝送し続ける仕組みが出来上がっていることに由来します。

想念伝達の場合、思いを伝えたい相手の顔を思い浮かべながら、思念を伝えようとするのが普通です。アダムスキー氏が出会った宇宙人達が顔写真を撮られないようにしていたようですが、これも彼らのテレパシー能力が極めて強く、地球人の悪意や強欲から来る想念に関わりたくないとしていたことがあったのかも知れません。

一方で、仏像をはじめ、マリア像、イエス像等、人々の祈りの対象として多くの彫像や絵画が描かれ、人々の思念を受け止めて来たことも確かです。遠く宇宙の別世界（惑星）に居る聖人に願いや相談事を聞いて欲しいのは、いつの時代も同じ地球の状況です。それら人々の声をお聞き下さり、何らかの救いの道を授けようとするのは自然の姿であり、他の世界（惑星）の聖人も多くの民の切実な声に応えて祝福を与え、時には地上（地球）に来訪し、直接、人々に話すこともあったのではないかと思います。

祈りを届けるのもテレパシーの機能です。

301 Now the question will arise: How is conversational privacy possible under these circumstances? I believe a good illustration of this occurred during a lecture I once gave. I had just finished explaining how the images and voices came silently to the mind, when a man in the audience rose and interrupted, saying he heard voices speaking distinctly. He was very insistent that these were audible, and his reception was not in the least silent. I then asked him, "If I were standing beside you, would I hear the same voices?"

301 そうなると質問が起るでしょう。このような環境の下では会話の秘密は可能となるのでしょうか？私としてはかつて私が行ったレクチャーの間に起ったことが良い例かと思っています。私が丁度、イメージや音声が無言のまま如何にして心にやって来るかの説明を終えた時、聴衆の中の一人の男が立ち上がって自分は明瞭に聞こえる声を聞いたと言って、私の話をさえぎりました。その男性はこれらは耳に聞こえるものであると主張し、自分の受信したものは少しも無言ではなかったと主張しました。私はそれで、「もし、私が貴方の脇に立っていたとすれば、私はその同じ声を聞けたでしょうか？」と彼に尋ねました。

【解説】

私自身、本項のような体験をしておりませんが、人によっては印象を送り手の話しかけとして聞くことがあるようです。また、その時、受信した者がそのまま受けた言葉を同時に声に出すことで、いわゆる神託を周囲の者に伝える構図も生じる訳です。

しかし、これらメッセージの多くは個人的なもので、送り手が受け手に伝えたい事柄であり、周囲の者に興味本位で伝えることは送り手の本意ではないと思われま

さて、テレパシー学習を進める内に早晩、私達も本項のような体験をする、あるいはその実例を見聞することになるかも知れませんが、その際、注意したいのは、メッセージの内容であり、世の中には千差万別様々な波動要素が渦巻いており、どのような源泉から来るものなのか、十分に内容を見定める必要があります。例え自分自身が受信したものであっても、その内容が本来、私達が目指すべき方向に導くものなのか、あるいは脇道に誘い込むものか、慎重に判断し、不明な場合には良否を即断せず留保して、時間経過の中で選択の可否を判断すれば良いものと思う訳です。

いずれにせよ、やって来る印象があったら、それに対し丁寧な対応、時間を掛けた見極めを行うことになりそうです。

302 "Of course not," he answered without hesitation; then grinned, sheepishly. "Now I understand what you mean," he said, and sat down. The voices were audible to him, but not to those around him. Yet, if a person were to tune in on the same thought frequency he, too, would receive the same thought.

302 「もちろん、そんなことはありません」と彼は躊躇なく答え、次に恥ずかしそうにニコリと笑いました。「今、私は貴方の言う意味が分かりました」と言って席に座りました。その声は彼には聞こえたのですが、彼の周囲に聞こえるものではなかったのです。それでも、もし何らかの人物がそれと同じ想念波動に合わせる事が出来れば、その者も同じ想念を受信したことでしょう。

【解説】

私自身は経験ありませんし、直接見聞きしたことはありませんが、声として本人に聞こえて来るような印象受信の例は聞いたことがあります。そういう意味では、より感受性が高まり、送信者の意思が明確に理解されるような段階になると、ぼうとした状態から雲が晴れるようにより具体的なメッセージ内容まで、自然と理解できることになるものと考えられます。

一見、奇異な現象のように見えますが、実際には送信者と受信者の間は印象（想念）波で伝わり、それを受信した者が半ば自動的に検波し、音声まで出力するラジオの機能までになっているということで、原理的には一般のテレパシーと何ら変わるものはないのです。

少し余談になりますが、夏川リミさんの「涙そうそう」という歌を御存知の方も多いかと思います。その歌が生まれた経緯を紹介する為の作詞した森山良子さんへのインタビュー番組を以前見たことがあります。彼女には最愛の兄が居たそうですが、その兄が若くして亡くなり、その面影慕って、宵の明星（金星）を眺めて涙するという歌詞には、一番星に願いを託した頃の思いでが綴られているとのことでした。

実は既に亡くなっており、詳しいことは聞かないままになってしまいましたが、私の死んだ母にも若くして亡くなった兄と弟がありました。戦中、戦後のことで十分な薬もないまま、病死した訳ですが、その兄は死の当日、「実に綺麗な風景を見た」「良かった良かった」と言ったそうです。当時、周囲は訳が分からないでいたとのことですが、自分の転生先を垣間見たものと今日になって、私は思っています。また、宵の明星に向いては話し掛けたものだと言うことも母から聞いたことがあります。それから何年か経って、苦労の中にあつた母に、ふと兄が現れて（夢の中であつたかどうかは不明確ですが）、母に向かって「○○をやりなさい」と話し掛けたそうです。母はその助言に従って、以後長い間その分野の仕事に就いたということです。

多くは親子や兄妹の間関係等、密接な間柄の場合には、直接、音声に転換出来る程、強いネットワークが出来ると思われますし、夕空に輝く金星への思いには深い意味があるという一例かと思っています。

303 A very good example of this may be found in the way many of our scientific discoveries are made almost simultaneously in separate parts of the world. Working independently, and often unaware of the research the other is doing along the same line, each scientist actually tunes in on the same thought vibration of universal knowledge; (the same as any number of people can tune in on a radio program).

303 これについての大変良い例は、多くの私達の科学的発見がほとんど同時になされているという経緯に見ることが出来ます。個別に取り組んでおり、しばしば他の者が同じ経路に沿って進んでいることを知らないまま、各々の科学者は世界の離れた場所で、実際には宇宙普遍の知識の同じ想念振動に同調しているのです。（他の多くの人々が同時に一つのラジオ番組にチューナーを合わせる事が出来るのと同じです）

【解説】

本項で指摘されている事柄は、以前、聞いたことがあります。電信や電話の発明、DNAの発見等、主要な発見・発明というものにはわずかのタッチの差で、勝者が決まる厳しい世界である訳ですが、別の見方をすれば、各々が同時期に同じ印象を感受していて、各自のわずかな行動の差が発明者の名誉の分かれ道となったのかと思われます。

一般に、アイデアは自然に湧いて来るものとしていますが、突き詰めれば何一つとして自分（エゴ）が作り上げたものはなく、宇宙空間から流れ来る何らかの想念波動を捉えたものとすべきなのでしょう。そういう意味では、同じ時期に同様なアイデアは誰にでも掴むことが出来る筈です。広大な宇宙からどのような想念が降り注いで来るかについては分かりませんが、少なくともそれらが地球社会の進む大きな方向性を志向していることは明らかであり、究極には神の意思と見るべきなのかと思ひます。

304 In developing telepathy as a means of communication, remember impressions work from mind to mind; and distance is no barrier. As we first begin to use this universal language, we will find it easier to exchange impressions with a few chosen individuals until confidence is gained. With all parties working in sympathy a certain wave length can be established between them; making it possible for them to communicate much as radio "hams" talk back and forth around the world.

304 意思疎通の手段としてテレパシー能力を発達させるについては、印象は心から心に作用し、距離は障壁にはならないことを覚えておいて下さい。私達がこの宇宙普遍の言語を最初に用いるに当っては、確信が得られるまでは少数の選ばれた個人の間で印象を交換する方が容易であることがわかるでしょう。仲間意識を持って働く仲間の間では、ある波長が出来上がりますし、ラジオの「アマチュア無線家」が世界中と通話するように意思疎通を可能とするのです。

【解説】

夫婦や親子等の間で以心伝心、即ち、言葉は必要とせず、印象によって意思疎通が図られている間柄は、いずれも近しい関係があります。その近しい間柄ではテレパシーが作用し易いことを、本項では互いの周波数が揃う為に起るとしています。アマチュア無線の世界では、その周波数帯を使って、各地の愛好家が交信するのと同じだと言っている訳です。

ここでのポイントはsympathy（同情的、仲間意識）です。即ちテレパシーを作用させるには、先ずは相手を受け入れ、一体となれる間柄であることが必要だということです。一般常識的に考えても、何処の誰だか分からない人から来る想念には警戒するのは地球では当然のことで、送り手はとにかく、受け手の方は、想念の出所に関心が行く筈です。そういう意味では、想念に発信者情報が含まれているとすれば、受信しても良いのか悪いのかの仕分けを自動的にに行っている可能性もあります。

しかし、より広く印象（インスピレーション）を受け入れ、場合によっては宇宙普遍の英知から来るメッセージに触れる為には、私達は努めて自ら構築したバリアーを外して、あらゆるものに心を開いて、わずかなものも見逃さない注意を日頃から怠らないようにしておく必要があります。そしてもし、優れたアイデアに巡り会った場合には、その際の心の持ち方をよく覚えておき、次回も同様な想念を得るために、そのような柔軟で落ち着いた心の状態を継続しておく必要があります。

305 I believe the telephone makes a very understandable illustration for the exchange of impressions . . . which, of course, is operable telepathy. Remember, we have stressed the importance of an open, receptive mind; and mind, like the telephone, is a two-way instrument. If we keep our minds continually occupied with consciously sending out thoughts, any impressions coming to us will receive the "busy signal" and be turned away. The connection between mind and mind cannot be completed, because the frequencies of the incoming impression cannot get past the thought vibrations our own mind is broadcasting.

305 私は電話が印象の交換、それはもちろん実行力のあるテレパシーですが、それをとても分かりやすく説明する例になると思っています。私達がオープンで受容的な心の重要性を強調して来たこと、また心というものが電話のように双方向の装置であることを覚えておいて下さい。もし私達が想念を意識的に送ることで私達の心を常に占拠していたら、私達にやって来る想念があっても、それらは「話し中の信号」を受け取り、戻されることでしょう。入って来る印象が私達の心が送信している想念振動を抜けることが出来ないため、心と心の間の接続が完成されないのです。

【解説】

テレパシーが電話と同じであるとする本項からは、自分が絶えず話し中（想念を発する状態）では本来、受信されるべき想念が受信される筈もないことはもちろんであり、受信可能状態に心を保って置くべきことは言うまでもありません。

また、電話と同じであるということになると、先ずは私達は電話の場合、受話器から聞こえて来る音声、即ち受信した印象を通じて、送り手を理解しようとすることに着目したいと思います。つまり、受話器を介して受信したメッセージ、あるいは互いの会話を通じて、相手や相手の状況を理解しようとするのが電話の機能と言うものだからです。

電話の場合は1対1の意思疎通ですが、これまでの学習から、想念伝達の場合は一対複数の関係にあるようですから、その点の違いを除けば、意義は近いことになると思われます。丁度、太陽が地上の何処にいる人々にとっても「私の太陽」と思われる程に日々の恵みを人々に送り続けていますが、私達は太陽の光を通じて、各々太陽のイメージを抱くように、想念もその内容と同時に、その送り手を理解しようとするのが重要ではないかと思う次第です。

306 So let us make an effort to keep an open, receptive mind at least part of the time; and when our mental telephone bell rings just lift the receiver quietly, and impartially accept the impressions coming to us. This does not mean sitting idly in meditation, waiting with folded hands for some great thought to come to us out of the universal storehouse; but that we should continue normally about our daily lives.

306 ですから、少なくともある時間、私達はオープンで受容的な心を保つよう努力して見ましょう。そして私達の心の電話器のベルが鳴ったら、静かに受話器を取り上げ、そして偏らずに私達の方にやって来る印象類を受け入れることです。これは何もせず座って瞑想して何か偉大な想念が宇宙の倉庫から私達の所に来るのを、手を組んで待っていることを意味するものではありません。そうではなく、私達は私達の日常生活について普通の暮らしを続けるべきなのです。

【解説】

本項で言う「手を組んで何もせずに座って瞑想する」こととは、明らかに座禅を指すものと思われます。座禅本来の意義については異論のある方もあるかと思いますが、いわゆる瞑想は受容的な心を育てることにはならないとアダムスキー氏は言っているのでしょう。この瞑想については、著者は他でも推奨しない記述を行っていたと思います。つまりは、日常的に結果に振り回されている私達にとって、只、黙して座すだけでは、心の受容性は高まらず、むしろ、心の平安さを留意しながら、日常生活を送る方が効果的だと著者は指摘していると考えべきでしょう。

一方、同乗記の中では、長老の言葉の後、一同が思わず瞑想し、そのイメージを深めたとされるような記述があったように記憶しています。瞑想はさらに能力が高まった段階では、ごく自然に行われるテレパシー状態の一つなのかも知れません。

私達の日常生活は、これらテレパシーの応用先としては最も適切なものであり、受信した想念のヒント通りに動けば、スムーズな結果が得られますし、その逆では反省点も明らかになる生きた実例の場となります。また、その最も良い点は自分でその結果を体験できる点であり、良い結果が得られたら、その際の心の持ち様を記憶しておき、また次ぎに応用すれば良く、良くない結果が得られたら、その原因を明らかにすれば良い訳です。原因と結果の関係を自分自身を生きた教材として学習出来ることが大切な所です。

お知らせ [2010-07-31]

本日から、月曜まで尾瀬に入ります。その為、本項の更新は来週火曜日からになります。

ご了承下さい。

307 I am assuming that by now you have seen the fallacy of tolerating thoughts of fear, worry, anger, anxiety, etc., and are viewing all things calmly; knowing that through this new balance in your life, you are truly about the Father's business. Therefore, your daily chores will no longer be a drudgery, and you can perform them with a composed, receptive mind. If you watch your mind carefully, you will find many of the real universal thoughts come while you are contentedly, physically occupied. This is what Jesus meant when He said, "Be ye therefore ready also; for the Son of man cometh at an hour when ye think not." Luke 12:40. He did not refer to His appearance in the physical body, but to a communion between the mind and universal knowledge.

307 私は今や貴方は恐れや心配、怒りや不安等の想念を寛容することが誤った考えであることが分かり、あらゆるものを静かに眺め、貴方の生活のこの新しい調和を通じて貴方は真に父の御わざに従事していることを知っているかと確信しています。ですから、貴方の日常の雑事はもはやつまらぬ仕事ではなくなるでしょうし、貴方はそれらを落ち着いた受容的な心で行うことができます。もし、貴方が貴方の心を注意深く観察するならば、貴方は数多くの真に宇宙的な想念が貴方が満ち足りて、肉体的にも手一杯の間にも貴方の所にやって来ることに気付くことでしょう。これがイエスが「あなた方も用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」（ルカ伝12章40節）と言った時、イエスが意味したものです。イエスは肉体としての自分（訳注：「人の子」）の出現のことを述べたのではなく、心と宇宙普遍の知識との間の交わりについて述べていたのです。

【解説】

これまで私達は、自分の心の中を自らコントロールすることの重要性について学ぶ機会はありませんでした。とかく重要だとされて来たのは、心の抱く想念ではなくて、それが具体的な行動として発現したものに對して、もしそれが優れたものであれば、社会的称讃が、他に迷惑を掛けたり害を及ぼしたりしたことに対しては、処罰が加えられます。

しかし、テレパシー学習で問題としなければならないのは、私達の心（エゴ）の一瞬一瞬の動きであることを本項では指摘しています。各自が各瞬間にどのような想念を抱く（即ち、取り入れ、自分のものとする）かは、全くの所、個人の自由なのですが、その結果は、また各々に振り返って来ることを述べているのです。

毎秒、どのような想念を心の中に入り込ませて良いのか、私達は厳格に監視することだとしています。これは従来の哲学や宗教にはあまり聞かない教えです。私達は、先ずは自分の心に不要なもの、私達の目指す人生に不必要なものは断じて取り入れてはいけません。また、日常生活を続けながらも、より良い想念のみに門戸を開いておれば、やがて遠からず創造主に源を発する想念も心を通ずるかも知れません。その時は、イエスの言う宇宙の英知と一体となる瞬間も実現するものと思われまふ。

その為にも、「自分に厳しく」という意味は、実は「自分の心に厳しく」対応すべきだということなのです。

308 Being the recipient is much more difficult than the conscious sending of impressions, because we have never been taught the necessary restraint to develop this facet of our lives. Since time immemorial, our four senses have quarreled and bickered amongst themselves; yet we have not been conscious of the unbalance this was causing within our being. We have worried and fretted over conditions we could not change; and we have unquestioningly accepted the concepts of gloom and doom because these strong vibrations impinge themselves on our bodies. But I believe it has been made apparent that with a measure of self-control, and a practical approach to life as it really exists throughout all manifestation, we can cast off these detrimental thought-habits and expand our consciousness to a clearer understanding of our rightful place in the Cosmic Plan.

308 意識して印象類を送信することよりも、受信者であることははるかに難しいものです。何故なら、私達はこれまで私達の生き方におけるこの側面を発達させる為に必要な抑制を教えられて来なかったからです。太古の昔から私達の4つの感覚は互いに言い争い、口論して来ました。それでも私達は、このことが私達の中にもたらしているアンバランスについて未だ意識していません。私達は私達が変わることの出来ない状況について心配し、思い悩んで来ました。また私達は憂鬱や非運の概念を疑い無く受け入れて来ました。何故なら、これらの強い振動はそれらを私達の肉体に衝突させて来るからです。しかし、私達は自己統制の手法とあらゆる創造を通じてのありのままに存在する生命への実践的なアプローチによって、私達はこれら有害な想念習慣を投げ捨て、私達の意識を宇宙英知の計画における正当な地位のより明確なる理解へと拡げることが出来るのです。

【解説】

多くの場合、私達は自分達の心が恐怖に支配されていることに気付いていません。日常的にはこれらの要素は顔を見せることなく、もう一方の問題である惰性の生活を行っており、何ら心配の要らない決まりきった時間を過ごしています。しかし、ひとたび旅行で見知らぬ土地に行ったり、未知の山歩き等、非日常的なことを行う途端、これら様々な問題が現れて来ます。

卑近な例で恐縮ですが、周囲にトイレが無い場所に行くときに逆にトイレが近くなったり、独り誰もいない林の中を歩くと何か落ち着かなくなったり等、経験するところです。とかく私達は習慣的な生活を好み、未知の分野の経験を嫌う傾向がありますが、それは起るべき結果をよく知っているかどうかによっています。つまり習慣的行動は、その結果を良く予想出来る訳ですが、未知の分野については心は知識を持たず、不安感が先行するからです。

結局、私達は結果に依存している為、未来の結末が不明の為に恐怖する訳で、意識を通じて未来が多少なりとも把握出来れば、このような恐怖心は無くなるということでしょう。

309 To accomplish this, however, we must learn to listen to the "small, still voice." This is a vital necessity in true telepathy. When a friend calls us on the telephone, for instance, we do not lift the receiver and rush into a monologue that lasts until the other party finally hangs up. We carry on an exchange of conversation. The same holds true when we are practicing telepathy. If we expect to advance, we must learn to listen-answer-then listen again, etc. And we will discover that the more we learn to listen, the more profound and impersonal will be the impressions coming through to us.

309 しかしながら、これを成し遂げるには、私達はその「小さく、ひそやかな声」に耳を傾けなければなりません。これは真のテレパシーにおいて決定的に必要なことです。例えばもし、友人から私達の所に電話が掛かって来たとしましょう。私達は受話器を取り上げて、相手が最後に受話器を置くまで、ぶっ続けの一人語りを慌ただしく行うことはありません。私達は会話の交換を続けます。それと同じことが私達がテレパシーを実践する際にも当てはまります。もし私達が進歩したいと思うなら、私達は聞く－答える－再び聞く等を行うことを学ばねばなりません。そして私達が如何に多く聞くことを学べば学べ程、私達にやって来る印象はより深遠で非個人的なものとなるでしょう。

【解説】

ここではテレパシーを電話による会話と同じだと解説しています。送り手から発せられた想念を受信するだけでなく、それに対する応答を相互に行うことによって互いに意思疎通を図ることが、テレパシーであるという訳です。遠隔地にいる者同士が互いの安否を確認したりする際、想念を通じて距離に関わらず行われるテレパシーは、まさにこのような相互交流であると言えるでしょう。

また、一方では宇宙の本源から来る、より精妙な印象についても本文で解説されています。微妙な印象に耳を傾けて聞こうとする態度は、自然の中で草木から印象を得ようと静かに目を凝らし耳を傾けて何かをキャッチしようとすることに似ています。自然の草木は互いに音声や身振りで表現することはなく、静かに生きていますが、それらの間には、清らかな印象が飛び交っているものと思います。その中に身を置くことで、このような印象に自身の身体を浸し、リフレッシュするのも山歩きの効用でしょう。また想念には送り主がいる訳ですから、その想念を感受することは送り主を理解することにもつながります。想念の内、最大の送り主（創造主）を想念（印象）を通じて理解しようとする姿勢が大切なのです。

310 The space people I have met use telepathy in their daily lives. If you were to visit their planets, you would find the people smiling and greeting each other in apparent silence. Yet, they are actually conversing by mental communication, much the same as we use the spoken word. Many Earthlings have questioned the statement that personal names are not necessary among them; but a moment's consideration of what the free use of telepathy would mean, makes the statement self-explanatory.

310 私がこれまでに会った宇宙人達は、日常生活にテレパシーを使っています。もし貴方が彼らの惑星を訪れたら、貴方は人々が一見して声を出さず、互いに微笑み、そして挨拶していることを見出すでしょう。しかし、彼らは実際には心の交流により、私達が話し言葉を用いるのとほとんど同様に、実際には会話しているのです。多くの地球人が宇宙人の間には名前が必要ないとする声明に疑問を投げかけて来ました。しかし、テレパシーの自由な使用が何を意味するのかを少し考えれば、その声明は自明のことになります。

【解説】

私達地球人と他惑星の宇宙人とでは、外見上も内部の人体の構造も何ら変わる所はないにも関わらず、心の面では大きな差があるように思います。本講座を通じて、私達はテレパシーそのものの原理を一から教えられて来ましたが、未だ自ら応用する段階には至っていません。

各自がごく自然の成りゆきとして互いにテレパシーを日常的に用いていることは、簡単に書かれてはおりますが、地球の現状と比較すれば、何万年もの進化の差、文明の差があることを示しているように、私には思えます。同じ肉体を持ちながらも、かくも低次元の状態で留まっている地球に対する最大の課題が、精神面の開発であることは良く分かります。私達はようやく、その基礎を学んでいる段階で、自ら取組んで能力を身につけるには、これからも長い年月が必要であるのです。

思う相手を心に描くことで、相手に想念を伝え、それに対する相手の応答を感知できれば、常にその相手と会話するようなもので、互いに何処に居ようとも常につながっている訳です。今の若者の携帯メールで常に連絡を取り合うようなものです。そして最大のポイントは人々から敬愛され尊敬される指導者と問答を交わすことにあるかも知れません。私の勝手は想像ですが、指導者とされる所には、数多くの想念が寄せられ、多くの人々を教えているかも知れないのです。多くの菩薩や観音が同時に多数の人々の声に耳を傾け、各々に適した指導を行うと何処かの仏典に出ていたのを思い出します。千手観音像に表現されている通り、多くの民を救おうとする姿がそこにあります。

311 When mind talks to mind, it is the projection of mental pictures; so, for example, when space people want to refer to a mutual friend, they form a mental image of that person in their mind. I am sure we all can see the advantage of this; for how many times have we tried in vain to recall someone's name, and although it was right on the "tip of our tongue," the name eluded us? The person's face was pictured clearly in our mind and in a case like this, had we been talking to an individual able to receive telepathy, he would have recognized the person immediately. Every thought to which we give audible expression must first be clarified in the mind. So if, like the space people, we had been trained from infancy in the use of telepathy, we could receive thought frequencies without a word being spoken.

311 心が心に語りかける時、それは心に映るイメージを投影しているのです。ですから例えば、宇宙人が互いの友人の一人に言及しようとする時、彼らは自分達の心の中にその人物の心に映るイメージを形成します。私達は皆、この場合の好都合が分かると私は確信しています。何故なら私達は何度となく「口の先まで出掛かっている」けれど、誰かの名前を思い出そうとしてもだめだったことがあるからです。その人物の顔は私達の心の中にはっきりと描かれており、このような場合には私達がテレパシーを受信出来る人と話しをしている場合には、その人はその人物をただちに認識出来たと思うからです。私達が声に出して表現するあらゆる想念は、先ず最初に心の中で明確にされなければなりません。ですから、宇宙人達のように私達が幼い頃からテレパシーの使い方を訓練されていれば、私達は言葉を話すことなく、想念周波数を受信することが出来ることでしょう。

【解説】

年をとってくると何事にも鈍感になってくるものです。その点、年少期は感受性も高く、本項に記されているような適切な訓練を受ければ、驚く程の能力開発が出来るものと思います。伝えられている所では、アダムスキー氏は幼年期にチベットに渡り、学んだとされています。その後の氏の活動を支える為に、本項のテレパシーをはじめ、様々な能力開発が行われたものと思われます。

また、私達が日常行っている精神活動についても、心象がその都度形成され、想念波動として放出されていると述べられています。つまりは送り手としては私達はある程度の能力を行使している訳で、問題は受け手としての感受性の側にあります。しかし、テレパシー能力については、あまり高い目標を設定すべきではなく、日常生活の中で、少しずつでも結果の世界でなく、因の世界から寄せられる微細なささやきに気付き、それらを応用する等、毎日の生活の中で各自、その効用を確認して行くことが大切だと思えます。

312 Some of our scientists now tell us that telepathy is the language of the future. They say that when man has a better understanding of his mind, it will be the common means of communication. They recognize the importance of breaking the language barriers, for once the peoples of the world are able to exchange ideas freely, lasting peace will finally come to Earth. This concept can be expanded beyond the confines of our own planet. For if we were conversant with telepathy, it would not be necessary for the space visitors to learn our many languages. We could exchange ideas with ease with dwellers from other worlds by using telepathy, since mental impressions know no boundaries.

312 科学者の何人かはテレパシーは未来の言語であると述べています。彼らは人間が自らの心をより深く理解する時、意思疎通の共通した手段になるだろうと言っています。一旦、世界の人々がアイデアを自由に交換できるようになれば、地球に永続する平和が遂にもたらされるが故に、彼らは言語の壁を壊すことの大切さを理解しているのです。この概念は私達の惑星に限定されることなく更に拡がります。何故なら、もし私達がテレパシーに精通していれば、宇宙からの来訪者達にとって多くの言語を学ぶ必要がなくなるからです。私達はテレパシーを用いて他の世界からの住人達と気軽にアイデアを交換できることでしょう。心の印象類には境界がないからです。

【解説】

野生に生きる動植物は例え、見知らぬ遠隔地に運ばれ、そこに放たれたとしても何ら困ることなく新天地で生き続けられることでしょう。異なる言語や習慣の中に放り込まれても、彼らはその地の生き物達と意思疎通を図ることが出来、不自由なく暮らして行けるのかも知れません。その背景には、野生に生きる動植物達は常日頃、印象に従って行動し、互いにテレパシーで物事を把握していることがあります。

一方、私達は言葉が通じない、あるいは土地勘がない場所では、不安感に支配され易いものです。しかし、私達がテレパシー能力を少しでも持てば、こうした不安感は無くなり、周囲の自然や生き物達と素直に意思疎通が出来、落ち着いた気分になります。このように私達がテレパシー能力を高める意義は、自然の中でも一人生きるすべを身に付けたり、海外旅行その他、見知らぬ土地でもリラックスして生活出来る基礎的な能力を身につけることでもあります。

更に感受力が高まれば、これまで気付かなかった些細な物事の痕跡から、その出来事全体のイメージが湧いたり、過去に遡った物事の理解も進む筈です。これまで私達は一瞬一瞬の時間の中で、その時々の一時的な結果から全てを見て来ましたが、テレパシー能力を身につければ、更に遠い過去やこれから起る未来のことについても、理解が進むものと思われれます。鉱物から気体まで多くのものたちと印象が通いあえれば、素晴らしい生活が実現することは間違えありません。次回は第3部第3章に入ります。

CHAPTER III

Clairvoyance, Clairaudience, Premonitions, Etc.

313 Through ignorance, man has endowed clairvoyance, clairaudience, the ability to foresee future events, etc , with mystical, unknowable powers. We are inclined to view with awe that person whose hunches are invariably right, and attribute this ability to a mysterious extrasensory origin. But the use of any or all of these, whether consciously or unconsciously, is merely perception, or alertness, working in the individual. This is true not only in regard to personal affairs, but this perception can also encompass universal conditions.

第3章

透視、透聴、予知、その他

313 無知故に人は透視、透聴、未来の出来事を予測する能力その他を神秘的な人知を越えた能力のせいにして来ました。私達はその予感がいつも変わることなく正しい人々を畏敬を持って眺めがちであり、この能力を何か神秘的な超感覚的な源泉に起因するものとして来ました。しかし、これらのいかなるものも用いることは、意識的であるか非意識的であるかに関わらず、それは単に各自に働く知覚或いは警戒の作用でしかないのです。この知覚作用は個人的な物事に関するばかりでなく、宇宙的な状況を包含することも可能なのです。

【解説】

とかく人はこれまでの常識から越えたと認識するものに対し、超自然的神秘として、自分とは別の存在として恐れ敬って来ました。また、私達の周囲にも存外、そのような存在も居るようで、この分野の学習を始めてからも多くの事例を耳にします。

しかし、テレパシー現象に対して、このような神秘性を与えるのは間違っていると本項は指摘しています。古来はこのような能力者は人々に頼りにされ、信奉されて来ました。また今日でも、多数の政治家がこの国の未来について、これら能力者に助言を求めていることでしょう。

実はこれらの能力は誰もが修得可能なもので、人間の心、精神的な面を訓練することで自ら開発し、伸ばすことが出来るものです。その内容は個人的な小さな物事でも大宇宙のことでも同じこと。たまたま現れた側面がそうであるだけで、基本的には同じ作用だという訳です。

私達は訓練次第で、如何なる能力も身に付けられますし、宇宙の活動（物事の起る原理や仕組み）が分かれば、その示す未来を知ることが出来ますし、過去に生じた出来事も宇宙に想念が記憶されている限り、振り返ることが出来るということです。

314 To understand how this can be accomplished, we must remember that feeling is the channel of perception. For regardless of how refined the organs of sight may become, they cannot possibly receive the image of anything that is not yet a concrete manifestation; yet, because the blueprint, or plan for all manifestation is drawn in advance, such information is obtainable. In the case of true clairvoyance, the personal ego must be controlled by an impartial interest in Cosmic Cause. The only limitation placed upon knowledge, is that put there by the personal, or particularized consciousness.

314 このことがどのようにして達成されるかを理解するには、私達はフィーリングが知覚の経路であることを思い出さなければなりません。何故なら、如何に純化しようとも、視覚は未だ確かな創造物となっていないもののイメージを受け取ることは出来ないからです。しかし、あらゆる創造の青写真或いは計画は先立って描かれていますので、これらの情報は入手可能なのです。真実の透視の場合、エゴは宇宙の因についての隔てのない非個人的なる関心によってコントロールされねばなりません。知識に置かれた唯一の制限は、その個人的或いは特殊化された意識によってそこに置かれた制限でしかありません。

【解説】

誰もが透視や未来の予知について能力を身に付けたいと思うことでしょう。その点に関して、本項では、これらテレパシー能力が既存の感覚からではなく、フィーリングの経路から来ることを明言しています。つまり、遠隔透視は視覚が行っているのではなく、フィーリングを通じて行われるという訳です。私達が日常的に依存している感覚ではない、印象を受ける経路を通じて、それらの情報を認識するということです。

しかし、これにも障害があります。私達自らが設置した限界というものがあり、それが自由なフィーリングの発揮を妨げているというものです。そうなると問題は、フィーリングの自由な発現に対して自分自身で置いた限界であり、そもそもどのような制限を置いて来たか、各自が実態を調べなければなりません。未踏の分野に入る際に、踏み込もうとする第一歩は勇気が必要ですが、ひとたびその障壁を越えれば、あとは実績が前進を後押しすることでしょう。

315 Let us imagine the universe as an infinite expanse of space-force in a passive state of activity, denoting a condition of calmness. Every positive, or aggressive motion within that calm sea of space-force will produce an impulse, or vibration, throughout the whole span of the universe. And as every impulse, whether of light or thought vibration, will continue traveling through space until it has dissipated its energy either through friction, or has transmuted it by contact, when we introduce the time element we can understand that at some time practically every ray will contact every other ray in the universe.

315 宇宙空間を静けさを象徴する受動的な活動状況の中にある宇宙的力の無限の拡がりとして想像して見ましょう。その静かな宇宙的力の海の中では、あらゆる肯定的あるいは積極的な運動は一つのインパルス（訳注：衝撃、衝動）あるいは振動を宇宙空間全体にわたって作り出します。そして各々のインパルスはそれが想念振動の光であろうと、摩擦でそのエネルギーを消散するか、接触によって改質されない限り、宇宙空間を進み続けることでしょうし、私達が時間の要素を取り入れるなら、私達はいつの日にか、あらゆる放射線（訳注：想念波動）は宇宙空間で他の放射線と接触するだろうことは分かります。

【解説】

静寂な宇宙空間をここでは「受動状態」と表現されています。その空間の中を私達の想念、即ちある意味、私達の意思として肯定的で積極的な想念が放射されると、それらはこの宇宙空間を進行して行くこととなります。果たして宇宙空間が無音であるかどうかは不明ですが、地球の宇宙飛行士が撮った映像から、そこが暗黒の静寂空間であることが知られています。

この静寂空間を本項では「受動的活動状況」と表現しています。私としては何らかの活動を促す波動が来れば、それに呼応して運動を起こすというイメージを持っています。その宇宙空間に想念が放出されると、その波動は次々に空間に伝わり、はるか遠隔地まで伝播することになります。よく聞く話として、地球の宇宙飛行士達が宇宙空間に出ると、何か特別な感覚になる等の話がありますが、それは自らの想念がより明瞭に宇宙空間に吸収され、伝わって行くことを感じ取ることかも知れません。

やがてこれら想念は宇宙空間に拡がり、その過程であるものは消失するかも知れませんが、あるものは留まり、様々なものと接触し、相互作用を起こすと本文では述べられています。受け身の宇宙空間に対して積極的な想念の働きが如何に大きな影響をもたらすかについて、私達は未だその重要性について気付いていないのです。

316 This geometric pattern of magnetic and electric rays is the cause of all manifestation. So, inasmuch as the human is capable of perceiving these vibrations consciously, there is only the necessity of overcoming the illusion of time-space interference in order to foresee future events-or look back on past happenings.

316 この磁氣的及び電氣的な放射線の幾何学パターンは全ての創造作用をもたらす因なのです。ですから、人間がこれらの振動を意識して知覚することが出来る限りは、未来の出来事を予知したり、過去の事件を回顧する上で必要なのは、時空の幻影の妨害を克服することが必要なだけです。

【解説】

短い文章ではありますが、本項は壮大な宇宙における創造の原理を示唆する内容となっています。

まず第一に注目すべきは「幾何学パターン」についてです。これについて思い当るのは、そもそも私達全生物はDNAという遺伝物質を各々の細胞の中心に持っていますが、そのDNAの主たる成分はアデニン(A)、グアニン(G)、シトシン(C)、チミン(T)の4つの塩基の組み合わせであり、その4種の要素で全ての遺伝情報が表現されていることは周知の通りです。このA-G-C-Tの組み合わせこそが、本項で言う幾何学パターン、即ち「模様」のことかと思えます。また、同様に、チベット仏教の曼陀羅絵その他の幾何学パターンについても同様な意味があるように思われます。

また、波動は他の波動と会合した場合、縞模様が出来ることが知られています。想念波動によっても同様な縞模様が形成されることも考えられますし、それこそ、本項で言う「幾何学パターン」(模様)を意味するものと思われます。

更に、私達が想念活動に気づける様になったとしても、それを妨害する要素があると本項では述べています。「時空」の過った概念がそれだとしています。これについては、確かなことは分かりませんが、物事の真実の姿、即ち、物事が宇宙の因から発せられてから具体化するまでの時間的経過や空間上の位置等の結果の領域に目を奪われることなく、その現象の源泉となる因、即ちこの幾何学パターンに注目せよと言っているように思われます。

317 We know that by ascending to a higher elevation we are able to overcome the illusion of space limitation to some degree. Even a small rise will broaden our horizons, and the view we have from the high mountain top seems unlimited compared to that which we had from the valley. When man turned his eyes toward the stars, he realized he must build instruments to aid him to view them more closely. So in his efforts to see ever farther into the universe, he invented and developed the telescope. But our scientists are aware that any instrument built by man is limited. It must be with a feeling of frustration that astronomers view the heavens; knowing that beyond the detection of their finest telescopes lies galaxy after galaxy, stretching into eternity. But once man consciously accepts his oneness with Cosmic Cause, the Cardinal Sense within him (the feeling element), is free to roam the universe at will.

317 私達はより高く昇ることにより、ある程度、空間の限界の幻影を克服できることを知っています。わずかな上昇でも私達の視野を広げますし、高い山の頂上から見る景色は私達が谷間から見る景色と比べて無限の拡がりのように思えます。人が星々に目をやる時、人は自分はより近くにそれらを見るのを助けるための装置を建設すべきだと自覚しました。そこで宇宙空間の更に遠くを見ようとする努力の中、人は望遠鏡を発明し、開発しました。しかし、科学者達はどんなものにせよ、人間によって作られた装置には限界があることに気付いています。天文学者達はある種不満気な気分天空を眺めていることでしょう。彼らの最も精密な望遠鏡の探知範囲の先には銀河に次ぐ銀河が無限に続いて存在することを知っているからです。しかし、ひとたび人が自分と宇宙の因が一体であることを意識して受け入れるや、人の中にある基本感覚（フィーリングの要素）は自由に宇宙空間を歩き回ることが出来ます。

【解説】

ここでのポイントは"the illusion of space limitation"（空間の限界の幻影）かと思います。本文にあるように地表に暮らす私達にとって、もっぱらの関心事は自分の周囲の事柄であるでしょうし、それが少し立場を変えて、わずかに高い位置に視野を置くことが出来れば、自分の暮らす環境に対する認識も随分と違うものになる筈です。

その人がどのような世界観で日常生活を送っているかが重要で、とかく私達は自身の目に見える範囲を自分の世界としがちです。しかし、顕微鏡によればその世界はさらに微細で美しい活動的な世界であることが分かりますし、望遠鏡で空を覗けば肉眼では到底見えない遠方に、数多くの銀河世界が満ちていることが分かります。

大事なことはミクロからマクロまで一貫して一つの法則の下、切れ目ない世界が繋がって、そこに活動しており、私達はその一員であるということでしょう。その理解を得る為には、私達は目や耳に頼らない生活、言い換えれば、フィーリングを頼りとする直感重視の生活を行うことが大切で、その延長上には、私達は自らの意識を大宇宙に巡らすことが出来るようになると言っているのです。

318 We ordinarily think of space as the distance between given objects, and of time as the intermission between acts. But space and time cannot rightly be separated - for they are twin infinities. We are quite correct in saying that time is the distance between events. When we consciously perceive forthcoming events, we are traveling in time, just as surely as we are traveling through space when we perceive hitherto unseen stars and nebulae through the telescope. In either case, we have expanded our vision by eliminating the time-space bug-a-boo.

318 私達は普通、空間を与えられた対象物の間の距離であると考えていますし、時間については行為の間の中休みと考えています。しかし、宇宙空間と時間ははっきりと分離は出来ません。何故なら、それら是对の無限物であるからです。私達が時間を出来事の間の距離であると言うことは全く正しいのです。私達がやがて来る出来事を意識的に知覚する時、私達は丁度、宇宙空間を旅して、今まで知られていなかった星々や星雲を望遠鏡を通して知覚するのと同じです。いずれの場合も私達は時空のお化けを取り払うことで、自分達の視界を拡げたのです。

【解説】

正確な所は分かりませんが、時間も空間も要は似ている概念だということでしょう。私達が望遠鏡で、或いは宇宙船に乗って宇宙を進む際に出会う光景と、私達が過去に思いを巡らすこととは似ているということかと思えます。

いずれにしても、私達の空間や時間に対する概念は、私達が目に見える範囲に留まる限りは低レベルのままです。現にこの地表はその上にいる者の肉眼にとっては静止するものですが、実は地表は丸く球体を形成し、自転や公転等、活発な運動を宇宙空間で成し遂げていることを感覚は伝えていません。それほど私達の宇宙観に関する概念は矮小化されています。

時間と空間とが密接に繋がっていることを表現した映画に「2001年宇宙の旅」があります。木星接近への最終段階で主人公が莫大な数の高速で動く光の流れに遭遇した後、自らの老衰期の姿を見るシーンがあります。本項で言う空間と時間が切り離せない関係があることを表現した作品であると思っています。さて、その映画の最後に主人公が胎児となって宇宙空間で生まれながら、地球に戻って来る場面がありますが、それは時空の制限を克服した者が新しい人類として生まれ変わることを暗示しているのかも知れません。なお、以前も述べたかと思いますが、故デズモンドレスリー氏によれば、この作品の映画監督、スタンリー・キューブリック (1928-1999) はアダムスキー氏のことを一度は映画化しようとした人物です。

319 You may consider the illustration meaningless, because in the case of piercing space with the telescope to discern material objects we are looking upon something that has already happened, or upon manifestations that have already taken form. But how can we foresee that which has not yet taken place? It may even seem that we are in contradiction to the law of Cause and Effect; for we are seeing the effect before the cause has produced it. But is this true?

319 貴方はこの説明は意味をなさないとお考えになるかも知れません。何故なら、望遠鏡で物体を見つけようと宇宙を貫いて見ようとする場合、私達は既に起ったものや既に形を持った創造物について見ていることになるからです。しかし、未だ起っていないものをどのようにして予知出来るのでしょうか。それは私達が原因と結果の法則とは矛盾しているように見えるかも知れません。何故なら、私達は因が作り出す前にその結果を見ているからです。しかし、これは本当でしょうか？

【解説】

一方で私達は予知や遠隔透視について、何か特別なもの、特殊な能力としてはいけないと思っています。自然界に目をやると野生の生き物は皆、いずれもこれら超能力の達人であるように思うからです。レーダーも持たないのに、やがて来る嵐に備える海鳥達や、来るべき豪雪を予知して数カ月も前から卵を例年より高い木の枝に産みつけるカマキリ等、野生動物の予知能力については古くから伝えられている所です。

未来は現状の延長線上にあり、この社会を大きな船に例えれば、その進む方向は容易に変わることはありません。それ故、行く手に問題があったとしても船はこれまでの進路を急には変えられず、遂には衝突するようなものです。そういう意味では私達は大きな宇宙の法則の下に生きており、良い因を残せばやがて良い結果を、またその逆もまた同様な原因と結果の密接な法則の下にある訳です。

しかし、これら予知を得ようと努力するのも意味のない事です。もちろん、将来の状況をある程度知っておくのは有意義ですが、それよりも未来を変える因を創り出すことの方がはるかに大切な仕事です。

320 The greatest minds in the world today will not deny that all phenomena is the result of action. Here, we are dealing with that particular invisible vibration called thought, which, like light, travels out from its point of projection in millions of straight lines in all directions. There are billions upon billions of thought actions taking place in the universe. Like light, their vibratory radiation is a constant thing; traveling at a definite rate which never varies. These vibratory rays traveling through space at a certain speed will, according to the law of accuracy, contact or cross each other at a given point: producing predictable results. Anyone who has learned to turn his awareness to the state of universal interest, can consciously perceive these vibrations contacting; and from the reactions produced, can foretell the outcome before these actions have become visible to the recognized channels of sense.

320 今日、世の中の最も偉大な心達は、全ての現象は行動の結果であることを否定しないでしょう。ここでは私達は想念と呼ばれる特別な、目に見えない振動を取扱っており、その振動は光のように放射のポイントから全方向に何百万もの直線として旅出しています。宇宙空間では何十億の何十億倍もの想念活動が起っています。光のようにそれらの振動する放射線は一定に動きます。決して変わることはない一定速度で進行しているのです。宇宙を通して旅するこれら振動する放射線は正確さの法則に従って、互いに与えられた地点で接触し、互いに交差することでしょう。そして予想可能な結果をもたらすのです。誰でも自らの気付きを宇宙的な関心の状態に転換することを学んだ者は、意識的にこれら振動が互いに接触しているのを知覚出来、その際作り出される反応から、これらの活動が認識された感覚の経路に見えるようになる前に、その事態を予見することが出来るのです。

【解説】

これまでの想念を光の放射のように説明されて来た所です。暗い宇宙空間を貫いてどこまでも太陽の光のように進行して行く想念のイメージです。しかし、私達の日常生活の上からは、この想念を光と同じ性質である電磁波のように考えるとより分かりやすいかと思えます。つまり、発信者からあらゆる方向に直線的に放射される電磁波が各地に伝播します。その及ぶ距離には際限がなく、仮に微弱な信号となったとしても突き進んで行く状況は、丁度、微弱な出力の無線でも受信側の感度が良ければ、地球の裏側までアマチュア無線が繋がるのと似ています。

さて大事なことは、本文にあるように、これら想念波が他の想念波と接触すると何か大きな力を発揮するとしている点です。以前にも述べたように、波の干渉縞のような想念の合成振動や共鳴現象のようなものかと思われます。その合成したものが力を発揮し、それら想念を表現する創造作用を引き起こすという訳です。

昔から、「因果応報」や「天罰」等、様々な言い表わし方がありますが、そもそも自分が発した想念が宇宙の何処かで反射する等により、発信者自らの所で、これら想念が具体化する現象を言い表わしているように思います。

お知らせ [2010-08-23]

明日から3日間、出張が入りました。

その為、少なくとも2日間は更新出来そうにありませんのが、ご了承下さい。

あわせて、猛暑の中、皆様の御健勝をお祈りいたします。

321 An example of this occurred involving an acquaintance of mine who was the head of a large concern in the east. Wanting to make his home in the western part of the country, this man had left his business in the hands of a capable and apparently trustworthy manager; who also happened to be a large stockholder in the company. Except for the annual reports, and occasional correspondence between the two, the head of the company was not worried with the operational arrangements of the business, for he had utmost confidence in his manager's ability and honesty. I knew that my friend's interest lay in the east, but at that time, I was not familiar with the managerial details.

321 このことの一例が、東部（訳注：米国東部）における大きな仕事の社長であった私の知人の一人について起りました。西部に自分の家を持ちたいと思っていたこの人物は自分のビジネスを有能で見掛け上も信頼出来そうな支配人の手に委ねたのです。その支配人はまた、たまたまその会社の大株主にもなったのです。年間報告や二人の間の時々の連絡を除けば、その会社の社長は事業の運営手はずについて心配はありませんでした。彼は自分の支配人の能力と誠実さには絶大な確信を持っていたからです。私は私の友人の関心が東部にあることは知っていましたし、その頃、私はその経営上の詳細についてよく知りませんでした。

【解説】

テレパシー能力の開発が進むにつれて、日常生活上、様々なものが分ってくることになりそうです。本項から続く事例の場合は、その知人の置かれている状況について何かを感じ取ってしまう例になっています。具体的に生活の中で活用されなければ、本来の意味はありません。当然ながら、本講座を学ばれている皆様にも少なからず、従来より感受性（あるいは勘）が高まっていることと思います。

私自身については、あまり報告出来るような進歩はありませんが、少なくとも遠く離れている知人が今、どのような状況かを知ろうとしたり、これからの社会の行く末等について、テレパシーを活用しようとしています。おそらくはこれら能力に優れた宇宙兄妹達は危険な地球で暮らす際には、自らを守る上で大いに役立っているものと思われまます。

また、一方では、誰かが自分のことを知ろうとしていることに気付くことも出来るようです。以前、故Emma Martinelli（エマ・マーチネリ）女史が新聞に寄稿した記事に、昔、人生を悲観して川に飛び込むとした青年を救った男がいて、その後その男が青年を伴ってレストランに行き食事をしていて、向かいにいた別の男がその男に「俺の想念を読むのは止めろ！」と言って出て行ったという話があったのを思い出しました。後に話を聞いたエマがその青年にアダムスキー氏が描いたオーソンの絵を見せると、自分が助けてもらったその男は、その絵の人物だったということです。オーソン似の宇宙人が地球に来ていた別の宇宙人から文句を付けられたという話です。オーソンとは別のグループの宇宙人であったのかも知れません。

322 However, I received the impression that the manager was planning to gain control of the business and defraud the owner of his holdings. I conveyed this information to my friend, and although doubting its veracity, he started a quiet investigation into the company's affairs. The report he received carried overwhelming confirmation of these conditions, just as I had revealed them. My friend returned east immediately and took the necessary steps to protect his interests and regain control of the company.

322 しかしながら、私はその支配人が事業をコントロールし、オーナーの保有財産を騙し取ろうと計画しているという印象を受けました。私はこの情報をその私の友人に伝え、またその真実性を疑いながらも彼は会社の内状について隠密裏の調査を開始しました。彼が受け取った報告書にはこれらの状況を確信させる膨大な証拠を伝えており、私が明らかにした通りでした。私の友人はただちに東部に戻り、自分の財産と会社の支配権を取り戻す為、必要な措置をとったのでした。

【解説】

野生動物の世界には裏切りは存在しません。彼らは鳴き声の他に多くを印象（インスピレーション）に頼って生活しているように思うからです。空中に集団で舞い上がり、一糸乱れぬ飛行を遂げる鳥達は、どのようにして各メンバーが一体になることができるのか、不思議ですが、それも彼らが文字通り各メンバーの心が一つになっているからに他なりません。もちろん、そのような状態の場合、他人にも自分の心の中をさらけ出す必要がある訳で、当然、隠し事は無い訳です。

それに対して、人間は確かに知識の積み重ねにより、大きな文明を築きましたが、こと印象の感受や交流という面では他の動物達に劣っています。その理由は印象に頼らなくても生きて行けると思うだけの富と技術を持ったからですが、それでも人間同士の問題には事欠きませんし、人間の文明が惑星全体の環境に悪い影響を及ぼしているのです。本項の場合、他人を騙して利益を得ようとする企みは現実の地球にははびこっています。

もちろん、それら企みに対する警戒は他の場合と同様に、印象に気を付けていれば感知でき、問題を早期に発見することになります。多くの渡り鳥達のはるか行く手の先の嵐に気付き、出発する日を決めるのも印象を役立てていることでしょう。もちろんこれら印象を活用する為には、何よりも印象を尊重することから第一歩が始まります。

323 This experience was a case of unintentional telepathy. Certainly, the manager had no intention of broadcasting his dishonest thoughts; and undoubtedly believed them carefully guarded from the world. Because of his perfect assurance in the integrity of the man he had left in charge, the head of the firm, the person most closely concerned in the affair, was not receptive to the thoughts of mismanagement. But I, who was receptive to all thought vibrations in an impersonal way, received the thought. As it came to my mind, I recognized it was pertaining to my friend, and thereby saved him much future difficulty.

323 この体験は非意図的テレパシーの一例でした。確かにその支配人は自分の不誠実な意図を広めようとするような意志は全く無かった訳であり、疑いなくそれらを世間から注意深く隠していたものと思われます。その友人が会社の首脳として後に残したその人物の持つ有能さに完全な確信を持っていたため、そのことに最も高い関心を持っていたその人物は、その経営の失敗についての想念を受容出来なかったのです。しかし、非個人的になって全ての想念波動に受容的であった私は、その想念を受信しました。それが私の心に来た時、私はそれが私の友人に関係していることに気づき、そうして彼を将来のより大きな困難から救ったのです。

【解説】

数多くの印象が心に感知された場合でも、その人が自分に関係がないと判断すれば、それらをやり過ごす機構が備わっているという訳です。従って、問題は本人の関心次第ということで、如何に自分が抱く関心が大事かが分かります。自分が日頃、どのような事柄に関心を持っているのか、あるいは持つべきなのか、つまりは自分が知りたい、或いは助けたいと思うことは何かを改めて見つめ直す必要もありません。

この場合は、アダムスキー氏は友人の置かれている状況を察知して、何らかの関心を抱いていたのでしょう。そこにその人に関する印象（言葉になる前の意図）をキャッチし、その印象の全容を把握した訳です。

如何なる想念も隠すことは出来ません。印象はあらゆるものを貫いて進行する想念波で、誰でもそれをキャッチし、生活に応用出来るという訳です。音声や文字でなく、形のない印象は一見、捉え所のないものですが、その応用範囲と潜在能力は莫大なものがあります。

324 These same thought frequencies were intercepted by innumerable people, but because they did not recognize any of the participants they discarded them as being meaningless. This is further proof of the fact that it is not the pretentious front we show to the world that is of lasting importance, but it is the inner man who is the true expressor. To those around us we may appear a paragon of honesty, but if we harbor dishonest thoughts in our minds they can be intercepted at any time, thus unmasking us before the world. Truth has a way of revealing itself; for whether we like it or not, our thoughts belong to the universe.

324 これら同じ想念波動は無数の人々によって捕えられましたが、それらの人々は如何なる関係者にも覚えがなかった為に、意味がないものとして捨て去ったのです。このことは永続する重要性があるのは私達が世間に示す見せ掛けの前面ではなく、真の表現者である人間の内側であるという更なる証拠です。私達の周囲にいる人々にとって私達は誠実の模範のように見えるかも知れませんが、私達が不誠実な想念を心の中に抱くなら、それらは何時でも捉えられ、私達の正体を世間に暴露することになるのです。真実自ら現れる道を持っています。何故なら私達が好もうと好まざろうとも、私達の想念は宇宙のものだからです。

【解説】

日本語には「心を入れ替える」といううまい表現があります。つい悪い想念に踊らされて過ったことをした時の反省の際に用いられるこの言葉は、実際には私達の心がとかく誘惑には弱く、受け入れる想念次第では、後日反省すべき行為をしでかすことを示しています。

人間は心に受け入れる想念で、その人物の価値が決まる訳で、想念を本項で言うharbor（停泊させる）、即ち「受け入れる」「心に抱く」ことが全ての源です。どのような種類の想念を行け入れるかで本人の人格も影響を受けることになる訳です。

そのことを考えれば、私達が四六時中、どのような想念に対し気を許しておくかについて、十分吟味して選別する必要がある訳です。つまりは自分自身に対して細かく観察して、不適切な要素は早い段階から取り除くとともに、今後、同種の想念が入り込まないようにすること、今まで心の中にあつたものを仕分けして、不要な要素を捨て去る努力が重要となります。それこそが心を入れ替えることになると思っています。

325 Science has discarded the idea that universal ethers are a fixed standard of space, being absolutely motionless: and they now admit that nothing in the universe is entirely at rest. The units composing ether are in constant motion, as are the units of matter; and all are stirred by the same element of animation that gives impetus to thought. Just as each action within the human form leaves its impression upon the body cells, so every action that takes place in the universe leaves an impression, upon the cells of ether - not as a form-picture, but as a frequency.

325 科学は宇宙空間のエーテルが全く動きのない固定化した宇宙の基本単位であるとする概念を捨て去って来ました。そして彼らは今や、宇宙には何一つとして完全に静止したものはないことを認めています。エーテルを構成している各単位は物質の各単位がそうであるように、常に活動の状態にあります。そして全ては想念に衝動を与えるのと同じ要素によって揺り動かされています。丁度、人体の内側の個々の活動がその印象を肉体細胞に残すように、宇宙空間で起るあらゆる活動はエーテルの細胞単位に印象を残すのです。それは形のイメージではなく、振動としてです。

【解説】

本文で指摘するように想念波動を伝える媒体として古来から「エーテル」という概念がありましたが、ここではそのエーテルについて、従来の静止した媒体ではないことが明らかにされています。宇宙自体は活動的であるとされて来ましたが、その活動がそれらエーテルの構成要素に印象を与えること、またその印象は振動である等のエッセンスが述べられています。

想念を生み出す衝動、即ち、言語に表わされる以前の意思やアイデアが重要であり、それらがいわば、「因」となって具体化した結果が生まれる訳です。これら各過程において、静止している期間は無く、各々が活動的な営みを送っていることになります。その基本的な印象の正体は衝動（振動）であり、従来言われているような画像イメージではないと言っています。

何かを行いたいとする衝動こそが力を持っている訳で、高品位なそれら衝動を如何に多く取り入れられるかが生活を生き生きしたものに出来るかの決め手になります。

326 We have called this accumulated data memory. And the Universal Memory is compiled from all individualized memories. So it is quite plausible to assume that a true sensitive, or one who is alerted to all phases of life, can recall the events of ten thousand years past, just as readily as he is able to recall the events of his childhood. By carefully observing the trend of sequences, he can predict what will take place fifty years from today from a careful evaluation of past events. The law of relativity demands certain results, or actions of balance, which are determined by the original motion.

326 私達はこの蓄積されたデータを記憶と呼んでいます。そして宇宙的記憶は全ての個別の記憶から編纂されています。ですから、真に敏感な人、即ち全ての生命の側面に対し鋭敏な者は、あたかもいつでも自分の子供時代の出来事を思い出すことが出来るように、過去1万年の出来事を思い出すことが出来るとするのは、極めてもっともなことなのです。過去の一連の出来事の傾向を注意深く観察することによって、その者は今日から50年後に何が起るかを予想出来るのです。相関性の法則はそのままの運動によって決定づけられたある種の結果、即ちバランスの行動を要求するからです。

【解説】

個々の行動の記憶はエーテルと称される宇宙の細胞素子に振動として記憶され、その記憶を感じ取ることによって私達は宇宙全体の過去1万年に遡る歴史を知ることが出来ると解説されています。

「宇宙が記憶する」ということは、もし誤った行動が継続される場合、宇宙自体がいつの日か、その代償を要求する事態を創り出すことは容易に理解できます。戦後、数多くの大型台風が来襲したこと、古代の文明が海中に没したこと等、まさに本文で言う、自然がもたらす「バランスの行動」の結果であると言えるでしょう。

人についても同様で、各人が日々、どのような想念を発し、どのような行動を取って来たかが、宇宙に記憶されるということになります。各々の想念振動がそのまま宇宙空間の一部に保存される結果、それらの空間がその振動により力を帯びて物事を創り出す力を得るものと思われれます。良い想念が良い結果を、誤った想念が良くない結果をもたらす訳です。大変、簡単な原理なのですが、私達はこの空間の中にこれからの世の中を変える大きな力が備わっていることに気付く必要があるのです。

327 Let us digress for a moment and discuss hypnotism briefly. Much publicity has been given lately to the practice of hypnotism for the purpose of recalling past lives. Many believe that by using this means, they can send the subconscious back to read the Book of Memory. But what does hypnotism really do?

327 少しの間、脇道に入って催眠術について簡単に議論しましょう。最近では過去生を思い起こす目的による催眠術の実施について多くの宣伝がなされています。多くの人々がこの手法を用いることで、潜在意識を記憶の書を読みを送り出すことが出来ると信じています。しかし、催眠術は実際には何を行っているのでしょうか。

【解説】

自分の過去を知る為に、他人の力を借り、しかもその間の記憶を持たない催眠術には多くの問題があります。術者の命令に従うことは、自らの自主性や主体性を弱めることになり、危険だと言うことは本項でも何度か出て来ています。

一般に興味本位から、あるいは手取り早く成果を得たいと思うあまり、能力者に身を預けることは正しい道ではありません。自分が歩いて来た道を過去生にまで遡って知ろうとする本来の意味は、自分をよく理解しようとする気持から出ていることですが、その課題は自分自身で取組むべき課題であり、他人に任せることは出来ません。極めて個人的な内容と言うべきでしょう。

催眠術は本人の意思を弱め、術者への依存性を高めることになる為、仮に結果が良かったとしても自ら開拓したものでなく、仮に催眠時の体験が術後も覚えていたとしても催眠術下の一時的な体験でしかありません。

現実には、マスコミを通じて、大衆には多くの催眠術が掛けられているのかも知れません。大衆をコントロールしようとする勢力はテレビの宣伝や特定のニュースを流すことで、大衆を自らの思う通りに動かそうとしているのかも知れませんので、注意が必要です。

328 In order for anyone to be hypnotized, he must voluntarily give up his will to the will of the hypnotist. This can be extremely dangerous if repeated too often, for the will of the individual is weakened. The sense-mind is stilled by hypnotism, and thereby opened to suggestions from the operator. The sensory reactions are so subdued that you can suggest to a hypnotized person that ammonia smells like essence of roses, actually holding a bottle of it close enough for him to take deep breaths. Under hypnosis the person will insist the aroma is pleasing, yet you will find that it is impossible not to recoil from the pungency of ammonia fumes while in a natural state.

328 誰でも催眠術にかかる為には、その者は自らの意思を催眠術者の意思に委ねなければなりません。これは頻繁に繰返された場合、極めて危険になり得ます。何故なら、その個人の意思は弱められるからです。感覚心が催眠術によって鎮められ、それによって操作者からの提案に心を開きます。感覚の反応があまりに抑制されている為、催眠術にかけられている人物に実際にビンを手を持って鼻に深呼吸させる程近づけて、アンモニアの臭いをバラの精油だと暗示することも出来ます。催眠術下では、その人はその香りは心地よいと主張するでしょうが、自然の状態ではアンモニア蒸気の刺激からは尻込みしないで居られないのです。

【解説】

他人を支配する手法として催眠術があり、現代風に言えば、マインドコントロールとも言うことが出来ます。政治家のカリスマ的な演説をはじめ、大衆を自分の意のままにしようとする勢力も多いものと思われれます。

問題は、被術者が自分の意思を術者に委ねてしまうことで、その術者の言うなりになることで、自分を見失ってしまうことでしょう。ひとたび、自分を見失った場合には、本人は再び自分を取り戻すのに莫大な時間を要することになります。

催眠術にかかっている者は、その間の記憶は無いようですし、そもそもどのようにしてその体験が可能となったか等、知る由もありません。従って、仮に素晴らしく、或いは気分の良い体験を持ったとしても、それらをどのようにして得たかについて記憶が無い為、後日、再現も出来ない訳です。

全くの個人的見解ですが、催眠術を指向する人は表情に生き生きさは感じられず、目が輝いているような人はいないように思っています。野生動物と同様、人間についても目の輝いている存在で有り続けたいと思っています。

329 The so-called memories revealed while under hypnosis are usually due to one of two conditions. One, it is possible for the hypnotist unknowingly to suggest personal experience he has had to your mind; or you may receive strong thoughts pertaining to something he has seen or read that has impressed itself deeply upon his consciousness. Two, you may merely be recalling an incident that happened to you, which your sense-mind had forgotten; or it may be some information you read or heard in early childhood. We would be astounded at the information stored in our memories in this fashion.

329 催眠術の下で判明したいわゆる記憶とは、普通は二つの内、いずれかの条件によるものです。一つは催眠術者が知らずに自分の個人的な体験を貴方の心に暗示している可能性がありますし、あるいは貴方が催眠術者が自分の意識に深く印象づけられた何かを見たり、読んだことに関連した強い想念を受信した場合があります。二番目は、貴方が貴方の感覚心が忘れてしまっていた貴方に起った出来事を単に思い出しているだけなのかも知れませんが、或いは貴方が幼児期に見聞きした何かの情報であるかも知れません。私達はこのようにして私達の記憶が貯えられていることに対して、仰天することでしょう。

【解説】

催眠術に関する本項をはじめとする一連の記述から、当時、米国において盛んに催眠術が取り入れられていたことがわかります。また、UFO遭遇事件に対しても詳細を覚えていない体験者に催眠術をかけて、その事件の全容を知ろうとする試みも多く行われてきました。

一方ではエドガー・ケーシーの事例のように、催眠状態になったはじめて何らかの人格が出現して過去の出来事の詳細や未来に起る出来事を予言するような事例もあります。しかし、このような本人が覚醒していない状態下で本人から発せられる情報はその出所が明確でなく、その内容の真偽は別にして、私としては問題があると考えています。私達が目指したいのは、自らが覚醒している状態で、そのフィーリング（感じ）を感受し、内容を察知することだと思っています。また、同様に催眠術師に対しても私達は十分警戒した方が良く考えているところです。

330 Only outstanding events in our lives are retained in our active memory files. Anyone can remember important happenings dating back to childhood; but, unless something momentous occurred on that day, can you remember the details of what happened to you one year ago today? Or, for that matter, can you recall every detail of a month ago today? Yet, these details were itemized and catalogued in your memory, and can be recalled.

330 私達の生活の中の目立った出来事だけが私達の活動状態の記憶のファイルに保持されています。誰でも子供時代に遡って重要な出来事を思い出すことは出来ます。しかし、何か重大な事がその日に起らない限り、一年前の今日、貴方に起った事柄の詳細を覚えていられるでしょうか。あるいはその件について一ヶ月前の今日の細かい個々の事柄を覚えていられるでしょうか。しかしそれでも、これらの詳細は貴方の記憶の中に箇条書きされ、分類されており、思い起こすことが可能なのです。

【解説】

振動あるいは波動というものが記憶の形態であることは以前の本講座（159）「占有者から受け取った振動を染み込ませており、肉体の細胞も個々の創造物から受け取った記憶を運ぶのです。」にも述べられていました。物理的に見ると水面を行く波紋は一様な波の輪が外側に向かって拡がって行くだけですが、記憶の波動はもう少し複雑なものかと思っています。丁度、様々な色調が全て3原色の色の波動の合成として分解できるように、記憶の波動も様々な要素の波動の組み合わせから成り立っているのかも知れません。

私達の想念が波動であるとした場合にも、それらは様々な周波数の波に分解され、七色の虹のように様々なスペクトルに分解することが出来ることとなります。

また一方では、これら想念が記憶されることについては、何処かにそれらスペクトルの構成要素が整然と記録されるような仕組みがあるのかも知れません。以上は根拠の無い全くの私の想像でしかありませんが、学生時代の分子構造論では電子のスピン軌道の話しが盛んでしたし、細胞を構成する分子や原子にその記憶の格納場所があることも容易に想定されます。

331 Lying dormant through the years may be a memory involving some incident (either major or minor), that happened to your parents or to a neighbor, and which was discussed in your presence when you were very young. When a suggestion relative to any of these long-forgotten memories is given under hypnosis, they became readily accessible to us; for everything we have ever read, or heard, or seen, is stored in the mind.

331 貴方がとても小さい頃、貴方の居る前で貴方の両親か隣人に起った（大きい小さいかのいずれかの）何かの出来事に関連したある記憶が何年も休眠していたのです。催眠術下でこれら長い間忘れられていたものに関して暗示が与えられ、それらが私達に容易に接することが出来るようになります。何故なら、私達が読み、聞き、見たもの全ては心の中に貯えられるからです。

【解説】

記憶が大切であることは言う間でもありません。認知症の人にとって、わずかに前に体験したことが思い出せない（あるいは記憶されない）為に、生活上大きな支障を来す訳です。一方、その人にとって、自分が若い頃に体験した記憶はそれでも衰えることなく、明瞭に思い出すことが出来ます。これには、若い頃の活発な生命活動が体験を記憶する力が強いことを意味しています。

そもそも自分は何者であるか、何故ここに居るか等、本来、自分の過去生を知っていれば理解できるのですが、その意味ではそれらの境地に到達することは容易ではありません。私達は日常、その他より多くの事柄を覚えなければなりませんし、日々の生活を維持する上で、労働が必要とされており、皆忙しい時間を送っているからです。しかし、自分自身の正体を理解しようとすることは、忘れてはならない一点です。様々な体験を経て人間は成長する訳で、その成長の方向は自分が達成すべき方向と合致していることが望ましい訳です。

本項は催眠術下で術者の暗示をきっかけとしてあたかも自分の過去生を自ら語り出す状況について、その実状を解説している訳で、実際には、催眠術下で起ることは過去生ではなく、自分が子供の頃の体験を思い出しているのに過ぎないとしているのです。過去生に遡る記憶を甦らせるには、催眠術ではダメだと言っているのです。

332 Hypnotism is an exact science. In the hands of a competent person it is unsurpassed for the relief of pain. It has proved invaluable in aiding psychologists and psychiatrists to untangle confused impressions that have been causing mental disturbances to the patient. But it is not a parlor game! When used as such, it can create drastic upheavals in our minds.

332 催眠術はまさしく一つの科学です。力量のある人物の手によれば、痛みの解放にとって催眠術はこの上ない手法です。患者に精神的な動揺をもたらしている混乱した印象類を解きほぐす為、心理学者や精神科医を手助けする上でそれ（訳注：催眠術）は非常に貴重な手法であることが明らかにされて来ました。しかし、それは室内ゲームではありません。そのように用いられた場合には、私達の心の中に激烈な地殻変化をもたらす可能性があります。

【解説】

心を支配することの影響は計り知れません。それを他人に委ねることは最も危険な訳です。しかしその一方で、医学や心理学での治療技術としては、非常に有効であると本項では述べられています。

私自身の経験としては、何かの原因で身体の一部に痛みが出た時、決まって行うやり方があります。それで大抵の痛みは消えてしまうのですが、それは自分の身体で痛みを訴えている箇所に、いわば自分の意識を静かに移行して、「何処で痛みの訴えが出ているのか」静かに探るというものです。通常は痛みに対して身体を防御するような気持になりますが、それとは逆に痛みを訴えている細胞群を探しに身体をくまなく巡り、その痛みの声を受け入れ、鎮めようとするものです。

大抵の場合、その結果、痛みは消えてしまうことが多いものですが、それも自分自身で痛みで混乱した身体の一部分(

あるいは心)を鎮める効果を果たしているものと思われます。

このように心の有り様を変化させることは、大変大きな影響を持つ訳で、いたずらに催眠術等を用いることは危険だということになります。これは他のテレパシー実験についても同様で、ゲームとしてテレパシーを取扱うことは良くありません。意識との交流、自身の心と向き合う中で、生涯における各自の体験の一つとして、真面目に取り組むべき訓練であるべきなのです。

333 Why should one delve into such a dangerous medium when he can recall his past without the aid of a hypnotist? When man gets to the eternal care of his real Self, this can be done in a true sense. Then will be revealed to him the many states through which he has passed in development; and the purpose for which the form of man was created. For the first time, he will then realize that he was a witness as one with the Father to all creation; for the story of creation and the part man played in it has been indelibly impressed throughout space. Therefore, since man is the product of space, and he is a Divine Thought in action, he ever strives toward his natural heritage; which is an understanding of the Primal Story.

333 人は催眠術師の助けを必要とせずに自らの過去を思い出すことが出来るにも拘わらず、何故このような危険な媒体を詮索しようとするのでしょうか。人間は彼自身の真の自我による永遠に続く庇護に到達すれば、これは真の意味で為されることになるのです。そうなれば、自分が成長の過程で通過した多くの状態を自らに現すことでしょう。また、その人が創造された目的についてもです。その結果、彼ははじめて自分が全ての創造の父と一つになった目撃証人であったことを自覚することでしょう。何故なら、創造の物語とそこにおける人間が果たす役割は宇宙全体に消えることなく印象付けられているからです。従って、人間が宇宙の産物である以上、また人間が活動する聖なる想念である以上、人は自分の自然の相続財産、即ち原始の物語の理解に向かって努力を続けるのです。

【解説】

自分自身の本当の姿を知る程、各自が真の自我に近付ければ、その後は次々に過去生も明らかになると明言されています。また、同時に自分の何回にもわたる過去生の記憶がよみがえることで、私達自身が宇宙空間の申し子として生きていることを自覚するだろうとしています。

おそらく、様々な星や地域で生きていた自分自身を知れば、私達が宇宙の子供、宇宙から生まれ出ることが理解されるものと思います。また、生まれ変わりについて言えば、それは万物の創造、すなわち、一見、形の無い「無」から形を持つ「有」を生じることであり、それらの過程を間近に見ることになれば、それは本項で言う「創造の目撃証人」そのものになります。

自分自身を理解する過程の中で、実は自分自身の中に宇宙全体にも及ぶ創造のひな形があることに驚くことになりそうです。

334 All knowledge is available to man from the vast sea of thought in which he lives. Out of the billions of thought-rays that radiate from the center of projection of one action, only ten may be intercepted by human intellects; while the rest of the thought-rays will travel on through the universe. Yet, at any time they may be picked up by an individual who is receptive to them. Though all the writings of man be destroyed, a truth once recognized can never be lost; for it has made its impression upon the mind-substance of space, and remains a universal memory. In the ancient teachings these thought patterns, or individualized records of action, have been referred to as the Akashic records; while the Bible speaks of them as the Book of Remembrance.

334 人には自らが住む想念の広大な海から、すべての知識が入手可能なのです。一つの行動の放射の中心から発する何十億もの想念線の中で、人間の知性はわずか10個の想念しか感受しないかも知れません。しかし、その一方では残りの想念線は宇宙空間を進行し続けます。しかも、いつかそれらは感受できる個人によって取り上げられるかも知れません。人間の書いたもの全ては破壊されたとしても、一度理解された真実は決して失われることはありません。何故ならそれは宇宙の心の物質の上に印象づけられ、宇宙的な記憶として残るからです。太古の教えの中では、これらの想念パターンあるいは個々の行動の記録はアカシックレコードと言及して来ており、聖書はそれらを記憶の書と呼んでいます。

【解説】

テレパシー能力を高められれば、私達に書物は不要になるとさえ言えることになります。広大な宇宙の各地で発見された真実は、瞬く間に宇宙の隅々にまで広がって行き、それに同調できる者があれば、その得られた真実を共有することが出来るという訳です。

そういう意味では、私達の想像を超える量の情報が宇宙空間に存在している訳で、私達はひたすら自分の感覚心を鎮めて、自分自身を横切る「妙なる調べ」を受け止めるだけに鋭敏さを磨く必要があるだけです。「Share(分かち合う)」という表現がありますが、想念レベルにおいてはまさに、真実を知った喜びを分かち合うことが日々、行われていることになります。世界の離れた場所で同時期に同じような発明、発見が起ること等、地球の上でも同様な現象が起っているのはその為でしょう。

本項の記述からも分かるように、アカシックレコードなる所に何か特別なルートで到達するようなことはなく、宇宙空間を流れ、空間に存在する想念波を感知することが、それらの太古からの記憶を読み解くことの真実の姿であることが分かります。

335 Inasmuch as all knowledge in the universe is thought vibration or frequency which permeates space, thus creating certain pressures, every form must of necessity exist within these pressures. So if the form is not too firmly encased in a hard shell of personal interest or indifference, it will become a figurative mixing bowl where all thought vibrations can unite and produce concrete knowledge of a universal nature.

335 宇宙における全ての知識が宇宙を透過し、ある種の圧力を創り出す振動ないしは周波数である限りは、あらゆる形有るものはその必要性から、これらの圧力の中でも存在しているに違いありません。ですから、その形有るものは、個人的な関心や無関心の硬い殻の中に堅固に包まれていない限り、それは比喩的に言えば、全ての想念振動が結合し、一つの宇宙的性質を持つ揺るぎない知識を作り出せる混合用のボウルになることでしょう。

【解説】

これまで私達は、想念は波動・振動であると教わって来ました。実はその振動は私達の体内の諸細胞に振動を伝え、細胞群はこれら各種の想念それぞれの振動圧力に絶えずさらされているという訳です。

即ち、どのような想念に関心があり、それらを取り込むことによって、私達の細胞自体がそれらを互いに融合させるようなことになり、結局は、その人の特徴、人柄を形づくることになるのでしょう。またその数多くの想念波動が融合して知識となると本項では言っているのです。

想念自体には物事を創造する力があるとされていますが、その想念を常に抱くことによって、私達の身体は絶えずその影響を受けており、身体活動全てに想念影響が関わっていることが分かります。本項は自分自身が自ら取り入れ、或いは感心を持つ想念と密接な関係があり、各々の個性の成り立ちを示しているように思われます。

336 True clairvoyance is merely the ability to direct the attention of the real Self without producing a state of concentration, and to relax the sense-mind of the body to the point where it is open and sensitive to all impressions. The recognition of any particular personal feeling will automatically interfere with the incoming vibration. If, at the moment of contact with a specific impression, the recipient allows his interest to dwell upon it impersonally, all knowledge pertaining to that impression will reveal itself; because the facts are related and cannot be separated.

336 真の透視とは集中状態を作り出すことなく真の自我の注目を導き肉体の感覚心を開放的であらゆる印象に鋭敏な所までリラックスさせる能力に過ぎません。如何なる個人的なフィーリングもそれが感知された場合には、自動的に流入する振動を妨げてしまいます。もし、ある特定の印象と接触した瞬間、受信者が自らの関心を非個人的にそこに宿ることを許すなら、その印象に関連する全ての知識が自ずと明らかになるでしょう。何故なら、事実は相互に関連しており、引き離されないからです。

【解説】

何か遠くのことが分ってしまう、いわゆる「透視」能力の実態について解説しています。この場合、透視する場所について何か特別に意識を移行させるようなことではなく、印象に附随して存在する様々な情報に触れることで、遠くで起っていることを知ることが出来るとしています。

ここで注目したいのが、「dwell、宿る、住む」という表現です。つまり何かの印象が入った時、私達はそれを公平に受け入れれば、それが持つ様々な情報を知ることが出来る訳ですが、その際、それがどのような印象を持っているかを知る為には、しばしの間、その印象に付き添って、同調する必要があります。つまりはその印象にどのようなものが含まれているかを知る為には、そこにしばしの間、宿る必要があると言っているのです。

つまりは、やって来る印象に対して、せっかちでもいけませんし、個人的な関心をもってはいけない訳ですが、更にはその印象、つまりその印象を発信した本来の人物の言いたかったこと、表現したかったことをじっと理解しようとする気持が必要な訳です。やって来る微妙かつ小さな声に対して、受け入れ、それに寄り添う程の丁寧な対応を取ることで、得られる知識は大きいものがあると言っているのです。

お知らせ [2010-09-16]

今晚から、夏休みの残りを利用して三宅島に渡ります。

その為、申し訳ありませんが、次回のブログ更新は9月21日になる見込みです。

337 Here, again, we are dealing with the law of affinity, which brings all things to fruition. It is this law that impels each different form to draw to itself those chemical elements which will promote its growth and individuality; it is this law that stabilizes activity in all planes of manifestation making a definite analysis possible in any field where we have understanding. And it is only because the laws of the Cosmos are immutable that telepathy, clairvoyance, clairaudience, and kindred phases of development can be understood. For all so-called prophetic knowledge is nothing more than telepathic deduction. However, due to the fact that thought vibrations travel at such high speed that complete reception is instantaneous, it is rarely recognized as telepathy by the recipient, or by the researchers in the field of thought-transference.

337 ここでも再び私達は親和の法則を取扱っており、その法則はあらゆるものに達成をもたらすものです。個々の形あるものにそれぞれの生長と個性を促進させる化学元素を摂取させようと駆り立てるのはこの法則です。あらゆる創造のレベルにおいて活動を安定化させ、私達が理解するあらゆる分野において明確な分析を可能とするのは、この法則です。テレパシーや透視、透聴そして同類の発達面が理解されるのも、この宇宙の法則が不変であるからに他なりません。何故なら、いわゆる予言的な知識はテレパシーを用いた推論でしかないからです。しかしながら、想念振動はそれほど高速度に移動する為、完全な受信も瞬間的であるという事実から、受信者や想念移動の分野の研究者達によって、それがテレパシーであると認識されることはめったにありません。

【解説】

精妙な法則も、それが理解される為には、その法則が宇宙の隅々の何処にあっても成立する必要がある、同時にあらゆる側面においてより顕著に現れる必要があります。その為には、各法則をより強固で大きな表現に促進する必要があり、その活動が親和の法則だと本項は言っているのです。

それは私達自身にも言えることで、日々身体の各部位を維持・増強する為に食物を摂取することは、表現者として確固たる存在にする為の親和の法則の一環である訳です。創造主がいくら優れたアイデアを持ったとしても、それを具体的に表現する者がなくてはならず、人間は絶えずその期待を担いながら、成長を遂げる道を歩いています。

もちろん、より優れた想念を沸き出させていけば、各元素はそれに同調した身体を作り上げて行くことになります。どのような想念波動を受容するのかは全く私達本人に委ねられている訳ですが、その流れが高速であるが故に、一瞬たりとも警戒を怠らないことが重要となります。

338 For instance, there may have been many cases in which the destruction of a city by flood or earthquake has been predicted by those alerted to the chemical changes that were taking place in nature. Often, these prophecies proved correct. Yet, information obtained by this means is not generally accepted as authentic, and is usually ignored by those in a position to avert the disaster or alleviate the suffering.

338 例えば、自然界で起っている化学変化に注意を喚起された人達によって、洪水や地震によって都市が破壊されることが予知されて来た多くの事例があります。しばしば、これらの予言が正しかったことが証明されて来ました。それでもこの手法で得られた情報は、一般的に信頼出来るものとは受け取られず、大抵は災害を回避し、被害を緩和する立場にある人達によって無視されて来ました。

【解説】

微妙な気象の異変や地殻の変動を感じ取り、異常を知らせる例は過去にもありました。これらは通常、科学的データがないまま、本人だけが感じ取っていたために、根拠の無い「予言」として取扱われて来た訳です。

しかし、テレパシー能力が発揮され、私達を取り巻く環境の変化に鋭敏になるにつれて、異常さについて私達は多くを感じ取ることが出来るようになるものと思われれます。

今日では、地震について、地殻の圧力の増加から地下深くの岩盤に亀裂が入り、内部のラドン等のガス状元素が地表に出て来ることが知られていますし、阪神大震災においては空の発光現象も見られたとの報告を聞いたことがあります。

これら地殻の変動については、本項で書かれた1958年当時から比べて、研究は相当進んでいるようですが、当時、著者が既に十分な知識を持っていたことには驚くばかりです。

339 We must remember that thought, or conscious knowledge, knows no limitation for the well-balanced, unfettered individual; and we must also remember that every action, and every mechanical stress of pressure, is the source of a radiated vibratory wave. An example familiar to us all is the knowledge required by a civil engineer to ascertain the stability of any mass of substance. He must be thoroughly conversant with mathematics, stress analysis, weight loads, pressures, etc. He must know the tensile strength of the materials used, the weights of those materials, and be able to estimate the pressure to be exerted upon the finished structure. He is, of course, dealing with established facts that have been acquired through years of experience and research; and given all the data, he can deduce the stability of any specific construction.

339 良くバランスがとれ、自由に開放された個人においては、想念や意識上の知識には際限がないことを覚えておく必要があります。また、私達はあらゆる行動とあらゆる機械的圧力の力点が振動波の源泉であることも覚えておく必要があります。私達に馴染みのある例として、物体の安定性を確かめる為に土木技術者が必要とする知識があります。彼は数学や応力解析、荷重負荷や圧力等々に完全に精通している必要がありますし、完成した構造物に加わる圧力を推定することが出来ます。彼はもちろん、またこれまでの何年もの経験や研究を通じて得られた確定した事実を取扱うことも出来ますし、すべてのデータが与えられれば、どのような特定の建築物でも、その安定性を推定することが出来ます。

【解説】

日本では少し前に耐震設計の問題が発覚しましたが、それ程、構造計算の世界は複雑で専門的です。文中、著者や建築物の構造設計の内容について実に具体的に記述しており、建築の分野でも正確な知識を持っていたことが分かります。

しかし、本項以降の流れを後日、ご覧になれば分かるように、著者が言わんとしていたことは、土木技術についての話題ではありません。むしろ、主眼は冒頭にさり気なく書かれているように、「良くバランスがとれ、自由に開放された」状態が大切であることを伝えることにありました。

あらゆる発信源からの印象波を感受するためには、先ずは広く受け入れられる態勢が必要であり、既存の知識や概念に捕われることなく、先ずはその印象に寄り添うことが必要な訳で、そうする中で関連する知識や情報が伝わって来ることは既に述べられているところです。

340 Yet no civil engineer, nor geologist, nor seismologist can predict earthquakes. Why? For the simple reason they are not in possession of all the facts relating to the earth. Yet these facts exist as absolute frequency data! For if they did not exist, there would be no cause to produce the eventual effect.

340 それでも土木技術者も地質学者、地震学者も地震を予測することは出来ません。何故でしょうか。それは彼らが地球に関しての全ての事実を保有していないという簡単な理由からです。しかしこれらの事実は絶対頻度データ（訳注：このfrequencyの訳語については迷う部分もありますが、ここでは頻度としました。「絶対頻度」とは過去にどれくらいの頻度で地震があったかを示すものだと考えます。）として存在しています。何故なら、もしそれらが存在していないとすれば、そのいつかは起る結果（訳注：地震のこと）を作り出す原因が無くなることになるからです。

【解説】

先日、機会があって三宅島に渡り、数日を過ごすことが出来ました。三宅島はご存知のように2000年6月に大噴火が起り、9月には全島避難が実施され、ようやく2005年に避難解除がなされたところです。あれから10年が経過しており、帰還から5年が経っているのですが、今も立入り禁止地区があるなど、火山ガスが少量ながら発生している状況でした。

島を案内してもらった中で、実はこの三宅島はおおよそ20年に1度の噴火が起っており、かつての溶岩流出の跡や海岸付近の噴火跡を見ることが出来ました。島の海岸寄りの部分の多くは緑豊かな所そのままですが、中央の山（雄山）付近は立ち枯れた高木の裸の幹や、かつての牧草地は緑が無い灰色の山斜面となっており、噴火の威力を目の当たりにしました。

それでも小鳥達はにぎやかにさえずっており、三宅の豊かな自然を満喫しているようでした。

とりわけ印象に残ったのは、鉄が最も火山ガスに弱い材質であることでした。酸性の火山ガスによって樹木は枯れてしましますが、一方では幹は葉や皮を落としてもなお、その場で立ち続けます。しかし、鉄製品はすべて錆落ちており、跡形もありません。樹木や石等、自然界のものに比較して人間が創ったものが如何にもろいものかを知った次第です。

341 For instance, geologists have discovered that a great earth fault lies along the Pacific coast of America, extending from Alaska to Mexico, and beyond. Varying pressures are being exerted here, and the earth around the fault has a certain strength of cohesion; but accurate readings of this are not ascertainable by the use of present day instruments. So although geologists know that this portion of the earth's surface is destined to move from time to time, producing earthquakes, because of their limited knowledge of actual conditions they cannot predict a definite date for these disturbances, nor can they estimate the severity to be expected.

341 例えば、地質学者はアメリカ大平洋岸に沿ってアラスカからメキシコ、更に遠くまで一つの巨大な断層があることを発見しています。変動する圧力がここで働き、また断層の周囲の地殻はある一定程度の結合力を持っています。しかし、この正確な値の読み値は今日の計器を用いては確かめることは出来ません。そのため地質学者はこの部分の地表は地震を発生させ、時折動く運命にあることは知っていますが、現実状態に関する彼らの限られた知識の為に、彼らはこれらの変動の正確な日付を予想したり、予期すべき激しさについて予測することが出来ません。

【解説】

米国地質調査所 (USGS) は全地球規模で現在何処にどの程度の地震が起っているかを示した地図を公表しています (<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/recenteqsww/>)。それによれば、本項で述べられているように、太平洋の周囲を地震多発地帯が取り囲んでいることが分かります。日本やインドネシア等、いわゆる地震国もその断層の上にあるという訳です。

地球全体がどのような動きをしているのかは、地球の自転速度や太陽系としての要因も大きいものと思われれます。地震や火山噴火は皆、地球内部の大きな活動の側面なのですが、とかく私達は各々の現象を個別のものと思いがちです。大地を揺らす大きなパワーがどのような原因で発生するかは想像もつきませんが、地表内部に大きな圧力と熱が存在し、私達はそのわずかな地表に一時的に住みついている生き物なのかも知れません。先に訪れた三宅島で噴火の跡に立った時、それはまさしく創造主がかつての創造物を壊して、新たに万物を創造する現場に立っているような何か神聖な印象を感じがしました。山を信仰する古来の人々の心情も理解出来たように思います。

342 However, complete knowledge of this, or any other circumstance, is possible through the feeling channel. When a person is sensitive enough to interpret the vibrations emanating from the earth, this information can be received as easily as a thought from another human being. They will then be able to estimate the pressures being exerted, and deduce the natural results to follow. The tiny atoms manifesting in the strata of the earth will share this knowledge with those capable of intercepting it.

342 しかしながら、このこと、あるいはその他の環境に関する完璧な知識はフィーリングの経路を通じて入手可能なのです。人が地球から発せられている振動を解釈できるほどに鋭敏であれば、この情報は他の人間からの想念と同様に容易に受信可能です。そうなれば加わっている圧力を予測し、来るべき自然の結末を推論することも出来るでしょう。地球の地層の中で創造を担っている微小な原子達はそれを傍受できる者にこの知識を分ち与えてくれることでしょう。

【解説】

私達人間はリンゴの皮のような地球の表層に生きているに過ぎません。時折起るこの地表の変動は地震や火山の噴火活動によって人間の住処を壊滅させる程の被害を与えたこともありました。しかし、このような大地の危難を事前に察知して難を逃れたものも多い筈です。地震の前には地中に住む多くの生き物達の異常行動も報告されています。

本文中にあるように、大地の奥深くの地層を構成する原子の発する印象を察知することが出来れば、私達も容易に地球内部で起きている状況を知ることが出来る筈です。しかし、その為にはそれら原子達と「仲良くなる」ことが必要です。先日、三宅島で溶岩を見た際も、その由来が地下深く高温で融けた状態から地表に噴き上がって来たこと等、大地の奥深くの活動の関連として見る必要があります。

また、振り返って、地上の砂や小石を見てもその由来は地表ではなく、大地の奥深く高温で万物が文字通り融合した、まさに「創造のるつぼ」の中に起源を持つことに気がきます。

343 By observing the trend of human behavior during a change in atmospheric conditions, we have positive proof that chemical action does affect the cell consciousness. When the barometer drops a few degrees, many human mentalities drop with it. Any change in atmospheric pressures, such as those found at different elevations above sea level, influence the cell action of the body. This is noticeable to anyone, for the change of a few thousand feet will affect us all to some degree. As we climb higher, our heart action and respiration are speeded up, and at high altitudes physical exertion is an effort until the body cells make the necessary adjustment to the lighter atmospheric pressure with its accompanying lack of oxygen. Some people are so sensitive to this, that their bodies are aware of a change of only a few hundred feet.

343 大気の状態変化の間の人間の行動傾向を観察した結果、私達は化学作用は細胞の意識に影響を与えるという明確な証拠を得ています。気圧計が数度降下した時にも、多くの人間の思考状態はそれと一緒に低下します。大気圧のどんな変化も例えば海水面から異なる高度にある場合に肉体細胞の活動に影響を与えます。これは誰でも気付くことで数千フィートの変化は私達全てに影響を与えることでしょう。私達がより高く登るにつれて、私達の心臓の鼓動と呼吸は早まりますし、高い標高での肉体の消耗作用は肉体細胞が酸素欠乏を伴う薄い大気に馴れるまでの努力なのです。ある人々はこれに対し大変鋭敏で、彼らの肉体はわずか数百フィートの変化にも気付きます。

【解説】

鈍感な人間と言えどもある程度以上の外界の変化に対しては、その精神状態も影響されるという訳です。この典型例は日の出来光に対するものでしょう。今迄暗かった空が次第に白み始め、東の地平線や水平線から橙色の太陽が顔を出す時、私達は自ずと偉大な太陽を崇める気持になります。古来からの太陽信仰の片鱗は現代の人々の中にも宿っています。

一方、暗く厚い雲が空を覆い、冷たい雨が降る日はよほど、注意していないと気分も低下しがちです。私達はこのように周囲の環境からも影響を受けがちなのです。しかし、雨は植物達にとって必要不可欠な生きる糧であり、日照りに比較すれば喜ばしいものでしょう。同じ現象を暗い側面からみて影響を受けるのか、プラスの面の意義を見つけてその現象の価値を見出すのか、どちらを選ぶかは全くの本人の自由な訳ですが、多くの昆虫や植物を観察すれば、彼らは皆、これら自然の変化に柔軟に対応している様子が分かります。

344 We find that fog and cloudy weather produce a sense of mental depression in many people. Even the direction at which the sun's rays strike the earth will influence us all to some degree. During the winter our natural ability is slowed down; but with the first promise of spring a feeling of exhilaration surges through our body cells, and we take a renewed interest in life. Seismological disturbances produce a general feeling of restlessness; electrical storms affect the nervous system. Examples of this chemical action upon the cell consciousness are almost endless.

344 私達は霧や曇りの天気は多くの人達に憂鬱な感じを作り出すことに気付いています。太陽の光線が地球に当る方向でさえも、私達全てに何らかの影響を与えることでしょう。冬の間、私達の自然の活動は低下しますが、春のきざしとともに快活さが私達の肉体細胞の中に沸き上がり、私達は生命に対する復活した関心を持つのです。地震の揺れは一般的な不安のフィーリングを作り出しますし、電氣的嵐は神経系に影響を与えます。細胞意識に及ぼすこの化学作用の例はほとんど際限が無いくらいです。

【解説】

私達の多くは環境に支配されていると言っても良いでしょう。中でも暑さ寒さ、晴天曇天は私達の精神活動に大きな影響を与えます。しかし、ここで考えたいのは、外界が私達の主人公であってはならないことです。以前にも書きましたが、雨の空港から飛び立つ飛行機に乗って分かることは、数分間の上昇で私達は例え下界が薄暗い雨の天気であっても、その上空の雲の上は、青空が広がり、晴れ渡っていることです。

問題は一見して暗い空の下で生きていても、その環境は一時的であり、宇宙本来は澄み渡っている世界であることを自覚しているかどうかです。よく行く山で、春から初夏に掛けてウグイスをはじめとする多くの野鳥の声を聞きます。彼らは実に率直に待ちわびた季節の訪れを喜びます。生命の新しい息吹い調和したさえずりは創造物の祝福に感謝しているかのようです。

345 Perhaps you have taken these reactions as a matter of course, attributing them to psychological rather than physiological sources. But the fact is, we cannot separate the two phases of expression; both are the result of chemical action. Any phenomena of sensation, whether it be a feeling of great joy because the sun is shining, or a pain in the stomach caused by eating some food for which the cells had no affinity, is the product of chemical reaction. In any channel of awareness, we cannot get away from the fact that we are living in a chemical universe. It matters little whether those chemicals manifest as a force, or as a substance.

345 おそらく貴方はこれらの現象を当然のごとく生理的というよりは心理的な源泉に起因する反応だと思って来たことでしょう。しかし、事実は私達はこの二つの表現の側面を分離することは出来ないのです。両者は共に化学反応の結果です。如何なる感情の現象も、それが太陽が輝いているが故の大いなる喜びの感じであっても、細胞に親和性が無く摂った食物によって胃に生じた痛みであっても、それは化学反応の所産なのです。如何なる知覚の経路であっても私達が化学的宇宙に生きている事実から離れることは出来ません。それらの化学物質が力として現れようと、物質として現れようと大差はありません。

セロトニンやドーパミン等の物質が、私達の精神面について大きな影響力を持っていることは今日の医学でも広く知られるようになって来ています。また、一方では極端な例として、覚醒剤等の違法薬物への依存が現代社会の大きな問題となっていることも周知の通りです。このように、私達は精神面でもいわゆる化学物質との深いつながりを持っている訳です。

ここでは、「化学的宇宙」という著者の表現の意図について考えることに意義があると考えています。即ち、もっぱら天体間の引力や天体の速度という物理的なものとして、著者や宇宙を捉えてはいないことに注目すべきです。また、一方では宇宙空間を創造主の住む神聖な空間として崇め、非物質的な側面のみを重視しているのでもありません。

宇宙空間に活動する原子や分子達の具体的な作用を直視して、それらの作用（反応）が創造物と混然一体となって存在する物質（原子）と精神（意識）とが相互に作用し合う場として宇宙を捉えていることが重要なのです。

346 It is realized that those trained to use superficial knowledge and book-learning will continue to deem such truths as fantasy. Those who believe that all problems must be solved either with pencil and paper, or by physical experiments, will find it difficult to accept the theory of a universal language that is capable of revealing all existing knowledge.

346 上辺だけの知識や机上の学問を用いるよう訓練された人達は、今後もこれらの真実を空想だと見なすだろうことは分かっています。あらゆる問題が紙と鉛筆、或いは物理的実験のいずれかによって解かれる筈だと信じている者は、存在する知識の全てを明かす可能性がある宇宙普遍の言語についての理論を受け入れるのは困難なことでしょう。

【解説】

これまで学問の世界で取扱われて来た分野を否定するものではなく、それらの分野は全体のごく一部に過ぎないという訳です。実際には多くの創造物ははるかに容易に真理を体得し、彼らの日常生活に応用しているということです。

その豊富な知識をもたらすのが本講座で取扱っている宇宙普遍の言語、テレパシーであると強調しています。テレパシーによる情報は、学問の世界で尊ばれる手順の妥当性や少しずつの証明の積み重ねではなく、結果が直接伝えられますし、私達はそれを実生活で活用するだけです。一方、学術の世界では、誰が初めて発見したかが名誉のこととされ、研究者は他人よりいち早く真理を証明する為に、懸命な日々を送っているのです。

しかし、人間の生き方としては、もっと広い宇宙観を持って、不可視な宇宙の源泉から来るこれらの印象を受け入れる心構えが大切ではないかと考えています。確かに既存の学問の成果として今日の社会基盤があることは確かですが、私達は更に発展する為には、オープンで柔軟な宇宙への関心が必要です。

347 To explain fully this universal force and its workings would be impossible: for it would demand a knowledge of Primal Cause. But whatever method was used to throw the Cosmic Force of the Universe out of its natural state of equilibrium, and set it into primal concentration or chemicalization, was also the beginning of thought.

347 この宇宙普遍の力とその働きを完全に説明しようとするのは困難でしょう。何故なら、それには原始の因の知識が必要とされるからです。しかし、自然の平衡状態から宇宙空間の宇宙的な力を取り出して、それを原始の密度状態、即ち化学処理に作用させる為に、どのような方法が用いられるにせよ、それはまた想念のはじまりでもあったのです。

【解説】

聖書にあるイエスの奇跡等、物質に直接働き掛けて、通常では起らないことを実現させる際のことを本項は示唆しているように思います。化学の分野ではある状態（仮に「A」とする）から別の状態（「B」）に移行する潜在力（言わば位置エネルギーの差）はあっても、AからBに移行する為には、山を越える必要があり、一般的には越える為のエネルギーを必要とします。原料（A）に一時的に熱を加えてはじめて反応が進み、後は自然に燃焼が進んで反応物（B）が出来るのもその一例です。

この場合、Aは自然の平衡状態にあって安定しており、通常の条件では反応しない訳で、それを何らかの方法で一時的にエネルギーの高い状態に引き上げる作用があってはじめて反応が進むこととなります。本項で言う「自然の平衡状態」が示すイメージはこのようなものではないかと思っています。

本項ではその具体的な方法については言及していませんが、それが想念作用の一つであることを明言している点にも注意して置きたいところです。

348 Science, in its investigation of telepathy, has come to the conclusion that it is the result of a refinement of the sense organs, whereby they are able to pick up light or sound vibrations from a distance. But let us take a case in particular. A mental picture appeared to me of a conference between two individuals with whom I was acquainted. I saw the room in which the meeting was taking place very clearly, and the voices of both men were as distinct as if they were standing beside me. There seemed to be the greatest friendliness between them, and their transaction appeared to be of the most sincere and amiable character. But I became aware that a deception was being premeditated by one of the men.

348 科学はテレパシーを調査した結果、それが感覚器官を純化させ、遠方からの光や音を捕捉できるようになった結果であるとの結論に達しました。しかし、ある事例を特に取り上げましょう。私に私が知り合った二人の人物の間の協議の場面の映像が現れたのです。私にはその会合がもたれた部屋がとてもはっきり見えましたし、二人の男の声もあたかも二人が私のそばにいるように明確でした。彼らの間にはこの上ない友好的な雰囲気があり、彼らのやりとりは大変誠実で好意的な性質のものでした。しかし、私は彼らの内一人によってある策略が企てられていることに気付いたのです。

【解説】

本項はテレパシーの本質が既存の感覚器官の発達によるものとは無縁であることを示唆しています。とかく私達は目を凝らして、耳を澄ませて物事の本質を探ろうとしますが、それではテレパシーの開発は出来ないと言っているのです。本来のテレパシーは別の所、即ち、フィーリングという既存の感覚器官とは独立した経路から来ると言っているのです。

本文では著者アダムスキー氏自身の体験として、とても明瞭なイメージを得た事例を紹介しています。もちろん、著者に備わったテレパシー能力の一例なのですが、注目したいのは、そのイメージ出現の理由です。この場合、著者が大変重要だと感じる出来事についてのイメージであったことが重要だと考えます。つまり、知人の一人がまさに危険な目に遭っていることを著者が遠方から感じ取り、具体的な状況を把握していたという訳です。

自分が大事にしているものは、例え遠く離れていてもその状況を絶えず気にかけることは、「星の王子様」に出て来る王子が大切にしていた花の場合によく似ています。私達もテレパシーを応用する先は、このようなことでありたいものです。

349 Why did this idea come to me? I received the impression because the man in question, although deliberately saying one thing, was unconsciously broadcasting the scheme he had in mind, The other man, depending upon his auditory organs for enlightenment, believed the words he heard spoken. But because I was able to receive the transaction through the feeling channel, I discovered the deception. I revealed this impression to the intended victim, enabling him to take the necessary steps to guard against the fraud.

349 何故このアイデアが私にやって来たのでしょうか。問題の男が巧妙に一つのことを言っているにも拘わらず、無意識に自らの心の中に持っている企てを発信していた為、私はその印象を受信したのです。もう一方の男は光明を求めるのに自らの聴覚器官に依存していたため、その男が話したのを聞いた言葉を信じていました。しかし、私はフィーリングの経路を通じて両者のやりとりを受信出来ていた為、その策略を発見したのです。私はこの印象を意図された犠牲者に明かし、彼にその詐欺に対して身を守る必要なステップを取らせることが出来ました。

【解説】

これまで私達は目や耳を頼りに生きて来ました。しかし、それらから来る情報では大事なことは得られないことを本項では述べています。とりわけ、相手が心の奥底で抱いていることについては、直接その内容を把握するのに印象（フィーリング）を用いることだと言っています。

この相手、本項で言うような悪人ばかりを対象とするのでは、世の中悲しすぎます。大切なのは創造主を心底理解しようとするところにあるでしょう。印象を感受する為には心にゆとりがなくならず、常に自らの心の状況を監視して、状態を常に把握する必要があります。その上でやって来る微妙な印象を鋭敏にキャッチすることになります。

よく言われることですが、それら印象を受け入れる為には、心の主人公であるエゴは小さく謙虚になってやって来る印象を快く受け入れる必要があります。丁度、宿屋にお客さまがいらっしゃるのと同様、宿の主人は暖かくお迎えすべきことは言うまでもありません。「アイデア」や「発想」等、様々に表現される印象ですが、各人が各々の必要な場面で、創造主が支援してくれるのが、この印象という経路です。

350 What was it that enabled me to receive the thought of deception in this particular case? It was not the eyes or ears, for the meeting took place in another city, some distance from me. Was it the brain? No. The brain is merely a transformer and amplifier within the body. While it is true that any vibration striking the body is carried to the brain to be transformed into conscious perception, the actual reception of that vibration does not depend upon the brain, but upon the element of feeling within the nerve plasm of the body. This element is that positive nuclear spark, or soul, of the atoms composing the physical body. So the thought of deception came to me through the feeling channel.

350 この事例で私に策略の想念を受信させたのは何であったのでしょうか。それは目や耳ではありませんでした。何故ならその会合は別の都市、私の所からはかなり離れた場所で行われたからです。それでは頭脳であったでしょうか。いいえ。頭脳は身体の中の変換器や増幅器でしかありません。いかなる振動も頭脳に運ばれ意識的な知覚に変換されることは真実ですが、実際の振動の知覚は頭脳に依存せず、身体の神経原形質の中のフィーリングの要素に依存しています。この要素は肉体を構成しているプラスの核のスパークあるいは魂のことです。ですから策略の想念はそのフィーリングの経路を通じて私にやって来たのです。

【解説】

そもそも「フィーリング」というものに対して、それが何処にあるかについて、本項ではじめてその所在を明らかにしています。元来、「フィーリング」という語彙の中にはfeel（感じる、触れる）という触覚あるいは触感に似たイメージがあります。しかし、アダムスキーは以前、touch（触感）とfeeling（フィーリング）とは異なると述べていましたが、本項からそれらは広い意味で神経細胞の働きに属することが分ったように思います。

即ち、私達が求めるフィーリングは私達の身体各部にはり巡らされた神経細胞が外界から衝突して来る何らかの要素を感知してそれらの情報を頭脳に上げることから実現する訳です。その際、実際に神経細胞のどの部分が働いているかは不明ですが、それは各原子の中の核のスパークと表現される精妙なる活動状態とも関連すると本項では示唆しているのでは。神経細胞は絶えず身体の異常の有無を監視する等、私達にとって頼りになる存在ですが、同時に印象の傍受をも担っています。

351 We have shown earlier how emotions affect not only the brain, but the body as a whole. Every cell composing it reacts to the thought. So in the case of the above mentioned mental picture, the thoughts of deception in the mind of the man produced certain chemical changes in the cells of his body; and impressions from his body cells alone could have been received. However, in this particular instance, the thought actually passed through the brain-amplifier, and therefore created more forceful waves in the mind-element of space. These waves exerted definite pressures around innumerable people, yet they were ignored. One person-myself, in this case-being in a state of receptivity, became aware of this pressure acting upon my body, and allowed the transmission of it to register upon my brain without interruption.

351 私達は以前、どのようにして感情が頭脳だけでなく身体全体に影響を与えるかについてお示しました。身体を構成しているあらゆる細胞が想念に反応するのです。ですから、上述した心の映像の場合、その男の心の中の策略の想念は彼の身体の細胞に何らかの化学変化をもたらしました。ですから彼の肉体細胞からの印象だけでも受信は可能だったのです。しかし、この事例の場合には、その想念は実際に頭脳増幅器を通った為、宇宙空間の心の要素の中により強力な波動を創り出しました。これらの波動は無数の人々の周囲に明らかなる圧力をもたらしましたが、人々は無視したのです。この場合、私一人が感受出来る状態であったため、私の身体に加わるこの圧力に気づき、その圧力を妨害することなく、私の頭脳へ伝え、登録させたのです。

【解説】

ここで通常、私達が「想念」と言っているものには何種類かの段階があるものの、私達を感じる大部分は送信者の頭脳で増幅され発信された、ある意味強烈な力を持った波動ということが分かります。この想念波は「波」である以上、伝える媒体が無くてはなりません。本項でそれを「宇宙空間の心の要素」と表現しています。つまりは私達を取り囲む空間はこれら想念を伝える媒体となっているという訳です。また「心の要素」という表現から、宇宙空間を広大な心、想念を通過させるものとして表現していることも注目したいところです。ある意味、宇宙空間が一つの心として全てを包んでいるということでしょう。

またこのように私達が想念を伝える媒体の中に生きているということは、誰でも他者の想念を捕捉することが出来るということになります。想念自体があらゆるものに作用する以上、つまりは想念を抱くなという意味が分かります。少しでも良質な想念を発することが周囲の人々にとっても自分の周りの環境にとっても極めて大事なことです。

352 It is possible for the sense organs to be so sensitized, or refined, that they are capable of intercepting vibrations from a great distance, or they may receive higher frequency vibrations than can be heard by the normal individual. We are all aware that both our sight and hearing are limited to a very short range, compared to what our scientists know is possible. Yet, occasionally, individuals are born with exceptionally keen sight, or acute hearing; enabling them to see much greater distances, or hear higher or lower pitch frequencies than the average. But these are physical attributes. Two good examples are to be found in the bird and animal kingdoms. The bird, with its microscopic eyes can detect the movement of tiny life forms from high in the air. The silent dog whistle familiar to us all, is pitched too high to be audible to human ears, yet canines respond immediately.

352 感覚器官が鋭敏にされ、あるいは純化されることで遠距離からの振動を傍受したり、普通の人間が聞こえるよりも高い振動数を聴くことができるというのはいり得ることです。私達は皆、私達の視覚や聴覚は私達の科学者が可能だと知っている範囲と比べて大変狭い範囲に限られています。それでも時折、例外的に鋭い視覚や鋭敏な聴覚を持って生まれた人々もあり、はるか遠くが見えたり、平均より低い音律を聴くことができます。しかし、これらは肉体の属性です。二つの良い例が鳥と動物の世界に見出すことができます。鳥はその顕微鏡的な眼で上空高い所から小さな生き物の動きを見抜くことが出来ます。私達皆に馴染みのある無音の犬笛は人間の耳には高過ぎて聞こえませんが、犬達はそれにただちに応答します。

【解説】

よく言われる例として各感覚器官を家の窓に例える話があります。当然のことながら、窓自体が曇っていたり、損傷しては中にいる人間に外の本当の姿を見せることは出来ません。また家という肉体を与えられている人間にとって窓の存在は外の世界を写す大事な経路となっています。与えられた家を長もちさせるには、普段の手入れが大切で、粗末に取扱ってはいけません。

本項はこれら肉体の窓である感覚が唯一のものであるとは言っておらず、印象の経路の方がはるかに重要であるとしていますが、これら既存の感覚についても訓練次第では、あるいは生来的には現状よりはるかに精度が高く、広範囲であることが述べられています。各感覚器官も訓練によってはその鋭敏さを開発発展できるとしてあります。ちなみに人間の眼には1mm四方に約16万個の視細胞があるのに対してタカの視細胞は約100万個と人間の6倍以上の視力があるとのこと、また人間の可聴域が20～20000ヘルツであるのに対し、犬では40～65000ヘルツとされています。

353 Through millions of years of evolution, man is endowed with physical senses and a faculty for reasoning; and he has come to depend solely upon these avenues of perception. But what of nature? Does it possess the faculty of reasoning? Is it endowed with the organs of sight and hearing, taste and smell? Does the tiny seedling germinating in the warm, dark bosom of the earth use recognized sense perceptions to decide which chemicals to extract, and which to reject for proper growth?

353 何百万年もの進化の間、人間は肉体の諸感覚と論証の能力を授けられて来ており、これらの知覚経路のみに依存するようになりました。しかし、自然はどうでしょうか。自然は論証能力を持っているのでしょうか。視覚や聴覚、味覚や嗅覚を授けられているのでしょうか。大地の暖かく暗い懐の中で芽を出している小さな種は、適切な成長の為にどの化学成分を抽出しどれを拒絶するかを決定する為に感覚による知覚を用いるのでしょうか。

【解説】

ここでは肉体の感覚器官を唯一の拠り所として長年、確実な論拠を求めて歩んで来た一方、大自然はこれらの感覚を一切当てにしていないことを述べています。大自然の中で刻々と営まれている微生物や植物の世界では、生命活動は皆、フィーリングの経路を通じて、必要な判断が行われています。

もちろん、暗黒の世界、音も無い静寂な世界の中、多くの生き物が暮らしているのが、地中での生活ということになります。また、よく思うのは、自身の肉体についても、光を感じるのは眼や身体の表面に限られ、圧倒的な部分や光が無い場所で、各々の臓器が各々の役割を果たしていることです。私達は眼をつぶったり、真っ暗な部屋に入ると、途端に不安感が起りますが、実際の生命の本体は、光りの有無には関わり無く、活動を行っている訳です。

地中の生き物として、ミミズの果たす役割が大きいことが言われていますが、彼らはどのような感性で地中で暮らしているのか、たまには意識を向けるのも良いかも知れません。私達が日常、気が付かない場所で、私達の生活を支える多くの生き物達の働きがあり、それらは皆、フィーリングという経路を用いて生きているのです。

354 No! The plant, the sea, the air, and the minerals of the earth have no faculty of independent reasoning. However, they possess the same natural guidance that causes human forms to be receptive to changes of conditions, for they contain the feeling element. Therefore, atmospheric and other conditions affect them just as they do humans; and they respond without question. For the same Life Force known as the Breath of Life in man, flows through their forms.

354 いいえ。植物や海、大気や地球の鉱物は独立した論証能力を有していません。しかし、彼らは人体が状態の変化を受容出来るのと同じ自然の導きを有しています。何故なら、彼らはフィーリングの要素を持っているからです。それ故、大気やその他の状態はそれらが人間に与えるのと全く同様に彼らに影響を与えますし、彼らは疑いなくそれに応答します。何故なら人間において生命の息吹きとして知られる同じ生命力が彼らの体の中にも流れているからです。

【解説】

本項で述べられている生命力は、万物に共通するものですが、本項を読んで感じたことが一つありました。それは私達が日常、もっぱら視覚、聴覚、味覚、嗅覚の4つの感覚の窓から外界を見て、判断していますが、それでは本来のフィーリング機能は発達しにくい訳です。日常、努めて目や耳、舌や鼻からくる情報に重きを置かず、むしろやって来るフィーリングや感じや勘を頼りに少しずつ生きて見ようと思った次第です。

もちろん、全く無視ということではありませんが、何処からともなく来る印象に重心を置いた生活になります。そのことは単に印象を得て実生活に役立つようにするものではなく、本項で述べられているように自然界の万物と会話出来るくらいに意思疎通を行う為です。そうなれば、万物との一体感が生まれるものと思っています。

355 The human being is the most highly organized and sensitized instrument of manifestation. He is therefore most capable of tuning in to the lesser vibrations, objectifying them, and rebroadcasting them into the universe as higher expressions. We cannot help being affected by the varying frequencies of the chemical universe in which we live, nor can we help affecting others by the thoughts we send forth into the mind-ether of space. We need only to become aware of such relative currents to make use of these facts.

355 人間は最も高度に組織化され、鋭敏化された創造の道具です。ですから人間はより下位の振動に同調させ、それらを客観化し、それらをより高次の表現物として宇宙空間の中に再放射することが出来るのです。私達は私達が住む化学的宇宙の変化する振動によって影響を受けざるを得ず、私達が宇宙の心のエーテルの中に送信する想念によって他者に影響を与えざるを得ません。私達はそれらの事実を活用するためには、それらの相対的な流れについて気付くようになるだけで良いのです。

【解説】

本項の前半はいわゆる芸術について語っているものと思われます。画家や音楽家が造り出す作品は、自然界に存在するものをより純化し、精緻なものに高めたものとして再表現しています。普段、鈍感な私達がそれらに美しさを感じるのは、本項で述べられている高次の表現物として出来上がっているからに他なりません。

また、これらの作品を観て、感じる想念は再び宇宙空間の中に広がり、相互に影響を及ぼしあうこととなります。印象や想念の力がすごいのは、そのもの自体の実現力ばかりでなく、他への影響が大きいことにもある訳です。ましてや、今日、テレビやインターネットを通じて容易に情報が伝わる現在にあっては、より良い想念を文字その他に表現した上で世の中に発信することも意義あることだと思っ

356 If a man was submerged in a tank of water, he would influence and be influenced by the relative pressures existing between his body and the water mass. The same is true when dealing with the sea of the universe. For as surely as the law works in the coarser fields of manifestation (in this case the water), so it works in the finer. And what is the atmospheric, or etheric vibrations, but the pressure of life? The sooner we get away from our beliefs in mystery and superstition, the sooner we shall become the Knowers of Life in its fullness.

356 もし人が水槽の中に沈められたら、彼は自分の身体と水本体との間に存在する相対的な圧力に対し影響を与え、また影響を受けることでしょう。宇宙空間の海についても同じことが言えます。何故なら法則は粗い創造の場（この場合は水）で働くのと同じく、より精妙な場についても同様に働くからです。また、大気やエーテルの振動、否、生命の圧力についてはどうでしょうか。私達が神秘や疑いに対する思い込みから離れ去るやいなや、私達は生命の完全なる知者になることでしょう。

【解説】

ここでは宇宙空間との関係について、水槽に入る時に感じる水の圧力の例を掲げています。私達がプールや湯舟に入る際、身体に水の圧力を感じますが、同様なことは水の側でも感じ取るということでしょう。身体全体が宇宙空間や生命活動の世界との接触を感じるようにせよと言っているように思います。

これら自分の肉体が常に宇宙や生命力本体と身体全体で接しているという実感からは、もはや疑いや神秘というものは無くなる筈です。これら自分に接している世界に気付くことが出来れば、次は身体中にはり巡らされた神経組織を通じて、必要な情報を印象として取り出すことが出来るものと思われま。生命の智慧はこうして各自に与えられることになるものと思われま。

357 During the past centuries Earth man's progress has been chiefly in mechanical fields. Every universal principle of which he has become aware, he has expressed in mechanical terms. And in man's earnest effort to acquire greater knowledge, he has forgotten to develop the one instrument that is capable of leading him to such knowledge.

357 過去何世紀もの間、地球人の進歩は主に機械分野においてでありました。彼は気付くようになった宇宙普遍の法則全てを機械的な用語として表現して来ました。そしてより偉大な知識を得ようとする真面目な努力の中で、彼はこのような知識に自らを導く可能性のあるその道具を発達させることを忘れてしまったのです。

【解説】

名古屋に「産業技術記念館」という博物館があります。豊田佐吉や豊田喜一郎による一連の紡織機械の発明品が当時の姿で展示されています。その延長に国産自動車メーカーとしてのトヨタの出発があり、国産車1号機が出来上がるまでの本物の工具や試験機が展示されている等、この博物館はまさに本項でいう機械文明の発達の歴史を学べる場所となっています。

このように今日の私達はいわゆる機械文明の恩恵を受け、身の回りにこれらの機械が働いているお蔭で、昔の人々と比べて随分と楽な暮らしを送れるようになりました。

しかし、本項では、これら機械文明は本来、私達が発達させるべき側面の一つでしかないことを指摘しています。従来は生活の不便を無くし、便利にしようとする機械文明の発達を目指して努力していたのですが、その他に発達させるべき要素として宇宙本来の生命力との一体感や印象の感受等、精神面の訓練が重要だとしているのです。自身が創造の道具(instrument)になり切ることで、私達が創造主から直接の指示を受けた働き手になることが、これまで以上に好ましい結果をもたらすということです。

358 One day, by means of this human instrument upon which we look so condescendingly today, we shall produce miracles of manifestation such as our world has never known. But recognition of its telepathic potentialities must come first. A definite self-training program must then follow if we ever hope to place these divinely created bodies on the same level as the mechanical devices we now deem so miraculous. There exists such a vast scope of working possibilities in the area of mental and psychological development, that the adventurous soul need have no fear of running short of fields to conquer.

358 いつの日にか、今日私達がそれほど腰低く見上げるこの人間の道具を用いることによって、私達は私達の世の中がこれまで見たことのないような創造の奇跡を造り出すことでしょう。しかし、そのテレパシクな潜在能力に対する認識が最初になければなりません。もし私達がこれら神聖に創造された肉体を私達が今日奇跡だと考える機械装置と同じレベルに位置付けるなら、確固たる自己訓練計画が次に続かなければなりません。心や心理学上の発達分野には広大で実際に役立つ可能性が存在しており、冒険好きな魂にとって征服すべき分野が不足する心配はありません。

【解説】

「神の道具としての人間」の側面を発達させることが大変な意義あることだということなのです。イエスは多くの奇跡を現実に行って見せたのも、その可能性を人々に示したかったからと思われる。

神の道具に成り切ること、自我をその僕（しもべ）にまで小さくすることから始まるという訳ですが、その後も決意を持って自己訓練を行うことが必要だという訳です。一般的に、これは長い道程になると思いますが、それでもその歩みは次の生涯にも受け継がれるものと考えています。

その神の道具になることによって、これまで想像も出来ない程の物事が実現するとしています。内容はわかりませんが、宇宙の創造の力が直接働くとなれば、必要に応じて様々な奇跡が起るものと思われます。その一つが知識や情報が必要に応じて湧き出ることです。生前、アダムスキー氏は書物を持たなかったと言伝えられています。それでも、テープの記録を聴きますと、人々と会話する中で驚くべき程の多様な知識と情報が出ていました。それら豊富な知識の源泉もこの能力拡大の一つだと考えております。

359 When we understand our bodies, control our senses, and open our minds to the flow of universal knowledge, true clairvoyance, clairaudience, and all the rest will develop naturally within us. But when we have grown to the place where these perceptions do unfold, we will have developed beyond personal desires. Our interests then will lie in universal revelations.

359 私達が自身の肉体を理解し、感覚を制御して自らの心を宇宙普遍の知識の流れに開放する時、真の透視、透聴またその他の能力が自然に私達内部に発達することでしょう。しかし、私達がこれらの知覚作用が花開く場所に到達した時には、私達は個人的な願望を越えて発達していることでしょう。私達の関心はその後は宇宙普遍の創造の現出にあることでしょう。

【解説】

自分の肉体の仕組みを学び、自らの知覚を通じて日頃の活動を理解しようとする事、また感覚による差別や裁きを鎮めながら、日々、宇宙からやって来る印象に対し心を開いておくことは、実は簡単なようですが、テレパシー能力開発の極意であるという訳です。

この3つのいずれかが欠けても進歩には到達せず、各々が調和しながら少しずつ前進することが重要な訳です。大事だと思うのは、その3つの側面の調和です。相撲の世界では「心技体」と言うそうですが、創造主から託された肉体を大切に維持しながら、唯一の自分のものと言える心を教育訓練し、その増長を抑えつつ、創造主と印象を通じて交流できる段階に到達すれば、もはやご自身は創造主の道具になって、永遠の生命を持つ存在になるということです。

360 When we analyze life closely, we find it conforms rigidly to immutable laws. For all its apparent complexities, life is the soul of simplicity.... a symphony of harmonious, synonymous motion. We also will find that the inspiration for the first investigation came from some vestige of existing fact which impressed itself upon human awareness. So we must admit the reality of a language that is accepted, and acceptable, to the animate and the so-called inanimate. It is the soul of all action, all substance, and all force.

360 私達が生命を詳細に分析する時、私達は生命が不変の諸法則に厳格に従っていることを発見します。何故なら、その外見上の複雑さにも拘わらず、生命とは平易さの真髄、調和があり、同調した活動の交響曲であるからです。私達はまた、その最初の研究は人間の知覚作用に印象づけられた実在する事実の痕跡を元になされるようになったことを知るでしょう。ですから、私達は生き物にも、いわゆる無生物にも受け入れられた、あるいは受け入れられる、ある言語の存在を認めなければなりません。その言語は全ての活動、全ての物質、全ての力の真髄なのです。

【解説】

全ての答は大自然の生命活動の中にあるということです。生命体は外見上、様々な形態を持ち、各々独自の特徴があり、従来は各々を属や種に分類して来ました。一方、近年発展を遂げつつある分子生物学の分野では、全ての生物をDNAの遺伝子レベルで解析し、あらゆる生物がA（アデニン）、G（グアニン）、C（シトシン）、T（チミン）というわずか4種の塩基の組み合わせで成り立っていることを明らかにしています。また、最近では、PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）法等により、特定箇所のDNA分子を増幅させることによって、これら塩基配列の解析が容易に出来る段階にまで至っています。生物における分子レベルの遺伝子解析は本文で言うsimplicity（平易さ）の典型と言えるでしょう。

私達の限られた知覚能力であっても、本項に述べられている通り、時折、これら生物や鉱物等のいわゆる無生物から印象が届くことがある訳で、その印象こそ、ありとあらゆるもののエッセンスであり、この上なく大切なものであることを教えているのです。

お知らせ [2010-10-26]

申し訳ありませんが、明日10月27日と28日は出張の為、更新をお休みさせていただきます。

PART III

CHAPTER IV

Thinking Versus Reasoning

361 Thinking is neither toil, nor stress, nor strain. Rather, it is the ability to allow thought action to take place in an unobstructed manner; and the power of observing its path to travel.

第3部

第4章 思考と推論

361 思考とは労苦でも重圧でも緊張でもありません。むしろ邪魔されることなく、思考行動が起こせるようにさせて置く能力、その流れが巡る道筋を観察する力なのです。

【解説】

いよいよテレパシー講座も最終章を迎えました。ここではこれまでの学習の集大成として、全体を通した著者の見解が記されているように思います。

さて、本項では何かの問題点の解決を図りたい場合やその他何事につけて、私達は「考える」訳ですが、その時の心構えを語っています。つまり、その何らかの答を得る為に、悶々としたり、気持を集中したアイデアを生み出そうとするよりも、もっと自分自身に想念（アイデア）が自由に通過して来るよう、心を開いて執着を取り払えと言っているのです。

私達は外宇宙から来るこれらの想念の流れを心に自由に流すことに努力すべきで、その中には必ず実りある解決策がある筈です。それら一つ一つの想念（アイデア）をじっと見届けることが、真の思考であるという訳です。

362 Dr. Nicholas Murray Butler once said, "All the problems of the world could be settled easily, if men were only willing to think." He might rather have said, "If men only knew how to think!" This is the great lack in our educational system of today; our young men-to-be are not taught how to think.

362 ニコラス・マレイ・バトラー博士はかつてこう言いました。「世界中の全ての問題は、人間がただ喜んで考えようとするだけで簡単に解決されるだろう。」彼はむしろ、こう言いたかったのかも知れません。「ただ人間が考える方法を知ってさえいれば」と。このことは今日の私達の教育システムにおける大きな欠陥なのです。私達の将来若者となる者が考える方法を教えられていないのです。

【解説】

本文で紹介されているニコラス・バトラー（1862-1947）は米国コロンビア大学の総長で、その平和運動への貢献から1931年にノーベル平和賞を受賞されています。残念ながら、私自身その著書を読んだことがありませんが、アダムスキー氏が引用するように、その発言には大いなる真理が示唆されていたものと思われます。

本章のタイトルでもあるThinking（思考）に対するものとして、Reasoningが設定されています。Reasoningの訳出については迷う面もありますが、現時点では「推論」としています。時に「論証」とも訳されている言葉ですが、その意味する所は「一つ一つの前提を確認した上で、結論を推論する」というようなことかと思っています。

しかしながら、本章で強調されていることは、必要なのは限られた内容の前提から出発する「推論」よりも、はるかに、自由に想念が自らの身体に流れ込む状態を作り出す「思考」が重要であることが述べられています。

おそらく、鋭敏な幼児期にこのような訓練を受けることが出来れば、その人のテレパシクな能力は想像以上に発達できるということでしょう。それに対して、現代の学校での知識偏重、記憶重視の教育には欠陥があると指摘しているのです。そういう意味でも、心の中を外宇宙からの印象を自由に流れ込ませる態度が重要であり、先ずはこれまでの思考態度を見直すことが必要だということです。

363 There is a vast difference between true thinking, and the misguided faculty of indiscriminate reasoning. Only two planes of life have the power of reasoning - animals and human beings. While as far as we know the vegetable and mineral kingdoms are devoid of reasoning, and the animal possesses this faculty only to a limited degree, all three planes of life manifestation respond to pressures without resistance. Because of his ability to reason, we have believed man to be the highest type of life on this planet. But actually, indiscriminate reasoning has so perverted his capacity to think universally that in many ways man is much lower than mere plant life. For plant life accepts and acts upon the impulses of nature, without questioning life's purpose.

363 真の思考と見境のない誤って導かれた推論との間には大きな相違があります。生命の内2つの平面、動物界と人間だけが推論の能力を持っています。一方、私達が知る限り、植物や鉱物界には推論は欠いており、動物もこの能力をただ限られた範囲に持っている一方、これら3つの生命の創造の平面は全て抵抗なく圧力に呼応します。その推論の能力の故から、私達人間がこの惑星上で最も高位であると信じて来ました。しかし実際には、見境のない推論は人間の宇宙普遍に思考する能力を誤らせ、多くの場合、人間は単なる植物の生命より低次に置かれています。何故なら植物は自然の衝動に対し、受け入れ行動するからです。

【解説】

心の有り様について前項（362）では真の思考の意味について述べられていました。本項ではそれに対応する心の推論機能（reasoning）について述べられています。

私自身、今もって著者が描く reasoning の意図をはっきり掴んでいる訳ではないのですが、本項及び後に続くいくつかの記述を読む限り、「やたらに知りたいと思う心」「じっくり考えようとするのではなく、あれこれ思い巡らせる心」というようなイメージかと考えています。

この推論（reasoning）傾向にある心は、論証や事実を積み重ねるという意味では人間だけの能力として、これまでは重視されて来た訳です。しかし、本文にありますように、実際にはそれらの能力を持たない植物や鉱物の方が、はるかに創造主に従っており、上位の生き方をしているという訳です。万物の価値は創造主の意図を如何に表現しているかに尽きるということです。

364 Everything in the universe works under the Law of Affinity ... therefore, thought will draw to itself its own kind. If a mind is tuned to particular thought station and the tuning apparatus is not tampered with, it will receive the entire thought program. All that is necessary is for the mind of the recipient to remain quiet until the thought is completed.

364 宇宙の中のあらゆるものは親和の法則の下で働いています。従って想念はその種の想念を引き寄せることとなります。もし、心が特定の想念発信局に波長を合わせ、チューニング装置が壊されていなければ、それは全体の想念番組を受信するでしょう。受信者の心にとって必要なこと全ては、その想念が完了するまで静かにしていることです。

【解説】

類は類を呼ぶことは以前にも述べられています。日常生活の中にも直接、電話の音声やその他を通して様々な想念に出会い、それに対する対応でストレスを感じることも多々有ります。しかし、そのようなマイナスの反応が出た時、いつまでもそれに執着していると、やがて類似したものが押し寄せて来る気がします。それが、ここで言う親和の法則です。

そのような時は、努めて冷静さを保ち、心を騒がせないことです。静かに保っていれば、自ずと別の対応策が与えられ、物事は再びスムーズに動き出すように思います。

大事なことは、心に留める想念に目がけて、類似した想念が集まって来るということです。ですから、常に心の中には良質なものしか留めてはいけません。また、本文にあるように、アイデアの全量が心を通し、全体像が明白になるまで、心を落ち着かせ、早合点をさせないことでしょう。一度、これらに関し、良い体験を持てば、次第にストレスや危機に強い人物になれるものと思われま

お知らせ [2010-11-03]

この度、仕事で中国に渡ることになりました。今月14日の出発ですが、今度は来年1月末までの長期の滞在になります。途中、何度か一時帰国をする予定ですが、この間、忙しい毎日過ごすものと思われれます。

現地でもホテルに戻ればメールその他のインターネット環境は確保出来る予定ですが、引き続き本講座を継続できる状況になるかどうかは不明です。

せっかく、毎日のようにご覧戴いている皆様には大変申し訳ありませんが、明日からの準備期間も含めて、今後不定期な更新になることを、ご理解戴ければ幸いです。

平成22年11月3日

竹島 正

365 True reasoning is the faculty of recognizing sequence, which gives a purpose to life. For instance, when one turns his attention to a certain phase of thought, it is necessary for him to perceive whether he is holding to that particular phase. He should not allow his interest to wander toward, or rather be impressed by, other phases which are of a similar nature. For example, if a person received the idea of constructing a baby carriage, he may hold to the original thought flow until the element of motion is beginning to take shape in the image state; then let his attention wander and allow a thought of a similar type to slip into his mind. When the product is finished, and he stands back proudly to survey his handiwork, he discovers he has put rockers instead of wheels on the carriage. He had followed the original impression perfectly to the point where movement entered. He did not achieve one means of motion-the infant can be lulled to sleep; but he did not accomplish his original plan of making a means of conveyance. The general construction of the two objects is similar; and reasoning, that power of recognizing the sequence of ideas, should have told him he had lost the trend of thought.

365 真の意味の推論は連続したつながりを把握する能力であり、それは生命に目的を与えます。例えば人が自分の注目をある想念の側面に向けた時、その人は自分がその特定の側面をしっかり掴んでいるか把握することが必要です。その人は自らの関心をふらつかせたり、類似した性質のある他の側面から印象を受けたりすべきではないのです。例えば、ある人が乳母車を作ろうというアイデアを受信したとすれば、彼は衝動の要素がイメージ状態として形を形成するまでは元の想念が流れるのを保持しているかも知れませんが、次には自分の関心を放浪させ、似たタイプの想念が自分の心の中に滑り込むことを許してしまいます。作品が完成した時、そして彼が誇らしげに彼の手作業の作品を吟味する時、彼は車の車輪の代わりに揺り足を付けてしまったことに気付きます。彼は衝動が入って来た時点では元来の印象に完全に従っていましたが、しかし、彼は運動の手段を達成することは出来ませんでした。赤ん坊は眠ることは出来ますが、運ぶ手段という元来の計画は達成出来ませんでした。この二つの物の一般的なつくりは同じですので、アイデアの連続したつながりを認識する力のある推論は、その者に想念のつながりを見失っていることを伝えるべきであったのです。

【解説】

この事例を注意深く読んで行くと、最初、主人公は乳母車を作ろうと思立ちます。その時は赤ちゃんを眠らせながら静かに運べる乳母車をしっかりイメージ出来、その実現に向けて図を書き、材料を集めて制作を始めたものと思われます。

しかし、途中から、それが揺りかごに変わってしまった訳です。乳母車と揺りかごとは似ていますが、その移動機能は大きく異なります。つまり、いつの間にか、当初の衝動が途中から入って来た想念により歪められてしまったと言うことが出来ます。

実は私達の感受性が高まる際、様々な想念を受信するようになるが故に、このような混乱の事例が増えて来ることを著者や注意しているのだと思います。

私自身を含めて、当初は明確な意思（想念）があり、志を立てたけれど、年月が経過するにつれて、関心が移り、遂にはその志を実現出来なかった経験を多くの人もお持ちかと思えます。その時の問題の答が、このreasoning（推論）にあると言っているのです。想念のつながり、即ち関連性をチェックして、方向がずれた場合には、それを本人に警告する役割を自分自身の中に育めと言っています。

その為には、最初、受信した想念について単に最初の段階で早合点せず、じっくりその全体像を理解した上で、事を進めるべきということでしょう。ある時は、想念に従って瞬時に動けと言ったり、言い様によっては皆様に混乱を与えるかも知れませんが、この分野の初心者である私達としては、先ずはやって来た印象を大切に、その意味する所を考えながら、落ち着いた行動をとることが一番ではないかと思われまます。

366 In the preceding illustration we may safely say that after a certain point, reasoning was not used at all. When this happens it is usually due either to an untrained will, or to just pure mental laziness. Admittedly it is a ludicrous example, but similar examples on a smaller scale occur in our lives daily. Controlling the reasoning mind is what we meant when we spoke of "stilling" it. If we will make it our servant rather than our master, we will not put rockers on our baby carriage of life.

366 前述の事例では、ある時点以降、推論は全く使われていなかったと言えらると思います。このようなことが起る時は、大抵は訓練されていない意思であったり、単に単純な心の怠慢のどちらかが原因です。前述の例は明らかに滑稽な事例ではありますが、同様な例は私達の生活の中ではより小さな規模で日々起っているのです。推論する心を制御するということは、私達がそれを「鎮める」と表現する際に意図するものです。もし、私達が心を主人としてではなく、召使にするようになれば、私達は人生の乳母車に揺れ足をつけるようなことはなくなるでしょう。

【解説】

心が興味本位にあれこれ関心を放浪させることが、多くの物事を成就させない大きな原因となっているものと思われまふ。本来の心の推論機能としては、一連の想念の関連性をじっと観察し、妥当なものをチェックする役割を持っている訳ですが、とかく心の関心は外に向きたがり、興味あるものに移って行きたいと思っているのでしょう。現代で言うネットサーフィンもこうした事例の一つです。

一方、元来のチェック機能を果す為には、心自身は静かに全体を見渡せる状態であることが必要で、心自身の意思をあまり強く持っていては、そうした観察は出来ないことになりまふ。

心が主体となった行動ではなく、心はより高次なる想念（印象）の召使として、所定の任務を果すことで本人の人生の価値を高めることが出来ると言っているのです。

367 Another instance of perverted reasoning can be found in a group of students listening to a class lecture. Some will absorb what they hear, and at the end of the session will be able to repeat almost verbatim the material presented. They will recognize the logic and lucidity of the subject, and can summarize all points coherently.

367 もう一つの混乱した推論の例は、教室での授業に耳を傾けている学生の一団の中に見出せます。ある者は自分達が聴いたことを吸収し、授業時間の最後には提示された材料をほとんど語句を暗唱するほどになるでしょう。彼らはその本題の論理と明瞭さを認識し、全ての要点を理路整然と要約することが出来るようになります。

【解説】

横道にずれる傾向は、誰でも学生時代に経験していることかと思えます。詳しくは次項（368）に例が出ており、本項（367）はそうならない良い例を示しています。

実はそれほど心に抱く想念の一貫性を保つのは難しいことなのかも知れません。少しでも心が受容出来ない要素が見つかるや、次々に疑問に類似した想念が入り込み、混乱してしまう訳です。

とりわけ、物事をはじめて学ぶ時には、伝え手に対し、100%受容する態度が必要ですが、この場合も先ずは伝え手が完全に信用できることが前提であることは言うまでもありません。世の中の多くの宗教が信者を支配しがちなことも事実であり、私達は誰を師とするかについては、慎重である必要があります。その点、最も良いのは自分の内奥から来る印象で、これが最も信頼出来る源泉ということになります。

369 This is what the average person does to the thought that impresses itself upon his consciousness. Consequently, instead of getting the clear impression of the attentive student, he receives disconnected fragments

369 これが平均的な人間が自分の意識に印象づける想念に対して行っていることです。結局のところ、注目し続ける生徒が明瞭な印象を得るのに対し、彼は互いに繋がりのない断片を受信するのです。

【解説】

仮に印象を受信しても、受け取る心の側がその内容にわずかな違和感があったとすると、直ちにその流入経路を遮断し、類似した他の源泉のものを撮取しがちになり、その結果、元々受信した印象の意味を見失ってしまいます。印象の流れは高速とされていますが、私達の心はおそらくパソコンの通信速度の場合と同様、その受信能力の低さから全体の受信にはかなりな時間を必要とするものと思われます。

その結果、その間の心の勝手な判断により、印象が途中で中断し、代わって他の源泉からのものが入り込んだ場合、心が困惑するのは当然です。一連の繋がりがあって初めて意味を持つ訳で、物事の関連性を理解することがいわば悟りのポイントなのでしょう。

断片だけの印象は逆に人を迷わせることにもなりかねません。私達は静かに印象の送信者が何を伝えたいと思っているかを第一に考えなければなりません。

368 Other students will grasp one statement that does not coincide with their preconceived ideas, and shut their minds to the rest. They will judge this idea according to their own knowledge of the subject, or compare it with some thought possessing a slight similarity. In so doing, they cut off the natural sequence being presented by the lecturer, and at the end of the session they generally find themselves decidedly confused over what has been said. Of course, they lay the blame at the door of the speaker-not to their own mental reactions.

368 他の生徒達は自分達が描いたアイデアと一致しない一つの発言を捉えて、その残りの話に心を閉ざすことでしょう。彼らはそのテーマに関する自分達の知識に従い、このアイデアに対し裁きを行うか、あるいはわずかな類似点を持ついくつかの想念と比較することでしょう。そうすることで、彼らは講師によって提起された自然な一貫性を切断し、授業時間の最後には、彼らは大抵、自分自身が明らかに語られたことに対して混乱していることに気付きます。もちろん、彼らは自分達自身の心の反応に対してではなく、講師のせいにするのです。

【解説】

これについては、私自身学生の頃、度々経験しています。授業の中で先生が教える内容の中で少しでも自分の考えに合わない所があると、それ以降は授業内容に対してあれこれ反発し、結局は授業全体が身に付かないことになったものです。つまりは受け入れる側は例え、自分の考えと相容れない要素があったとしても、まずは全体を受け入れ、心の中を通過させ、その上で、何がその要旨かを分析し、必要なエッセンスを学び取ることが必要だった訳です。

一方では近代の学術分野では、とにかく何事にも批判的な視点で物事を見るのが良いことだとされており、各分野には多くの批評家がいる、その対象に対する評価を下しています。しかし、本講座は各自の学習態度としては、もっと誠実で受容的な態度でなければ学び得ない精妙な分野があることを訴えているのです。

単なる知識でなく、自らの心の有り様を変革する為には、心を増長させないこと、心を落ち着かせることが第一です。おの上で心を通過するようになる宇宙からの印象（想念）を静かに観察し、その印象の発信者が何を伝えているのかを学び取ることが求められているということです。

370 The difference between pure reasoning and perverted reasoning is the difference between definition and discrimination. We may say that a rose is red and is fragrant; and that a calla lily is white and possesses little fragrance. Our reasoning tells us they are two distinct objects; and defines their character by an act of recognition. But perverted reasoning could say that the lily is a mistake of creation, because it should have been red like the rose; or that the rose is malformed because it is cut up in little pieces called petals.

370 純粋な推論と歪んだ推論との違いは定義と差別の間の違いです。私達はバラというものは赤く、よい香りのするものと言いますが、カラー（訳注：植物名、オランダカイウ、日本ではカラーもしくはカラーリリーと呼ばれる。漏斗状の白い仏炎苞を持つ観葉植物）は白く、香りは無いと言うでしょう。私達の推論はそれらは二つ別個のものであることを私達に伝え、認識の行為によってそれらの特徴を定義します。しかし、歪んだ推論は、そのユリ（訳注：この場合、前述のカラーをユリと認識している）はバラのように赤くなければならないのにならなくならず、或いはそのバラ（訳注：この場合は前出のカラーをバラと認識している）は花卉と呼ばれる小片に切れ込まれている為、誤って創造されたものだと言うかも知れません。

【解説】

ここでは私達が、日々の生活の中で見る多様な創造物に対してどのような見方をしがちかを指摘しています。その中には正当な認識もありますが、実際には自分の好みやこれまでの経験に無いことを理由に、そのもの自体を否定したり、裁いたりすることも多いように思います。

本項の場合は植物の例ですが、大事なことはそのものの存在をまずは認め、次にそれを理解しようとする心境でしょう。reasoning（推論）は対象は物体であれ、想念であれ、それがどのような経緯や意図で現れたものか、他との関連性は何処にあるか等、探究することにあります。

最近は様々なテレビ番組で、生物多様性の問題が紹介され、熱帯地方の多様な色彩模様を持つ生物が数多く紹介されるようになりました。これらを見ると、創造主の才能は実に多才で豊かなことがよく分かります。

371 The rose had nothing to do with the creation of the lily, or vice versa; so man cannot judge one by the other. They are two distinct phases of plant life; and as such, should be recognized equally for their individual character. Yet, by judging and condemning the ideas that are presented to us through our senses, we daily judge and condemn the Creator's manifestations.

371 バラはユリの創造には何らの関係はありませんし、ユリも同様です。ですから、人間は他のものによって、そのものを裁くことは出来ません。それらは植物の生命の中の二つの別個の側面であり、このようにそれら個々の性質として等しく認識されるべきです。しかし、それでも私達の諸感覚を通して私達にもたらされる諸々のアイデアを裁き、非難することで、私達は創造主の創造物を毎日のように裁き、非難しているのです。

【解説】

言い換えれば、全てのものに対し、その存在意義を尊重し、自分と対等の関係に据えることが必要なのです。これは動物、植物、その他何物についてもそうあるべきです。万物は同じ根源から生れ出たこと、またその表現は個々の創造物によって異なり、それが世界の多様性を生み出し、豊かにしている訳です。

一方、私達はとかく限られた自分の経験や好みを基準に、これら創造物を値踏みし、評価しています。これはあくまでその本人の評価でしかなく、真実を捉えている訳ではありません。折角の新しい出会い、新たな世界の発見にも至るかも知れないチャンスに、自分の貧しい判断からその門を自ら閉ざすことは残念です。

まして、想念の場合、二度と巡り会うことはないかも知れません。このような大切なアイデアについては、私達は先ずは全てを受容し、心の中を通して、その行く末を見守り、その想念が何を伝えたいかを見極める必要があります。受信した想念に暖かく接することが、心を鎮め、感受性を高めることにもなるように思います。

372 Reasoning should be used to evaluate all things impartially, and to elevate the sense perceptions to understand and accept Cosmic Intelligence. Pure reasoning must involve the elements of faith and confidence; not faith in one's self as a personality, but faith in the immutable laws of thought-action, and in the unlimited scope of awareness in the faculty of feeling. This, I have proven by my own experiences over a period of years.

372 推論というものはあらゆるものを差別なく評価するために用いられるべきであり、感覚の認識機能を宇宙の英知を理解し、受容するために用いられるべきです。純粋な推論は信頼と信念の要素を含まなければならず、個性としての自我への信頼ではなく、想念?行動の不変の法則やフィーリングの機能に対する無限の知覚展望への信頼です。これは私自身の経験によって何年もの年月を経て実証して来たものです。

【解説】

本項でようやく Reasoning の意味が明らかになった気がします。即ち、Reasoning (推論) とは、様々な創造物を観察、探究してその目的や他との関連性を探ろうとする探究心、文字通りその存在理由 (Reason) を問うことだと解釈出来ます。

また、その際に大事な条件として Faith (信頼、信仰) が掲げられています。物事を見る際に、その存在を支えている創造の法則を見るように、あるいは信じるように自らの心を指導せよということでしょう。

これらのポイントについて、著者アダムスキー氏は自ら、長年の体験の中で学び取ったものだと明かしています。私達も歳を経る中で、自分なりの悟りを蓄積して行くことが大切だということでしょう。

373 Volumes could be written on the subject of thought and its action, yet barely disturb the surface. It is one of the most interesting fields of research one can hope to find; for it is as vast as Infinity itself, and is the actual foundation of all our sciences.

373 想念とその作用のテーマについては何巻もの本を書くことが出来るでしょうが、それでも何とか表面に触れられるだけです。それは人が望み得る研究分野の中で最も興味深い分野の一つです。何故ならそれは無限遠そのものと同じほど広く、しかも私達の全ての科学の基礎でもあるからです。

【解説】

万物の活動や創造に関して、想念の持つ作用については、それほどに宇宙全体に及ぶほど広く、大きなものだと言著者は明かしています。また、重要なのは、これを各自の研究テーマとするよう促していることでしょう。

私達が日常、発信し、また受信する想念は、本来自らの身体各部への影響はもとより、遠く宇宙空間の果てまで及ぶということです。以前、この地球の自転速度が地球人の想念活動からも影響を受けることや、地震や気象全般についても大きな影響を与えるほどの力があると聞いたことがあります。

私達の心は時として馴れない環境に置かれる等、いわゆる習慣性が崩れる場合において、緊張して疲れることもあります。様々な環境の中でも安定して宇宙の本源を志向し、この想念の潜在的な作用について、ご自身を媒介として研究して行くことが必要だということです。

374 If we are understand Original Cause, we must discipline our minds as we would a child, and deal with the four senses as we would four children. We are all individuals rays of Intelligent Cause manifesting through matter.

374 もし私達が原初の因を理解しようとするなら、私達は自分達の心を私達が子供に対するように躱けなければなりません。四つの感覚に対しては四人の子供に接するように振る舞わなければなりません。私達は全て物質を通して現出している英知ある因の個々の光明なのです。（訳注：原文では「私達は全て.....光明なのです」の部分は太文字になっています）

【解説】

ここで分かるのは、私達が日頃、行動を共にしている「心」と「四つの感覚」に対して、丁度、子供を躱け、育てるように取り扱うことに全てのポイントがあるということです。ここでは、親が自分の子供を育てるように、必要な注意をタイムリーに与え、その成長をいつまでも見守り、必要とすることをいち早く察知して、対処法を用意して置くといったことかと考えます。

即ち、仮に自分の心の欠陥が大きく見えたとしても、親は子供を見捨てることはありません。必ず立ち上がれるよう、いつまでも見守る筈で、どんな子供でも自分の子供を否定する親はいません。また、少し上達したからといって、自分の子供が有頂天になるのを許せば、その子供の成長は止まることを大抵の親は知っているに違いありません。

私達には各々、これらの子供を生涯にわたって育てて行く責任があるという訳です。そうする中で心身ともに健全になり、創造主の光明が各自を通じて発現すると本項は言っています。

375 It was this universal Intelligence that Peter used when he said to Jesus, "Thou art the Christ, the Son of the Living God." Matt. 16:16.

375 ペテロがイエスに「あなたは生ける神の息子だ」（マタイ16章16節）と言った時、ペテロはこの宇宙普遍の英知を用いていたのです。

【解説】

聖書について詳しくはありませんが、どうもイエスは弟子達に自分の出身由来等のことについては、敢えて語ってはいなかったように思います。イエスは自分が伝える内容を人々に理解してもらうことが最重要課題であり、例えを駆使しながら、本来の人の生き方を当時の人々に伝えていました。

後日、キリスト教会の礎となるペテロですが、その彼が弟子達の中で初めて、目の前のイエスという人間が実は「現に居られる創造主の直接の息子のように思う」と述べたこととなります。

様々な事柄を語る者が多くいる中で、ペテロは外見からではなく、その人物が発する想念やその他、目に見えない要素をキャッチして、「この方が生ける神によって愛されている息子、私達にとっての真の導師だと悟りました」と述べたという訳です。

前項（374）にありましたように、「物質を通して現出している英知ある因の光明」の一つとして生きることこそが、全てのものの目標です。

376 Jesus acknowledged this when He answered, "Blessed art thou, Simon Barjona; for flesh and blood hath not revealed it unto thee, but my Father which is in heaven." Matt. 16:17.

376 イエスはこう答えて、これを認めました。「幸いなるかな汝、シモン・バルヨナよ。何故なら肉と血が汝にこれを明かしたのではない。天におあす私の父が明かした為である。」（マタイ第16章17節）（訳注：シモン・バルヨナはペテロの別名です）

【解説】

イエスは自身の本来の意義を悟ったペテロに対し、大変喜びました。何故なら、ペテロは物質レベルを超えて、宇宙根源の印象をしっかりと感受出来る段階に達し、目の前のイエスがどのような光明を輝かせているかを見ることが出来たからです。

私達がテレパシーを学ぶ目的も、表面的な物質を超えて、印象の世界にまで知覚力を広げることにあります。自らの教え子の中で、イエス自身の本質を見抜くまで成長した、この弟子をイエスが祝福したのです。

また、同時に、読者の皆様は、著者アダムスキー氏がこのように当時のイエスの周囲の状況について実に詳しく知っていたことにも注目して欲しいと思います。伝えられているところでは、アダムスキー氏はイエスに関わっていた人物の一人だとコーワーカーの間では後年、言い伝えられていたからです。

377 Jesus used the word Father when speaking to the children of the world, for although He knew there was no word capable of conveying the true meaning of the Supreme, the term Father would give man a feeling of warmth, love, and oneness. And when we awaken this quickening in our minds as did Peter, we are actually entering the Kingdom of Heaven. For the Kingdom of Heaven is the Kingdom of Cause . . . while the kingdom of earth is the kingdom of effect.

377 イエスはこの父という言葉、この世の子供達に対して語る時のように用いました。何故なら、至上的なもの、真の意味を伝えられる言葉は無かったことをイエスは知っていて、父という言葉が人に温かみや愛、そして一体感のフィーリングを授けることを知っていたからです。そして私達がペテロがしたように、この胎動に目覚める時、私達は実際には天の王国に入っているのです。何故なら天の王国は因の王国であり、方や地の王国は結果の王国だからです。

【解説】

イエスが父と言った時の真の意味が本項で明かされています。信仰の源である創造主に対する認識表現の一つとして、子供（私達）がその保護者である父に対するように感じる存在として、イエスは当時の人々に「父」と表現した訳です。

これについては現代の私達にも当てはまる気がします。各自にとっていつも頼りになり、その庇護の下、日々の暮らしを送っている私達は「父」の子供であるからです。

これは、皆様各人が今後、生きて行く中で、時として困難な状況に立ち至る場合があるかも知れませんが、しかし、そうした中であっても、常に見守ってくれる存在が「父」であり、宇宙の全てを因から支えてくれる存在だと考えます。

ただ、そのような恩恵に授かる為には、先ずは父に気付く必要があり、ペテロのように一途に至高なる因の胎動に注意を払うことが必要だということです。

378 Understanding is knowledge lived. When we understand the purpose behind each act, we do not judge. We then become observers, to evaluate all manifestations in relationship to Cosmic Cause; which gave them birth.

378 理解は知識に生きることです。私達が各々の行為の裏にある目的を理解する時、私達は裁きを行いません。私達はそれから、それらを誕生させた宇宙の因との関連性についてすべての創造物を評価するため、観察者になるのです。

【解説】

ここでは、私達が日常暮らす中で、自分も含めてどのように対象物を見て行くべきかを明示しています。とかくこの分野の学習を進めて行くと、学んでいる分野と現実の一般社会との乖離が大きく感じるようになります。その結果、却って様々な欠点や問題が多く発生することになり、実は気を付けなければならない「裁き」を犯しがちになります。

これに対して、本文にあるよう、私達は例え問題の行為であっても、先ずはその背後にある行為の意図と理解せよと言っています。決して「賛同」しろというのではなく、公平な目でどのような事情があったのか等、背景を知ろうとせよということです。このプロセスを踏むと、その行為に対し、裁きは出来なくなり、宇宙全体における関連性という視点の中で、どのようなことなのかを考える観察者になれると言っています。

良否や善悪を超えて、全ての行為は宇宙の因の後ろ盾があることに私達は気付く必要があります。

379 Once man learns that his purpose in life is to control his personal aggressive actions, he will become the recipient of all Cosmic impressions . . . born in silence, projected in silence, accepted in silence. For these are the impressions emanating from each conscious atom, using the Cosmic, universal language.

379 ひと度、人が自分の生きる目的が自己の個人的な攻撃的諸行動を制御することにあることを学ぶなら、彼は全ての宇宙的印象、即ち沈黙の中で誕生し、沈黙の中で放射され、沈黙の中で受信される印象の受取人になることでしょう。何故なら、これらは個々の意識的な原子が宇宙的、普遍的な言語を用いて発している印象だからです。

【解説】

本項でキーとなる言葉は「沈黙」だと思います。これまで私達は直接、目に見えるもの、耳に聞こえるものと頼りに生活して来ました。しかし、テレパシー学習においては、それらによらない印象を日常、感受するよう求められて来ました。印象に気付く為には、心は受け入れる態勢を維持しなければならず、自我が主張したいことを先ずは抑制することが必要になります。

その場合、必要なのが沈黙という状況ですが、この沈黙には禅の修業その他で自我を抑制するのに採用されている意味の他に、実は宇宙の各原子から絶えず発せられている無言の印象というメッセージが、この沈黙の中で飛び交っているという訳です。沈黙の中には、宇宙英知に関して実に活発な活動があるということです。

多くの仏像の中にも、また大自然の広がりの中でも、「沈黙」の中に含まれる宇宙的な活動の世界に気付くことが重要です。

Conclusion

380 You have now become acquainted with the three tyrannical rulers that make up the life of the average person today: The ego, the emotions, and the four senses. We have shown you how each one influences your body and your mind.

結論

380 あなたは今や、今日の平均的な人間の生涯を作り上げている3人の専制的支配者に通じています。それらは即ち、自我、感情そして4つの感覚です。私達はあなたにこれらの各々があなたの身体と心に影響を与えていることを示して来ました。

【解説】

本項からはテレパシー講座のまとめに入ります。

今まで、繰り返し著者が述べてきたことの中で、私達が日頃から本来の自分というよりはこれまで影響を受け続けてきたエゴや感情、更には4つの感覚がその人を支配して来たことを、先ずは認識せよとしています。

テレパシーは結局、新たに能力を開発するというよりも、これら昔ながらの支配のくびきから個人を自由にする事で、前項(379)に示されているように、やがて、原子自身から発信されているような精緻な振動を感受出来るという訳です。

昔を思えば、私自身、時々これら3つの支配者の奴隷になってしまったこともありますし、これら3つの支配者を解消させること、落ち着いた精神状態を保つことがテレパシー学習に先ずは、必要だということです。

381 The personal ego, interested only in perpetuating itself, is unaware of its unity with all manifestation; and selfishly concentrates its efforts upon the personal self. But when, through understanding, we can get the ego to turn its awareness outward, it will return to its natural free state; and the real Self will recognize its oneness with the Cosmos.

381 個人的な自我は自分自身の永続化のみに関心がある為、全ての創造物との一体性について気付いてはいません。そして自分自身への努力に自分本位に集中しています。しかし、理解を通じて私達は自我をその知覚を外向きに転換させることが出来る時、それはその自然で自由な状態に戻ることでしょう。また、その時、真の自己は宇宙との一体性を認識することでしょう。

【解説】

例えば、見知らぬ土地に来たり、まして言語が伝わらない国を訪れる時、私達は不安になるものです。私達はことごとく、言語による意思疎通に依存し、印象によるコミュニケーションの訓練は出来ていないからです。このような状況では、エゴは自分を守る為、リラックス出来ないこととなります。これもエゴが自分を守ろうとする姿勢の典型例です。

一方で、渡り鳥達は、各地を渡りながら、何らの苦勞もなく、自然環境を楽しんでいます。私達も自己保身を第一の目的とするのではなく、関心を外宇宙にまで広げることで自然との一体感が生まれるという訳です。

382 We believe the effects of emotions have been well covered in this course. We have pointed out the detrimental effect destructive emotions have on the body, and have given you examples in your daily life whereby you can prove this for yourself. So watch your thought-pattern habits; for your emotions are controlled by them. People are like apples in a barrel-we either mellow with maturity, or we rot. Unlike the apples, we have control over which of these will be our destiny; for our thought-pattern habits will decide our lot.

382 私達はこの講座において、感情がもたらす影響について十分に言及されて来たと思っています。私達は破壊的な感情が身体にもたらす有害な影響を指摘して来ましたが、あなたの日常生活の中での例示を示しましたが、それはそれによってあなた自身で確かめることが出来るものです。ですから、あなたの想念パターンの習慣を観察することです。何故ならあなたの感情はそれらによって支配されているからです。人々は樽の中のリンゴに似ています。私達は成熟して熟するか、腐るかのいずれかです。しかし、リンゴとは違って、私達はそのどちらが私達の運命になるかについて、支配権を持っています。何故なら私達の想念パターンは私達のめぐり合わせを決めることになるからです。

【解説】

自分が日頃、どのような想念を取り入れる傾向にあるかに気付くことがまず、重要です。想念は私達の心身あるいは周辺環境に絶大なる影響力を持っています。しかし、通常は惰性的な想念パターン、思考パターンの中で、そもそも自分がどのような指向性を持っているかに気付いていないことが多いものです。

本講座をまとめるに当たって、著者は私達が抱く感情が、この自らの想念パターンという指向性によって生まれるとしています。それを打ち破って、本来の姿に戻せばよいのですが、それには自らの想念パターンを観察せよと言っています。いわゆる想念観察です。この手法は自らの指向性の良否をその場で裁くことではなく、単に冷静に観察するだけでよいのです。正視して観察すれば自ずと答えがあるという訳です。

それぞれの人生の中で、当初は青かったリンゴが年月を経るにつれて成熟したリンゴになれるよう、毎日を送りたいものです。

383 The four senses, the arbitrary rulers of most lives, should be your servants. Each sense has a will of its own, its own reasoning faculty, and is possessed by its own fears. In many instances, it is the four senses through their condemnation of that which they have not previously experienced, that closes the door to new ideas.

383 ほとんどの人生の専制的な支配者である4つの感覚は、あなたの召使にしなければなりません。各々の感覚はそれ自体の意思を持っており、また、その固有の恐怖にとりつかれています。多くの場合、自らが過去に経験したことがないことを非難することで新しいアイデアに対して扉を閉めるのは、この4つの感覚なのです。

【解説】

文字通り、恐怖が私達を支配しているということでしょう。その大本となるのは私達各自の4つの感覚がわがまま、勝手な専制君主である一方で、絶えず保身のために新しい事柄を拒絶している訳です。

確かに、食事やその他、多くの場面で私達は長年の習慣の中で暮らしています。とりわけ、海外での生活の場合には、安全が確認された食物や行動範囲等、特にその傾向になることは否めません。

しかし、私達はテレパシーを学び、多少なりとも能力を身につけようとする目的は、これら宇宙から来る新しい印象に心を開くことではなかったでしょうか。

そのためには、どのような状況下にあっても、4感覚を鎮め、心を開いて、印象に鋭敏になる必要があります。そして一度、その中で成功体験が持てれば、後はその時の心の状態を思い出しながら、再び同じ状況を作って行けば良いことだと思っています。

384 The mind is made up of the four senses, and they should be educated for the purpose of acquiring knowledge; rather than passing judgment. Mind is a catalyst, or go between, uniting matter and Intelligence. When, through its personalized reasoning mind combines the two wrongly, the results are usually unpleasant. Remember, we have said we are living in what could rightly be called a chemical universe; conceived out of Intelligence, and perpetuated by Force. Any student of chemistry knows that wrong combinations of chemicals can produce undesirable results. So any time your actions result in unpleasant experiences, analyze the combinations you have put together.

384 心は4つの感覚から成り立っており、それら4感覚は知識を獲得する為には、裁きを下すのではなく、教育されねばならないのです。心は物質と英知を結びつける触媒であり、仲介者です。心の個人化した推論を通じて心が両者を誤って結びつける時、その結果は大抵、不快なものになります。覚えておいて欲しいのは、私達はまさしく化学的な宇宙と呼んでよいもの、英知の中から孕まれフォース（訳注：宇宙の力）によって永続されるものの中に生きていると私達が言って来たことです。化学を学ぶどんな学生でも化学物質の誤った組み合わせは望ましくない結果を作り出すことを知っています。ですから、あなたの行動が不快な体験になったとしたら、その時はいつもあなたが両者を結びつけた組み合わせについて分析することです。

【解説】

重要だと思うのは、自分が辛い体験をしたり、困った状況に陥った時、本項の内容を思い出せるかにあります。そのような場合、通常はその現実から逃避したり、先延ばしにする対策がとられますが、本項では違います。つまり、私達が原因と結果の確固たる世界に生きていることを先ず認識する必要があります。誤った入力に誤った出力をもたらすという訳です。

本項はそれを心が物質と英知を仲介する機能があり、その両者を誤った組み合わせで結びつけると問題が生じるとしています。簡単な例はノーベル賞の由来でもあるダイナマイトです。鉱山で利用すれば大変有効な力を発揮しますが、戦争で用いればとんでもない破壊兵器になる訳です。

私達の心は、そのような破壊的想念を取り入れることもありますし、そのような心境になった時、手元に武器となるような物があれば、何をしでかすかはわかりません。

日常生活の中で、問題にぶつかった時、それらの原因を自分の心と選択した物質的手段との組み合わせについて省みることが必要だということです。

385 Mind is but the medium between matter and Intelligence that associates the two for manifestation. The sense-mind is a minute part of Cosmic Mind. If the sense-mind hopes to be the recipient of Cosmic knowledge, it should not try to recreate, or change, the information given to it by feeling, or consciousness.

385 心は物質と英知の両者を創造のために結びつける媒体でしかありません。感覚心は大宇宙心の極小な一部分です。もしも、感覚心が宇宙的知識の受取人になりたいと望むなら、感覚心はフィーリングあるいは意識によって与えられた情報を再形成したり、変えてはならないのです。

【解説】

本項の心についての概念は、多少現在の私達には難しいかも知れません。しかし、本項の内容からすれば、心自体の意義は大変大きいものがあることがお分かりになるのではと思っています。私達各自の心は大宇宙の心の一部であることと、その機能が物質に英知を作用させる重要な役割を持っていることに、まずは心しておかねばなりません。

言い換えれば、私達の日々の心の有り様が、知らず知らずに物質に作用を及ぼしているということも出来ます。

この心は知識が無いために、理解が進まず、生長することが出来ないままとなっていますが、無償の愛と知識、情報が絶えず宇宙から印象の形で提供されている訳で、これを素直に受け止めることが求められています。

386 Impatience is a major cause of unbalance in our lives, and interferes when impressions are coming to us. Our zealous desires often inject our own sense ideas in place of waiting for the full thought; and we distort the true meaning of the impression. Logic tells us to be patient and observant. We should learn to obey logic from the Cosmic angle.

386 せっかちが私達の生活の中の不均衡をもたらす主要な原因ですし、それは印象類がやって来た時に介入します。私達の熱狂的な願望は、しばしば本来の完全な想念まで待つべき所に、私達自身の感覚のアイデアを注入してしまうのです。そして私達は印象の真の意味をゆがめてしまいます。道理は私達に忍耐強く、またよく観察するよう教えています。私達は宇宙的角度から道理に従うことを学ばなければなりません。

【解説】

この講座も余すところ、あと2回で完結するところまで来ました。

本項では著者が伝えたい事項のまさにエッセンスが述べられているように思います。

とかく私達は何事につけ要求や願望が強く、ある意味では自己実現や欲求・欲望の強い生物のように思います。しかし、このことが印象への感度を鈍らせ、印象の解釈を誤らせる等、逆に進化を遅らせていることに気付く必要があります。

解決方法はここで言う忍耐と表現されているように、自らの心の暴走を抑制することです。全面的に宇宙の印象を信頼し、任せて、その指導の下に生活する。その中で必要な知識や技能を修得して次のステップに移行するということかと思えます。

浅学の私には詳しいことはわかりませんが、その欲を捨て、忍耐強く宇宙的な印象に従おうとする姿勢は中国の老子にも似たところがあるように思います。自分自身も含めて、あらゆるものの観察者になることでテレパシー能力も自ずと身に付くことでしょう。

387 We all make mistakes These are part of our experiences. Do not be discouraged, for we have centuries to undo; so be grateful for even a small crumb that might become an integral part of you. The difference between a wise man and a fool is -a wise man learns from his mistakes, and never repeats them; while the fool keeps repeating the same mistakes.

387 私達は皆、過ちをおかします。しかし、これらは私達の経験の一部なのです。がっかりしないで欲しいのです。何故なら、私達には元に戻す為は何世紀もかかるためです。ですから、些細な手足の曲がりについても、それがあなたの総体の一部になることに感謝することです。賢い者と馬鹿者との違いは、賢い者は自分の過ちから学び、二度と繰り返しませんか、一方、馬鹿者は同じ過ちを繰り返します。

【解説】

著者アダムスキー氏は、この講座を終わるに当たり、私達を本項のような記載をすることで、励ましています。私達は自分自身で学習を進めなければなりません、その過程では、様々な失敗があり得ます。時には大きなダメージを負うかも知れません。

しかし、その時、その体験から自分は何を学んだかを明らかにして、次からはその反省点に立って、より良い生き方を進めれば良いという訳です。

この歩みは何世紀もかかると著者は述べています。まして社会全体の進化は、各自の進化を反映するものから、更に年月を要するものと思います。それでも着実にあるべき方向に毎日、少しずつ前進することによって、意外に早く目的地に到達できるかも知れません。山登りのように一步一步、上を目指して歩むことで、登るほどに視界も開けて来るように思います。

388 May God bless you. May this course become You. For then you, the Prodigal Son, will have returned home to your rightful inheritance . . . one with the Father.

388 神の祝福があらんことを。この講座があなた自身になりますように。何故なら、その時、放蕩息子であるあなたは、あなたの正当なる相続財産の待つ自分の家に戻っているだろうからです。父と一体になって。

【解説】

いよいよテレパシー講座も最終項を迎えました。

これまでご覧いただいた皆様には感謝申し上げます。執筆者としては、日々のカウント数や寄せられるコメントが励みの糧でもありました。

本文中に著者アダムスキー氏が述べているように、これら講座の内容を自分のものにすることが強く望まれており、やがては学習される皆様が、多くの恵みが待つ本来の自分の居所に戻ることが出来ると思っています。

一朝一夕に心の制御や感受性の向上は達成するものではなく、日々の体験の中で失敗を繰り返しながらも、本来の目的地を目標にして進むということでしょう。皆様のこれからのご発展をお祈りします。

なお、現在、出張先からの執筆の為、準備が十分ではありませんが、次回から「宇宙哲学」に入りたいと思います。定期的な更新にはならないかも知れませんが、ご了解下さい。